

岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事

(建築構造)

整理番号	図面番号	図面名称	縮尺	整理番号	図面番号	図面名称	縮尺	整理番号	図面番号	図面名称	縮尺	整理番号	図面番号	図面名称	縮尺	整理番号	図面番号	図面名称	縮尺	整理番号	図面番号	図面名称	縮尺
001	SS-001	建築工事（構造）特記仕様書-1	-	051	S-051	軸組図-3	1/200																
002	SS-002	建築工事（構造）特記仕様書-2	-	052	S-052	軸組図-4	1/200																
003	SS-003	建築工事（構造）特記仕様書-3	-	053	S-053	軸組図-5	1/200																
004	S-004	鉄筋コンクリート構造基準図-1	-	054	S-054	軸組図-6	1/200																
005	S-005	鉄筋コンクリート構造基準図-2	-	055	S-055	軸組図-7	1/200																
006	S-006	鉄筋コンクリート構造基準図-3	-	056	S-056	軸組図-8	1/200																
007	S-007	鉄筋コンクリート構造基準図-4	-	057	S-057	軸組図-9	1/200																
008	S-008	鉄筋コンクリート構造基準図-5	-	058	S-058	軸組図-10	1/200																
009	S-009	鉄筋コンクリート構造基準図-6	-	059	S-059	基礎・耐圧版リスト，地盤改良体配置図	1/40																
010	S-010	鉄骨基準図-1	-	060	S-060	基礎梁断面リスト-1	1/40																
011	S-011	鉄骨基準図-2	-	061	S-061	基礎梁断面リスト-2	1/40																
012	S-012	梁貫通基準図	-	062	S-062	柱芯線図	1/200																
013	S-013	ボーリング柱状図-1	-	063	S-063	柱断面リスト	1/40																
014	S-014	ボーリング柱状図-2	-	064	S-064	大梁断面リスト-1	1/40																
015	S-015	ボーリング柱状図-3	-	065	S-065	大梁断面リスト-2	1/40																
016	S-016	ボーリング柱状図-4	-	066	S-066	大梁断面リスト-3	1/40																
017	S-017	ボーリング柱状図-5	-	067	S-067	大梁断面リスト-4	1/40																
018	S-018	ボーリング柱状図-6	-	068	S-068	大梁断面リスト-5	1/40																
019	S-019	ボーリング柱状図-7	-	069	S-069	大梁断面リスト-6	1/40																
020	S-020	ボーリング柱状図-8	-	070	S-070	大梁断面リスト-7	1/40																
021	S-021	地盤想定断面図-1	-	071	S-071	プレストレストコンクリート合成床板製作・工事特記事項	-																
022	S-022	地盤想定断面図-2	-	072	S-072	2階PC合成床板割付図	1/100, 1/200																
023	S-023	地盤想定断面図-3	-	073	S-073	3階PC合成床板割付図	1/100, 1/200																
024	S-024	地盤想定断面図-4	-	074	S-074	4階PC合成床板割付図	1/100, 1/200																
025	S-025	地盤想定断面図-5	-	075	S-075	R階PC合成床板割付図	1/100, 1/200																
026	S-026	地盤想定断面図-6	-	076	S-076	PC合成床板リスト-1	1/10, 1/20, 1/40																
027	S-027	地盤想定断面図-7	-	077	S-077	PC合成床板リスト-2	1/5, 1/10, 1/20																
028	S-028	地盤想定断面図-8	-	078	S-078	小梁・片持梁断面リスト	1/40																
029	S-029	地盤想定断面図-9	-	079	S-079	スラブ・壁・階段・鉄骨部材リスト	1/40																
030	S-030	地盤改良特記事項	-	080	S-080	ラーメン詳細配筋図-1	1/40																
031	S-031	地盤改良伏図	1/200	081	S-081	ラーメン詳細配筋図-2	1/40																
032	S-032	地盤改良断面図-1	1/200	082	S-082	雑詳細図-1	1/30																
033	S-033	地盤改良断面図-2	1/200	083	S-083	雑詳細図-2	1/30																
034	S-034	地盤改良断面図-3	1/200	084	S-084	雑詳細図-3	1/30																
035	S-035	地盤改良断面図-4	1/200	085	S-085	屋上設備置き場鉄骨梁台配置図	1/200																
036	S-036	地盤改良断面図-5	1/200	086	S-086	基礎梁貫通伏図	1/200																
037	S-037	地盤改良断面図-6	1/200	087	S-087	1階梁貫通伏図	1/200																
038	S-038	地盤改良断面図-7	1/200	088	S-088	2階梁貫通伏図	1/200																
039	S-039	地盤改良断面図-8	1/200	089	S-089	3階梁貫通伏図	1/200																
040	S-040	地盤改良断面図-9	1/200	090	S-090	4階梁貫通伏図	1/200																
041	S-041	地盤改良断面図-10	1/200	091	S-091	R階梁貫通伏図	1/200																
042	S-042	地盤改良断面図-11	1/200																				
043	S-043	基礎伏図	1/200																				
044	S-044	1階梁伏図	1/200																				
045	S-045	2階梁伏図	1/200																				
046	S-046	3階梁伏図	1/200																				
047	S-047	4階梁伏図	1/200																				
048	S-048	R階梁伏図	1/200																				
049	S-049	軸組図-1	1/200																				
050	S-050	軸組図-2	1/200																				

1 構造概要

a 構造種別

地上：●RC造○S造○SRC造○その他()
地下：●RC造○S造○SRC造○その他()

b 架橋形式

地上：X方向：耐震壁付きラーメン構造
Y方向：耐震壁付きラーメン構造
地下：なし
Y方向：なし

c 耐震構造システム

●耐震構造重要度係数I=○1.0●1.25○1.30○1.5
重要度係数の適用●壁量に考慮○1次・2次設計とも
○免震構造(免震層の位置：○基礎免震○中間階(柱頭)免震[階下])
○制振構造(履歴系○粘性系)

d 基礎種別

○杭基礎(○場所打ちコンクリート杭○既製コンクリート杭○鋼管杭)
●直接基礎(●独立基礎●べた基礎○布基礎)●地盤改良を併用

支持層：風化花崗岩設計GL- 0～19 m 以深

2 計算方法

●許容応力度等計算(耐震設計の計算ルート：1)
○保有水平耐力計算(耐震設計の計算ルート：)
○告示2009号(告示免震)
○その他の計算法()
○大臣認定(○高層○免震○その他())

3 外力など

a 地震力

地域係数	Z=○1.2●1.0○0.9○0.8○0.7
地盤種別	第2種地盤Tc=0.60 sec(●施行令○実測)
振動特性係数	X方向：Rt=1.00Y方向：Rt=1.00
標準せん断力係数	一次設計X方向：Cq=0.20二次設計X方向：Cq=1.00 Y方向：Cq=0.20Y方向：Cq=1.00

上記のCqには、重要度係数を含まない。

b 風荷重(N/㎡)

地表面粗度区分	○Ⅰ○Ⅱ●Ⅲ○Ⅳ
基準風速	V0=34 m/s速度圧q=0.6EV0 ²
	大臣認定建物の場合、 仕上け材等の検討における風荷重の再現期間は100年とする

c 積雪荷重(N/㎡)

区域	●多雪区域外○多雪区域
設計積雪量	80 cm
単位重量	20 N/㎡/cm
低減	●無し○有り(長期：短期：)

d 積載荷重(N/㎡)

室名	床用	小梁用	架構用	地震用
屋上	1,800	←	1,300	600
実習室	4,900	←	2,600	1,600
教室	4,900	←	2,100	1,100
事務室	3,900	←	2,100	1,100
大講義室	3,500	←	3,200	2,100
廊下	3,500	←	3,200	2,100
便所	1,800	←	1,300	600

e 土圧及び水圧など

土圧係数	k=0.5
設計用地下水位	設計GL- 4.0 m(無水堀り水位GL-1.65～8.80mの平均値)
凍結深度	設計GL- — m
地盤液状化の判定	○無し●有り
片土圧	●無し○有り
水圧	●無し○有り

4 層間変形角など

設計用層間変形角の限界値	大地震時X方向：1/200Y方向：1/200 大地震時X方向：1/100Y方向：1/100
EXPJ部の躯体クリアランス	無し

5 その他

増築の有無	●無し○有り
-------	--------

6 地盤調査資料

○無し
●有●敷地内で本工事のために行われた調査資料
○敷地内で既存に行われた調査資料
○近隣敷地での調査資料
●標準貫入試験○平板載荷試験
●孔内水平載荷試験○現場透水試験
○PS換層○常時微動測定○揚水試験
●物理試験●一軸圧縮試験●三軸圧縮試験
●圧密試験○動的変形特性試験●液状化の判定
○その他()

建築工事(構造)特記仕様書

適用について

この特記仕様書は、建築工事特記仕様書の内、構造に関わる3章～7章に関して記載したものである。
この特記仕様書は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)令和4年版」(以下、標仕という)に基づいて記載している。
設計図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、標仕による。
特記仕様書の章、節、項番号及び表番号は、追加の場合を除き標仕の当該番号とする。
特記仕様書の以下の表記は、次による。
[読替]：標仕の当該章、節、項の規定を特記の規定に読み替える。
[追加]：標仕の章、節、項の規定に新たに章、節、項を追加する。
特記事項の内、選択肢があるものは、●印のついたものを適用し、○印は適用しない。
特記仕様書および基準図などに記載されていない事項については、日本建築学会建築工事標準仕様書(JASS)をはじめ、日本建築センター、日本建築学会などの各種規準、指針など(最新版)に準じて対応する。

3章土工事

1節 共通事項

3.1.4 [追加] その他
土工事、基礎工事、杭工事については、事前に調査した資料(地盤調査など)により想定しており、工事施工にあたり、調査資料と現状に差異が生じた場合は、設計を変更することがある。
土工事などの施工中に、文化財や障害物を発見した場合は、調査の上、発注者、監理者と協議の上、処理する。
発生材や障害物の処理費については、共通特記仕様書 1.3.12「発生材の処理等」による。
低騒音型、低振動型建設機械指定要項に基づき指定された建設機械を使用する。

3.1.5 [追加] 地中障害等
a ボーリング調査での障害物等の記事○有(記事：)
●無し
b 試掘による発生土内の障害物等の調査○行う●行わない
試掘調査は、敷地内を10mグリッド毎に1箇所、深さ2m程度を目安にして計画する。

3.1.6 [追加] 既存杭、躯体の撤去及び再利用
既存杭、既存躯体が存置されている場合の適用は下記とする。
a 既存杭○全て撤去する
○新設杭と干渉するものは撤去する
b 既存躯体○全て撤去する
○新設建物と干渉する部分は撤去する
○既存躯体を山留めに利用する
○既存躯体に流動化処理土等を充填して地業として利用する
○
既存杭を撤去した場合は、流動化処理土等で適切に埋戻す。埋戻しに際しては、後の新設杭の施工性等に配慮して計画し、監理者の承認を得ること。

2節 根切り等

3.2.3 埋戻し及び盛土
材料及び工法は、表3.2.1により、種別は下記による。
種別●A種○B種○C種○D種
表中の良質土とは原則として、粘土分の少ない砂質土とする。
a 構外処分●指定なし○指定(○
○
km先で)
○処分方法(○積み下ろしのまま○敷き均し)
構外処分する際は、関係法令に準拠し適切に処理する。
b 構内処分○敷均し整地●集積天端均し
c 構内仮置○有○無し

3.2.5 建設発生土の処理

3節 山留め

3.3.1 [追加] 山留めの設置
山留め設置に伴う余剰泥土の発生については、その抑制、低減を図り、産業廃棄物の低減に努めること。
●撤去する○撤去しない(範囲は図示による)

3.3.4 [追加] 環境配慮
ペントナイト液、セメント系固化材などの類を使用する工事を行う場合は、周辺地域の井水や地下水に対して影響を与えないことや、セメント系材料により現状地盤に汚染を生じさせないことを、六価クロム溶出試験などにより事前に確認し、監理者に報告すること。

4 章地業工事

1節 共通事項

4.1.4 [追加] 周辺環境に 対する配慮

2節 試験及び報告書

4.2.2 試験杭○試験杭○最初の1本(ボーリング調査位置の近傍とする)
○()本位置は構造図による
工法が複数の場合は、工法ごとに実施する。

4.2.3 杭の鉛直載荷試験()箇所位置及び載荷荷重等は構造図による
又は水平載荷試験試験の方法、報告書の記載事項等は構造図による

4.2.4 地盤の載荷試験●地盤の平板載荷試験(1)箇所位置及び載荷荷重等は構造図による
試験は、官庁営繕監修「敷地調査標準仕様書」及び「平板載荷試験方法」(地盤工学会基準 JGS 1521)による
載荷板は300 φとし、設計用長期許容支持力の3倍以上の荷重を確認すること。

4.2.6 [追加] 事前調査○支持地盤確認用の追加ボーリング()箇所ボーリング径 66 φ位置は構造図による
支持地盤確認を目的とするため、地盤柱状図及び支持層の土質等から、支持層の近傍の標準貫入試験を行い支持層のレベルを確認する

3節 既製コンクリート杭地業

4.3.3 材料：構造図による
b 工法：○セメントミルク工法
支持地盤への掘削深さは1.5m、杭の根入れ深さは1.0mとする
○特定埋込杭工法
建築基準法に基づき埋込杭工法とし、杭材料は指定又は認定条件に適合するもの
○フレボーリング拡大根固め工法周辺固定液○有○無し
○中掘拡大根固め工法
○その他の工法()
c 杭先端部の形状：○開放形○半開放形○閉塞形○構造図による
d 継手の工法：○アーク溶接○機械式継手
機械式継手は指定性能評価機関による性能評価品とすること
e PHC杭端板の引張対応：○する(構造図による)○しない
f 杭頭処理：○レベル止め○切りそろえ(主筋は基礎スラブに定着)
g 杭頭補強：○スタッド式杭頭接合工法(SC杭以外の場合)
○鉄筋溶接工法(SC杭の場合)
○()
仕様及び材料等は、構造図による
h 支持地盤：構造図による
i 施工精度：杭の水平方向の位置のずれの精度
○100mm○mm
j 根固め部の強度確認と形状確認
先端支持力係数α<300○行う○行わない
先端支持力係数α≥300○行う○行わない
強度確認

工法	試料採取	試料数
中掘拡大根固め工法	○未固結試料採取	別杭(1本)
	○固結試料採取	本杭(全体の1%以上)
フレボーリング根固め工法	○未固結試料採取	別杭(1本)
	○固結試料採取	本杭(全体の1%以上)

注) 固結試料採取は、コア採取により、根固めの上・中・下の3深度から採取する。
形状確認

工法	方法	箇所数
中掘拡大根固め工法	ボアホールソー	本杭(1本)
フレボーリング根固め工法		

注) ボアホールソーは、固結試料採取用にて実施する。
形状確認は、先端支持力に関わらず、拡翼の作動確認等を全数行うこと。

4節 鋼杭地業

4.4.3 [追加] 材料○鋼管杭○SKK400,STK400○SKK490,STK490
○H形鋼杭○SHK400○SHK490M

4.4.4 工法○フレボーリングの併用掘削深さ○構造図による○掘削径○構造図による○
推定支持力算定方法構造図による
○特定埋込杭工法
建築基準法に基づき埋込杭工法とし、杭材料は指定又は認定条件に適合するもの
○回転圧入(貫入)工法
○鋼管ソイルセメント杭工法
○中掘拡大根固め工法

4.4.5 先端部形状：○開放形○半開放式○閉塞形
d 現場継手の形状：○鋼管杭○アーク溶接○機械式継手
機械式継手は指定性能評価機関による性能評価品とすること
○H形鋼杭○高力ボルト○構造図による

4.4.6 [追加] 杭頭の処理等e 杭頭処理：○レベル止め○切りそろえ(ガス切断)
f ネガティブフリクション対策：○不要○要(構造図による)
g 電気防蝕処理：○不要○要
h 杭頭部の中詰め材料：○コンクリート○ソイルセメント○山砂
i 杭頭補強：構造図による
j 支持地盤：構造図による
k 施工精度：杭の水平方向の位置のずれの精度
○100mm○mm

5 節場所打ちコンクリート杭地業

4.5.4 材料その他
a 鉄筋帯筋の形状、鉄筋かごの補強およびスベーサー等の仕様は構造図による。
鉄筋のかぶり厚さ○100mm○200mm(手掘り深礎)
b コンクリートセメント○高炉セメントB種○普通セメント
コンクリートの設計基準強度(N/mm²)
○24○27○30○33○
○A種(無水掘りの場合)○B種(左記以外)
スランプ(cm)○18○21
コンクリートの打込に支障の恐れがある場合は、監理者の承認を受けてスランプを21cmとすることができる。
構造体強度補正値(S)○N/mm²
ただし、場所打ち鋼管コンクリート杭工法及び杭底杭工法は、工法で定められた条件の値とし、評定で適用外条件となる場合は、昭和56年建設省告示1102号第1による。また、大臣認定コンクリートとなる場合は認定条件による。なお、上記以外の工法については評定条件による。
4.5.5 アースドリル工法、リバース工法及びオールケーシング工法
杭頭鋼管巻き○有(○SKK400○SKK490)○無し
拡底○有○無し
拡底部の工法○アースドリル工法○リバース工法
リバース工法スタンバイパイプの建込方法○油圧ジャッキ○バイブロハンマー
4.5.6 場所打ち鋼管コンクリート杭工法及び杭底杭工法 [追加]
○深礎工法○手掘り○機械掘り
e 孔壁測定：○全数○5本に1本
f スライム処理：スライム処理は、砂分離装置およびスライム除去装置を用いて行う
安定液の回収液砂分率○2%以下○1%以下○測定頻度○全数
砂分率の測定は鉄筋かご建込み直前に孔底付近から回収した安定液で測定すること。ただし、砂層が少ない地層構成の場合、試験杭の結果に基づき砂分率の管理値及び測定の有無を監理者と協議すること。
g 施工精度：杭の水平方向の位置のずれの精度
○100mm○mm
4.5.7 [追加] 杭頭の処理
静的破砕剤の使用○無し○有
4.5.9 [追加] 出来形確認
杭施工後、杭頭から1mの範囲の土を掘削し、杭頭のコンクリートの状況を確認する。確認後の埋戻しは砕石で行い転圧を十分行うこと。
抜き取り率○15%○%
杭頭鋼管巻きの場合、この項は省略する。
調査方法、抜き取り率などは、施工要領に応じて、監理者と協議して決定する。

6 節砂利、砂、捨コンクリート地業等

4.6.2 砂利地業に使用する砂利は、再生クラッシュラン、切込砂利又は切込砕石とする
砂地業に使用する砂は、シルト、有機物等の混入しない締固めに適した山砂、川砂又は砕砂とする
適用範囲
4.6.3 砂利及び砂地業：厚さ(mm)●60(基礎下)
○150()
○()
地盤改良の直上は、砂利及び砂地業は省力し、捨コンクリート地業を施す
4.6.4 捨コンクリート地業：厚さ(mm)●50(基礎下)
○100()
○()
4.6.5 床下防湿層
床下防湿層の適用、範囲及び種類は意匠図による

7 節地盤改良 [追加]

4.7.1 [追加] 地盤改良など
○浅層混合処理工法適用範囲、仕様は構造図による
●深層混合処理工法適用範囲、仕様は構造図による
○静的締固め砂杭工法適用範囲、仕様は構造図による
●置換コンクリート工法(ラップルコンクリート)適用範囲は構造図による
コンクリートの設計基準強度(N/mm²)
構造体強度補正値(S)(N/mm²)
スランプ(cm)
○15●18
●0○3
●15○18

	訂正	-					件名			岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	
		-					図面名称				
		-									
		-									
		-									
							図面名称				
							建築工事(構造)特記仕様書 - 1			A1版 1: N.S A3版 1: N.S	SS-001

5章 鉄 筋 工 事				4節 ガス圧接				6章 コ ン ク リ ー ト 工 事				8節 型 枠																																	
2節 材 料				5.4.1 [追加] 一般事項				1節 共通事項				6.8.1 型枠一般 [追加]																																	
5.2.1 鉄 筋	<table><tr><th>種 類</th><th>記 号</th><th>使用部位</th><th>呼び径(mm)</th></tr><tr><td rowspan="5">異形鉄筋 (JIS G 3112)</td><td>●SD295</td><td>主筋、帯筋、あばら筋</td><td>●D16以下</td></tr><tr><td>●SD345</td><td>主筋</td><td>●D19以上</td></tr><tr><td>●SD390</td><td>主筋</td><td>●D29以上</td></tr><tr><td>○SD490</td><td>主筋</td><td>○</td></tr><tr><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="3">建築基準法に基づき 認定を受けた せん断補強筋</td><td>●785N/mm²級</td><td>梁貫通補強筋</td><td>●S16以下</td></tr><tr><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table>			種 類	記 号	使用部位	呼び径(mm)	異形鉄筋 (JIS G 3112)	●SD295	主筋、帯筋、あばら筋	●D16以下	●SD345	主筋	●D19以上	●SD390	主筋	●D29以上	○SD490	主筋	○	○			建築基準法に基づき 認定を受けた せん断補強筋	●785N/mm ² 級	梁貫通補強筋	●S16以下	○						記載なき事項は、日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書ガス圧接継手工事」 (以下、鉄筋標仕(圧接)という)による。				6.1.3 [追加] 使用コンクリート 一 覧				a 増打ち厚さ 増打ち厚さは意匠図による他、下記による。 外 部 ●20mm ○25mm ○ mm 内 部 ●0mm ○ mm 下記の場合は、内部に増打ちを施す。 打ち出し、塗装仕上げなどあらわしとなる仕上げの部分 ●10mm ○ mm 外壁面の内側 ●10mm ○ mm デッキプレートのかかり代となる梁の側面 ●10mm ○ mm 耐久性上不利な箇所 ●10mm ○ mm 耐久性上不利な箇所の増打ちは、上記の数値に外内部の増打ち厚さを加えたものとする。 耐久性上不利な箇所の増打ちは、目地底にも適用する。			
種 類	記 号	使用部位	呼び径(mm)																																										
異形鉄筋 (JIS G 3112)	●SD295	主筋、帯筋、あばら筋	●D16以下																																										
	●SD345	主筋	●D19以上																																										
	●SD390	主筋	●D29以上																																										
	○SD490	主筋	○																																										
	○																																												
建築基準法に基づき 認定を受けた せん断補強筋	●785N/mm ² 級	梁貫通補強筋	●S16以下																																										
	○																																												
5.2.2 溶接金網	種類と鉄線の形状 種類:レギュラー溶接金網 鉄線の形状:丸鉄線 網目の寸法(mm) ●100 ○150 鉄線の径(mm) ●6.0 ○4.5 合成スラブの配筋は構造図による			5.4.2 [追加] ガス圧接作業を行う技能資格者				5.4.3 [追加] 圧接部の試験を行う技能資格者				6.8.2 材料																																	
3節 加工及び組立				5.4.4 [読替] 圧接完了後の圧接部の試験				5.4.5 圧接一般				[追加]																																	
5.3.3 [追加] 組 立	スペーサー 片持ちスラブ基端部のスラブ筋用のスペーサーは連続形パーサポートとする。			5.4.7 [(2)読替] 鉄筋の圧接前の端面				5.4.10 [読替] 圧接完了後の圧接部の試験				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
5.3.4 継手及び定着	a 継手の工法(5.3.4(1)) <table><tr><th>部 位</th><th colspan="3">継 手 工 法 と 適 用 径 の 範 囲</th></tr><tr><td>柱 主 筋</td><td>●重ね継手(●D16以下○)</td><td>●ガス圧接 (●D19以上○)</td><td>○機械式継手 (○D32以上)</td></tr><tr><td>梁 主 筋</td><td>●重ね継手(○D16以下○)</td><td>●ガス圧接 (●D19以上○)</td><td>○機械式継手 (○)</td></tr><tr><td>基礎スラブ、耐圧スラブ、土圧壁等</td><td>●重ね継手(●D25以下○)</td><td>●ガス圧接 (●D29以上○)</td><td>○機械式継手 (○)</td></tr><tr><td>杭 主 筋</td><td>○重ね継手(○D32以下○)</td><td>○ガス圧接 (○ ○)</td><td>○機械式継手 (○)</td></tr></table> SD490材の継手は、原則として機械式継手とする。 b 継手の位置及び長さ(5.3.4(2),(3)) ●鉄筋コンクリート基準図による ○構造図による c 隣り合う継手の位置(5.3.4(4)) ●表5.3.3による ○構造図による(先組み工法で柱、梁の主筋を同一箇所に設ける場合等) d 定着長さ(5.3.4(5)(7)) ●鉄筋コンクリート基準図による ○構造図による e 仕口内の定着長さが確保できない場合(5.3.4(5)(イ)) ●鉄筋コンクリート基準図による ○構造図による f 機械式定着工法(5.3.4(5)(ウ)) ○適用する 機械式定着工法(プレート定着工法)は、指定審査機関の一般認定を受けた工法とする。			部 位	継 手 工 法 と 適 用 径 の 範 囲			柱 主 筋	●重ね継手(●D16以下○)	●ガス圧接 (●D19以上○)	○機械式継手 (○D32以上)	梁 主 筋	●重ね継手(○D16以下○)	●ガス圧接 (●D19以上○)	○機械式継手 (○)	基礎スラブ、耐圧スラブ、土圧壁等	●重ね継手(●D25以下○)	●ガス圧接 (●D29以上○)	○機械式継手 (○)	杭 主 筋	○重ね継手(○D32以下○)	○ガス圧接 (○ ○)	○機械式継手 (○)	5.5.1 [追加] 一般事項				5.5.2 [追加] 機械式継手の作業を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し													
部 位	継 手 工 法 と 適 用 径 の 範 囲																																												
柱 主 筋	●重ね継手(●D16以下○)	●ガス圧接 (●D19以上○)	○機械式継手 (○D32以上)																																										
梁 主 筋	●重ね継手(○D16以下○)	●ガス圧接 (●D19以上○)	○機械式継手 (○)																																										
基礎スラブ、耐圧スラブ、土圧壁等	●重ね継手(●D25以下○)	●ガス圧接 (●D29以上○)	○機械式継手 (○)																																										
杭 主 筋	○重ね継手(○D32以下○)	○ガス圧接 (○ ○)	○機械式継手 (○)																																										
5.3.5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 [追加]	a かぶり厚さ ●表5.3.6による ○構造図による かぶり厚さは、増打ちなどの仕上げを除く構造躯体表面までの最短距離とする。ただし、増打ちが10mm以上ある場合は、耐久性上有効な仕上げとみなし、表5.3.6を適用する。 誘発目地などにより最小断面となる部分のかぶり厚さは、目地底から算定する。その場合の表の適用は、「仕上げあり」の数値を適用する。 塩害を受けるおそれがある部分など耐久性上不利な箇所のかぶり厚さは、6.8.1 a 増打ち厚さの耐久性上不利な箇所に示す増打ちの数値を、表5.3.6に加えた値とする。 軽量コンクリートで土に接する部分のかぶり厚さは、表5.3.6の値に10mmを加えた値とする。 高炉セメントB種を用いる部分のかぶり厚さは、表5.3.6の値に10mmを加えた値とする。			5.5.3 [追加] 工法				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
[追加]	b 間隔 機械式継手の鉄筋の間隔は、工法に応じて継手部に必要な間隔を確保すること。			5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
5.3.7 各部配筋	a 各部の配筋は構造図による。 構造図に記載の無いものは鉄筋コンクリート構造基準図による。			5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
鉄筋コンクリート構造基準図 3.4	b 基礎梁主筋の継手位置(鉄筋コンクリート基準図 3.4) ○3.4 a による(基礎梁にスラブがつかない独立基礎の場合など) ●3.4 b による(基礎梁にスラブがつく独立基礎の場合など) ●3.4 c による(連続基礎及びべた基礎の場合など)			5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
鉄筋コンクリート構造基準図 3.5 4.2 5.2	c 帯筋・あばら筋組立の形(鉄筋コンクリート基準図 3.5 4.2 5.2) 帯筋 ○H形 ○W形 ●SP形 ○丸形 ●電気抵抗溶接閉鎖形(建築基準法に基づき認定を受けた帯筋) ただし、仕口部の帯筋は、SRC造ではW形、RC造ではH形とする。 あばら筋 ●鉄筋コンクリート基準図 5.2 2)による。ただし、基礎梁は3.5 による ●電気抵抗溶接閉鎖形(建築基準法に基づき認定を受けたあばら筋)			5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
文書番号G73-23-20240301 建築工事(構造)特記仕様書2				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験				5.5.4 [追加] 継手部の試験を行う技能資格者				6.8.4 [追加] 型枠の存置期間及び取外し																																	
				5.5.5 施工完了後の継手部の試験</																																									

7章 鉄 骨 工 事		7.2.9 [追加] 柱底均しモルタル		無収縮モルタルは、7.2.9(2)による。 技術評定を取得した露出固定柱脚の均しモルタルは、技術評定の仕様による。		7節 スタッド溶接及びデッキプレートの溶接		13節 その他 [追加]																																			
1節 共通事項		3節 工作一般				7.7.8 デッキプレートの溶接		7.13.1 [追加] 品質管理																																			
7.1.3 鉄骨製作工場	鉄骨製作工場 鉄骨製作工場の区部は下記とし、製作範囲は各グレードの適用範囲内とし、本工事における材質および最大板厚の突合せ溶接部の実績が過去3年以内にあること。 ○ 建築基準法施行規則第1条の3の規定に適合する国土交通大臣認定工場とし、区分は Hグレード以上とする。 ● 建築基準法施行規則第1条の3の規定に適合する国土交通大臣認定工場とし、区分は Mグレード以上とする。 鉄骨製作工場の選定に際しては、事前に会社概要及び実績等を監理者に提出の上、承認を得ること。その際、監理者が必要と判断した場合は、施工者に選定した鉄骨製作工場に対して工場調査の実施を指示する。	7.3.2 工作図 7.3.8 ボルト孔 7.3.10 [追加] 仮組		高力ボルト、普通ボルト及びアンカーボルトの間隔、ゲージなどは鉄骨基準図による。 孔径は、7.3.8(3)による。 ● 実施しない ○ 実施する 仮組を実施する場合の目的、範囲は下記による。 仮組方法、測定及び確認項目等を記載した仮組要領書を作成し、監理者の承認を受ける。 目的 ○ たわみ量の測定 ○ 寸法精度、納まりの確認 ○ 部材の締め付け範囲 構造図による		8節 錆止め塗装																																					
7.1.4 鉄骨製作工場における施工管理技術者	施工管理技術者 ● 配置する ○ 配置しない	4節 高力ボルト接合		7.4.2 摩擦面の性能及び処理		18.2.3 鉄鋼面の素地ごしらえ		a 鉄面の素地ごしらえ ○ A種 ○ B種 ● C種																																			
2節 材料		7.6.3 [読替] 溶接作業を行う技能資格者		7.4.2 摩擦面の性能及び処理		18.3.2 塗料種別		b 塗料種別 ● A種：JIS K 5674：鉛・クロムフリーさび止めペイント（1種[溶剤系]） ○ B種：JIS K 5674：鉛・クロムフリーさび止めペイント（2種[水系]）																																			
7.2.1 鋼 材	使用鋼材一覧 鋼材はJIS規格品又は大臣認定品とし、証明書付きとする。 <table><tr><th>種 類</th><th>規 格</th><th>鋼 材</th></tr><tr><td rowspan="4">形 鋼 ・鋼 板</td><td>JIS G 3101</td><td>● SS400</td></tr><tr><td>JIS G 3106</td><td>○ SM490A</td></tr><tr><td>JIS G 3136</td><td>● SN400AB ○ SN490B.C</td></tr><tr><td>大臣認定品</td><td>○ TMCP325B.C ○ TMCP355B.C ○ TMCP385B.C</td></tr><tr><td rowspan="4">角型鋼管</td><td>JIS G 3466</td><td>○ STKR400</td></tr><tr><td>大臣認定品</td><td>○ BCP235 ○ BCR295</td></tr><tr><td></td><td>○ BCP325B.C ○ BCP355B.C ○ BCP385B.C</td></tr><tr><td>鋼 管</td><td>JIS G 3444</td><td>○ STK400</td></tr><tr><td></td><td>JIS G 3475</td><td>○ STKN400B ○ STKN490B</td></tr><tr><td>大臣認定品</td><td>○ P325B.C ○ P355B.C ○ P385B.C</td><td></td></tr><tr><td>軽量形鋼</td><td>JIS G 3350</td><td>● SSC400</td></tr><tr><td>露出固定柱脚</td><td>認定品</td><td>○ 仕様は構造図による</td></tr></table> [追加] 電炉鋼材の取扱いについて a 490N/mm ² 級の電炉広幅平鋼を使用する場合は「490N/mm ² 級 建築構造用広幅平鋼メーカー規格」(普通鋼電炉工業会)に準拠すること。 b SN材の内、下記に示す特定の部位に電炉鋼材を使用する場合は、JIS規格や上記メーカー規格以外に、部位毎の追加仕様を満足すること(ミルシートにて確認する)。また、メーカー選定にあたっては、この追加仕様を満足する材料供給が可能かどうか、工場の品質管理記録を提出し監理者の承認を得ること。 板厚方向に引張を受ける部位に使用する場合(SN-C材) シャルピー吸収エネルギー最小値(0℃) VEo≧100J 板厚方向絞り RA≧25% 板厚 電炉厚板 t≦40mm 電炉広幅平鋼 t≦32mm 電炉形鋼は使用しない 板厚方向には引張を受けないが、梁端部、柱端部など塑性化を許容する部位に使用する場合(SN-B材) シャルピー吸収エネルギー平均値(0℃) VEo≧100J シャルピー吸収エネルギー最小値(0℃) VEo≧ 70J 板厚 電炉厚板 t≦40mm 電炉広幅平鋼・電炉形鋼 t≦32mm	種 類	規 格	鋼 材	形 鋼 ・鋼 板	JIS G 3101	● SS400	JIS G 3106	○ SM490A	JIS G 3136	● SN400AB ○ SN490B.C	大臣認定品	○ TMCP325B.C ○ TMCP355B.C ○ TMCP385B.C	角型鋼管	JIS G 3466	○ STKR400	大臣認定品	○ BCP235 ○ BCR295		○ BCP325B.C ○ BCP355B.C ○ BCP385B.C	鋼 管	JIS G 3444	○ STK400		JIS G 3475	○ STKN400B ○ STKN490B	大臣認定品	○ P325B.C ○ P355B.C ○ P385B.C		軽量形鋼	JIS G 3350	● SSC400	露出固定柱脚	認定品	○ 仕様は構造図による	7.6.4 溶接の準備		7.6.7 溶接施工		9節 耐火被覆		7.9.2 耐火被覆の種類等 7.9.3 耐火被覆の性能、品質等 7.9.10 [追加] 耐火塗装	
種 類	規 格	鋼 材																																									
形 鋼 ・鋼 板	JIS G 3101	● SS400																																									
	JIS G 3106	○ SM490A																																									
	JIS G 3136	● SN400AB ○ SN490B.C																																									
	大臣認定品	○ TMCP325B.C ○ TMCP355B.C ○ TMCP385B.C																																									
角型鋼管	JIS G 3466	○ STKR400																																									
	大臣認定品	○ BCP235 ○ BCR295																																									
		○ BCP325B.C ○ BCP355B.C ○ BCP385B.C																																									
	鋼 管	JIS G 3444	○ STK400																																								
	JIS G 3475	○ STKN400B ○ STKN490B																																									
大臣認定品	○ P325B.C ○ P355B.C ○ P385B.C																																										
軽量形鋼	JIS G 3350	● SSC400																																									
露出固定柱脚	認定品	○ 仕様は構造図による																																									
7.2.2 高力ボルト	ボルトの種類 ● トルシア形高力ボルト(S10T) ○ JIS形高力ボルト(F10T) ● 溶融亜鉛めっき高力ボルト(F8T相当) ボルトの種類 ● 六角ボルト、六角ナット	[追加] 7.6.11 溶接部の試験を行う技能資格者		7.6.11による他、下記による。 技能資格者は、CIV認定事業所に所属し、下記の技能資格の両方を有する者とする。 建築鉄骨超音波検査技術者(日本鋼構造協会の認定者) JIS Z 2305レベル3またはレベル2(日本非破壊検査協会の認定者) レベル2技術者が受入検査を行った場合の試験結果の合否判定は、レベル3技術者が行うものとする。(NDI―UT3種または2種の資格者は、レベル3または2資格者と同等とする)		10節 工事現場施工		7.10.2 [追加] 建方精度																																			
7.2.3 普通ボルト	ボルトの種類 構造用 :建方用以外のアンカーボルト 技術評定を取得した露出固定柱脚 取得した評定の仕様による 主要構造躯体及び間柱などの二次部材 JIS B 1220 構造用両ねじアンカーボルトセット ● ABR400[軋造ねじ] ○ ABM400[切削ねじ] ● ABR490[軋造ねじ] ○ ABM490[切削ねじ] 屋外に使用する場合は溶融亜鉛めっき(ABR)とする 仕上げ材などの取付部 JIS G 3138 建築構造用圧延棒鋼 SNR400 建方用 :鉄骨建方のみを目的としたもの(適用は構造図による) JIS G 3101 一般構造用圧延鋼材 SS400	7.6.12 溶接部の試験		a 試験の種類 完全溶込み溶接部 ● 超音波探傷試験 ● 外観検査 ● 突合せ継手の食い違い仕口のずれ ● 外観検査 上記以外 b 試験の規準は、日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準」、「建築工事標準仕様書JASS6」、「鉄骨精度測定指針」及び鉄骨製作管理技術者登録機構「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による。 完全溶込み溶接部の受入検査は下記による。 c 工場溶接の場合 検査率 ● 7.6.11の方法 AOQL ● 2.5% ○ 4.0% ○ 100% ○ 第4水準 ● 第6水準 ○ 100% 継手、仕口部のずれの検査率は、「検査・補強マニュアル」3.5.2による、 ○ 抜取り検査① ● 抜取り検査② d 工事現場溶接の場合 検査率 ● 100% 継手、仕口部のずれの検査率は、「検査・補強マニュアル」3.5.2による、 ● 100% 隅肉溶接部および部分溶け込み溶接部の受入検査の手法は下記による。 e 対象は工場製作分とする。 f 柱部材、梁部材を対象に、それぞれ受入検査数毎に30体ずつを1ロットとし、1ロットに対して3体を検査部材とする。 g 検査対象部位は、隅肉溶接および部分溶け込み溶接部とし、付属金物の取付部を含む全ての部位とする。 h 合否判定は、ロットの不合格溶接率が5%以下の場合はそのロットを合格とする。5%を超え10%以下の場合は、更に3体を検査し、合計の不良溶接率が5%以下であれば合格とする。これを満足しない場合は、ロットを不合格とし、残り全数検査を行う。		12節 溶融亜鉛めっき工法		7.12.1 [追加] 一般事項																																			
7.2.4 アンカーボルト						7.12.5 溶融亜鉛めっき高力ボルト接合		b 溶融亜鉛めっき高力ボルトのすり係数試験 ● 不要 ○ 要 ただし、摩擦面にプラスト処理以外の処理を施す場合は、すり係数試験を実施する。																																			
7.2.5 溶接材料	溶接材料は、表7.2.4による					18.3.2 塗料種別		垂鉛めっき面に錆止め塗装がある場合の仕様は、意匠図特記による。																																			
7.2.6 ターンバックル	建築用ターンバックルブレース (JIS A 5540、JIS A 5541) 胴の種類 ● 割枠式 ○ バイプ式 ボルトの種類 ● 羽子板ボルト ○ 両ねじボルト							その他																																			
7.2.7 [追加] 床構造用のデッキプレート	デッキプレート(JIS G 3352、3302)の材料は次による。 a デッキプレート床 ○ SDP2G(Z12) ○ SDP2G(Z27) b 合成スラブ ○ SDP2G(Z12) ○ SDP2G(Z27) c 床型枠用 ● SGCC (Z12) ○ SGCC (Z27) デッキプレート床、合成スラブの形状は構造図による。 床型枠用の形状は、構造図によるほか、施工上必要な形状とする。 外部に面する部位、軒裏などで温度が外気となる部位に使用する場合は溶融亜鉛めっきは、Z27とする。 デッキプレート床、合成スラブに必要な耐火時間は意匠図による。							建築設備の構造強度に関する部分の構造設計一級建築士の法適合確認 令第 129 条の2の3第二号の規定に基づき、建築設備にあつては、国土交通省告示第 1447 号により、構造耐力上安全な構造方法とする。 令第 129 条の2の3第三号の規定に基づき、屋上から突出する水櫃、煙突その他これに類するものにあつては、国土交通省告示第 184 号により、風圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとす。																																			
7.2.8 スタッド	頭付きスタッド (JIS B 1198) スタッドの種類等(呼び径および寸法)は鉄骨基準図による																																										

文書番号G73-23-20240301 建築工事(構造)特記仕様書3							
	訂正	-				件名	岩手県立富岡商工高等学校及び岩手県立富岡水産高等学校 校舎新築(建築)工事
		-				図面名称	建築工事(構造)特記仕様書-3
		-				縮尺	A1版1: N S A3版1: N S
		-				図面番号	SS- 003

鉄筋コンクリート構造基準図－1

1 総 則

1. 1 適用範囲

- 1) 本基準図は設計図(意匠図, 構造図)の鉄筋コンクリート造部分等に適用する。
- 2) 現場説明事項, 質疑応答書, 共通仕様書, 特記仕様書及び本構造図に記載のない事項は, 本基準図による。
- 3) 基準図と他の設計図との間に疑義が生じた場合は監理者の指示による。
- 4) 本図中の標仕○, △, □などの表記は, 公共建築工事標準仕様書(建築工事編)国土交通省大臣官房官庁営繕部監修(平成31年版)に記載による。
- 5) 本図を含む構造図に特記のない限り, 鉄筋はSD295A, SD295B, SD345, SD390とし, コンクリートはFc36以下とする。
- 6) 本図及び構造図などで配筋方法が不明の場合は下記の指針, 基準に準じ監理者と協議の上, 配筋方法を決める。
- (社)日本建築学会 建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事
- (社)日本建築学会 鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説
- (社)日本建築学会 鉄骨鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説
- 7) 前項6)によって生じた変更は特記仕様書にいう軽微な変更とする。

2 一 般 事 項

2. 1 鉄筋の表示記号・呼名・単位

- 1) 本基準図を含む設計図に用いる鉄筋の表示記号は下記による。
- ただし, 書入れ表示がある場合は書入れによる。

異形鉄筋	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38
記 号	●	×	∅	●	○	⊙	⊗	⊗	⊗	⊗

- 2) 本基準図を含む設計図に記載の d は, 異形鉄筋の呼び名の数値を示す。
- 3) 本基準図を含む設計図の書入れ寸法は特記のない限りmm単位とする。

2. 2 鉄筋の重ね継手及び定着の長さ

(1) 重ね継手長さ

径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは, 細い鉄筋の径による。

耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは, 40dと下表のうち大きい値とする。

上記以外の鉄筋の重ね継手の長さは, 下表による。

標仕 表5.3.2

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm ²)	L1(フックなし)	L1h(フックあり)
SD295A SD295B	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24.27	35d	25d
	30.33.36	35d	25d
	42以上	30d	20d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24.27	40d	30d
	30.33.36	35d	25d
	42以上	30d	20d
SD390	21	50d	35d
	24.27	45d	35d
	30.33.36	40d	30d
	42以上	35d	25d

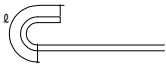
- (注) 1. L1, L1h: 重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ。
2. フックありの場合のL1hは, フック部分 ℓ を含まない。
3. 軽量コンクリートの場合は, 表の値に5dを加えたものとする。
4. 鉄筋相互にあきがある場合は, あきの間隔が0.2L1かつ150mm以下のとき, 重ね継手としてよい。
5. 隣り合う継手の位置は, 表5.3.3による。

(2) 定着長さ

標仕 表5.3.4

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm ²)	直線定着の長さ		フック有り定着の長さ			
		L1	L2	L3		L3h	
SD295A SD295B	18	45d	40d	20d	10d かつ 150mm 以上	35d	30d
	21	40d	35d			30d	25d
	24.27	35d	30d			25d	20d
	30.33.36	35d	30d			25d	20d
	42以上	30d	25d			20d	15d
SD345	18	50d	40d	(片持 小梁 の 場合は 25d)	(片持 スラブ の場合は 25d)	35d	30d
	21	45d	35d			30d	25d
	24.27	40d	35d			30d	25d
	30.33.36	35d	30d			25d	20d
	42以上	30d	25d			20d	15d
SD390	21	50d	40d			35d	30d
	24.27	45d	40d			35d	30d
	30.33.36	40d	35d			30d	25d
	42以上	35d	30d			25d	20d

- (注) 1. L1, L1h: 2以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
2. L2, L2h: 割裂破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
3. L3: 小梁及びスラブの下端筋の直線定着長さ(基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く)。
4. L3h: 小梁の下端筋のフックあり定着長さ。
5. フックあり定着の場合はフック部分 ℓ を含まない。また, 中間部での折曲げは行わない。
6. 鉄骨のフラットな面に鉄筋の定着部が接する場合は, その長さの1/2程度を定着長さに加える。
7. 軽量コンクリートの場合は, 表の値に5dを加えたものとする。
8. 上記を満足できない場合は, 「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」に準じ, 監理者と協議の上, 定着長さを決めることができる。※機械式定着による場合は, 定着具の寸法・品質・施工法およびその場合の定着長さを設計図書に特記する。

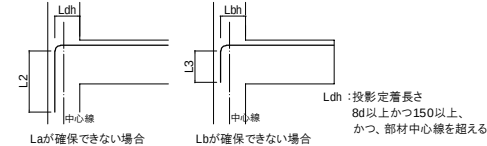


フックありのフック部分 ℓ

(3) 折曲げ定着の投影定着長さ 標仕 表5.3.5

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm ²)	La	Lb
SD295A SD295B	18	20d	15d (12d)
	21	15d	15d (12d)
	24.27	15d	15d (12d)
	30.33.36	15d	15d (12d)
	42以上	15d	15d (12d)
SD345	18	20d	20d (16d)
	21	20d	20d (16d)
	24.27	20d	15d (12d)
	30.33.36	15d	15d (12d)
	42以上	15d	15d (12d)
SD390	21	20d	20d (16d)
	24.27	20d	20d (16d)
	30.33.36	20d	15d (12d)
	42以上	15d	15d (12d)

- (注) 1. La: 梁主筋の折曲げ定着の投影定着長さ。(柱せいの3/4倍以上) (基礎梁, 片持梁, 片持小梁及び片持スラブを含む)
2. Lb: 小梁及びスラブの上端筋の折曲げ定着の投影定着長さ。(片持小梁及び片持スラブを除く) なお, 余長部が8d以上かつ150以上コア内に定着されている場合, () 内の数字としてよい。
3. 軽量コンクリートの場合は, 表の値に5dを加えたものとする。
4. 仕口せいが小さく, La, Lbが確保できない場合の鉄筋の折曲げ定着要領は下記による。



Ldh: 投影定着長さ 8d以上かつ150以上, かつ, 部材中心線を超える

2. 3 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

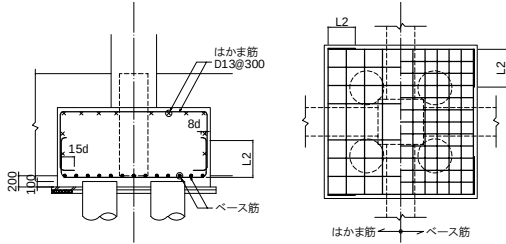
鉄筋のかぶり厚さ及び間隔は, 標仕5.3.5による。

ただし, 主筋がφ40以上の異形鉄筋の場合や機械式継手を使用する場合のかぶり厚さ及び間隔は, 特記による。

3 基礎の配筋

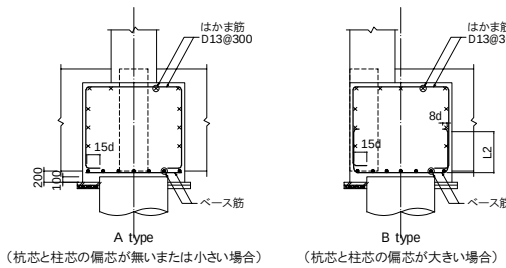
3. 1 杭基礎

(1) 単杭ではない基礎の配筋



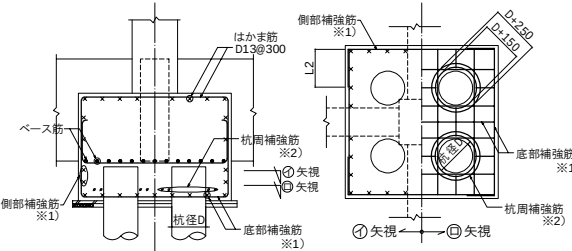
(2) 単杭の基礎の配筋

AまたはBの種別は基礎リストによる



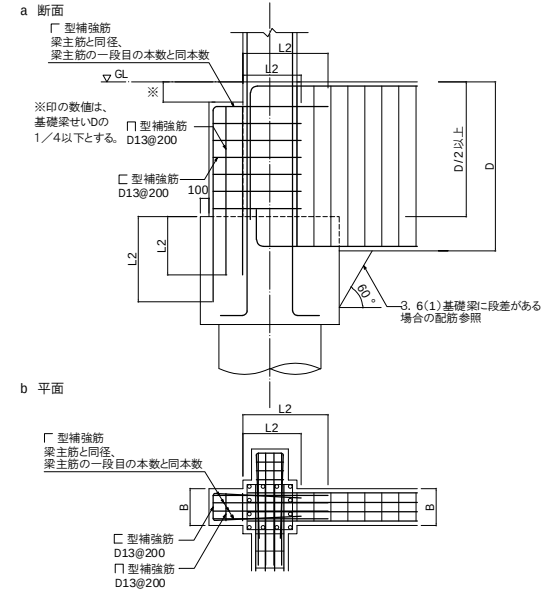
(杭芯と柱芯の偏芯が無いまたは小さい場合) (杭芯と柱芯の偏芯が大きい場合)

(3) 杭頭部が基礎にのみ込んでいる場合の補強



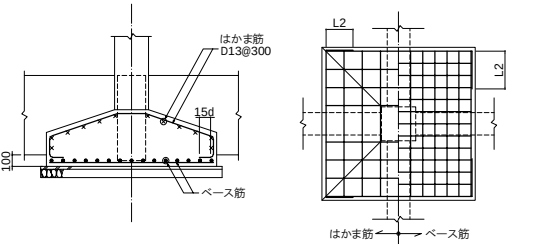
- ※1) 底部補強筋, 側部補強筋は, はかま筋と同径, 同ピッチとする。
- ※2) 杭周補強筋は, 2-D13(重ね長さ10d)とし, 直径は杭径D+150および250とする。

(4) 基礎が基礎梁せいの1/2以上下がついている場合の配筋

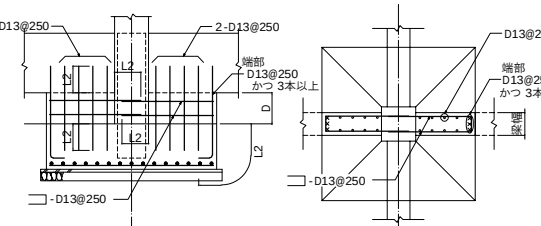


3. 2 直接基礎

(1) 独立基礎, 連続基礎の配筋



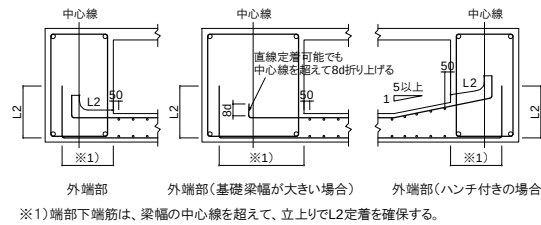
(2) 基礎接合部の補強



段差寸法D: 上部基礎梁下端から基礎上端までの寸法 D ≥ 100 (基礎梁下端主筋が基礎はかま筋に入らない状態)

3. 3 ベタ基礎

(1) 底盤の基礎梁への定着(外端部)

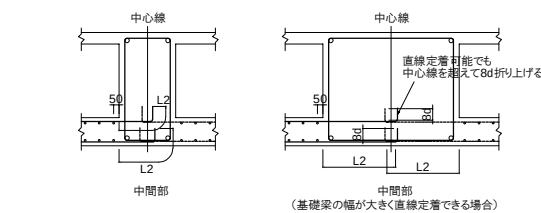


※1) 端部下端筋は, 梁幅の中心線を超えて, 立り上げL2定着を確保する。

(2) 底盤の基礎梁への定着(中間部)

両側に底盤を有する場合の底盤の配筋は, 引き通しを基本とする。

L2定着とする場合は下記による。

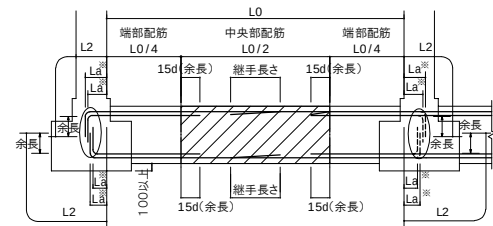


- ※ベタ基礎でない場合の底盤の配筋はスラブ配筋による。
- ただし, 水圧を受ける底盤は特記による。

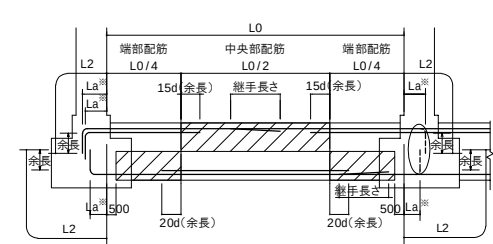
3. 4 基礎梁主筋

- 1) 継手, 定着及び余長は下記による。
- 2) 斜線は重ね継手・ガス圧接・機械式継手中心位置の範囲を示す。
- 3) — 印は, 継手及び余長位置を示す。
- 4) 破線は, 柱内定着の場合を示す。
- 5) 上端主筋の定着は, 曲下げ定着とするが, やむを得ない場合, 監理者と協議の上, 曲げ上げ定着とすることができる。
- 6) 梁主筋は, 柱をまたいで引き通すものとし, 引き通すことができない場合は, 柱内に定着する。
- ただし, やむを得ず梁内に定着する場合は, 監理者と協議の上, 下記dによる。
- ※図中のLaは, La, かつ, 柱せいの3/4倍以上とする。

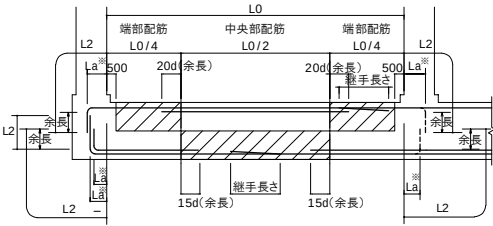
a. 杭基礎または独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の配筋



b. 杭基礎または独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の配筋



c. 連続基礎及びべた基礎の場合の配筋



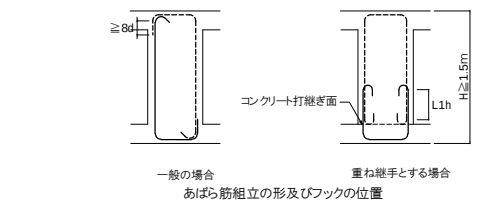
べた基礎の場合の基礎小梁・片持ち梁の配筋は, 6章の配筋要領の下端筋を上端筋と同じ要領に読み替えて適用する。

d. 梁筋をやむを得ず梁内に定着する場合の配筋



3. 5 基礎梁のあばら筋

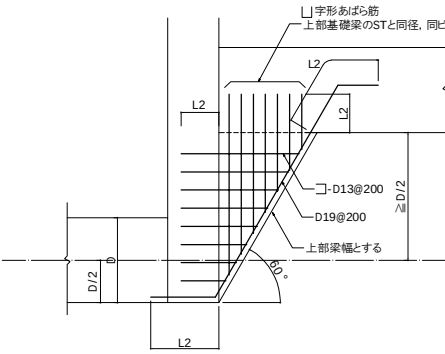
- 1) あばら筋の割付けは, 「5 大梁の配筋」による。
- 2) あばら筋の径および間隔は, 特記による。
- 3) あばら筋組立の形及びフックの位置は, 「5 大梁の配筋」による。ただし, 梁の上下端にスラブが付く場合で, かつ, 梁せいが1.5m以上の場合は, 下記によることができる。
- 4) 腹筋及び止め筋は「5 大梁の配筋」による。



3. 6 その他の配筋

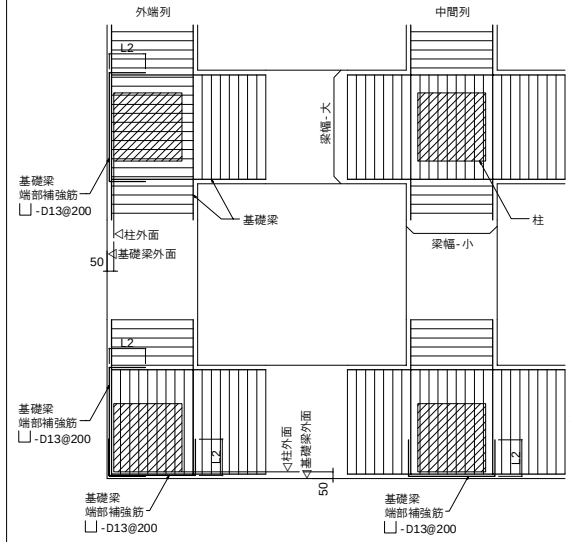
(1) 基礎梁に段差がある場合の配筋

段差の上部側の基礎梁の下端を増打ちし下記要領にて配筋する。



(2) 基礎梁の幅が柱幅より大きく梁通しとする場合の配筋

- 1) 基礎梁のあばら筋の通し順は特記による。特記がない場合は, 以下による。
- ・外端列のあばら筋を通す。
 - ・外端列-外端列, 中間列-中間列は, 梁幅の大きい方のあばら筋を通す。
- 2) 外端列の基礎梁外面と柱外面の逃げ寸法は50mmとする。
- 3) 基礎梁の外端部には, 端部補強筋D13@200を配筋する。
- 4) 柱主筋は, 梁主筋の内側にL2定着とし, 帯筋は省略してもよい。



訂正	

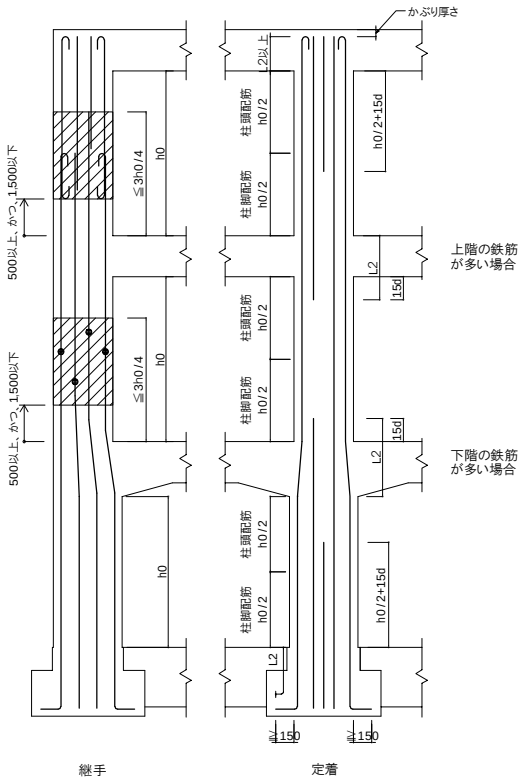
件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事
図面名称	鉄筋コンクリート構造基準図－1
縮尺	A1版: 1/5 A3版: 1/5
図面番号	S-004

鉄筋コンクリート構造基準図－2

4 柱の配筋

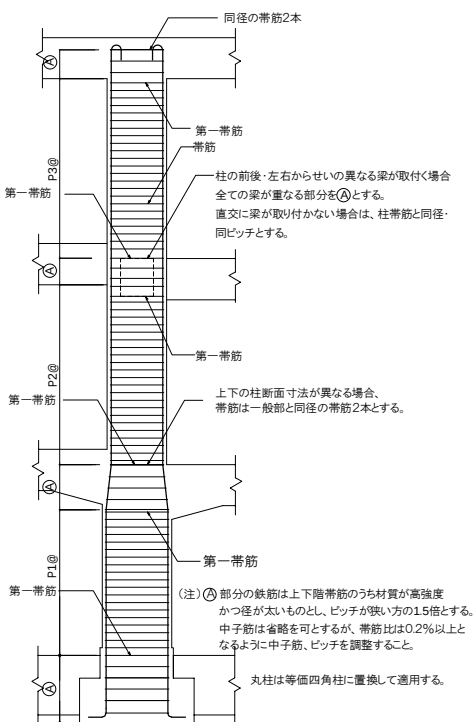
4.1 柱主筋

- 継手、定着及び余長は下記による。
- 斜線は重ね継手・ガス圧接継手・機械式継手の継手位置の範囲を示す。
- 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合には、フックを付ける。
- 継手、定着は、全ての階に適用する。
- 最上階で、4.3(1)bの場合に限り、図示の位置に定着を設けてよい。

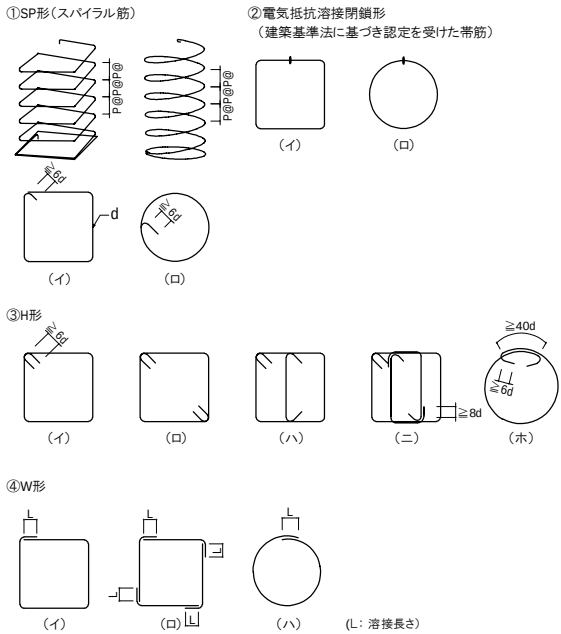


4.2 帯筋

- 帯筋の割付けは、下記による。
P1@、P2@、P3@は、特記された帯筋の間隔を示す。



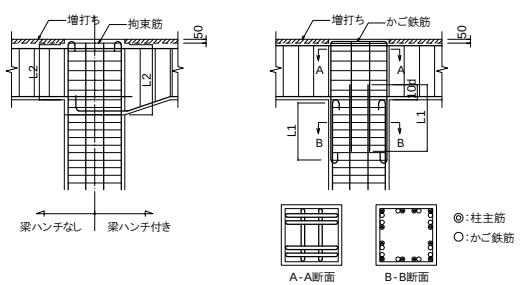
- 帯筋組立の形は、下記による。
 - SP形を標準とし、SP形にできない場合は監理者と協議の上、電気抵抗溶接閉鎖形とする。仕口部はH形を標準とする。
 - SP形において、柱頭及び柱脚の端部は、1.5巻以上の添巻きを行う。
 - SP形、電気抵抗溶接閉鎖形、W形の中子筋の形状は、H形による。
 - H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W形とする。
 - 溶接長さLは、両面フラア溶接の場合は5d以上、片面フラア溶接の場合は10d以上とし、ビートの始点及び終点としてそれぞれ2dを加える。
 - フック及び継手の位置は上下で連続しないように配置する。



4.3 その他の配筋

(1) 柱頭の配筋

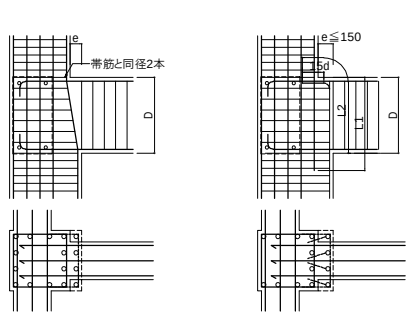
- a 柱主筋の定着長さL2がとれる場合
- b 柱主筋の定着長さL2がとれない場合



- 柱頭のかぶり厚さを確保すること。
- 梁天端は、柱頭より50mm下げる。
- 拘束筋は柱帯筋と同径2本とする。
- かご鉄筋は柱頭主筋と同径、同本数とする。

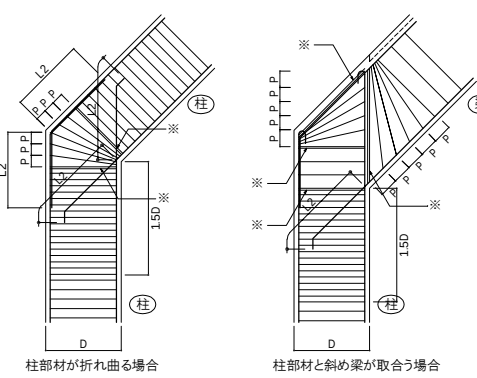
(2) 上下の柱断面寸法が異なる場合の配筋

- $\frac{e}{D} \leq \frac{1}{6}$ の場合 (柱主筋を上階の柱主筋と連続させる場合)
- $\frac{e}{D} > \frac{1}{6}$ の場合 (柱主筋を上階の柱主筋と連続させない場合)

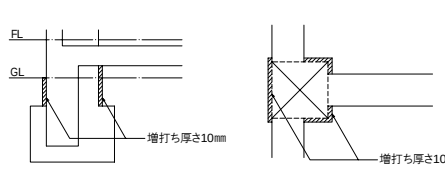


(3) 斜め柱・斜め梁の配筋

- ※印の鉄筋は該当部材の帯筋又はあばら筋を2組束ねて配筋する。
- 図中のPは、該当部材の帯筋又はあばら筋の所定のピッチを示す。
- 扇形のつぼまる側の鉄筋は、所定の最小間隔を確保する。
- 傾斜部材の方向に梁部材がない場合は、図示1.5Dの範囲の帯筋量を1.5倍にする。

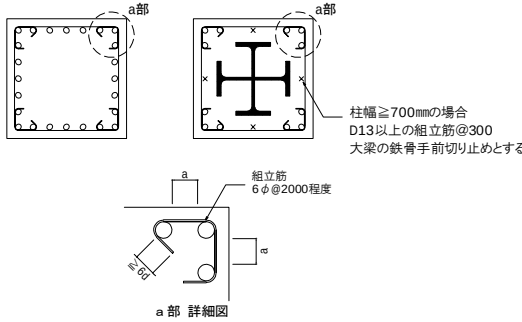


(4) 土に接する柱周辺の増打ち



(5) 組立筋

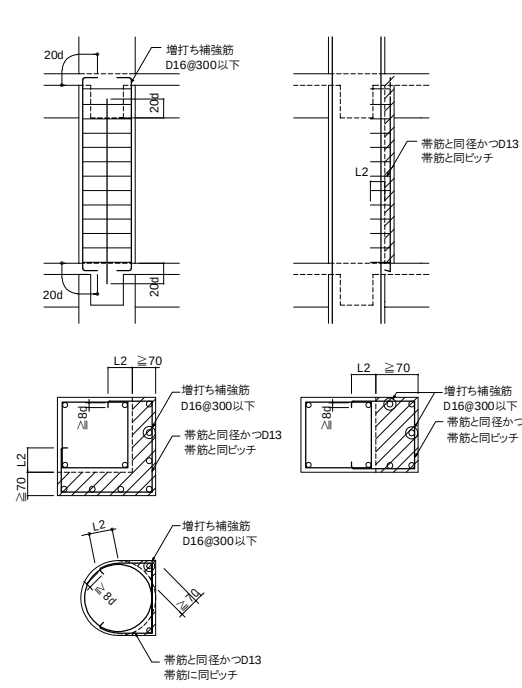
- 柱リストに二段筋の表示がある場合の組立筋は、下記による。
- 鉄骨鉄筋コンクリート柱で、柱幅が700mm以上の場合は、下記の組立筋を配置する。



- a (鉄筋のあき) : 特記無き限り、呼び名の数値の1.5倍かつ、粗骨材最大寸法の1.25倍かつ、25mmの最大値。

(6) 柱増打ち補強筋

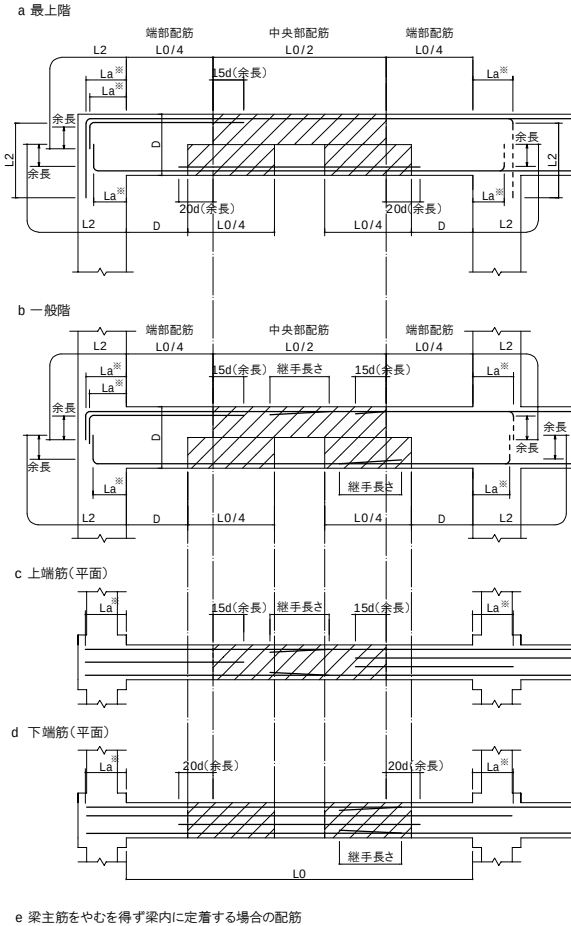
- 柱の増打ち幅が70mm以上となる場合の補強は、下記による。



5 大梁の配筋

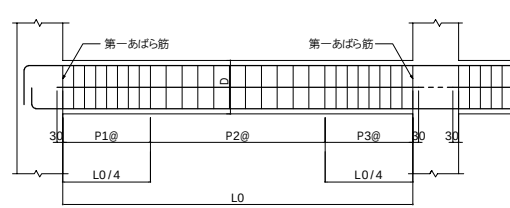
5.1 大梁主筋

- 継手、定着及び余長は下記による。
- 斜線は重ね継手・ガス圧接・機械式継手の継手中心位置の範囲を示す。
- 印は、継手及び余長を示す。
- 破線は、柱内定着の場合を示す。
- 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合(基礎梁を除く)には、フックを付ける。
- 下端主筋の定着は、曲上げ定着とするが、やむを得ない場合は監理者と協議の上、曲下げ定着とすることができる。
- 梁主筋は、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、監理者と協議の上、下記 e による。
- ※図中のLaは、La、かつ、柱せいの3/4倍以上とする。

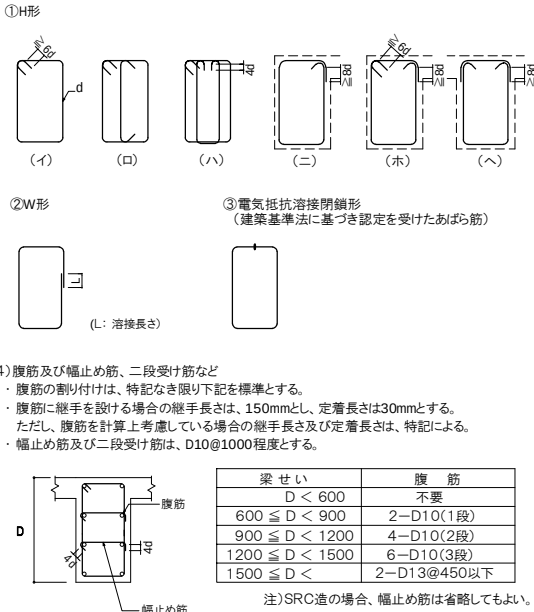


5.2 あばら筋

- あばら筋の割付けは、下記による。
P1@、P2@、P3@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

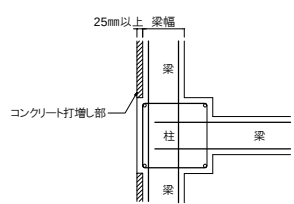


- あばら筋組立の形は、下記による。
 - H形の(イ)～(ハ)を標準とし、片側スラブ付き梁の場合は、(ニ)又は(ホ)、両側スラブ付き梁の場合は、(ニ)～(ヘ)とすることができる。
 - フックの位置は、(イ)～(ハ)の場合は交互とし、(ニ)の場合は、片側スラブ付き梁ではスラブの付く側、両側スラブ付き梁では交互とする。なお、(ホ)の場合はスラブの付く側を90°折曲げとする。
 - H形にできない場合は、W形とすることができる。
 - 溶接長さLは、「4.2 帯筋」による。
 - H形の(イ)以外の中子筋の形状は、H形の(ロ)、(ハ)による。



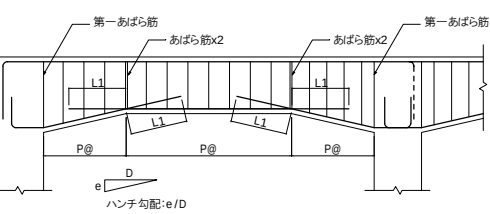
5.3 その他の配筋

- 柱と梁が同一面となる場合の納まり
 - 下図の要領で梁幅を設定し、梁主筋を直線に配筋する。
 - 柱幅と梁幅が同一の場合は、梁幅の中で梁主筋を直線に配筋する。
 - 柱幅より梁幅が大きい場合は、3.6(2)による。

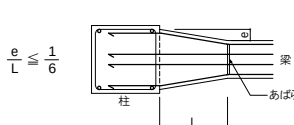


(2) 鉛直ハンチの配筋

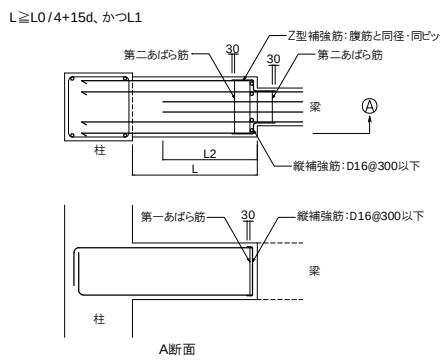
- 梁主筋の継手、定着及び余長は、「5.1 大梁主筋」による。
- あばら筋の割付けは、「5.2 あばら筋」による。
- ハンチ勾配が $e/D \leq 1/6$ の場合は、コーナー部の主筋は折り曲げ引きとおし出来る。



(3) 水平ハンチの配筋



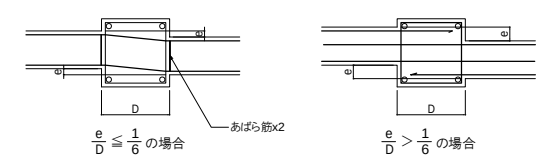
(4) ドロップハンチの配筋



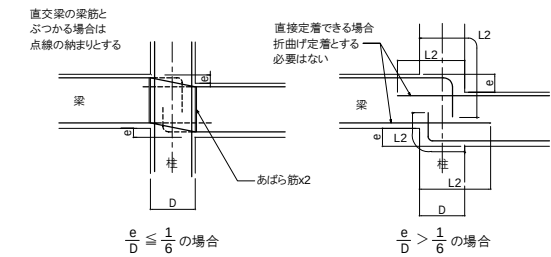
鉄筋コンクリート構造基準図－3

(5) 梁に段差がある場合の配筋

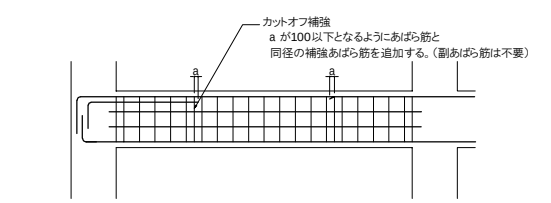
- 1) 平面的な段差
・主筋の折り曲げが $e/D \leq 1/6$ であっても主筋を柱内に別々にアンカーしてよい。
・ $e/D > 1/6$ の場合、通し配筋できるものは、通し配筋としてもよい。



2) 断面的な段差

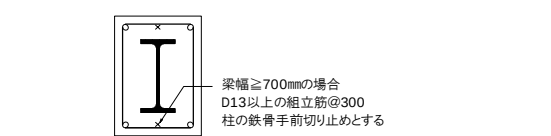


(6) 梁主筋の部材内定着部(段落とし部)の補強



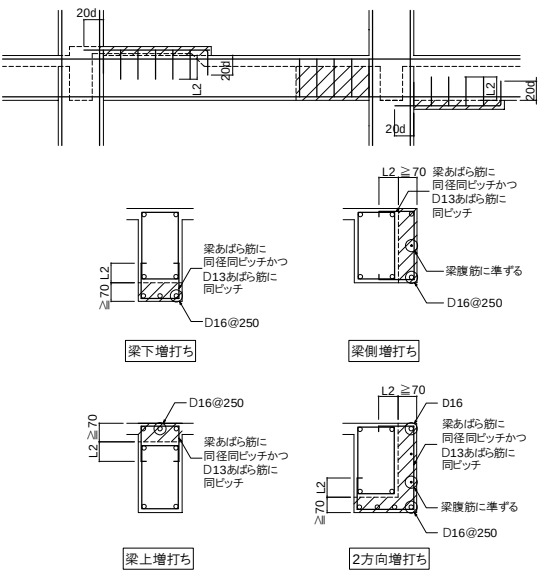
(7) 鉄骨鉄筋コンクリート大梁の組立筋は下記による。

- 1) 鉄骨鉄筋コンクリート梁で、梁幅が700mm以上の場合は、下記の組立筋を配置する。



(8) 梁増打ち補強筋

梁の増打ち幅が70mm以上となる場合の補強は、下記による。

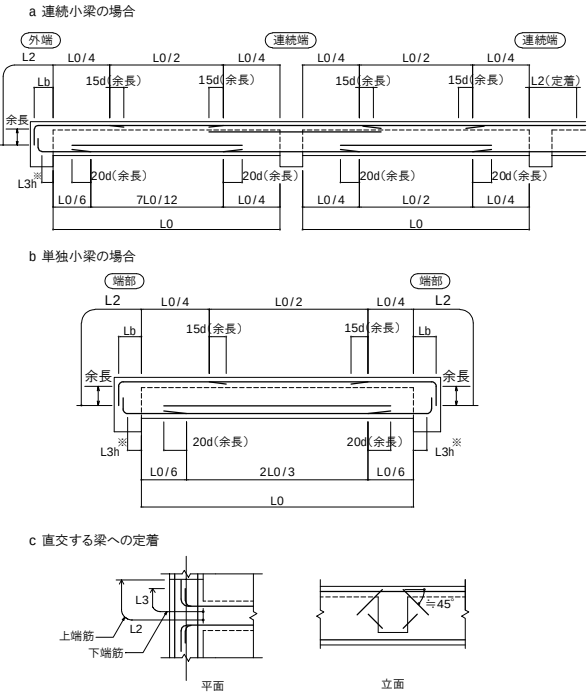


梁の上下に増打ちがある場合で、増打ち寸法が400mm以上ある場合は、5.2 4)に準じて幅止め筋及び腹筋を設ける。

6 小梁・片持ち梁の配筋

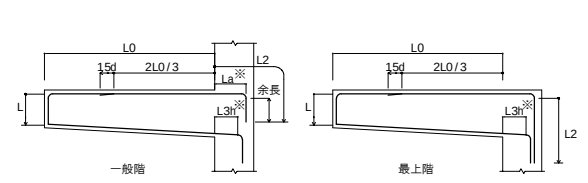
6. 1 小梁主筋

- 1) 小梁の継手、定着及び余長は下記による。
2) 印は、継手及び余長を示す。
3) 梁主筋は、柱、大梁をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱、または大梁に定着する。
4) 梁せいが小さく垂直で余長がとれない場合、斜めにしてもよい。
5) 図示のない事項は、「3. 4 基礎梁主筋」、「5. 1 大梁主筋」、「5. 2 あばら筋」による。
※ LbL3hを確保できない場合は、2.2(3)注記4 によることができる。



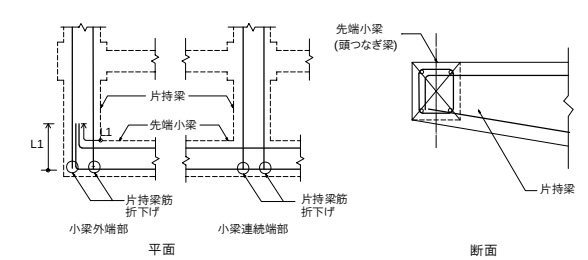
6. 2 片持梁主筋

- (1) 先端に小梁のない場合
1) 継手、定着及び余長は下記による。
2) 印は、継手及び余長を示す。
3) 先端の折曲げの長さLは、梁せいかぶり厚さを除いた長さとする。
4) 梁筋を引き通さない場合は、取合い部材に定着する。ただし、柱に取り合う場合は、全数引き通せる場合でも、上端筋は、2本以上を柱に定着する。
※ Laの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。
※ L3hを確保できない場合は、2.2(3)注記4 によることができる。



(2) 先端に小梁がある場合

- 1) 図示のない場合は、(1)による。
2) 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
3) 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。



6. 3 小梁・片持梁のあばら筋など

- 1) あばら筋は、大梁に準じて 5.2 1)～3)による。
2) 腹筋及び幅止め筋、二段受け筋は、大梁に準じて 5.2 4)による。

6. 4 鉄骨鉄筋コンクリート部材と主筋の関係

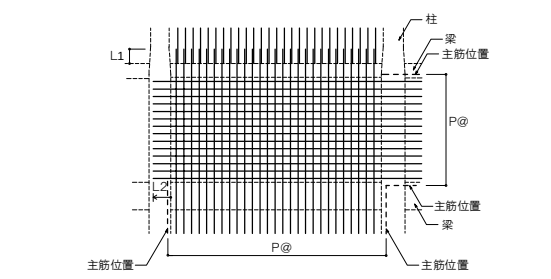
- 1) 小梁・片持ち梁の上端筋は、鉄骨ウェブを貫通して定着する。
2) 小梁・片持ち梁の下端筋は、鉄骨を貫通せず2.2(3)注記4 により定着することができる。

7 壁の配筋

7.1 壁筋

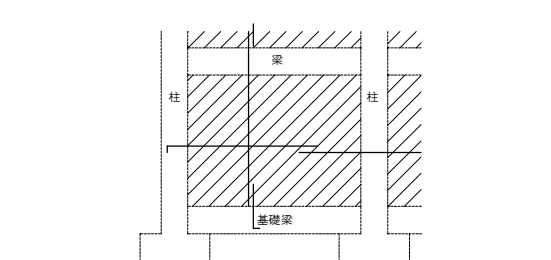
(1) 壁筋の割付け

- 1) 壁筋の割付けは下記による。
2) P@は、特記された壁筋の間隔を示す。
3) 幅止め筋は縦筋・横筋ともD10@1000以下とする。



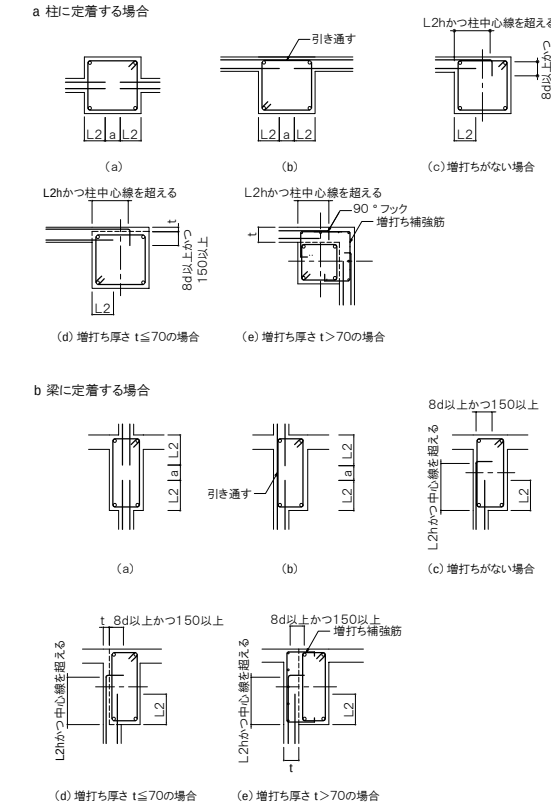
(2) 継手

- 1) 壁筋の継手は、下図の斜線部で行なう。



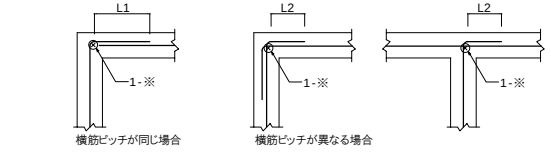
(3) 柱・梁への定着

- 1) 柱・梁への定着は下記による。
2) 図中aの範囲がある場合は、当該部分は通し配筋としてもよい。

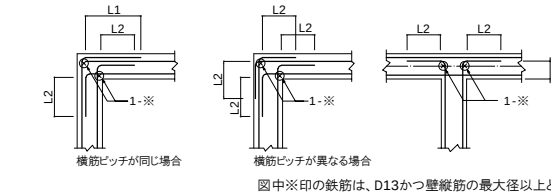


(4) 交差部の配筋

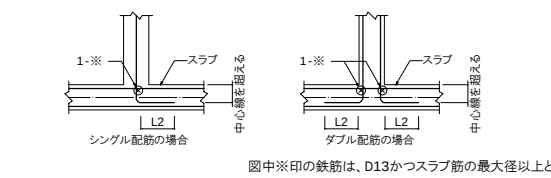
a 壁と壁の交差部の配筋 (シングル配筋の場合)



b 壁と壁の交差部の配筋 (ダブル配筋の場合)

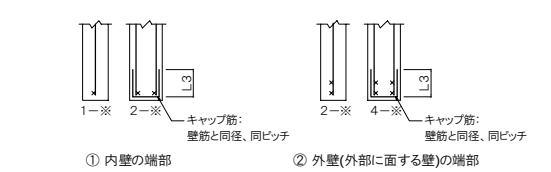


c 壁と床スラブの交差部の配筋



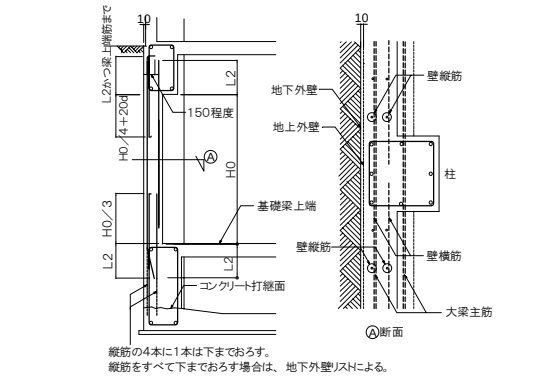
(5) 壁端部の配筋

- 1) 端部配筋は、水平面・垂直面とも同様とする。
2) 図中※印の鉄筋は、壁端部の縦筋で、耐震壁は開口補強筋、一般壁は壁筋と同径かつD13以上とする。

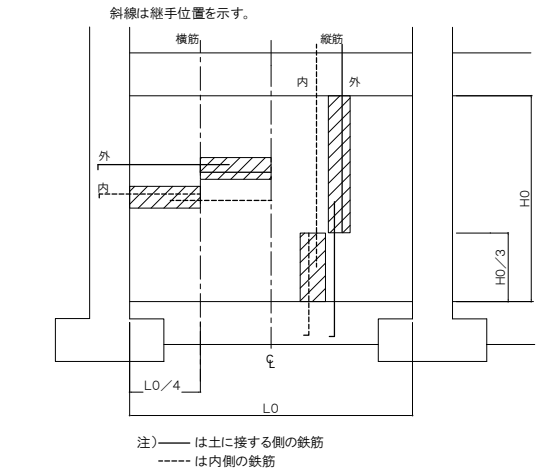


7.2 地下外壁

1) 土圧を受ける地下外壁の配筋は下記による。

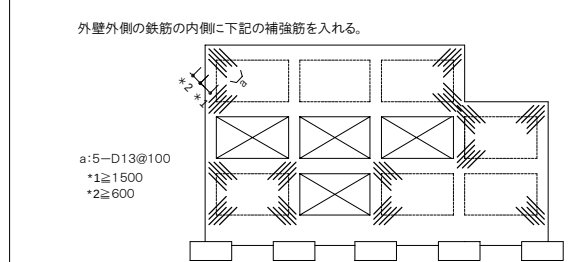


2) 土圧を受ける地下外壁の継手は下記による。

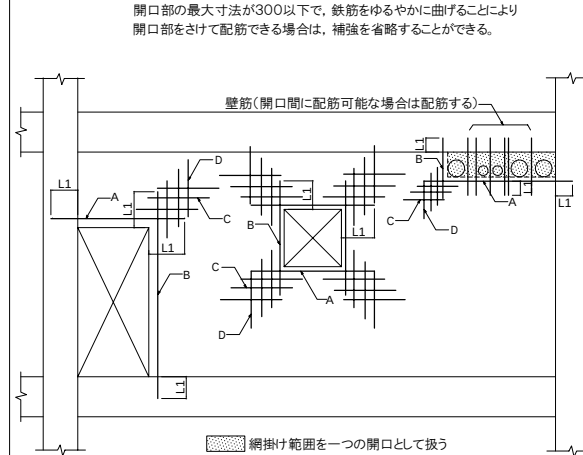
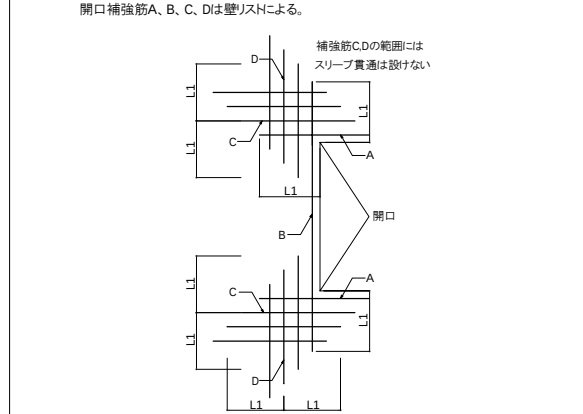


7.3 その他の配筋

(1) 外壁隅部の補強筋

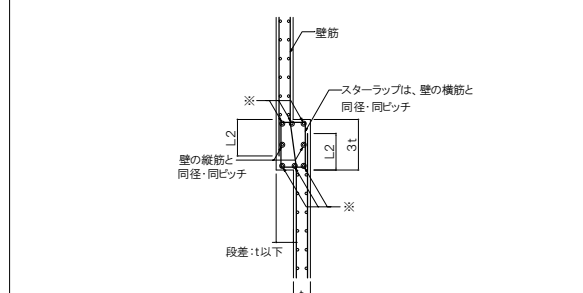


(2) 壁の開口補強要領



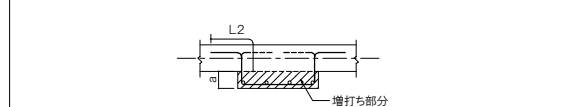
(3) 耐震壁段差部の配筋

- 1) tは壁厚を示す。
2) 図中※印の鉄筋は、縦筋・横筋のうち、大きい方の1サイズアップとする。
3) 図中※印の鉄筋は、継手長さはL1、定着長さはL2とする。



(4) 壁の増打ち補強

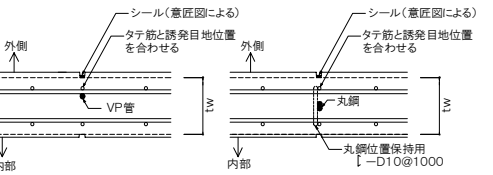
- 1) 壁の増打ち厚さが50mm以上の場合の補強を示す。
2) 増打ち補強筋は、縦筋・横筋とも径はD10、ピッチは壁筋と同ピッチとする。



鉄筋コンクリート構造基準図－4

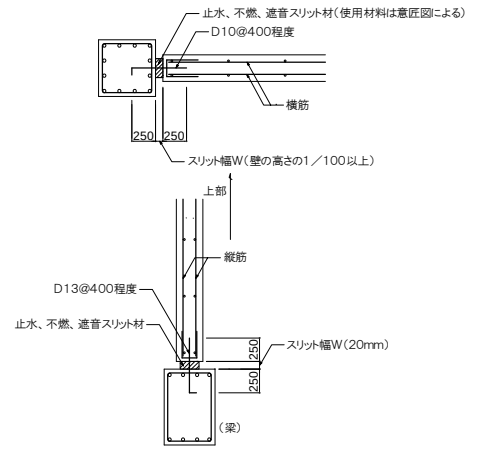
- (5) 誘発目地
- ・誘発目地の間隔
 - 1) 誘発目地の間隔は3m以下とする。
 - 2) 梁・柱・誘発目地・耐震スリットなどで囲まれた1枚の壁の面積は25㎡以下とする。
 - 3) 1枚の壁の面積が小さい場合を除いて、その辺長比は1.25以下とする。
 - ・誘発目地の仕様
 - 1) 一般壁の場合はVP管を、耐震壁の場合は丸鋼を欠損材として使用する。
 - 2) 誘発目地、縦筋、VP管及び丸鋼を一直線に並べ、欠損率25%以上を確保する。
 - 3) 目地深さ＝増打ち厚さとする。
 - 4) 水平方向目地を設ける場合は、鉛直方向目地と同様、水平方向目地位置に合わせて欠損材を配置する。なお、欠損材の縦横の交差部は一方を通しとし、直交方向は分断配置とする。
 - 5) 誘発目地を柱際に設ける場合は、柱断面内にVP管、丸鋼が入らないように注意すること。

1)一般壁の場合		2)耐震壁の場合	
壁厚	VP(外径)	壁厚	丸鋼
tw (mm)	φ (mm)	tw (mm)	
150	18	150	1－φ12
180	18	180	2－φ12
200	18	200	2－φ12
220	22	220	2－φ16
250	22	250	2－φ16
300	38	300	3－φ16

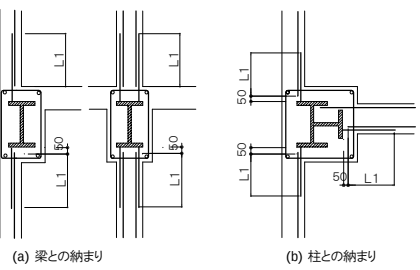


※丸鋼は壁厚中央に並列に配置し、周辺躯体への定着はしないものとする。

- (6) 耐震スリット
- 耐震スリットの位置は構造図によるとし、断面形状および補強筋の配筋は下図による。
 - 補強筋は、外部および水廻り部では防錆加工したものを使用する。



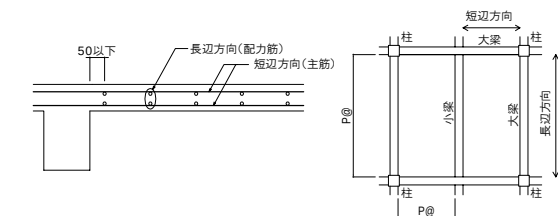
- (7) 異形スタッドを用いた納まり
- 鉄骨鉄筋コンクリート造の柱、梁の鉄骨に壁筋を緊結する場合に使用する。
 - スタッドの施工仕様は特記仕様書による。
 - 鉄筋を緩やかに曲げられる場合(1/5)は、鉄筋を折り曲げて納めても良い。



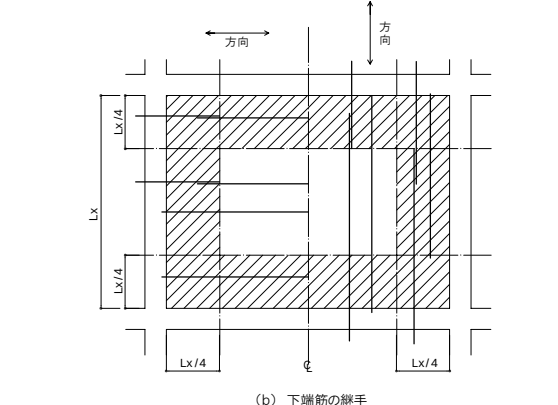
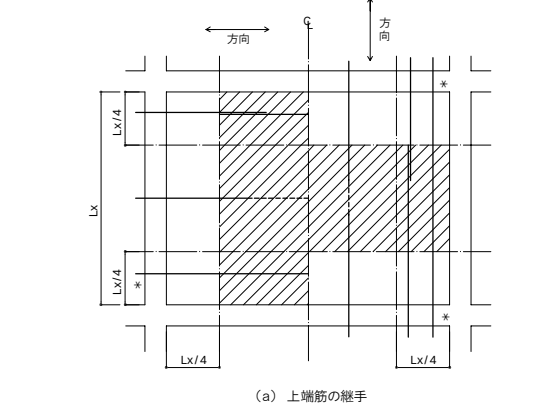
8 スラブの配筋

8.1 スラブ筋

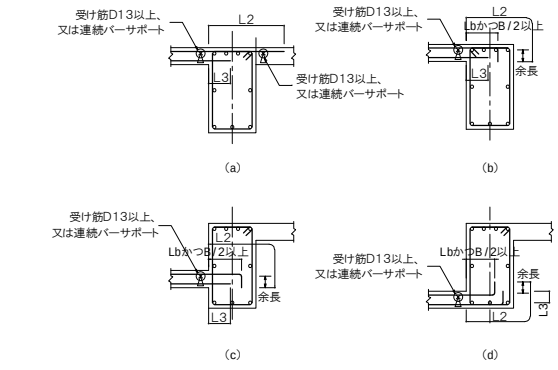
- (1) スラブ筋の割付け
- スラブ筋の割付けは下記による。
 - P@は、特記されたスラブ筋の間隔を示す。



- (2) 継手
- スラブ筋の継手は、下図の斜線部で行なう。

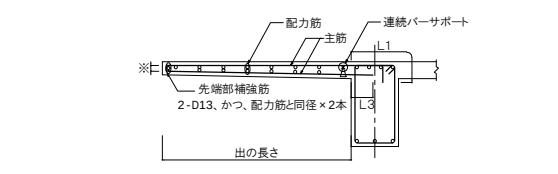


- (3) 定着長さ及び受け筋
- スラブ筋の定着及び受け筋は下図による。
 - スラブ筋は梁上を引き通す。
 - ただし、引き通すことができない場合は、(b),(c),(d)により梁内に定着する。
 - 壁に定着する場合も下記にならう。

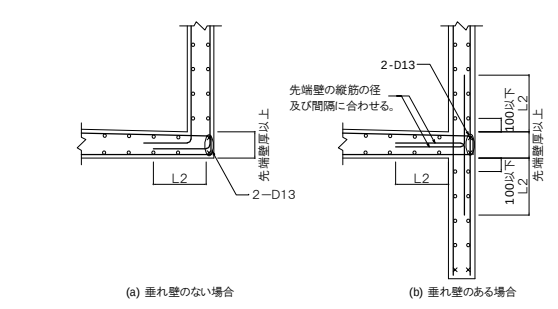


8.2 片持スラブ

- (1) 先端に壁が付かない場合の配筋
- 先端の折り曲げ長さ(※印)は、スラブ厚さよりかなり厚さを除いた長さとする。
 - スラブに段差のない場合は、主筋を引き通してスラブに定着してもよい。

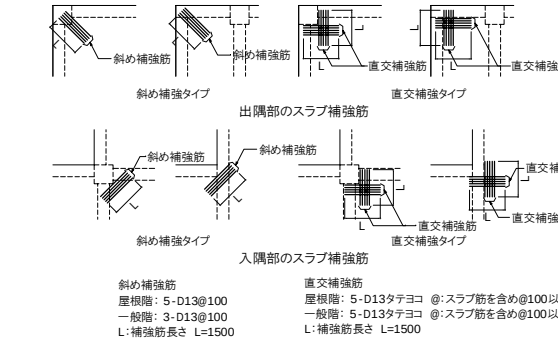


- (2) 先端に壁が付く場合の配筋

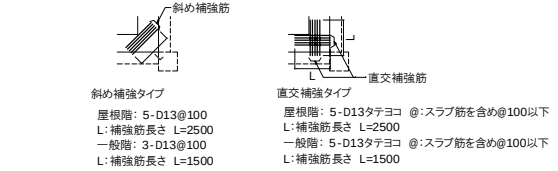


8.3 その他の配筋

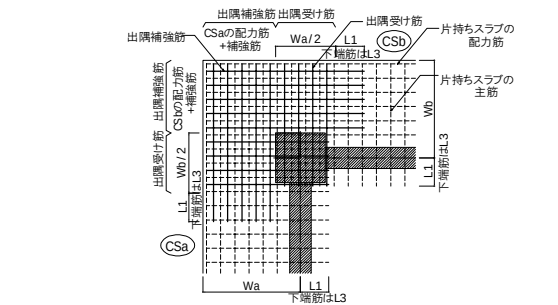
- (1) スラブの出隅及び入隅部の補強筋
- スラブの出隅部及び入隅部には、下記の補強筋を配置する。
 - 補強筋は、斜め補強の場合は上端筋の下に、直交補強の場合は上端筋の間に配置する。
 - 補強筋は、一般階では3-D13、屋根スラブの場合は5-D13とし、長さLは1500とする。
 - 出の長さ600以上の片持ちスラブにより出隅及び入隅が形成される場合は、省略できる。



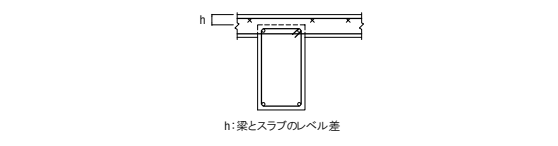
- (2) 片持ちスラブの出隅部及び入隅部の補強筋
- 片持ちスラブの入隅部の補強筋は下図による。



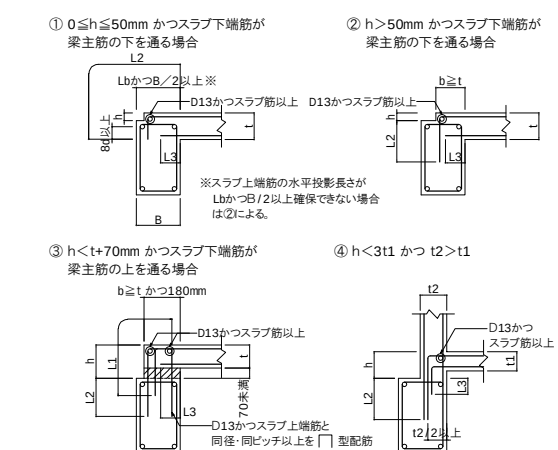
- 2) 片持ちスラブの出隅部の補強筋は特記が無い限り下記による。
- 出隅の配筋と補強筋
- 各々のスラブの上下配筋を配筋し、補強筋として配力筋と同配筋を配力筋と補強筋の間隔が1/2になるように上下とも配置する。
- 出隅受け筋
- 配筋する片持ちスラブと直交の片持ちスラブの出寸法(Wa,Wb)の1/2の範囲に、主筋と同配筋を主筋と受け筋の間隔が1/2になるように上下とも配置する。
- 柱の形状により受け筋が配置できない場合は、配置できない配筋を柱の左右に振分けて配置してよい。
- 振分けは、柱から出隅スラブ側に1/3、片持ちスラブ側に2/3とする。その場合の受け筋を配置する範囲は、鉄筋の最小間隔を確保の上、範囲を広げてよい。
- 出隅受け筋は、スラブの出寸法が1000未満の場合は不要とする。



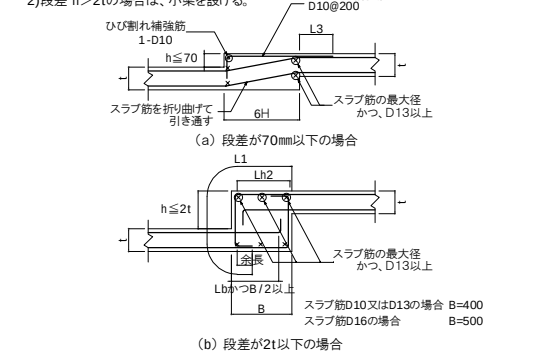
- (3) 梁とスラブにレベル差がある場合の配筋
- h≦70 の場合は、補強筋なし。
 - h>70 の場合は、5.3.(7)梁増打ち補強筋とする。



- (4) 梁上でスラブにレベル差がある場合の配筋
- ①～③は壁がない場合、④は壁がある場合を示す。

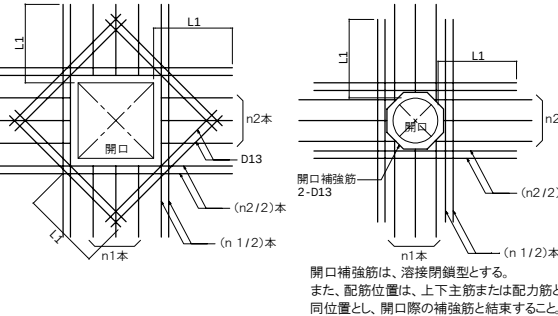


- (5) スラブ段差部の補強
- スラブの段差部の補強は下記による。
 - 段差 h>2t の場合は、小梁を設ける。

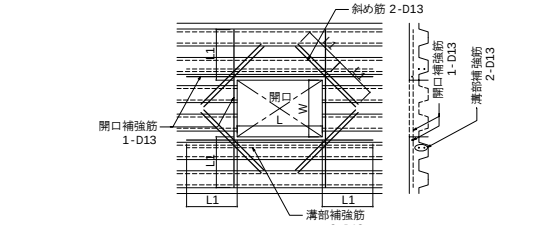


- (6) スラブ開口部の補強

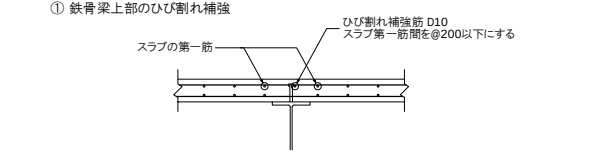
- スラブ開口の最大径が700mm以下の場合は、開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に、斜め方向に2-D13(L=2L1)シングルを上下筋の内側に配筋する。
- スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
- 円形の開口に対しても、同様の要領で補強筋を配筋する。
- 円形の開口で、開口径400mm以下の場合は開口が密集する場合は、下図に示す既製品(スラブレン)の使用を検討すること。



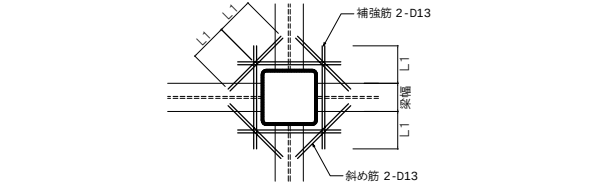
- (7) 合成スラブの開口部の補強
- 開口は、250≦W≦600、L≦900とする。
 - 補強筋は、a:溝部補強筋、b,c:開口部補強筋、d:斜め補強筋とする。
 - W>600の場合は、補強小梁を設けること。



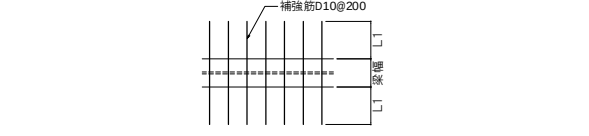
- (8) 鉄骨造の場合のひび割れ補強



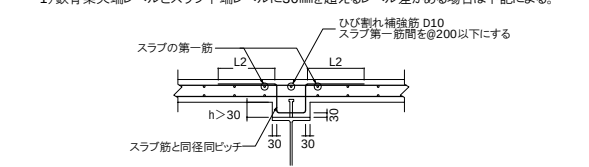
- ② 鉄骨造の柱廻りのひび割れ補強



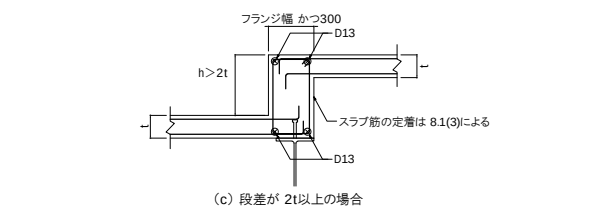
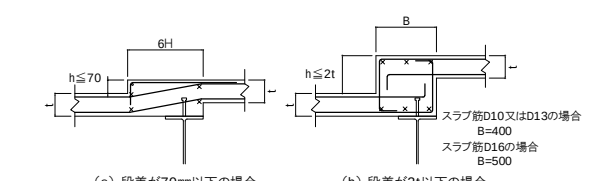
- ③ 合成スラブの梁上ひび割れ補強
- 合成スラブ構造で、デッキプレートとの連結部となる部位には、大梁、小梁を問わず、ひび割れ補強筋を配筋する。
 - ひび割れ補強筋は、合成スラブ上端筋とは別に付加する。



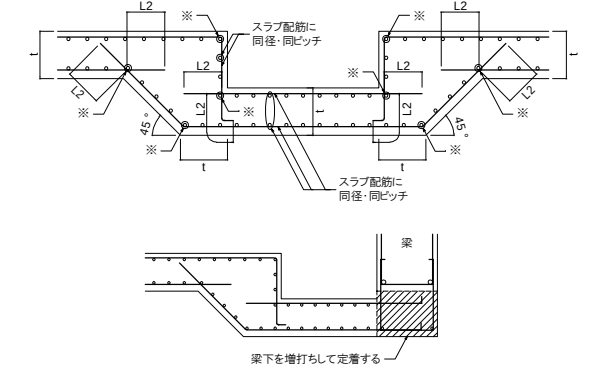
- (9) 鉄骨梁とスラブに段差がある場合の配筋
- 鉄骨梁上端レベルとスラブ下端レベルに30mmを超えるレベル差がある場合は下記による。



- (10) 鉄骨造のスラブ段差部の補強
- 鉄骨造でスラブ段差がある場合の段差部の補強は、8.3(5)による。
 - 2t以上の段差がある場合は、鉄骨小梁でスラブを支持するほか、スラブ筋定着のためにRC小梁を設ける。

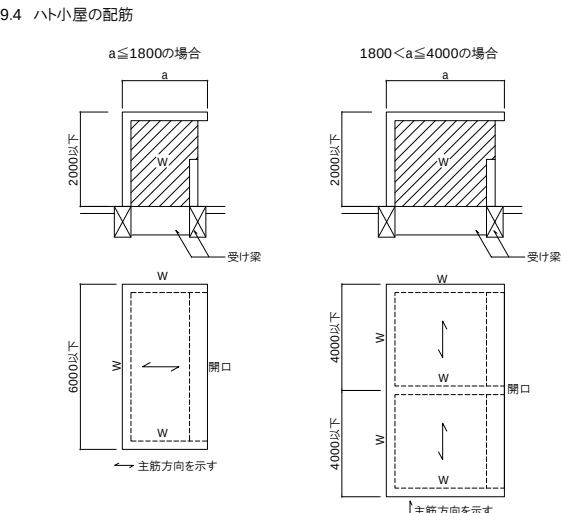
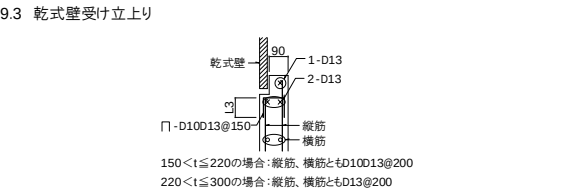
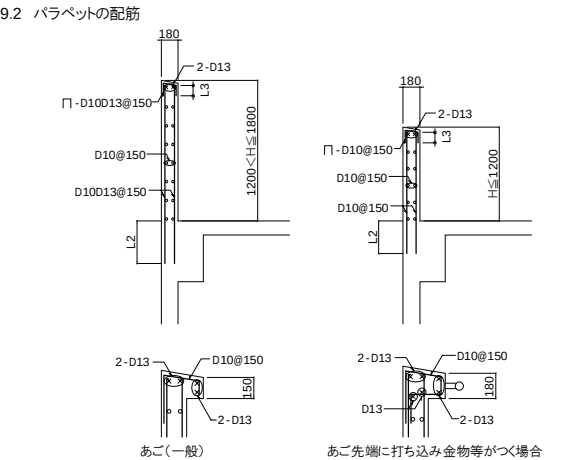
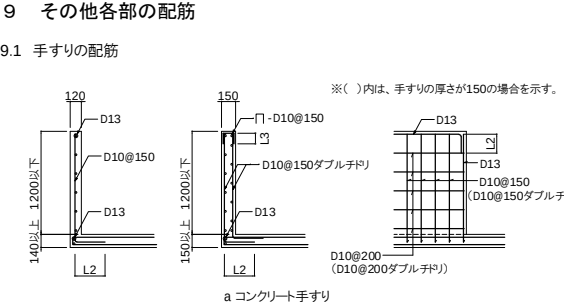
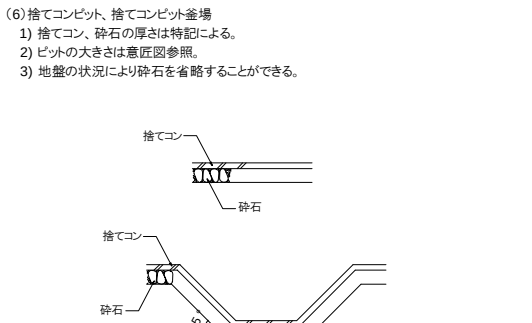
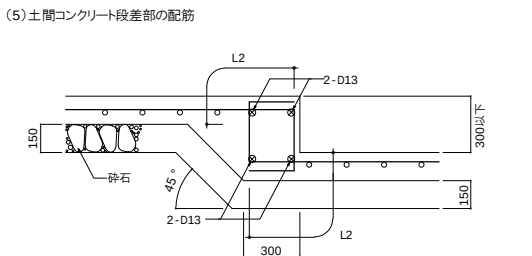
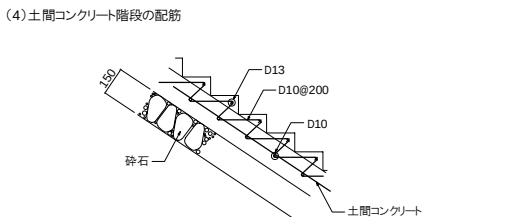
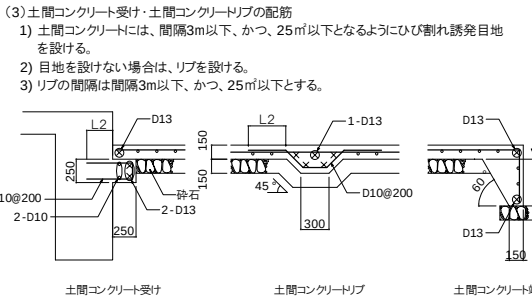
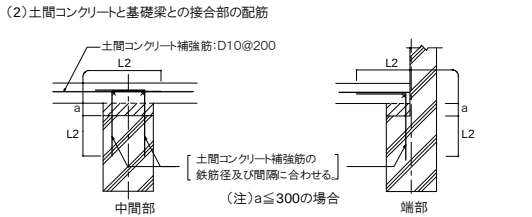
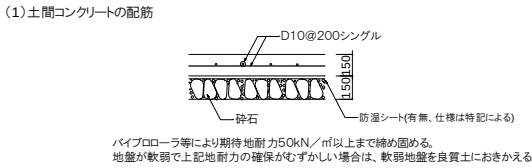


- (11) サクシヨンビット(かま場)の配筋
- サクシヨンビットの大きさは意匠図による。
 - 図中※印の鉄筋は、スラブ筋最大径の1サイズアップとする。
 - 梁に取り付け場合は、梁下を増打ちして定着する。増打ち補強、スラブ筋の定着方法は各項による。



鉄筋コンクリート構造基準図－5

8.4 土間コンクリート
土間コンクリートとは、土に接するスラブで、床荷重を直接支持地盤へ伝達できるものをいう。



厚さ	位置	主筋	配力筋
180	上	D10,D13@150	D10,D13@150
	下	D10@150	D10@150

厚さ	縦筋	横筋
180	D10,D13@150ダブル	D10,D13@150ダブル

※多雪地域など、荷重条件が異なる場合の配筋などは特記による。

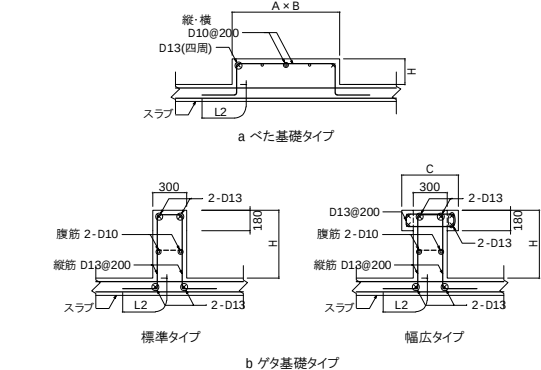
9.5 機械基礎の配筋

(1) スラブから立上げる基礎の場合

1) A×B、CおよびHは意匠図による。

2) あご付きとする場合は、9.2 バラベットの配筋に準じる。

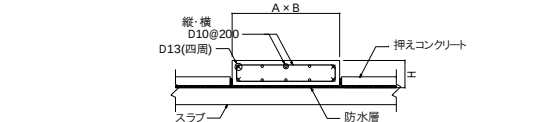
3) 機械基礎を梁形状とする場合は、構造図による。



(2) 防水層の上に設ける基礎の場合

1) A×BおよびHは意匠図による。

2) 荷重制限：基礎自重+機器/(A×B) ≦ 10kN/m²とする。



10 コンクリートブロック帳壁の配筋

10.1 コンクリートブロック帳壁の標準配筋

(1) ブロック積み最大の高さ

ブロック積み最大の高さは下表によるものとし、この値を超える場合には上部または下部に同じ厚さのRC壁を設ける。

ブロック壁の厚さ	最大ブロック積み高さ	
	一般帳壁	小壁帳壁
120	3000	1300
150	3500	1600
190	3500	1600

(2) 標準配筋リスト

	主筋	配力筋
一般帳壁	D10@400	D10@400
小壁帳壁	D13@400	D10@400

(3) 鉄筋の継手および定着

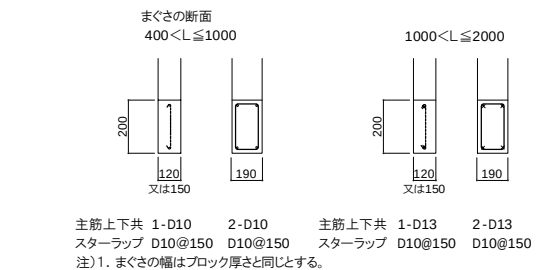
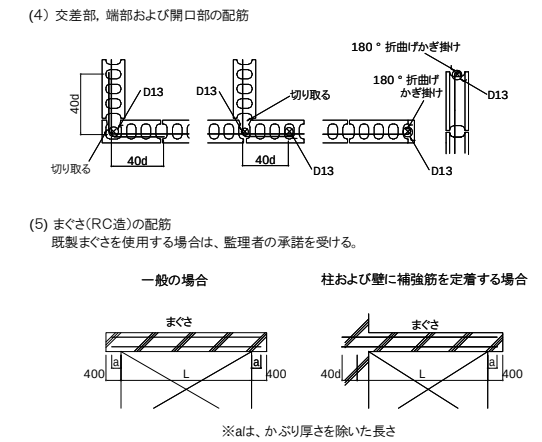
1) ブロック帳壁の鉄筋は定着あるいはその他の方法により構造主体に緊結する。

2) 主筋および開口縁の補強筋には重ね継手を用いない。

3) 配力筋に使用する異形鉄筋の重ね継手長さは40d(フック付では30d)以上とする。

4) 横筋を挿入する箇所では横筋用ブロックを使用し、縦筋と鉄線とで結束する。

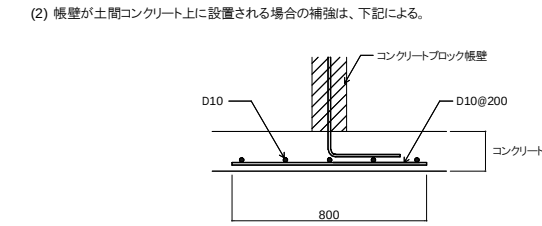
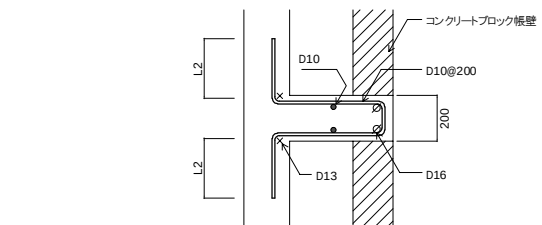
5) 空洞部に充填するモルタルの鉄筋に対するかぶり厚さは20mm以上とする。



10.2 コンクリートブロック帳壁との取合い

(1) 控壁の配筋

控壁の配筋(水平、垂直とも)は下記による。

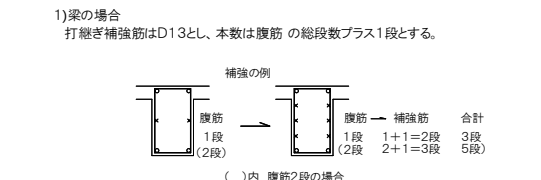


11 打継ぎ部及び増築予定部の補強

(1)打継ぎ部の補強

24時間以上経過し、標仕6.6.3(a)の位置でコンクリートを打継ぐ場合は、打ち継ぎ部に下記の補強を行う。

打継ぎ補強筋は、打継ぎ面を境に両側 L2以上定着させる。



2)床スラブの場合

打継ぎ補強筋は、下端主筋と同径、同ピッチとし、下端主筋の間に配筋する。

3)柱、壁の場合

補強筋は不要とする

梁、床スラブの場合で、標仕6.6.3(a)の位置以外で打継ぐ場合は、補強方法について構造検討書を提出し監理者の承諾を受ける。

(2)増築予定部の補強

増築予定部の打継ぎ補強は、特記による。特記のない場合は、(1)打継ぎ部の補強に準じ下記による。

1)梁の場合

(1)に示す打継ぎ補強筋D13をD16に読み替える。

2)床スラブの場合

打継ぎ補強筋は、上下ともスラブ筋と同径、同ピッチとし、上下スラブ筋の間に配筋する。

3)鉄筋の防錆処置及び保護は特記による。

鉄筋コンクリート構造基準図－6

12 躯体内埋込み配管等の補強及び配管要領

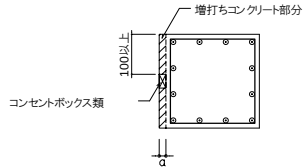
12.1 柱

(1)柱にコンセントボックス類を設置する場合

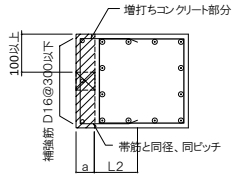
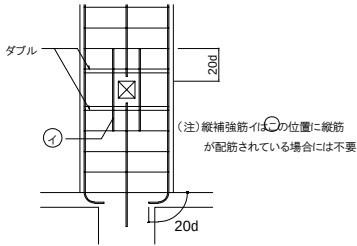
1) 正規の柱断面内には原則として、コンセントボックス類を埋込んで行わない。

2) 柱増打ち部へコンセントボックス類を埋込む場合の補強要領

a<70の場合(補強が必要な場合)



70≤a≤200の場合(補強が必要な場合)



a:増打ち厚さ

(2)柱に配管を埋込む場合

1) 使用する管の外径は31φ以下とする。

2) 柱内の水平方向の配管は行わない。

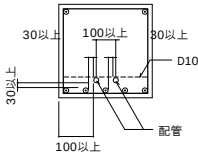
3) 柱軸方向の配管

a) 柱主筋及び、鉄骨より30mm以上離す。

b) 配管は4本を限度とし、帯筋内に配管し、蛇行しないように帯筋に1m以内毎に結束する。

又、配管の間隔は100mm以上とする。

c) 配管は柱側面より100mm以上離して配置する。



(3)その他

1) 避雷導体として柱主筋を使用する場合、鉄筋の継手に機械式継手を採用するときは、電氣的に連続するものを採用すること。

12.2 梁

(1)梁には原則として照明ボックス類を埋込んで行わない。

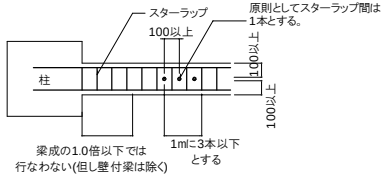
(2)梁に配管を埋込む場合

1) 使用する管の外径は31φ以下とする。

2) 梁材軸方向の配管は、原則として行わない。

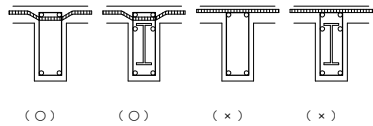
3) 梁の幅方向の配管、及び垂直方向の配管梁への配管は、ピッチを100mm以上とし、1m幅では3本を限度とする。

又、壁付きでない梁は、柱面より梁成の1.0倍以内では行わない。

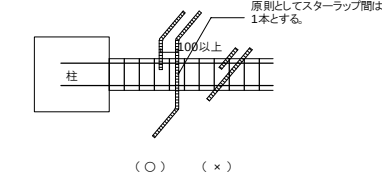


(a) 梁の幅方向の配管

イ) 配管は配筋の内側に通す。

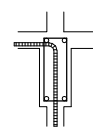


ロ) 配管は、材軸とほぼ直角に貫通させる。

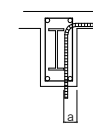


(b) 梁の垂直方向の配管

イ) 主筋の内側で行なう。



ロ) SRC梁は、原則として、行わない。



a寸法が150mm以上の場合は配管しても良い。

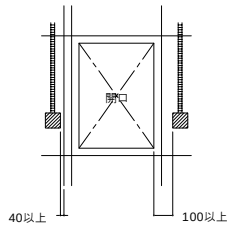
12.3 壁

(1)壁に埋込みボックス類を埋込む場合

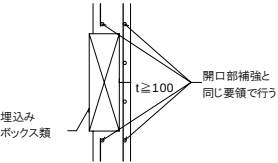
1) 埋込みボックス類は3個用スイッチボックスまでとする。

2) 上記を超える埋込みボックス類は開口として補強を行う。

3) 躯体開口の縁から埋込みボックスの縁まで100mm以上、かつ開口補強筋より40mm以上離す。



4) 縦・横寸法が、200mmを超え500mm以下の埋込みボックス類の補強



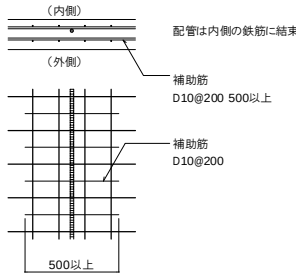
(注)・t<100mmの場合は開口部補強として扱う。
開口補強は設計図による。

(2)外壁に配管を埋込む場合

1) 地下の外壁(ドライエリア壁を含む)への埋込み配管は行ってはならない。

2) 地上の外壁には原則として、配管は行わない。

ただし、やむを得ず埋込む場合は構造設計者に確認し下記の補強を行う。
埋込み配管の外径は31φ以下とする。

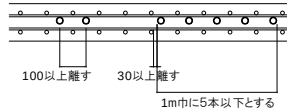


(3)内壁に配管を埋込む場合

1) 壁内に配管を埋込む場合はダブル配筋とし、壁筋の内側に配管する。

2) 配管は1m幅に5本までとし、ピッチは100mm以上とする。

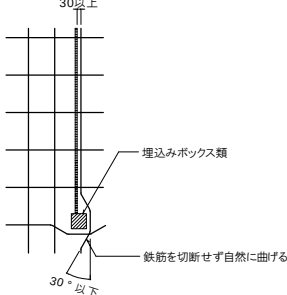
配管は、壁縦筋より30mm以上離す。



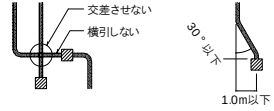
3) 配管は、壁内で蛇行しないように1m以内毎に結束する。

4) 埋込みボックス類からの配管は、曲がリコネクターを設けて壁のすぐ内側に配管する。

5) ボックス等の埋込みのために壁主筋を切断しない。



6) 横引配管及び、交差は行わない。ただし、垂直面と30°以下の勾配を持つ横引は、1m以下とする。

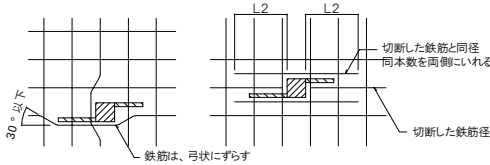


12.4 スラブ

(1)スラブにコンセントボックス類を埋込む場合

1) フローアボックス間隔は300mm以上、且つ梁側面から500mm以上離す。

2) フローアボックスがスラブ筋に当たる場合は、スラブ筋を切断せずにずらす。
やむを得ず切断した場合は下記の補強を行う。



(2)スラブに配管を埋込む場合

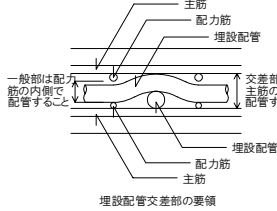
1) スラブ内に配管を埋込む場合は、スラブ筋の内側とする。

2) 屋根スラブ、防水を行なうスラブ及び片持ちスラブには原則として配管は行わない。

3) 合成スラブ内に配管を埋込む場合は、「合成スラブの設計・施工マニュアル」による。

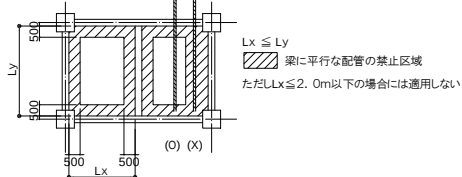
4) 配管が2本以上平行する場合は、あきを30mm以上とし1m幅に5本以下とする。

5) 交差部の要領は下図による。

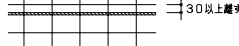


6) 埋め込み配管の外径は31φ以下とする。

7) 下図に示す梁面から500mm以内の範囲では、梁の材軸に平行な配管を行わない。



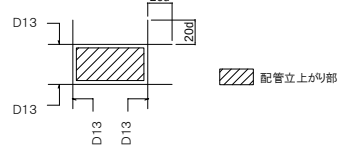
7) スラブ筋と平行する場合は、鉄筋より30mm以上離す。



(3)EPS及びEPS前面のスラブの配筋要領

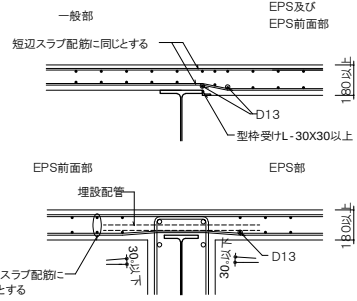
1) EPS及びEPS前面のスラブ厚は180mm以上とする。

2) EPSのスラブ(厚さ180mm以上)内での配管集中場所(立上り部を含む)での配管相互のあきは30mm以上とする。また配管立上り部には下記の補強を行う。

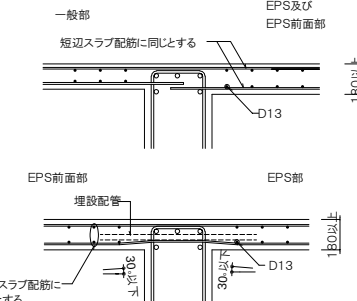


3) 上記の制限を満足できない場合は、スラブ埋設以外の方法を採用すること。

4) S造及びSRC造の場合



5) RC造の場合



(注)スラブ筋の曲げ角度は30°以下とする。

溶 接 開 先 基 準 図 (CO₂ : ガスシールドアーク半自動溶接、アーク手溶接 SAW : サブマージアーク自動溶接)

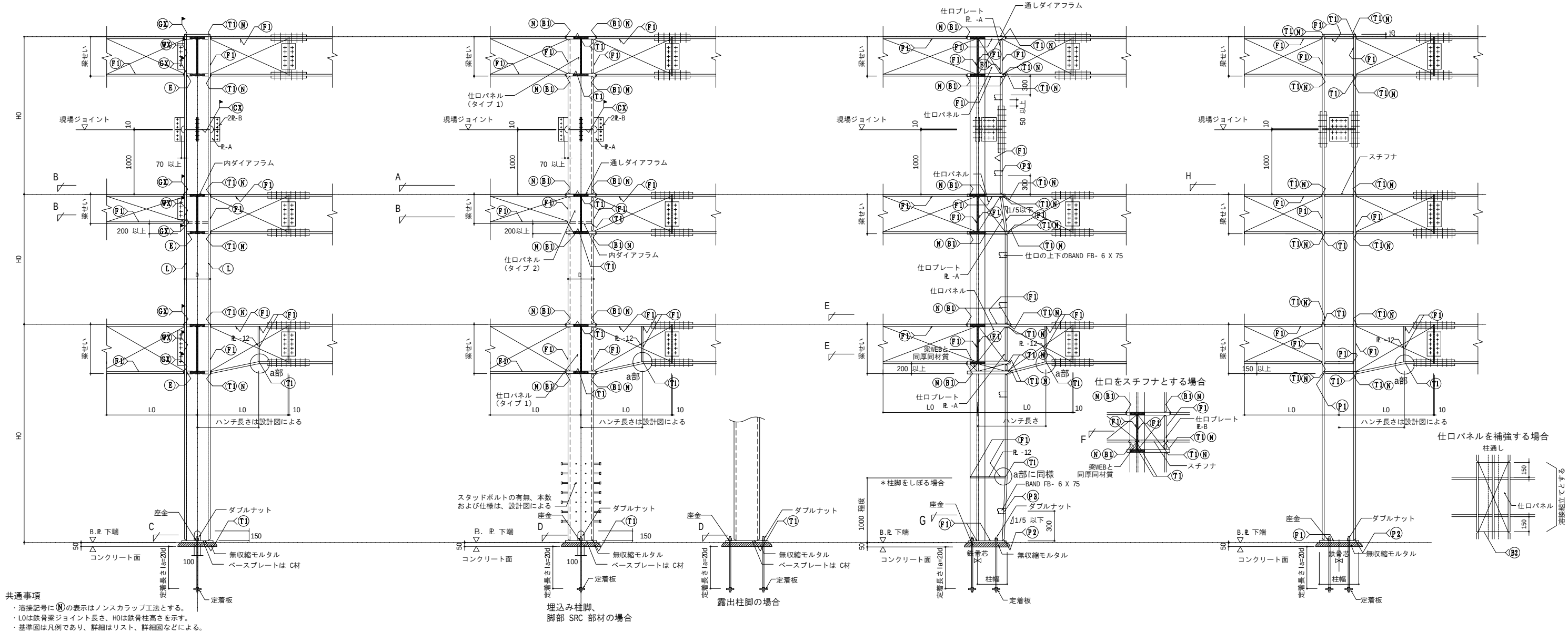
[illegible]

四 面 ボ ッ ク ス

角 形 鋼 管 ・ 鋼 管 （ 通 し ダ イ ア フ ラ ム 形 式 ）

S R C 造 （ 通 し ダ イ ア フ ラ ム 形 式 ） [T 字 形 、 十 字 形 柱 な ど]

S R C 造 （ 柱 フ ラ ン ジ 貫 通 形 式 ） [一 方 向 H 形 柱 な ど]



四面ボックス、角型鋼管、鋼管部材

通しダイアフラム

通しダイアフラムの材質・板厚
 ・材質は、取り付く柱、梁フランジのうち高強度のものと同等以上、かつ、C材とする。
 ・板厚は、取り付く梁フランジ最大板厚の2サイズ以上かつ、柱スキンプレート厚以上とする。

内ダイアフラム

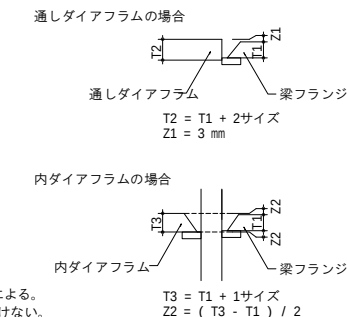
内ダイアフラムの材質・板厚
 ・材質は、取り付く梁フランジのうち高強度のものと同等以上とする。
 ・板厚は、取り付く梁フランジ最大板厚の1サイズ以上とする。

仕口パネル

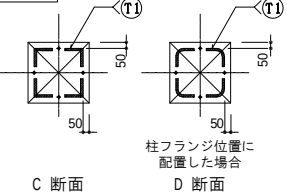
仕口パネル（タイプ 1）
 ・材質は、上下柱のうち高強度のものと同等以上、かつ、板厚は、上下柱以上とする。

仕口パネル（タイプ 2）
 （梁段差などにより仕口パネルの板厚方向に引張力が生じる部位）
 ・材質は、上下柱および取り付く梁フランジのうち高強度のものと同等以上、かつ、C材とする。
 ・板厚は、上下柱以上、かつ、取り付く内ダイアフラムの最大板厚より薄い場合は、板厚差を3サイズまでとする。
 ・STK, STKN, BCRの場合は、通しダイアフラムとする。ただし、監理者の承諾を得た場合は内ダイアフラムとする。

ダイアフラムと梁フランジのレベル



柱脚部



アンカーボルトについて
 ・アンカーボルト配置および本数は仕部材リストによる。
 ・アンカーボルトの位置は、鉄筋の納まりなどを考慮して検討し、監理者の承諾を得る。
 ・アンカーボルトの形状は、定着板形式とする。（材料が SNR でない場合は 40d フック付きとする）
 ・アンカーボルトセットは JIS B 1220, 1221 の規格に、定着板は JSS 11 13, 14 の規格に基づく推奨寸法とし材質はSS400とする。

エレクションピース

・エレクションピースのG, Rの鋼材は、母材の強度と同等以上とする。
 ・取り付け要領は右記とし、摩擦面の処理は行わない。

その他

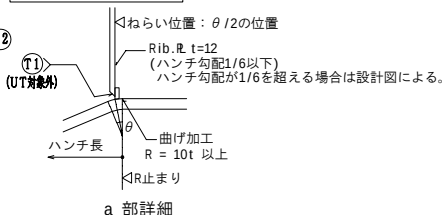
・板厚の 1 サイズもしくは 2 サイズとは、1 サイズ 3 mm を目安とし、それぞれ 3 mm 程度、6 mm 程度と考える。
 ・意匠上見えがかりとなる部位では、必要に応じてエンドタブ、裏当て金などを撤去し、G 仕上げる。
 （セラミック系裏当てなどを使用）

仮設ピースなど

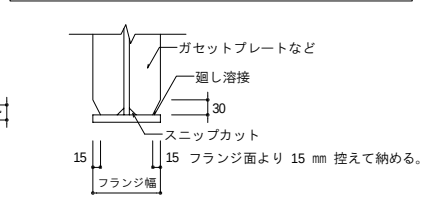
・吊りピースなどで板厚さが 19 mm を超える場合は、母材の強度と同等以上とする。
 ・施工者は仮設ピースに関する安全性およびディテールを検討し、部材取り合いなどについて監理者の承諾を得ること。

共 通

ハンチ部（板曲げ部）



ガセットプレート・スチフナプレートなどの納まり



S造でH形断面柱の場合

・部材の取合いや溶接標準などは、SRC造の場合に準ずる。
 ・ダイアフラムなどの板厚は、SRC造の場合に準ずる。
 ・材質は、板厚方向に引張力が生じる部位はC材とすることを標準とするが、梁の性状などによって特記による。

S R C 部 材

仕口パネル

・材質は、取り付く柱、梁ウェブのうち高強度のものと同等以上とする。スチフナが完全溶込み溶接で取り付く場合はC材とする。
 ・板厚は、取り付く柱、梁ウェブの最大板厚以上、かつ 9 mm 以上、または、特記による。
 ・完全溶込み溶接で取り付くスチフナより仕口パネルが薄い場合は、板厚差を2サイズまでとする。

仕口部の柱フランジ

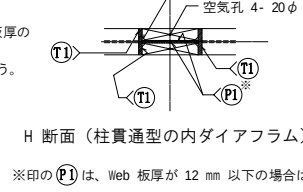
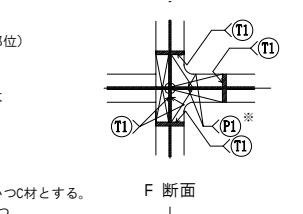
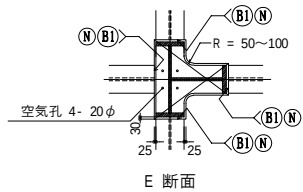
仕口プレート R-A の材質・板厚
 ・材質は、上下柱のうち高強度のものと同等以上、かつ、板厚は、上下柱以上とする。
 仕口プレート R-B の材質・板厚
 （梁段差などにより仕口部の板厚方向に引張力が生じる部位）
 ・材質は、上下柱および取り付く梁フランジのうち高強度のものと同等以上かつC材とする。
 ・板厚は、上下柱以上、かつ、取り付く梁フランジの最大板厚より薄い場合は、板厚差を2サイズまでとする。

ダイアフラム・スチフナ

通しダイアフラムの材質・板厚
 ・材質は柱、梁フランジのうち高強度のものと同等以上かつC材とする。
 ・板厚は、取り付く梁フランジ最大板厚の2サイズ以上かつ柱板厚以上とする。
 スチフナの材質・板厚
 ・材質は梁フランジと同等以上、かつ、梁フランジ最大板厚の1サイズ以上とする。
 ダイアフラムと梁フランジのレベルは BOX 材の場合に倣う。

その他

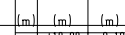
記載外の BAND プレート（タラップを含む）などを取り付ける場合は、監理者の承諾を受ける。



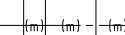
孔口標高TP+20.13m



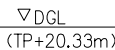
孔口標高TP+20.09m



孔口標高TP+19.93m



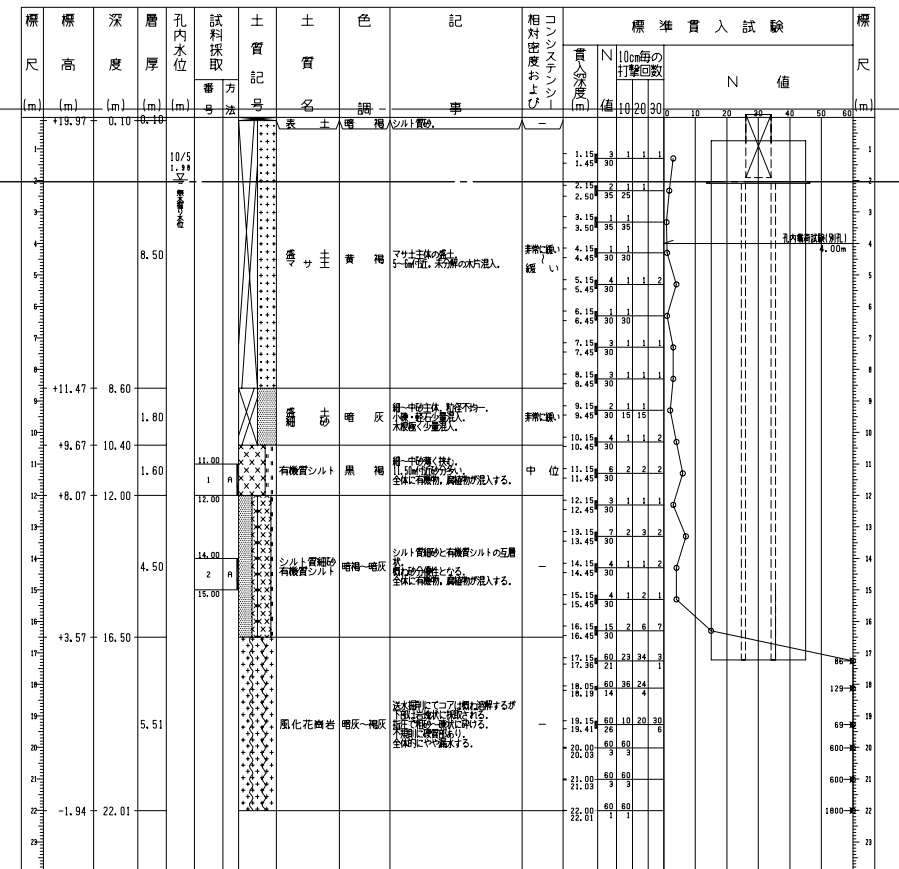
孔口標高TP+19.89m



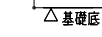
孔口標高TP+19.79m



孔口標高TP+20.07m



孔口標高TP+19.93m



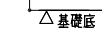
孔口標高TP+19.88m



孔口標高TP+20.26m



孔口標高TP+20.22m



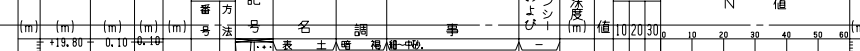
孔口標高TP+20.67m



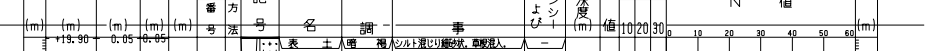
孔口標高TP+19.72m



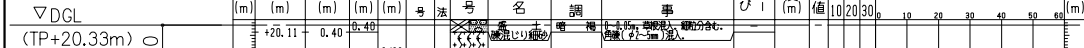
孔口標高TP+19.90m



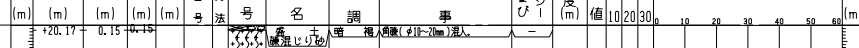
孔口標高TP+19.95m



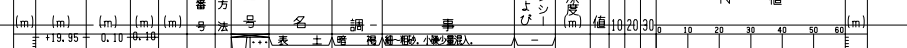
孔口標高TP+20.51m



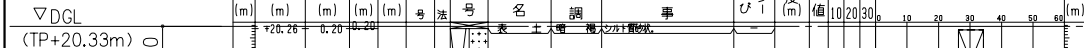
孔口標高TP+20.32m



孔口標高TP+20.05m



孔口標高TP+20.46m

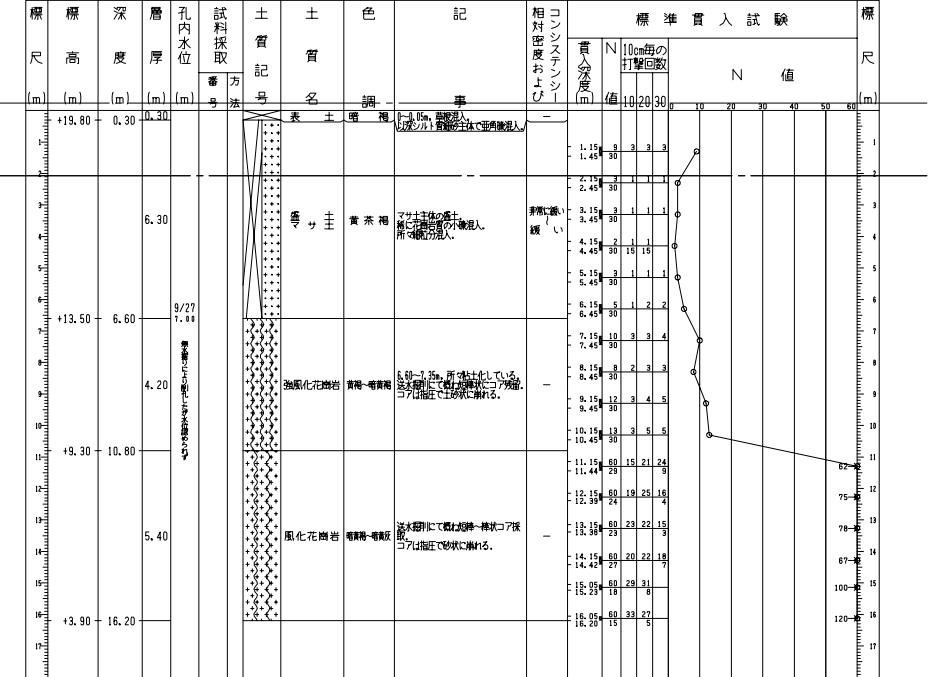
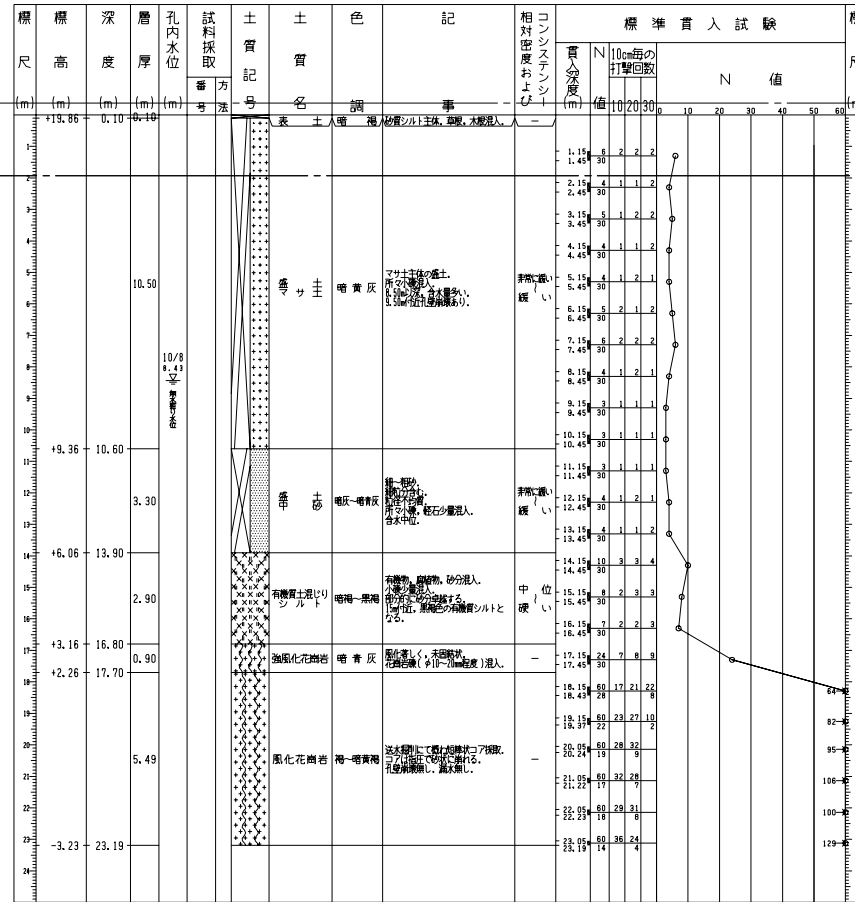


孔口標高TP+20.38m



No.31
孔口標高TP+19.96m

No.29
孔口標高TP+20.10m



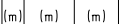
No.32'
孔口標高TP+20.25m



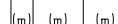
孔口標高TP+20.31m



孔口標高TP+20.24m



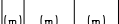
孔口標高TP+20.12m



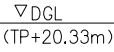
孔口標高TP+20.11m



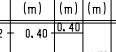
孔口標高TP+20.13m



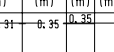
No.61



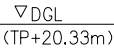
No.62

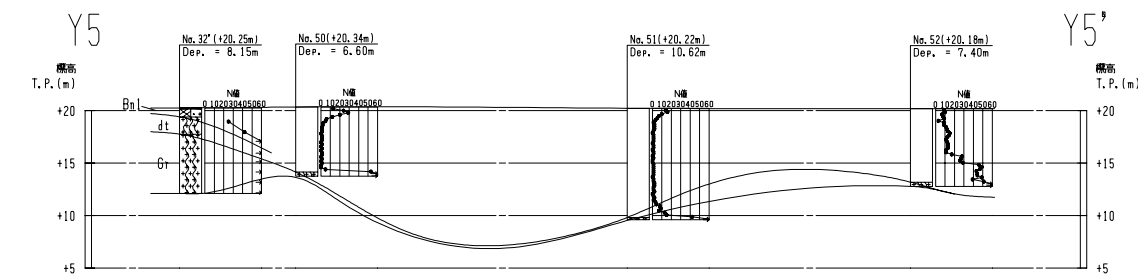
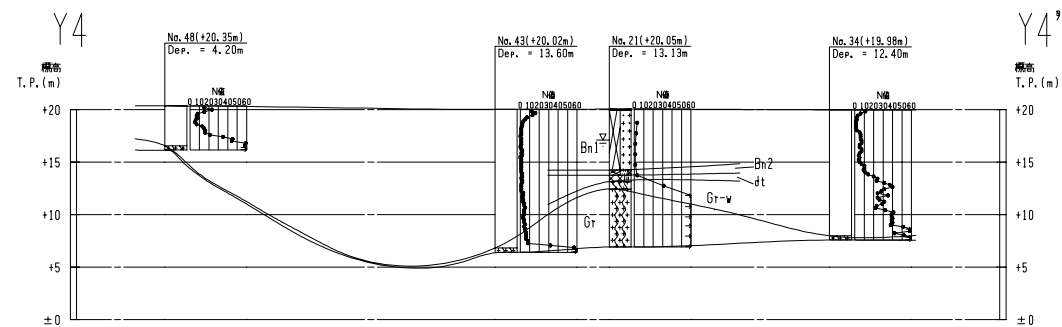
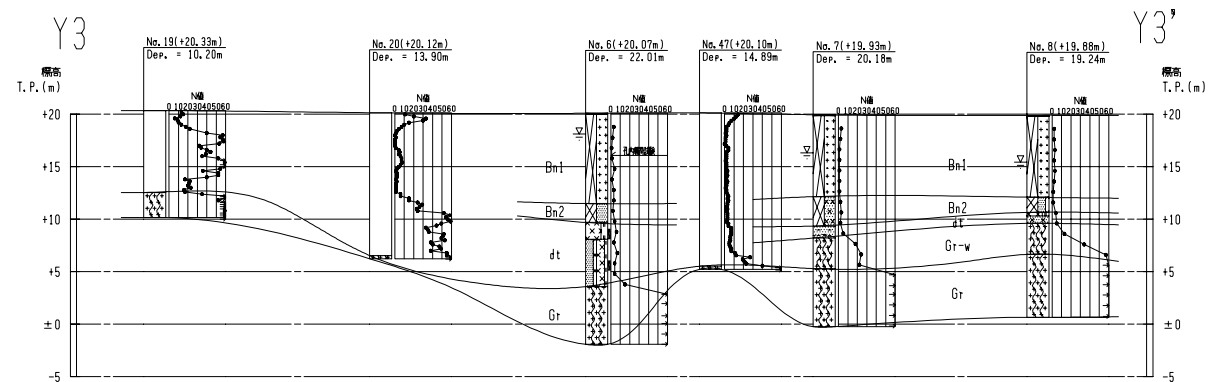
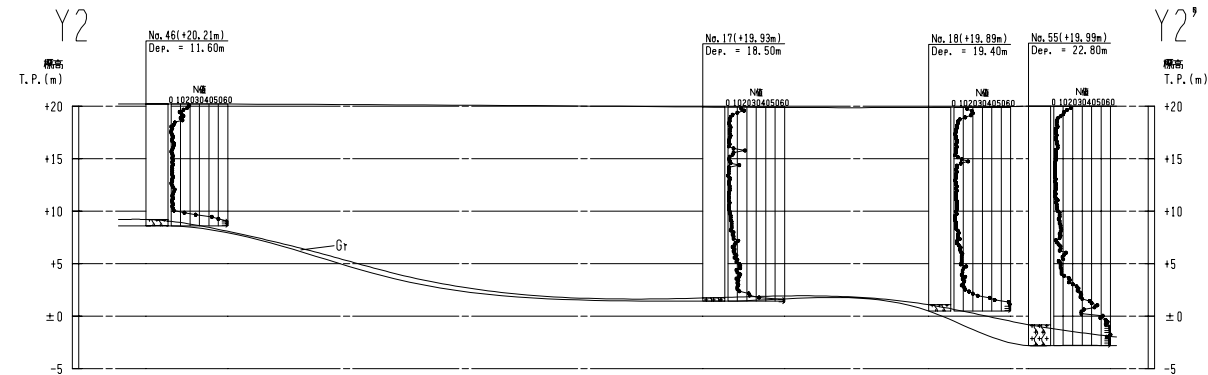
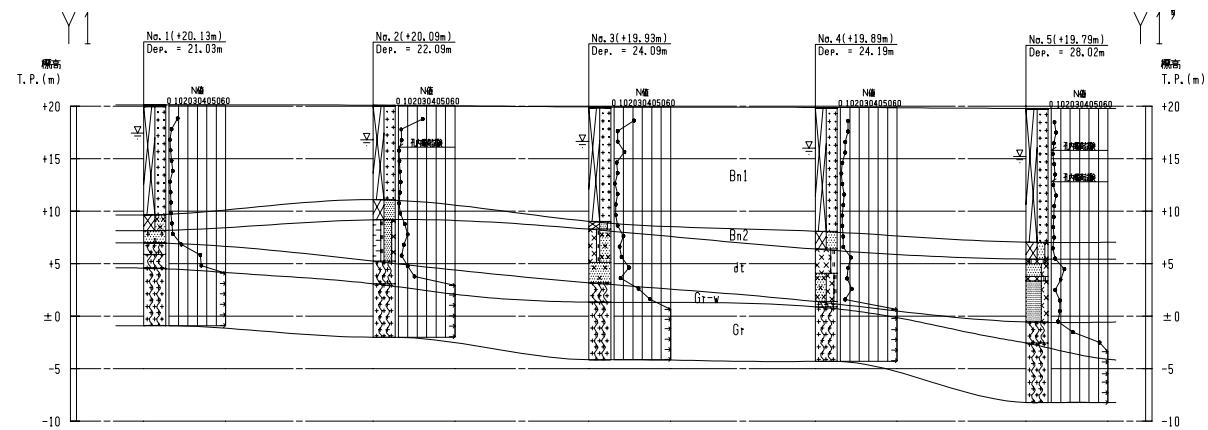


No.63

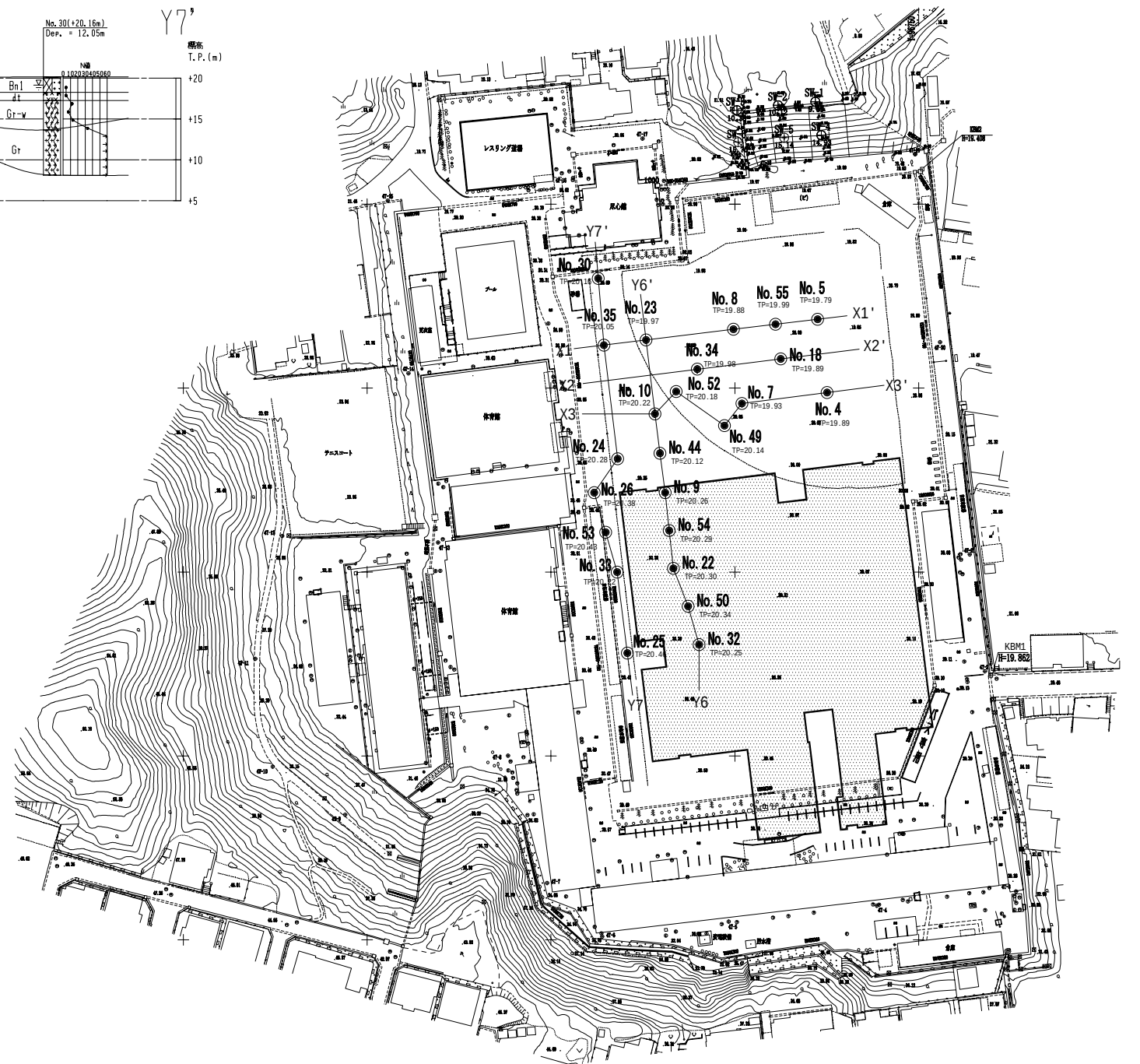
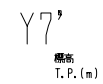
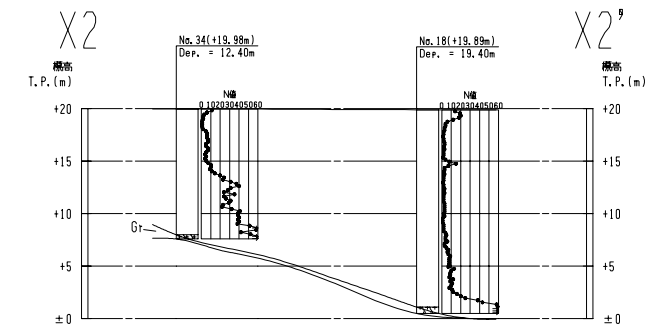


No.80



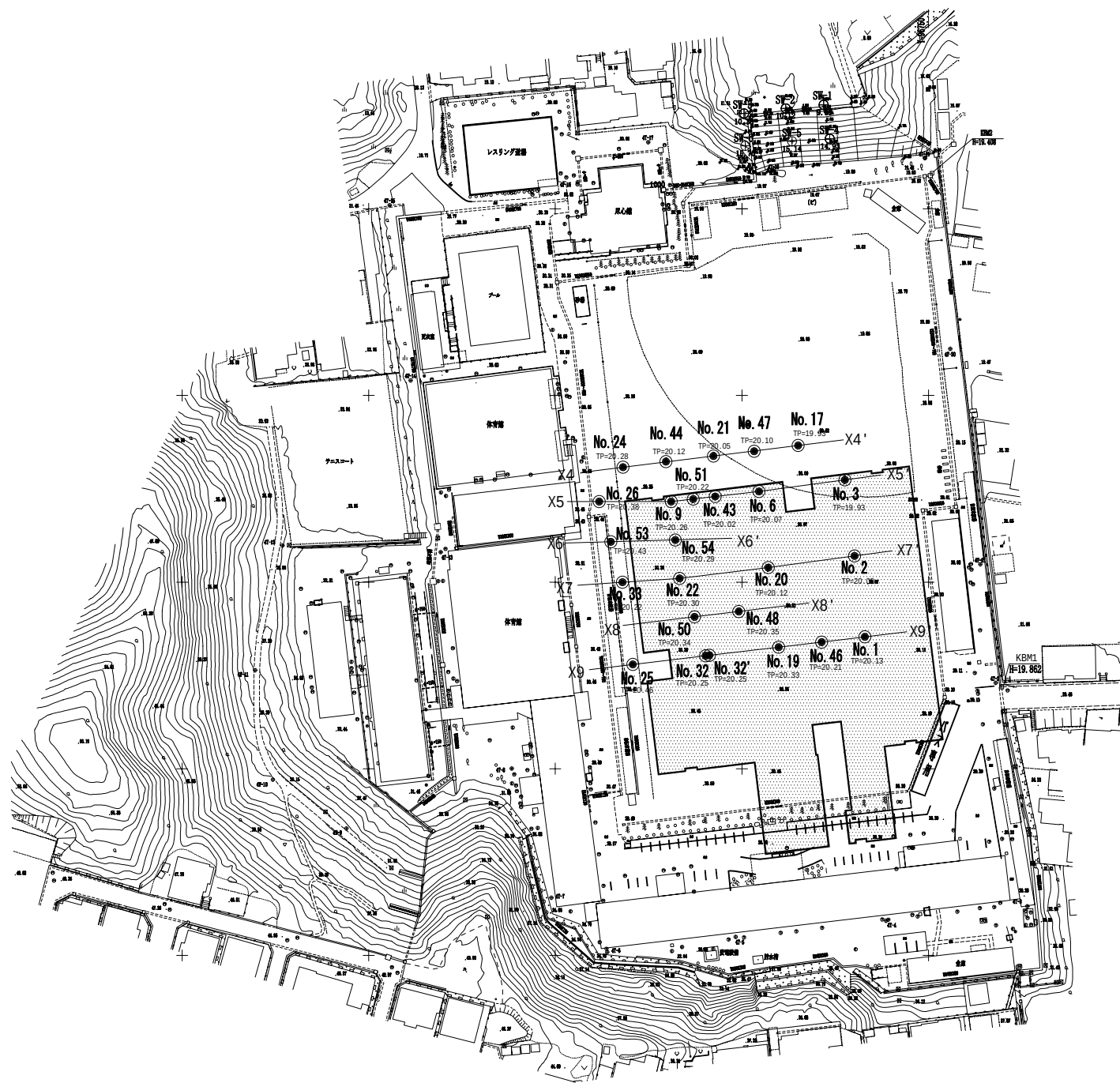


調査位置図

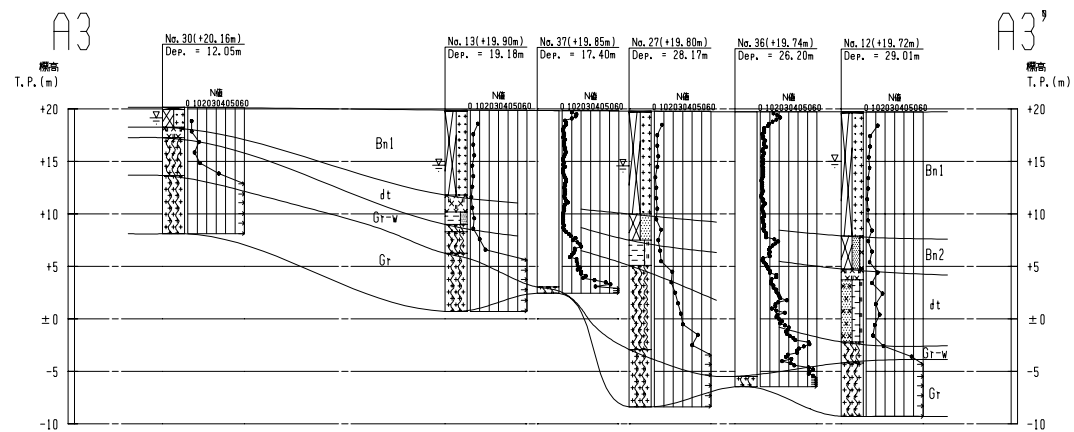
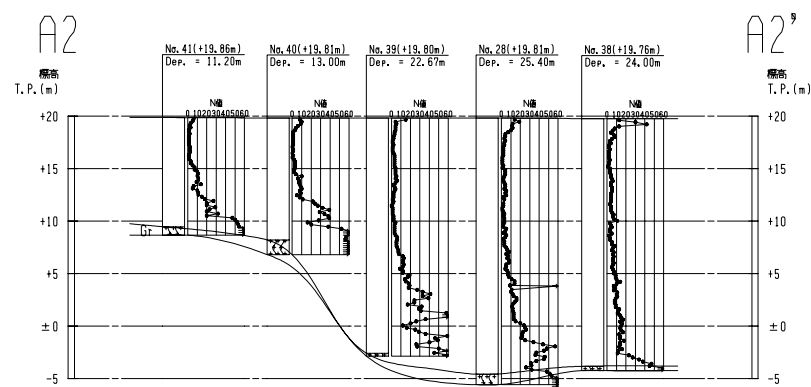
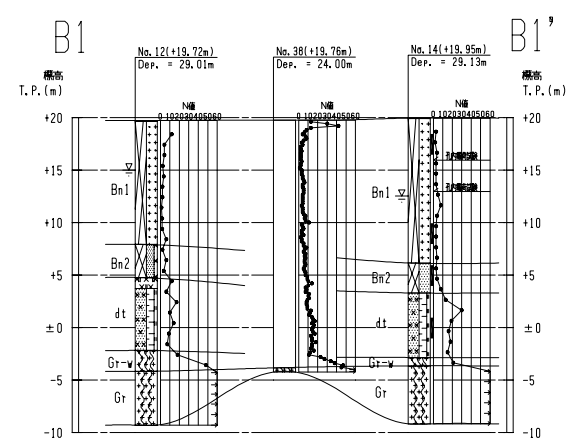
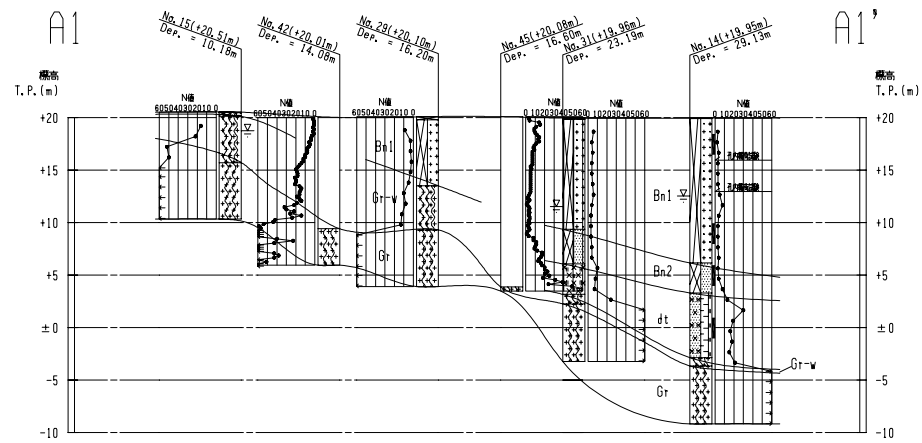


調査位置図

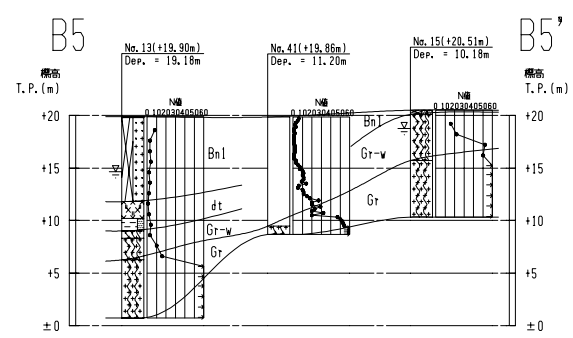
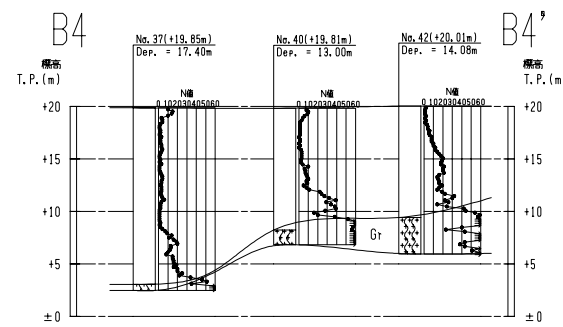
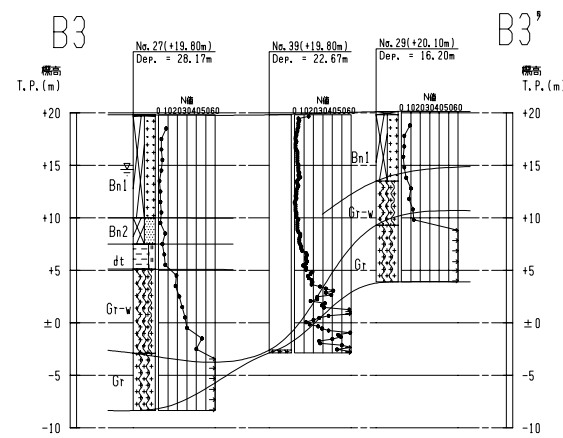
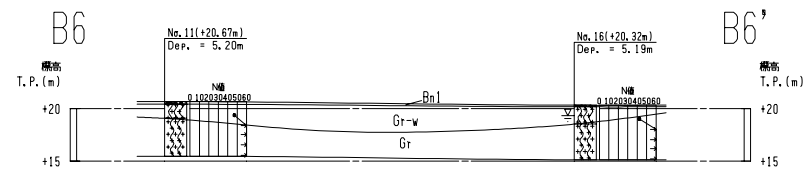
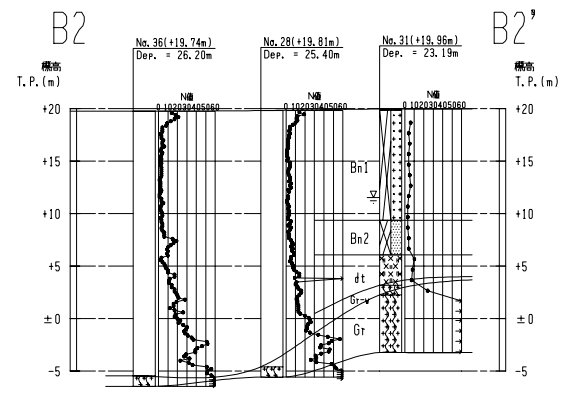
訂正	-				件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
-	-				図面名称	地層想定断面図-2	縮尺 A1版1:NS A3版1:NS	図面番号 S-022
-	-							
-	-							
-	-							



調査位置図



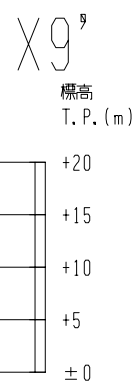
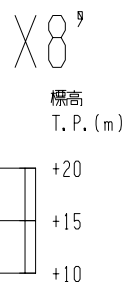
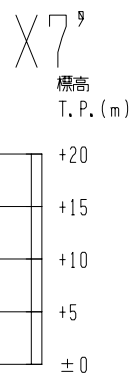
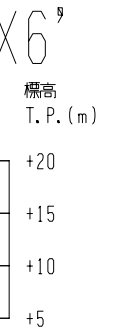
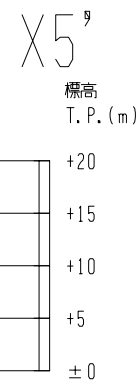
調査位置図



調査位置図



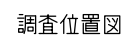
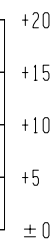
調査位置図



調査位置図

訂正	-				件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
-	-				図面名称	地層想定断面図-7	縮尺 A1版1:NS A3版1:NS	図面番号 S-027
-	-							
-	-							
-	-							





訂正	-				件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
-	-				図面名称	縮尺	図面番号	
-	-				地層想定断面図-9	A1版1:NS A3版1:NS	S-029	
-	-							

地盤改良特記事項

1 工事概要

本地業は、セメントスラリーを用いた機械式複合相対攪拌深層混合処理工法による地盤改良地業である。
この工法は、セメント系固化材を原地盤と攪拌混合し、原地盤を固化する方法によって
地盤改良を行うものである。

2 一般事項

本地業は、本特記仕様書によるほか、「2018年版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針
2018年11月」（〈財〉日本建築センター、以下指針という）による。

3 特記事項

- (1) コラムの径、掘削深度（改良長+空堀長）、本数配置等は設計図書による。ただし、コラムの径・長さ・本数・位置及びセメントスラリーの配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切と判断される場合は、監督員の承認の上に変更することができる。
- (2) 中間層としてレンズ状または互層状に分布するN値40～50程度の砂礫及び玉石混じり層（混入率30％程度以下）固結した砂質土及び、中間層に転石（φ300mm程度以下）、コンクリート塊が点在する場合でも削孔・攪拌改良施工を可能であることについて、公的機関で証明を受けた工法とする。
- (3) コラムの設計基準強度はFc＝ 1,800kN/m²、設計時想定する変動係数の推定値を25％以下であることについて、公的機関で証明を受けた工法とする。
- (4) 設計の要求する性能を確保するため、適切な配合管理、施工管理および品質検査を実施する。
- (5) セメントスラリーを用いた機械式複合相対攪拌深層混合処理工法の専門工事会社を本工事施工業者とする。
- (6) 固化材と改良対象土を確実に混合攪拌することができ、相対攪拌装置を装備する施工機械を用いる。
- (7) 工法の選定においては、上記の内容について公的機関における性能評定を有する工法（エココラム工法同等以上）を選定する。

4 配合管理

- (1) セメントスラリーに使用する固化材は、特殊粘性土用セメント系固化材とする。
- (2) 配合強度
配合管理目標変動係数を想定し、「5 品質検査」に規定する抜き取り個所数Nから表1を用いて α_t を決め、配合強度X_fを設定する。
X_f＝F_c・α_t
X_f：配合強度
F_c：設計基準強度
α_t：割り増し係数

表 1 割り増し係数（L_(p)＝80％, V_d＝25％の場合）

抜き取りヶ所数 N	1	2	3	4～6	7～8	9～
配合管理目標変動係数 V _c						
25%	2.163	1.918	1.815	1.719	1.651	1.594

(3) W/Cと固化材量

室内配合試験の結果あるいは過去の工事実績に基づいて、配合強度を満足するように決定する。
X_i＝X_f/α_{fi} ※固化材等は下記仕様とし、室内配合試験結果にて強度発現を確認し仕様を確定する。
X_i：室内配合強度 固化材：特殊粘性土用セメント系固化材（GS225同等品相当）
X_f：配合強度 添加量：450kg/m³（深度方向で添加量の切替可）
α_{fi}：現場/室内強度比 W/C：45％（混和材添加）

5 品質検査

- (1) 検査対象層及び調査ヶ所数
 - ① 検査対象層は（ 第1盛土層Bn1・第2盛土層Bn2・崖錐堆積物dt(旧表土を含む) ）でありであり設計対象層を（ 崖錐堆積物dt(旧表土を含む)層 ）とする。
 - ② 検査手法は強度のバラツキを想定する場合は検査手法Aによる。
 - ③ 調査ヶ所数（検査対象群に対して）

表 2 調査ヶ所数

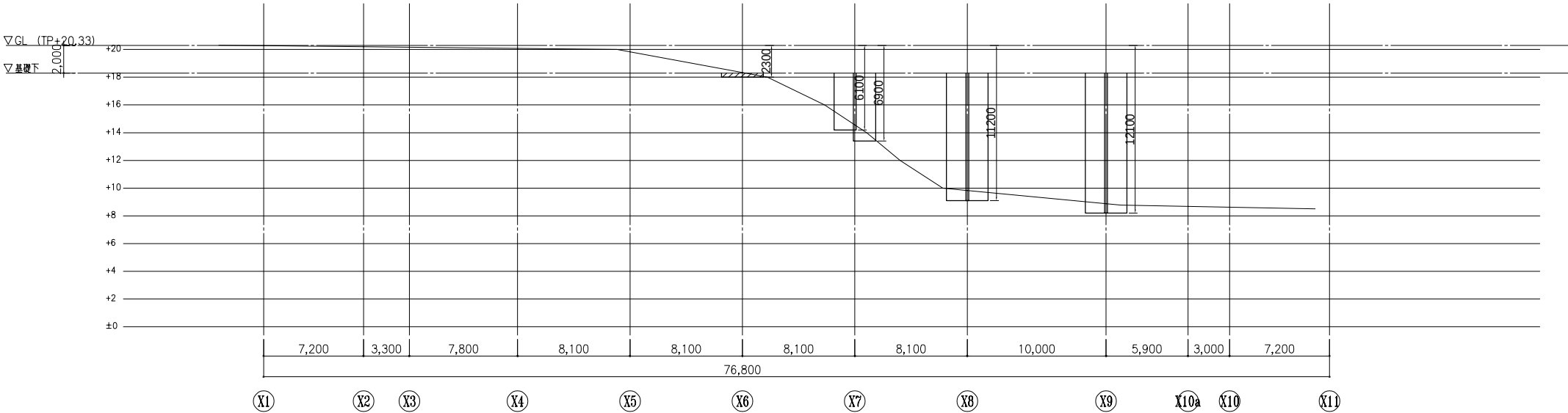
検査手法A	頭部コアまたはE-棒コア試験(深度コア可)	100コラム毎に1ヶ所
	ボーリングコア試験	100コラム毎に1ヶ所

- (2) コア採取率による調査
コア採取率が、全長に対して粘性土で90％、砂質土で95％、深さ1m毎に、粘性土で85％、砂質土で90％以上であることを確認する。礫等を有する地層はサンプリング時のサンプラーの回転切削により固化部分が崩れるので、コア採取率による連続性の判定は、上述の目安値と地盤条件などを加味して総合的に行う。
- (3) 合否の判定
 - ① 設計対象層についての抜取ヶ所数をNとする。1ヶ所あたり3個の供試体を採取し、その平均強度をその箇所の強度とする。
 - ② 一軸圧縮試験は第三者で行うものとする。
 - ③ 検査手法Aによる品質検査
合否の判定は設計対象層におけるNヶ所（抜取ヶ所数）の一軸圧縮試験結果が、下式を満足する場合を合格と判定する。
X_N ≥ X_L＝F_c + k_α・σ_d＝F_c + k_α {F_c・V_d /（1－1.3 V_d）}
X_N：Nヶ所の一軸圧縮強度の平均値
X_L：合格判定値
F_c：設計基準強度
k_α：合格判定係数
σ_d：標準偏差 σ_d＝V_d・q_{ud}
V_d：変動係数、品質確認書より想定する

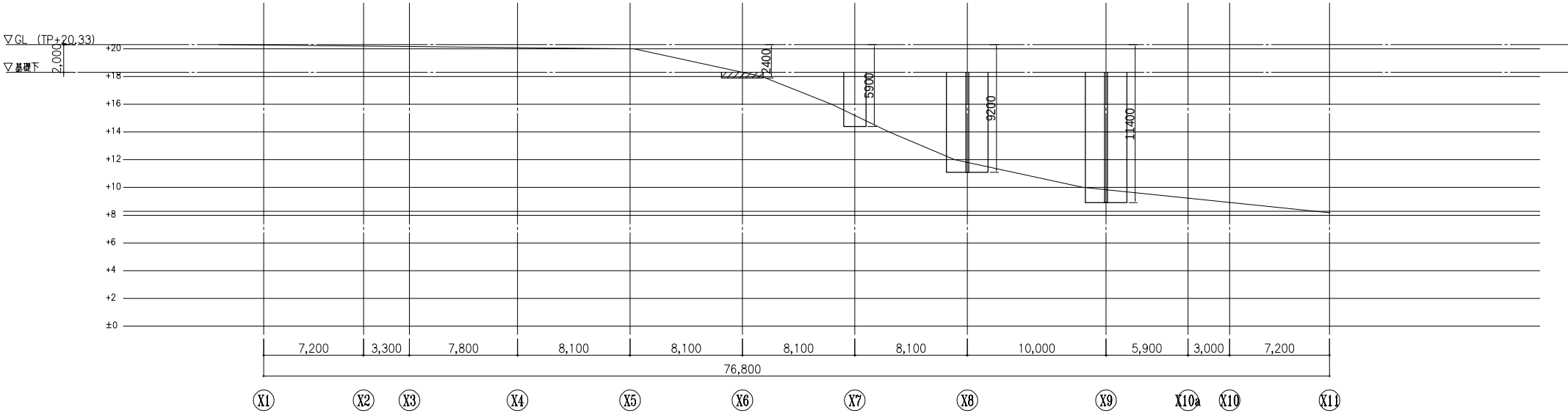
表 3 合格判定係数

抜き取りヶ所数 N	1	2	3	4～6	7～8	9～
合格判定係数 k _α	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

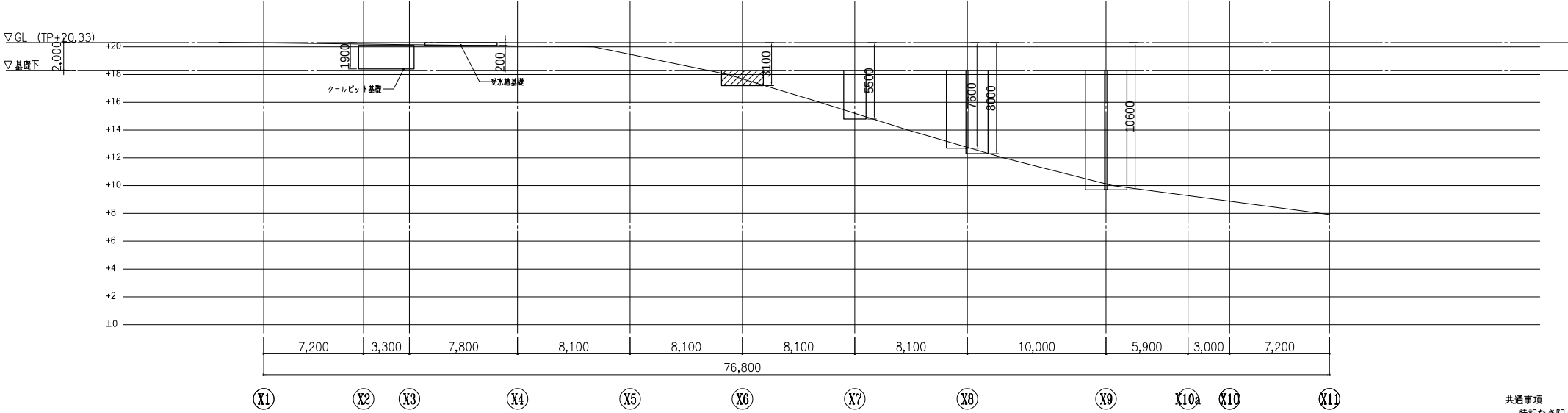
- (4) 六価クロム溶出試験
国土交通省 国官技第16号、国営建第1号（平成13年4月20日） 「セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験要領（案）」による六価クロム溶出試験を実施し、試験結果を提出するものとする。
事前配合試験段階 1 検体



Y1通り軸組図 1:200



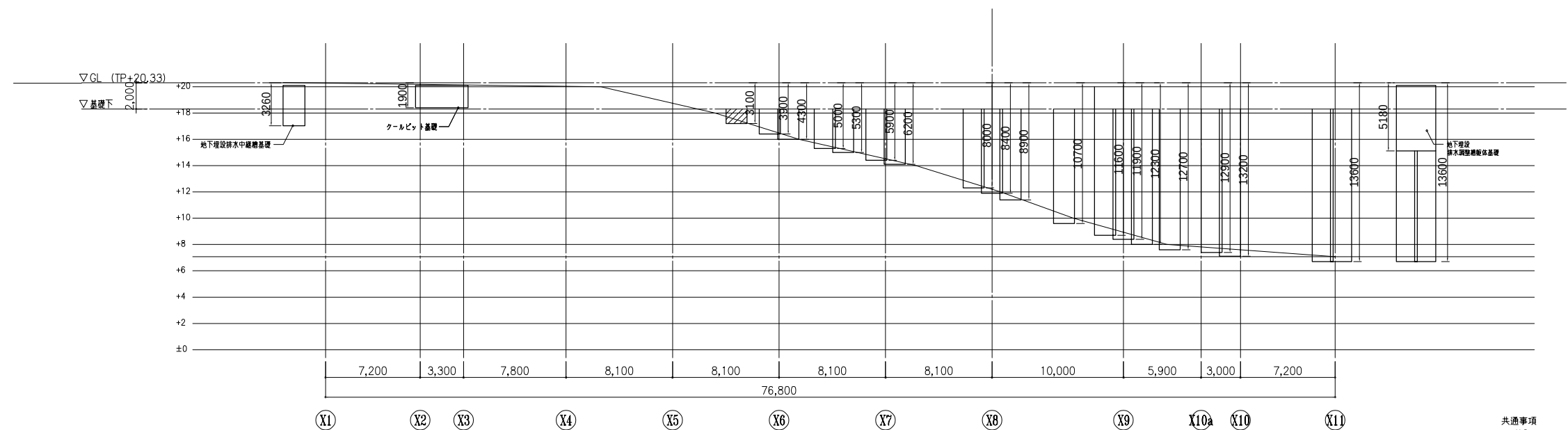
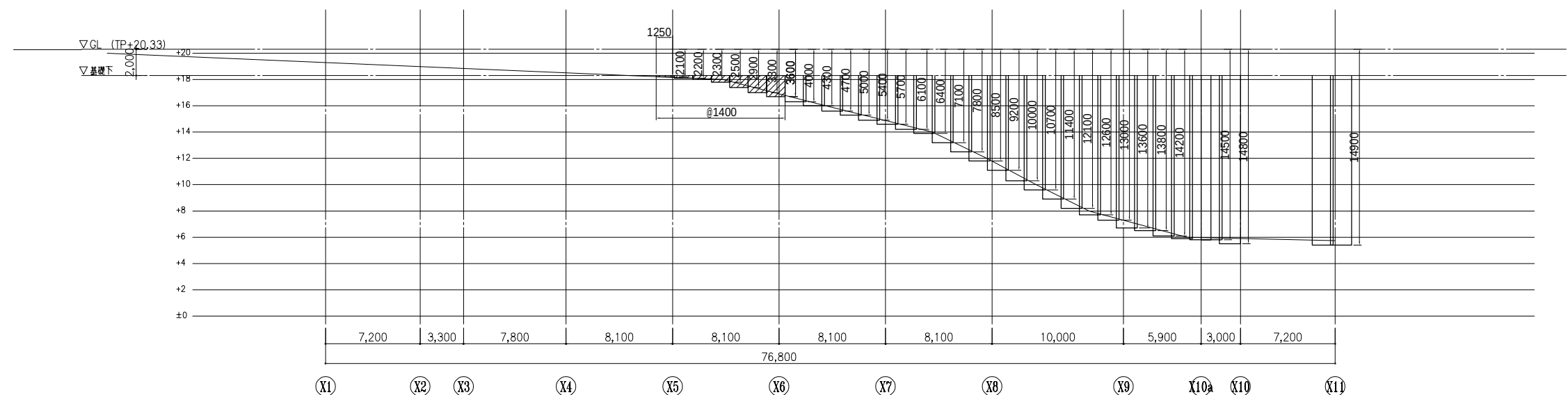
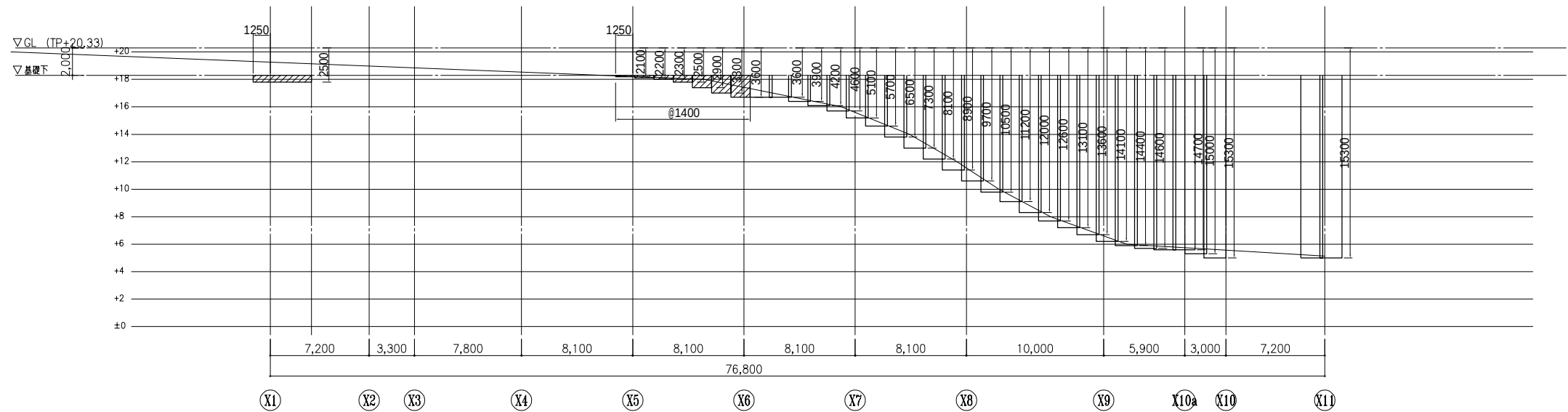
Y2通り軸組図 1:200



Y3通り地盤断面図 1:200

共通事項
特記なき限り下記による。
1. 〰〰印：ラッブルコンクリート

訂正	-				件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
	-							
	-							
	-				図面名称	縮尺	図面番号	
	-				地盤改良断面図-1	A1版 1:200 A3版 1:400	S-032	

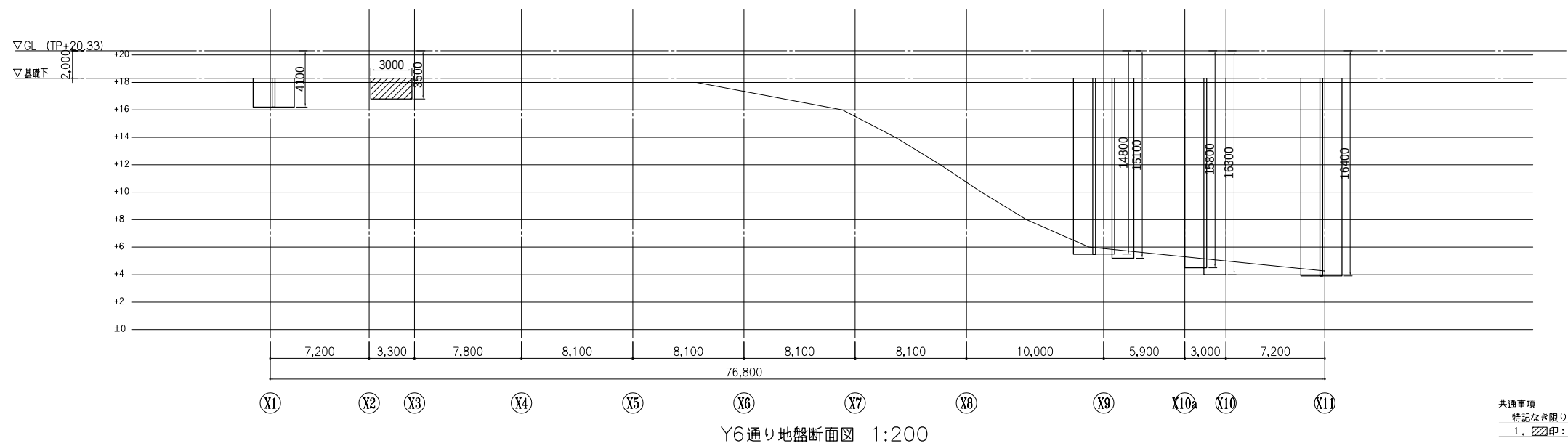
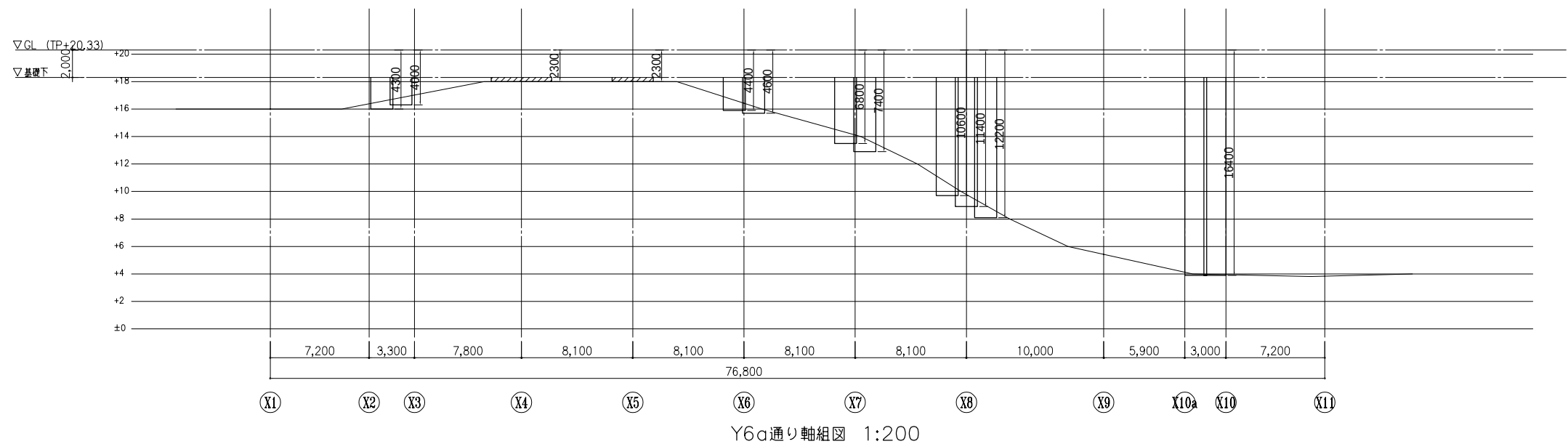
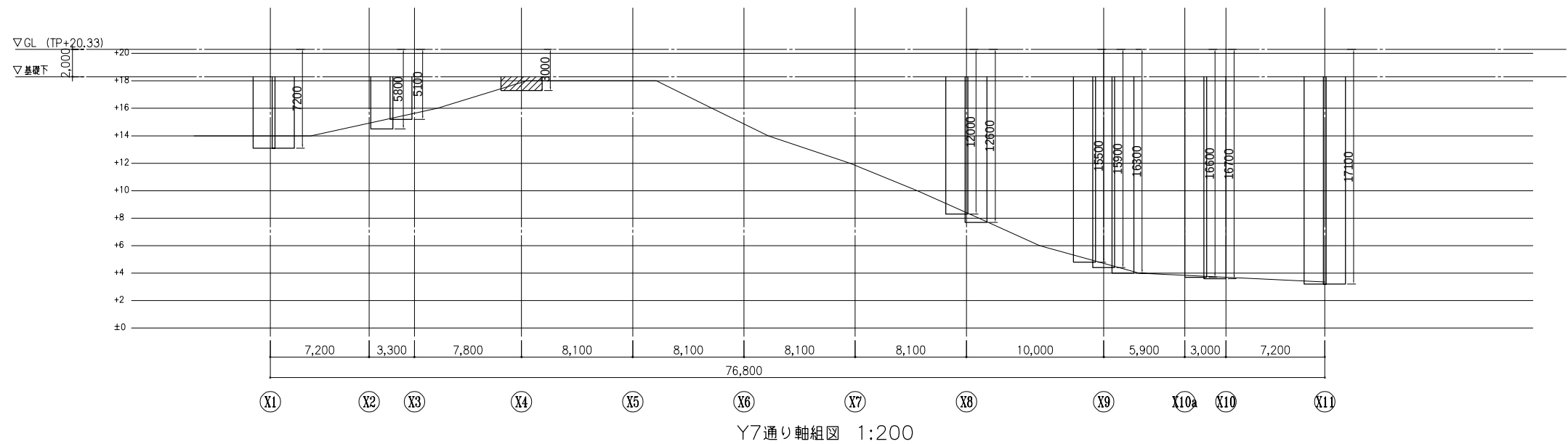


共通事項

特記なき限り下記による。

1. 印：ラップルコンクリート

訂正	・				件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
	・				図面名称	地盤改良断面図-2	縮尺 A1版 1:200 A3版 1:400	図面番号 S-033
	・							
	・							
	・							

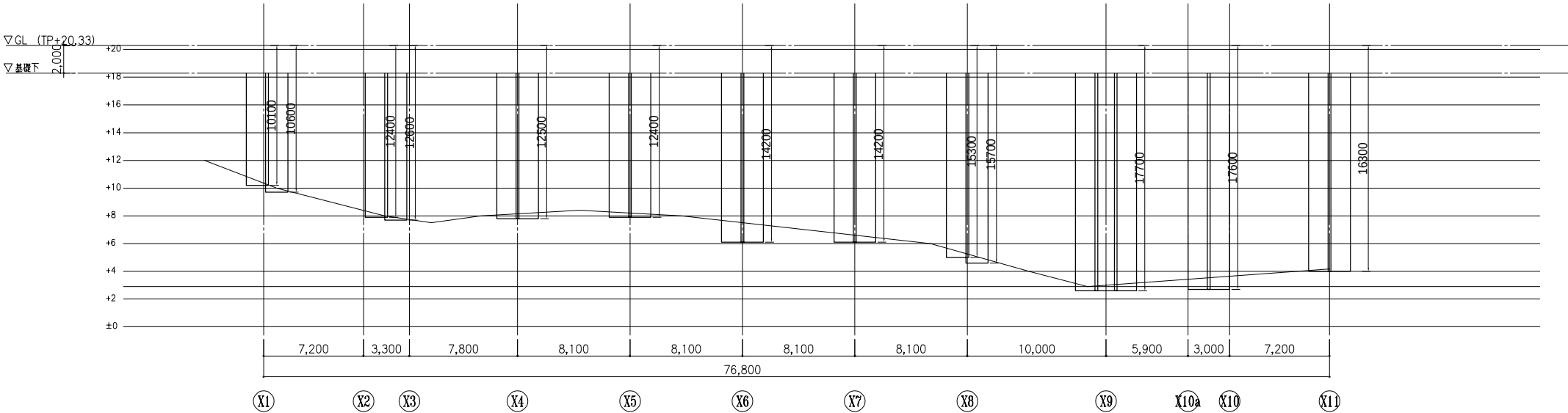


共通事項

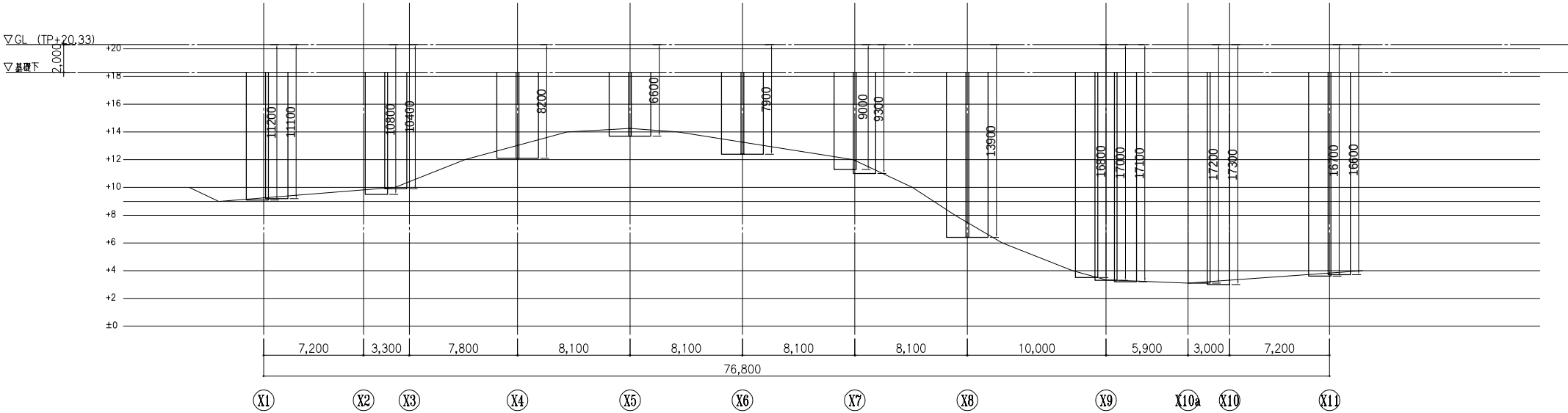
特記なき限り下記による。

1. 印：ラップルコンクリート

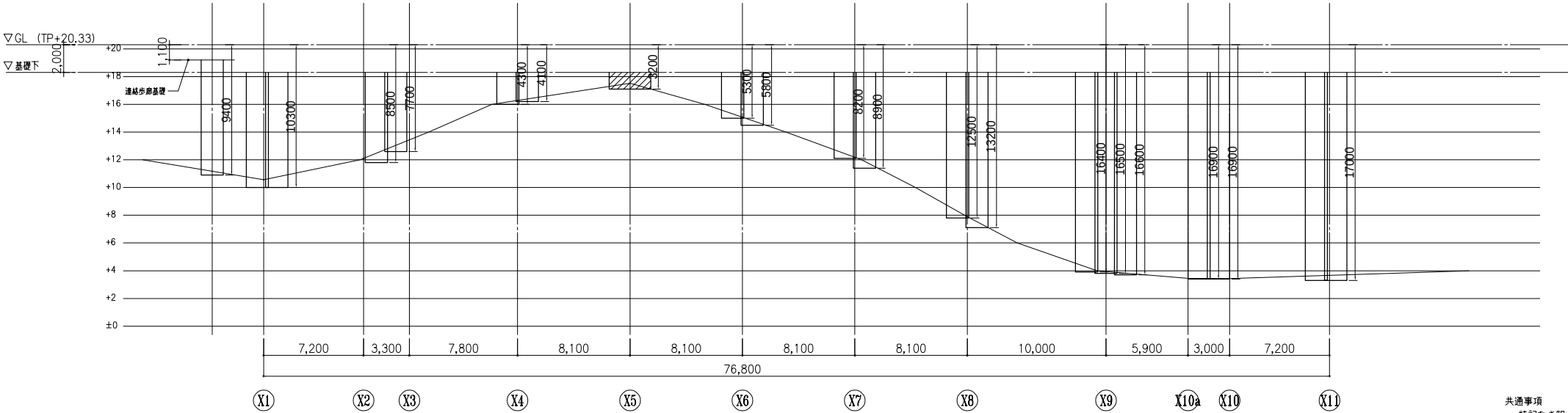
訂正	-				件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	
	-				図面名称	地盤改良断面図-3	縮尺 A1版1:200 A3版1:400
	-						図面番号 S-034
	-						
	-						



Y10通り軸組図 1:200



Y9通り軸組図 1:200

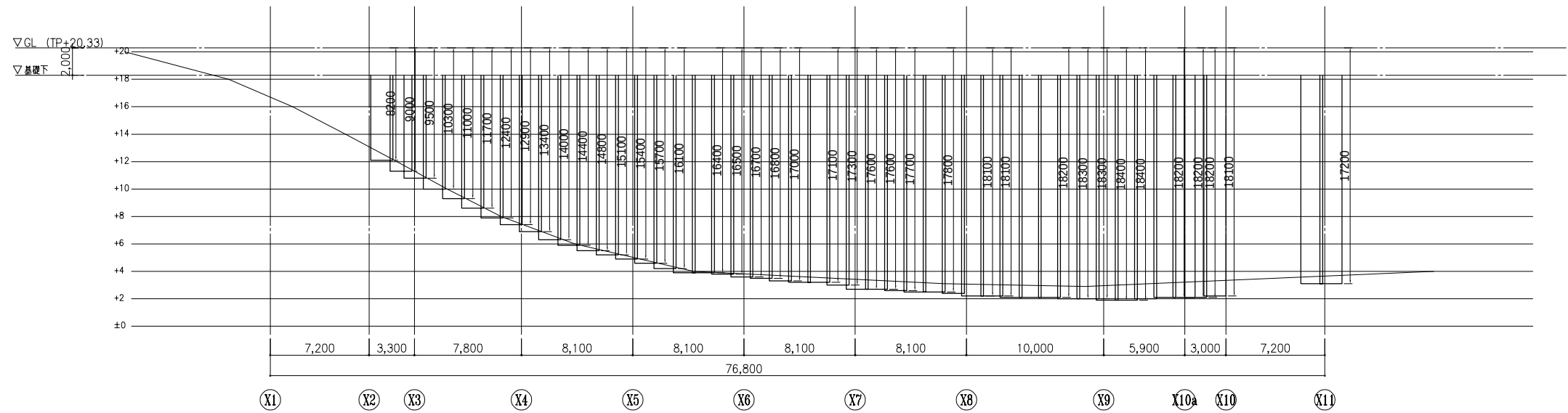


Y8通り地盤断面図 1:200

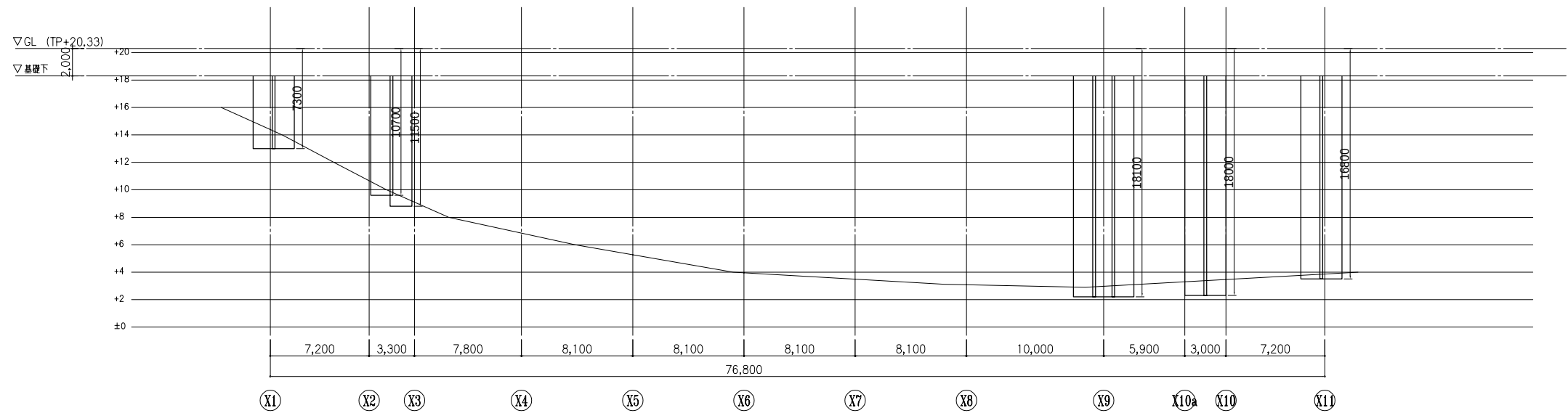
共通事項
特記なき限り下記による。
1. 〰〰印：ラップルコンクリート

訂正	・
	・
	・
	・

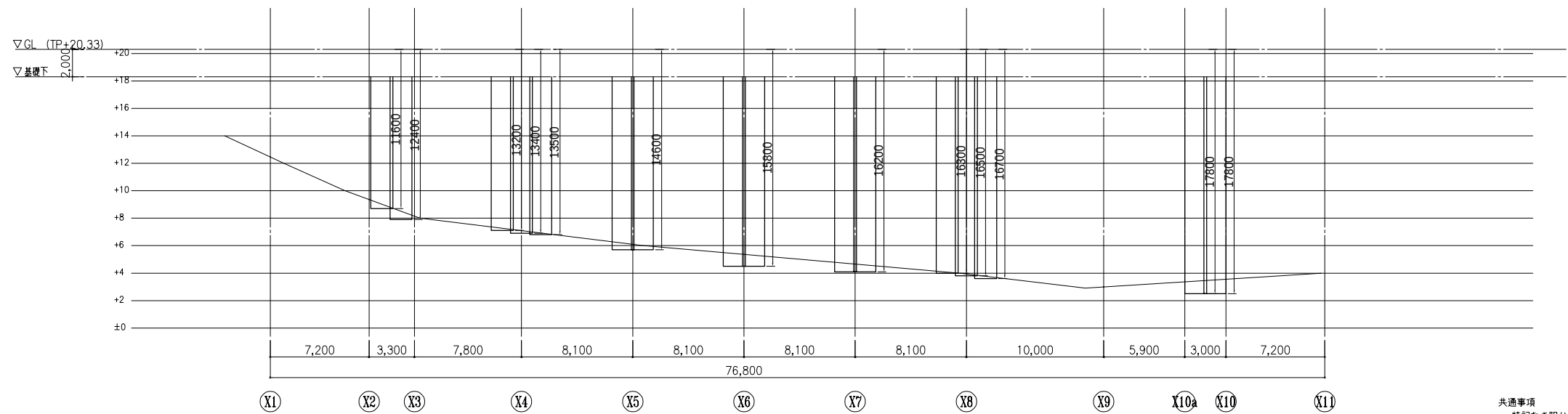
件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	図面番号	S-035
図面名称	地盤改良断面図-4	縮尺	A1版1:200 A3版1:400



Y12a通り軸組図 1:200



Y11通り軸組図 1:200



Y11a通り地盤断面図 1:200

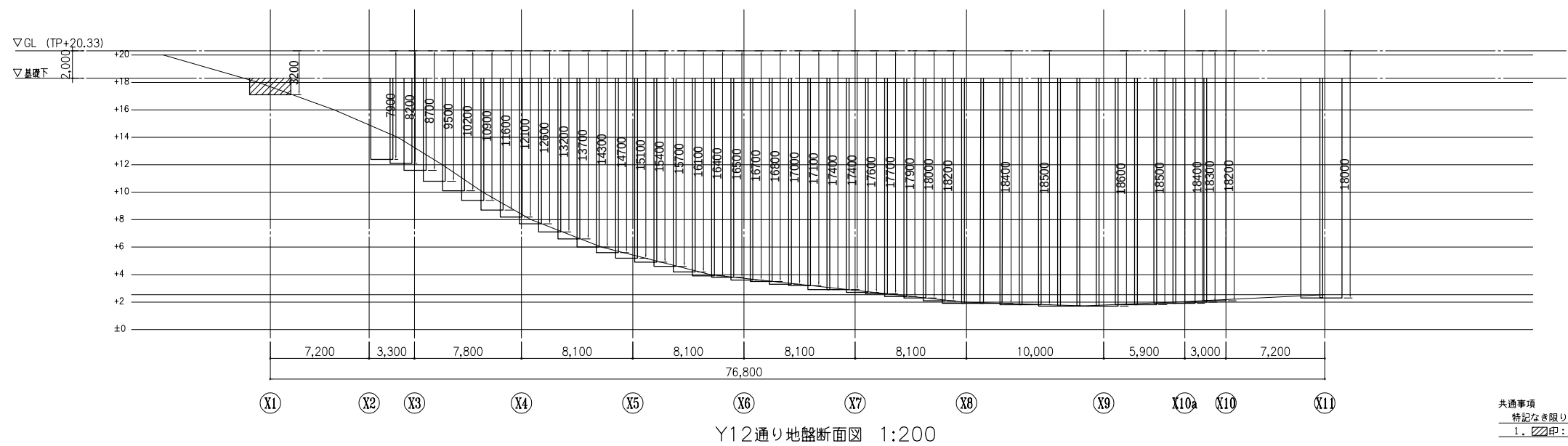
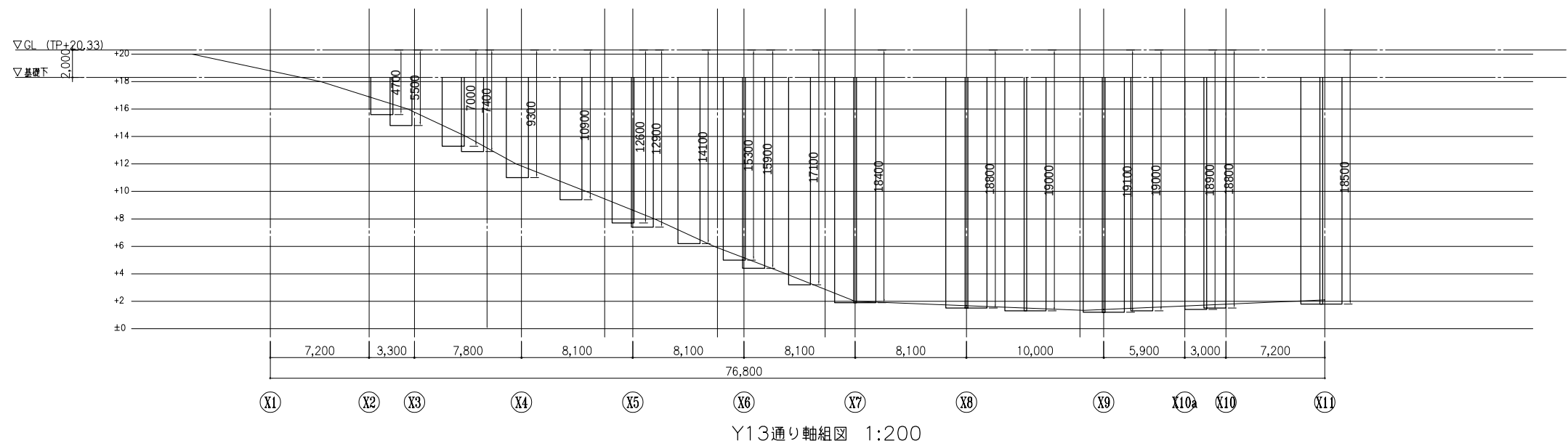
共通事項
特記なき限り下記による。
1. 〰〰印：ラップルコンクリート

訂正	.
	.
	.
	.
	.

件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事
図面名称	地盤改良断面図-5

縮尺
A1版1:200
A3版1:400

図面番号
S-036



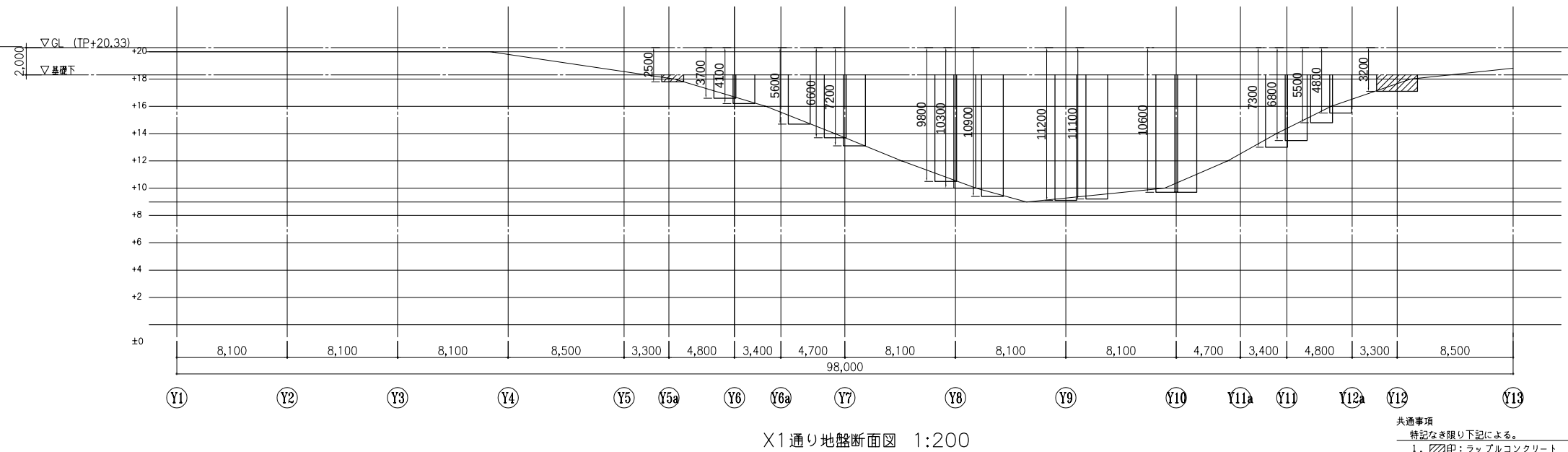
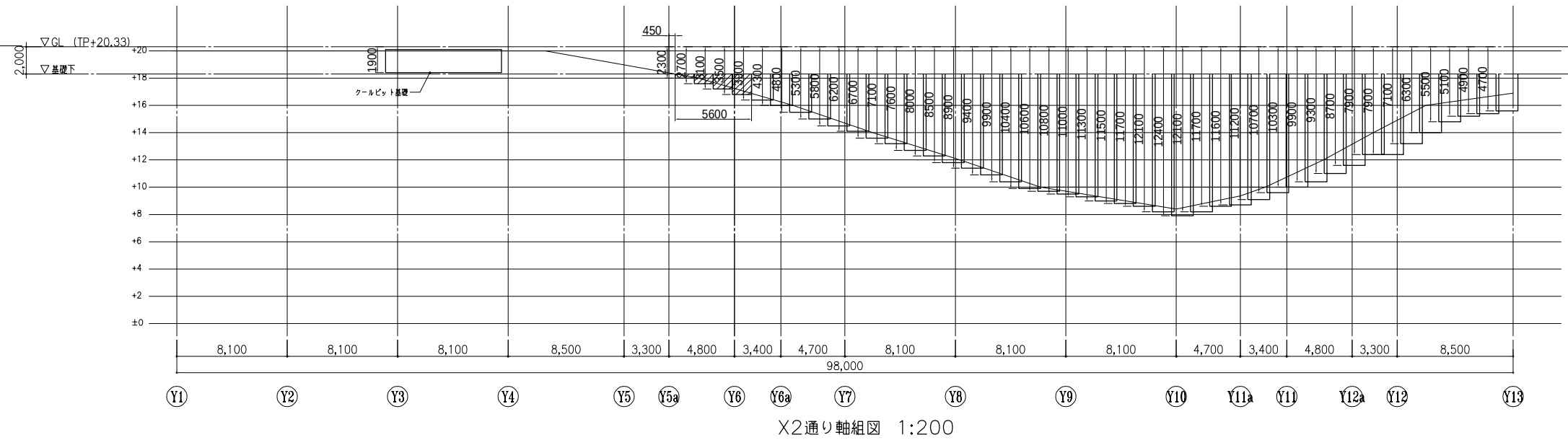
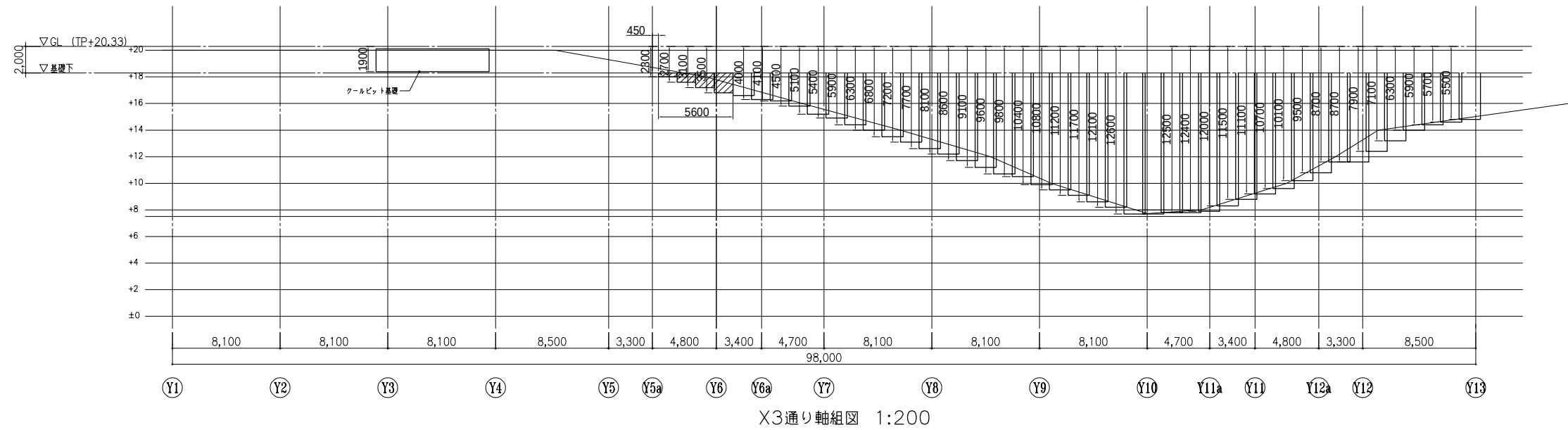
共通事項
特記なき限り下記による。
1. 〰〰印：ラップルコンクリート

訂正	.
	.
	.
	.

件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事
図面名称	地盤改良断面図-6

縮尺	A1版 1:200 A3版 1:400
----	------------------------

図面番号	S-037
------	-------



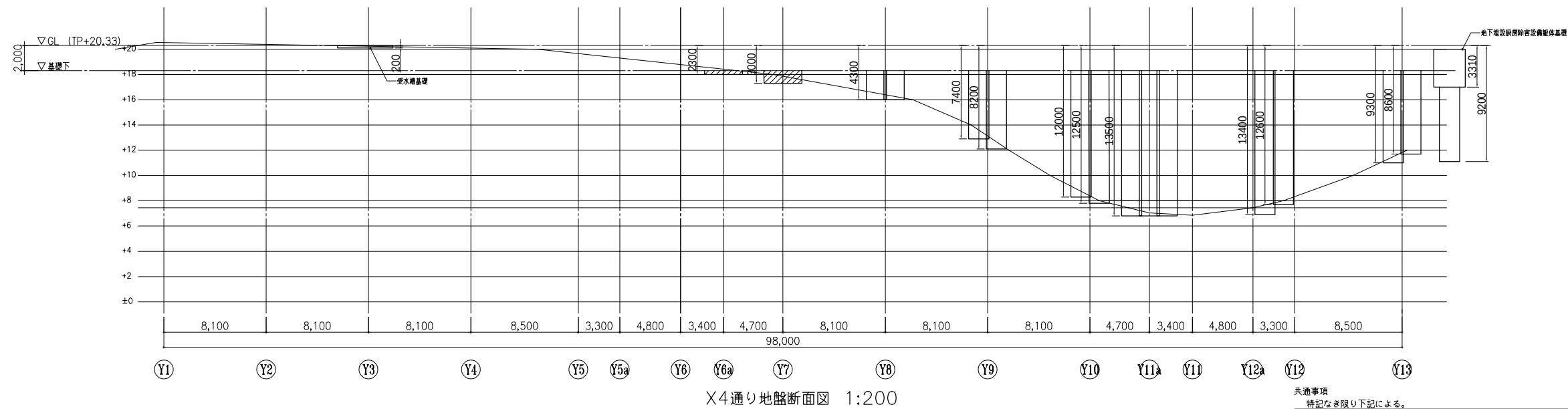
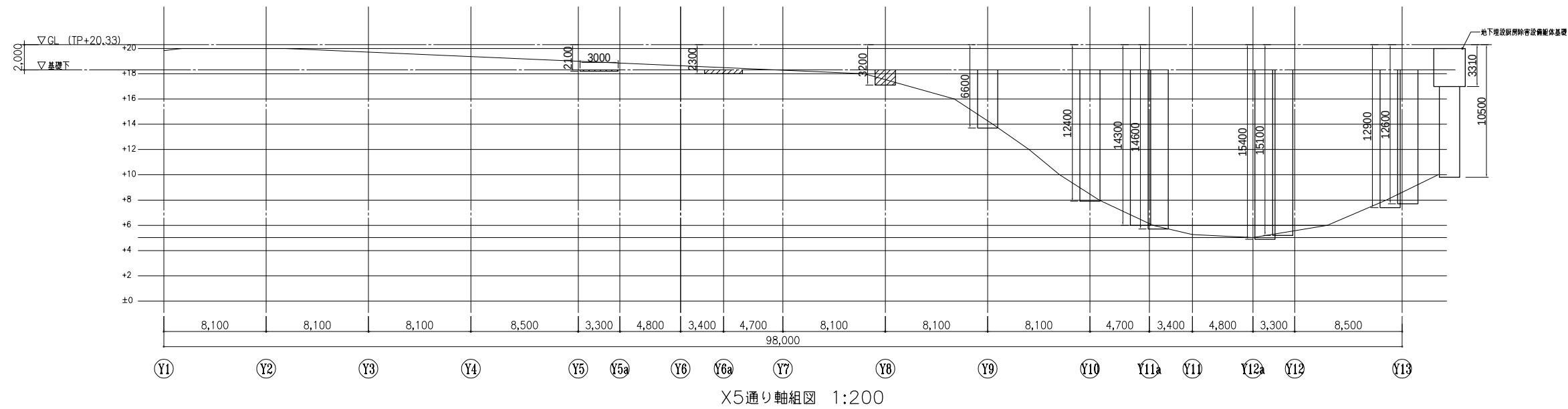
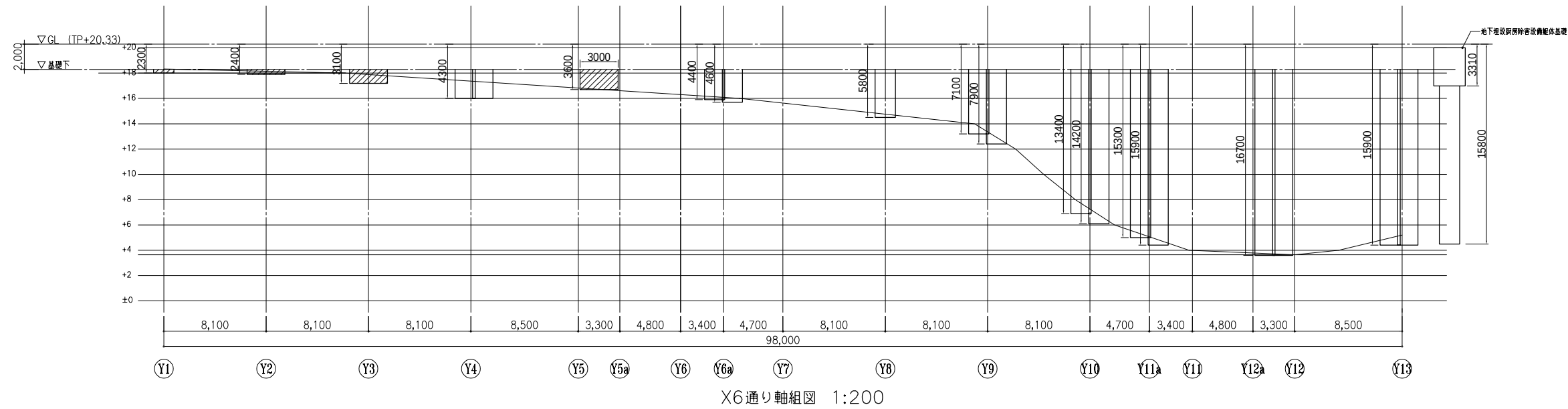
共通事項
特記なき限り下記による。
1. 〰印：ラップコンクリート

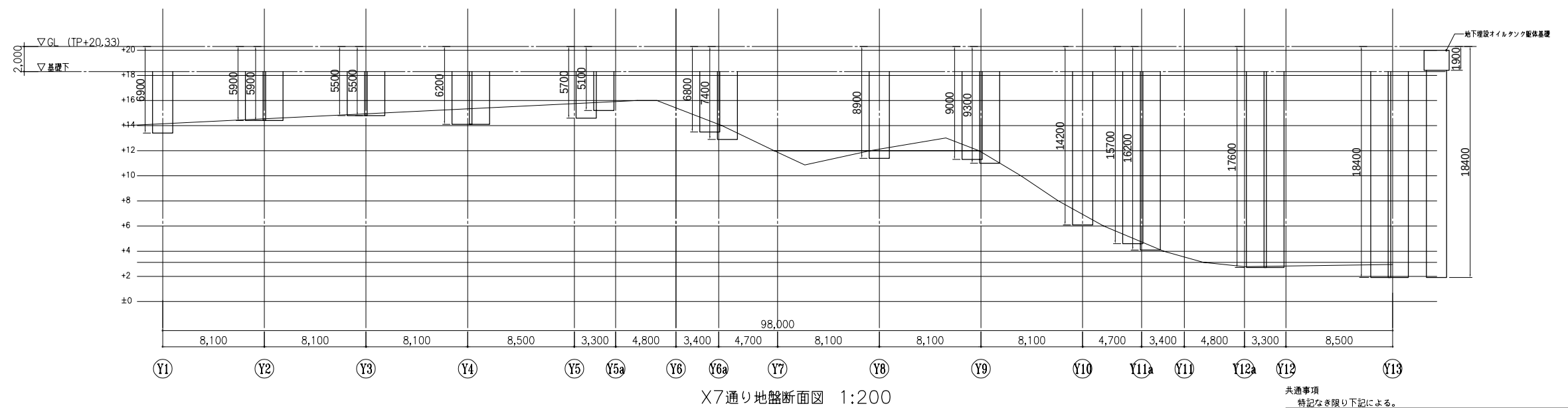
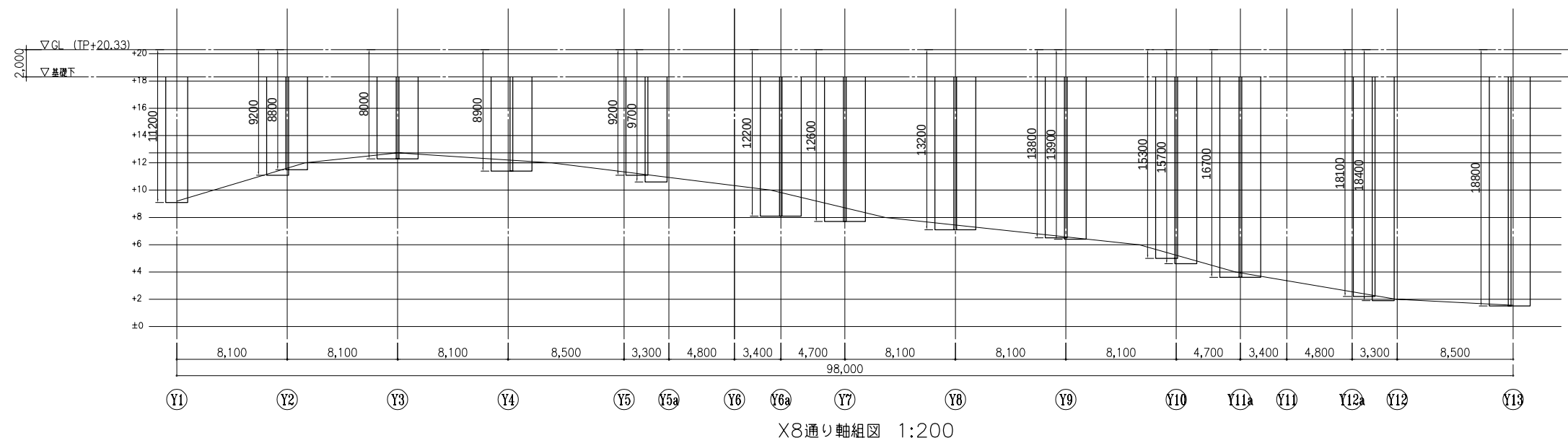
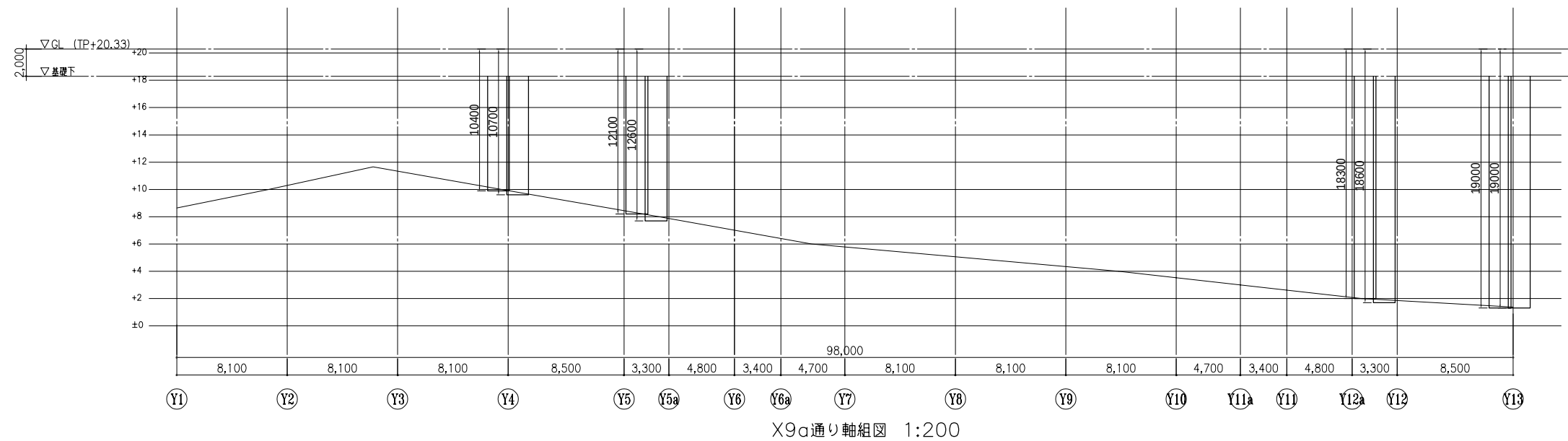
訂正	.
	.
	.
	.
	.

件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事
図面名称	地盤改良断面図-7

縮尺
A1版1:200
A3版1:400

図面番号
S-038

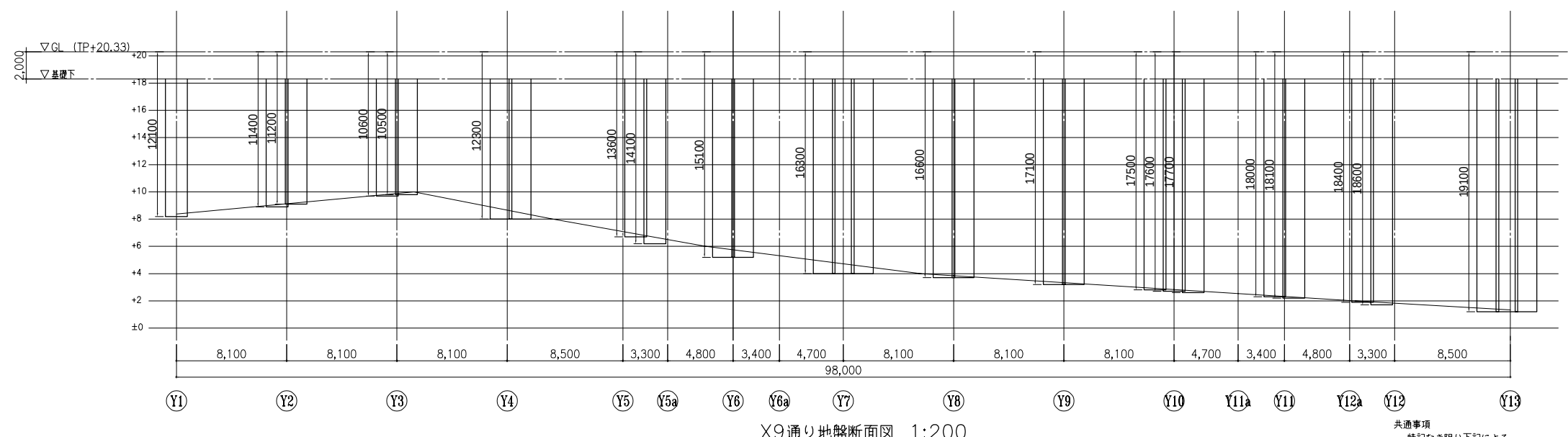
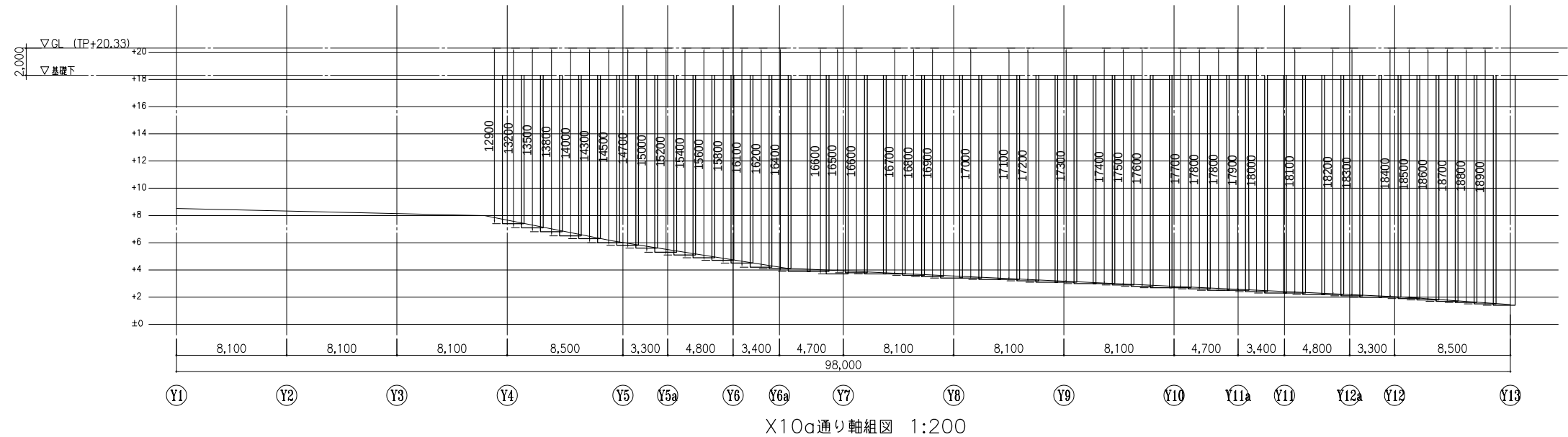
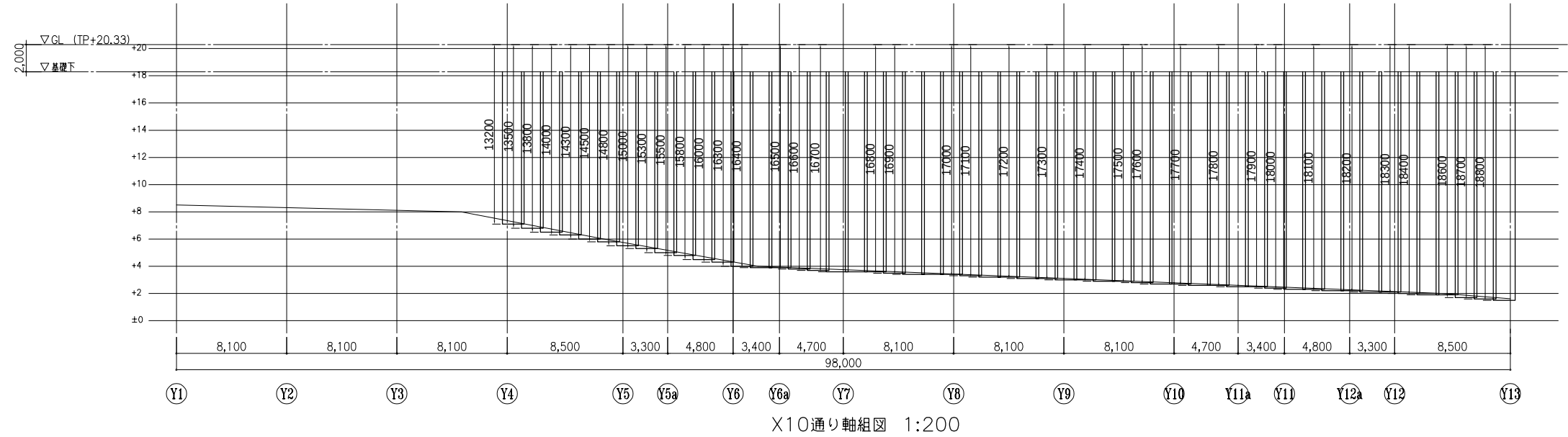




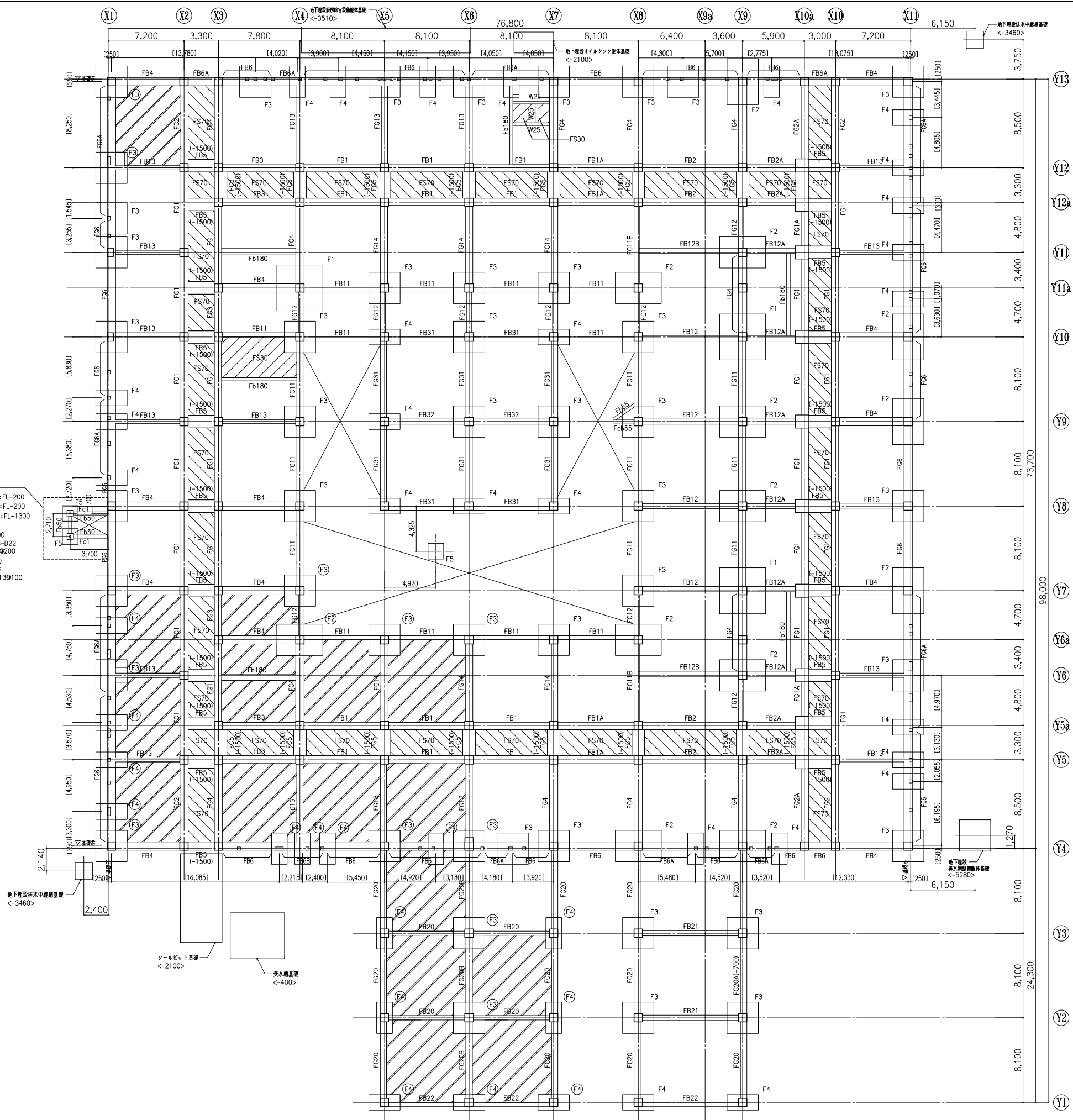
共通事項
特記なき限り下記による。

1.  印：ラップルコンクリート

訂正	-				件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
-	-				図面名称	地盤改良断面図-9	縮尺 A1版1:200 A3版1:400	図面番号 S-040
-	-							
-	-							
-	-							



共通事項
特記なき限り下記による。
1. 〰印：ラップルコンクリート



共通事項

特記なき限り下記による。

1. $1FL = TP + 20.53$ DGL = $1FL - 200 = TP + 20.33$
2. 基礎芯＝通り芯
3. 基礎底レベルは下記による。

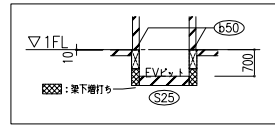
一般 1FL-2200 〇印 1FL-2380

< >内数値は、基礎下端を示す。

4. 基礎梁上端レベル： FL-300
()内数値は、梁上端レベルを示す。
5. スラブ端部レベルは、下記による。

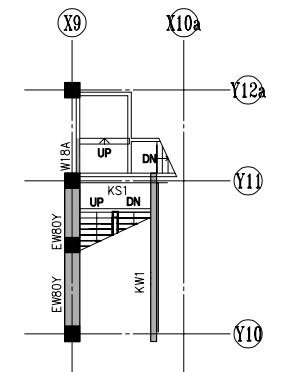
スラブ端部	スラブ上端
	部は捨てコンクリットとする。 1FL-1830 (水下)
	部は土間コンクリットとする。 1FL-1830 (水下)
	部は構造スラブとする。 1FL-1500
	部は構造スラブとする。 1FL-1800

6.  埋戻しを示す。
7. [] 内寸法は外周フッダー柱下の基礎芯を示す。
8. 基礎梁の増桁は下記による。
下端：取付くスラブ上端まで
上端：取付くFSおよび土間コンクリート下端まで
9. 建物中央部の埋戻しの際に、RC部分や配筋を土砂等で汚さないよう注意すること。



破線内：連続歩道基礎

- ・二重スラブのうち、下部スラ卜下鋪レベルは、FL-750とし、二重スラブ内はコンクリート充填する
- ・b50の梁上鋪レベルは、FL-250とし、スラ卜上鋪まで増し打ちとする

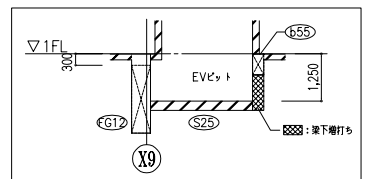


共通事項

特記なき限り下記による。

1. スラブ符号: S15

2. 壁符号: W18



共通事項

特記なき限り下記による。

1. 1FL=TP+20.53 DGL=1FL-200 =TP+20.33

2. RC大梁レベル : FL-300

3. スラブ符号: S15

4. スラブ上階レベル・RC小梁レベルは下記による。

	FL-10
	FL-40
	FL-80
	FL-100
	FL-400~FL-1300 (詳細は意匠図による)
	FL-300
	FL-700
	FL-1000
	FL-1250 (EVビッド)

5. ▲ 印は鉛直スリットを示す。(スリット幅=30mm)
△ 印は水平スリットを示す。(スリット幅=30mm)

6. 壁符号: W18及び、

X1通り・X11通り・Y4通り・Y13通りの
外周ファースト壁はW30とする

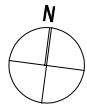
7. 外周壁柱符号: WP1

8. [] 内記法は外周ファースト柱を示す。

9.  土間コンクリートを示す。

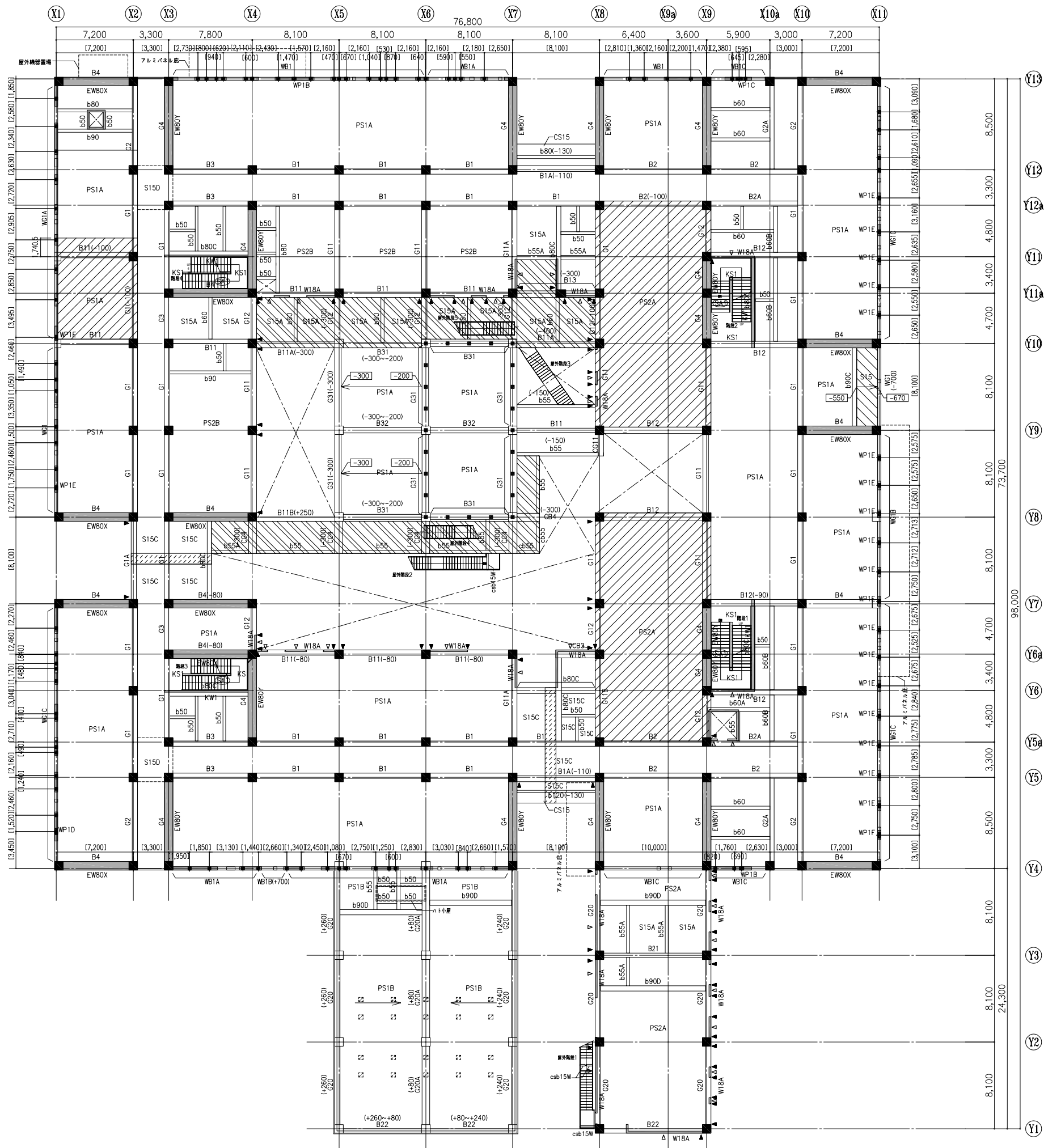
10.  埋め戻しを示す。

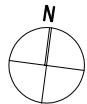




2階梁伏図 1:200

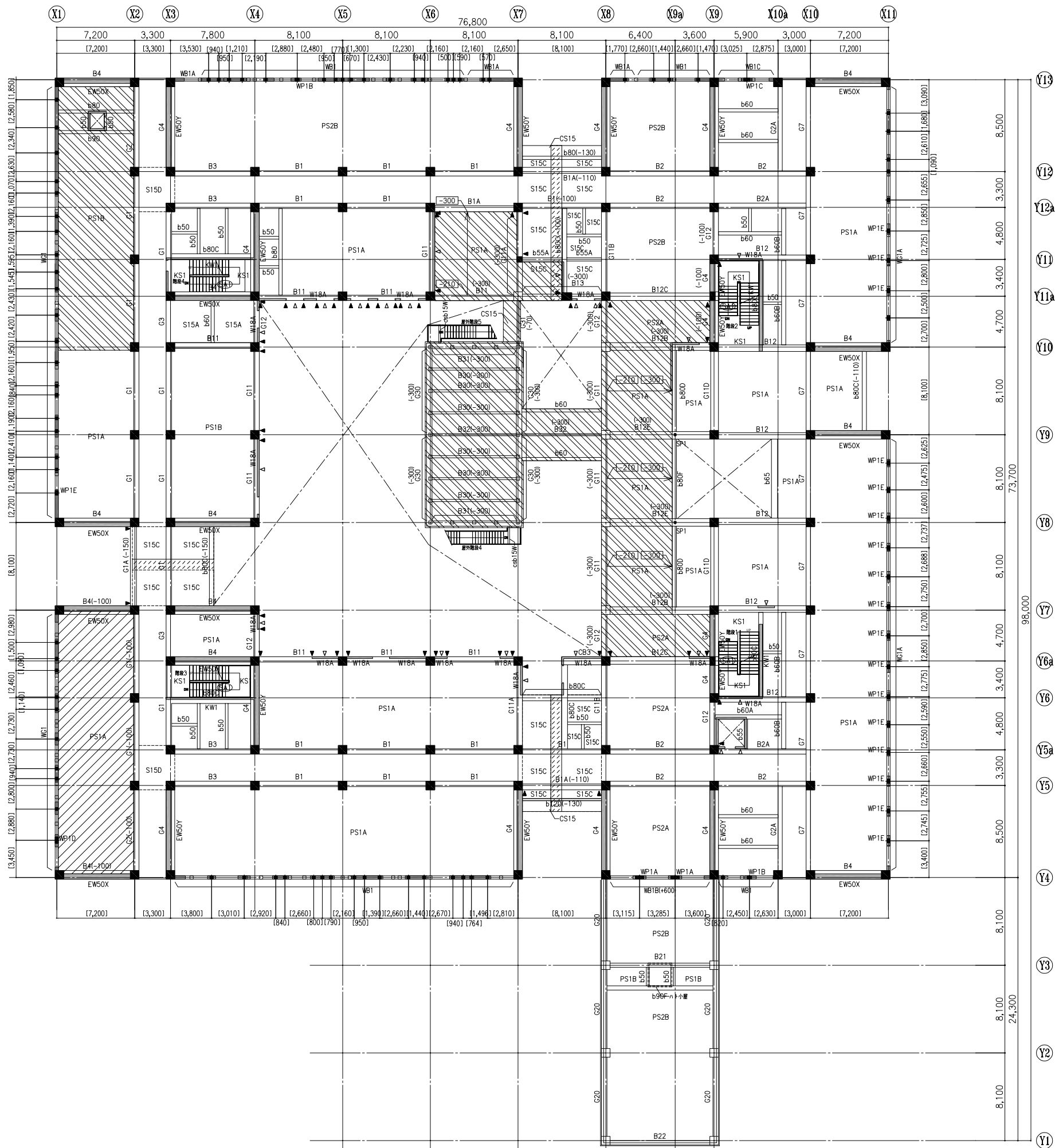
- 共通事項
- 特記なき限り下記による。
1. RC大梁上端レベル : FL-10
2. スラブ上端レベル・小梁上端レベルは下記による。
- スラブ・RC小梁
- FL-10
- FL-100
- FL-240
- FL-300
- 伏図内に示す勾配による
3. ()内数値は、梁上端レベルを示す。
4. スラブ符号: S15
- 範囲はあと施工範囲を示す。
- (収縮ひび割れ対策: 範囲外の打設4週後に打設する)
5. []内数値は、FLからのスラブレベルを示す。
6. ← は勾配スラブの下がり方向を示す。
7. ▲印は鉛直スリットを示す。(スリット幅=30mm)
- △印は水平スリットを示す。(スリット幅=30mm)
8. 壁符号: W18及び
- X1通り・X11通り・Y4通り・Y13通りの
- 外周ファサード壁はW30とする
- []付き壁符号はFL+2000までの立ち上がりとする。
9. 外周壁柱符号: WP1
10. []内寸法は外周ファサード柱芯を示す。
11. 鉄骨階段の csb15W の梁天端は意匠図による。
12. []は、設備基礎を示す。
13. PC床版のリブ下端が取り付く梁下端よりレベルが低い場合は
- 梁下を増し打ちすること。

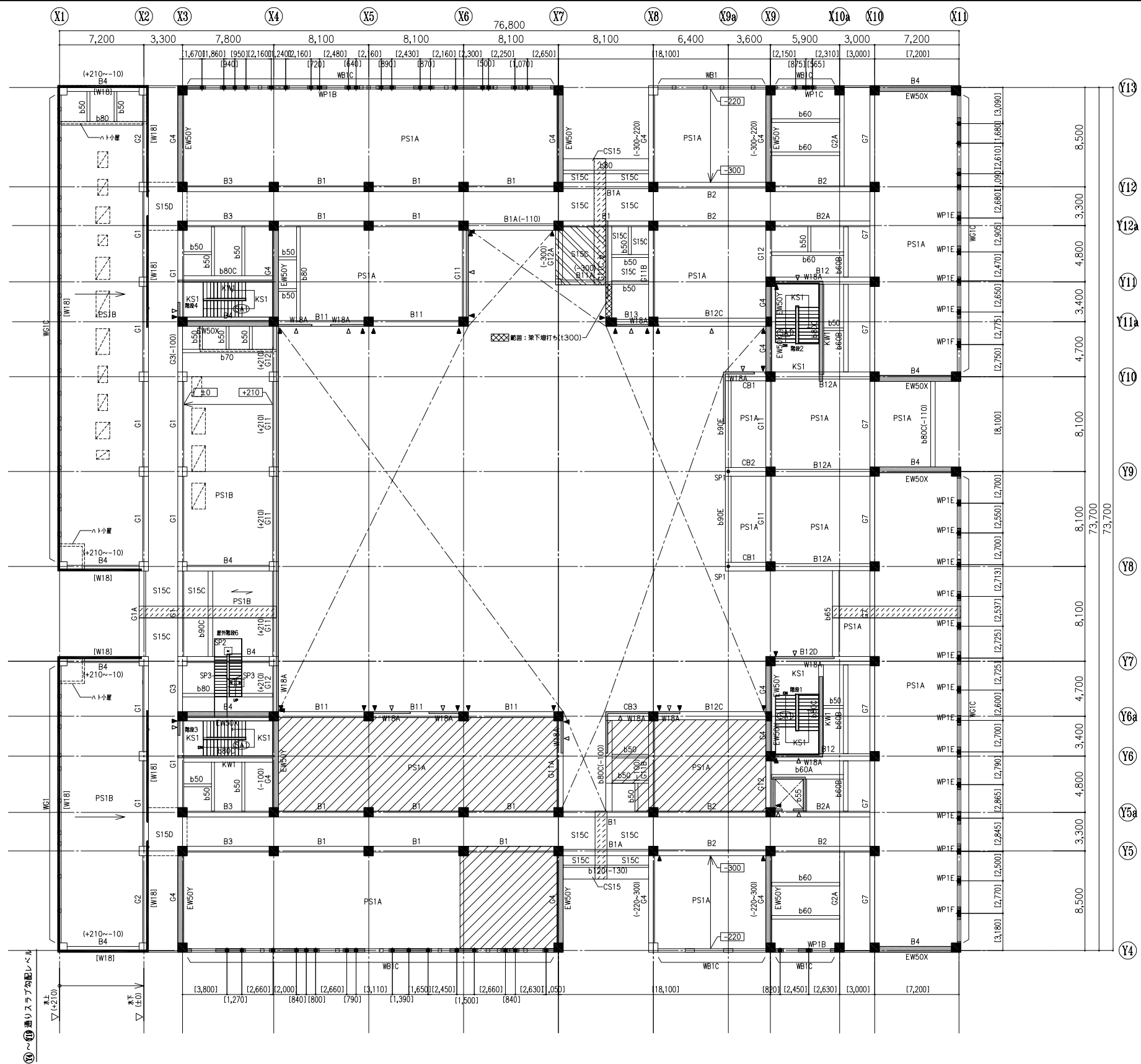




3階梁伏図 1:200

- 共通事項
- 特記なき限り下記による。
1. RC大梁上端レベル : FL-10
2. スラブ上端レベル・小梁上端レベルは下記による。
- スラブ・RC小梁
- | | |
|--|--------|
| | FL-10 |
| | FL-70 |
| | FL-100 |
| | FL-300 |
3. ()内数値は、梁上端レベルを示す。
4. スラブ符号: S15
- 範囲はあと施工範囲を示す。
- (収縮ひび割れ対策: 範囲外の打設4週後に打設する)
5. 内数値は、FLからのスラブレベルを示す。
6. ▲印は鉛直スリットを示す。(スリット幅=30mm)
- △印は水平スリットを示す。(スリット幅=30mm)
7. 壁符号: W18及び
- X1通り・X11通り・Y4通り・Y13通りの
外周ファサード壁はW30とする
8. 外周壁柱符号: WP1
9. []内寸法は外周ファサード柱芯を示す。
10. <->印はスラブ主筋方向を示す。
11. PC床版のリブ下端が取り付く梁下端よりレベルが低い場合は
Y 梁下を増し打ちすること。





共通事項

特記なき限り下記による。

1. RC大梁上端レベル： FL-10

2. スラブ上端レベル・小梁上端レベルは下記による。

スラブ・RC小梁

	FL-10
	FL-100
	FL-300

3. ()内数値は、梁上端レベルを示す。

4. スラブ符号： S15

 範囲はあと断記範囲を示す。
(収縮ひび割れ対策：範囲外の打設4週後に打設する)

5. ()内数値は、FLからのスラブレベルを示す。

6. <— は、勾配スラブの下がり方向を示す。

7. ▲印は鉛直スリットを示す。(スリット幅=30mm)
△印は水平スリットを示す。(スリット幅=30mm)

8. 壁符号： W18及び

X1通り・X11通り・Y4通り・Y13通りの
外周ファード壁はW30とする
[付記壁符号はFL+2000までの立ち上がりとする。]

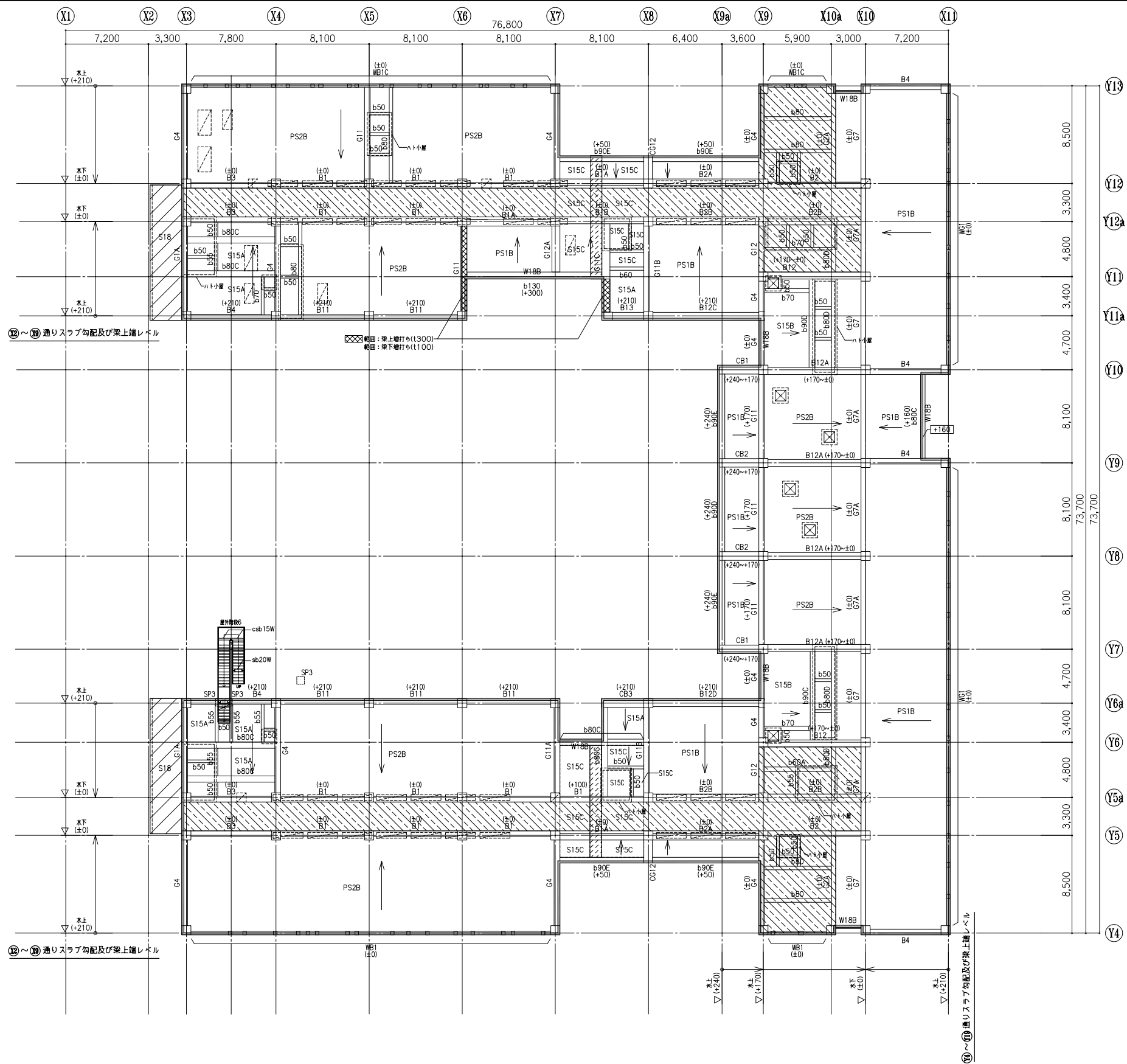
9. 外周壁符号： WP1

10. []内寸法は外周ファード柱芯を示す。

11. <— は、設備基盤を示す。

12.  は、設備基盤を示す。

13. PC床版のり下盛取付・床下端よりレベルが高い場合は
Y 下盛を増し打ちとする。



⑫～⑭通りスラブ勾配及び梁上端レベル

特記なき限り下記による。

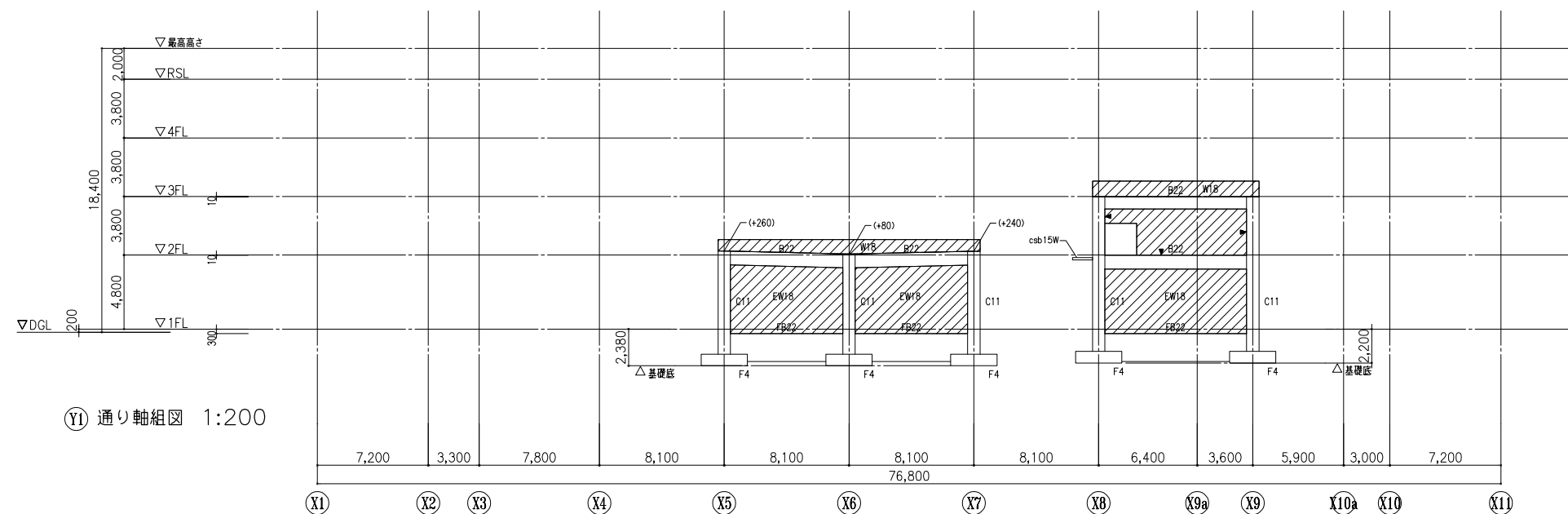
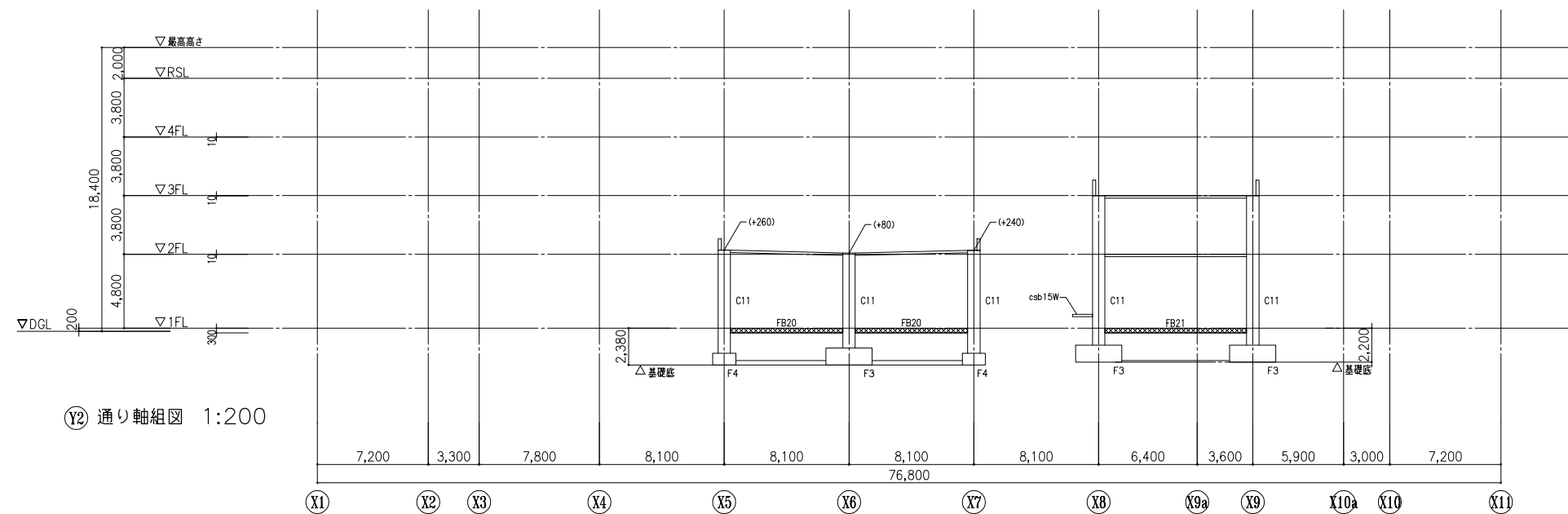
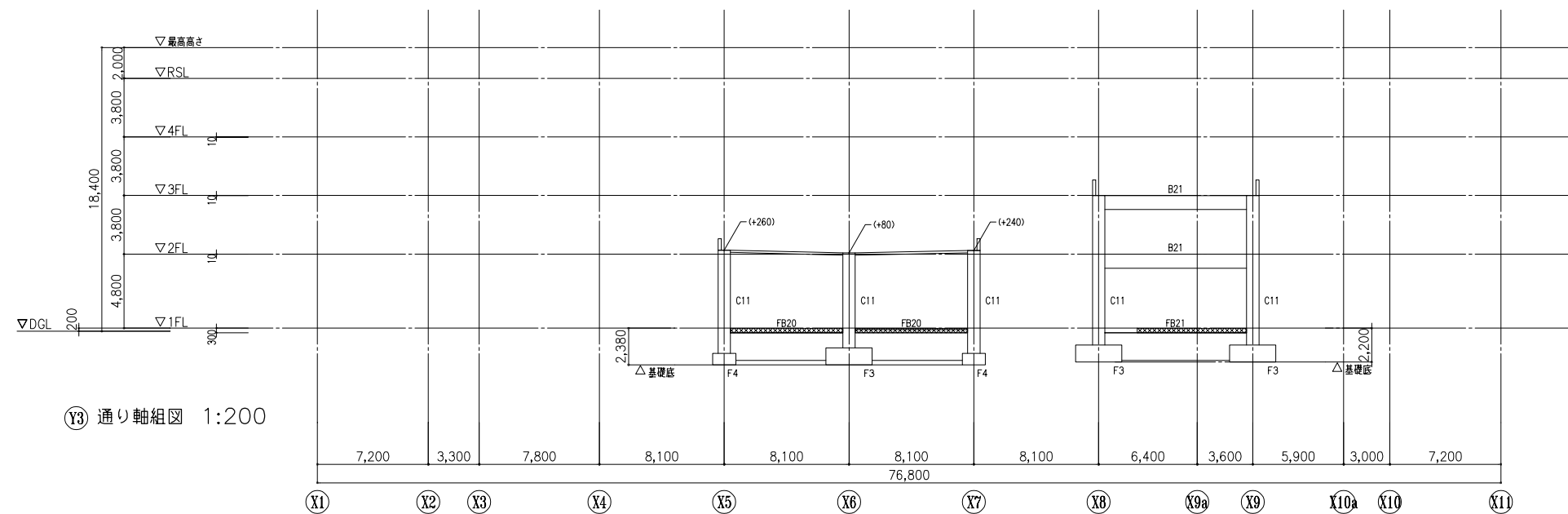
1. RC大梁上端レベル：レベルはRSLからとし、図中のレベル及び勾配とする
2. RSL=RFLとする。
3. ()内数値は、梁上端レベルを示す。
3. スラブ上端レベルは下記による。

渠下を増し打ちすること。

↑

R階梁伏図	A1版 1:200 A3版 1:400
-------	------------------------

図面番号



共通事項

特記なき限り下記による。

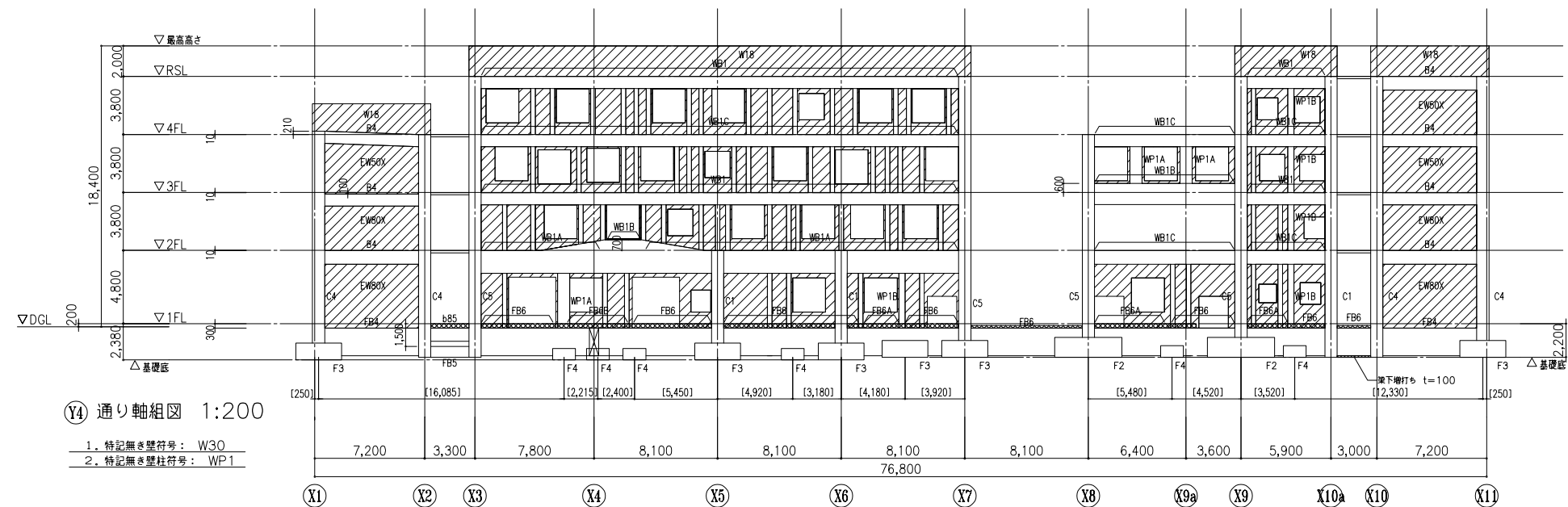
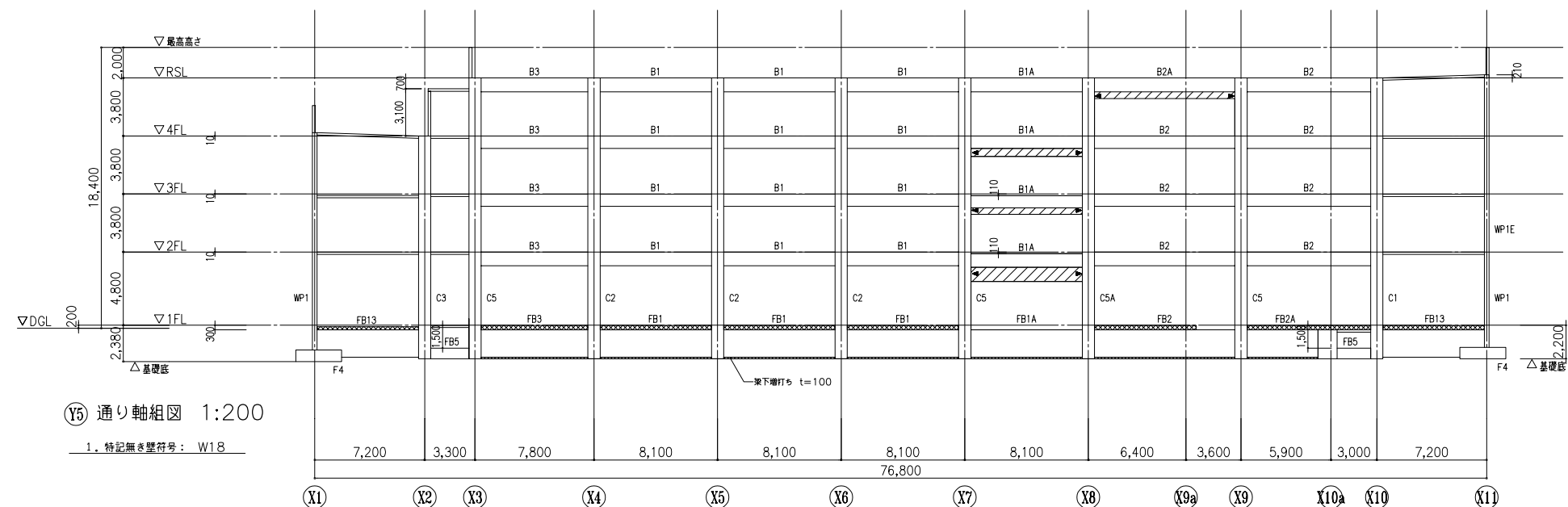
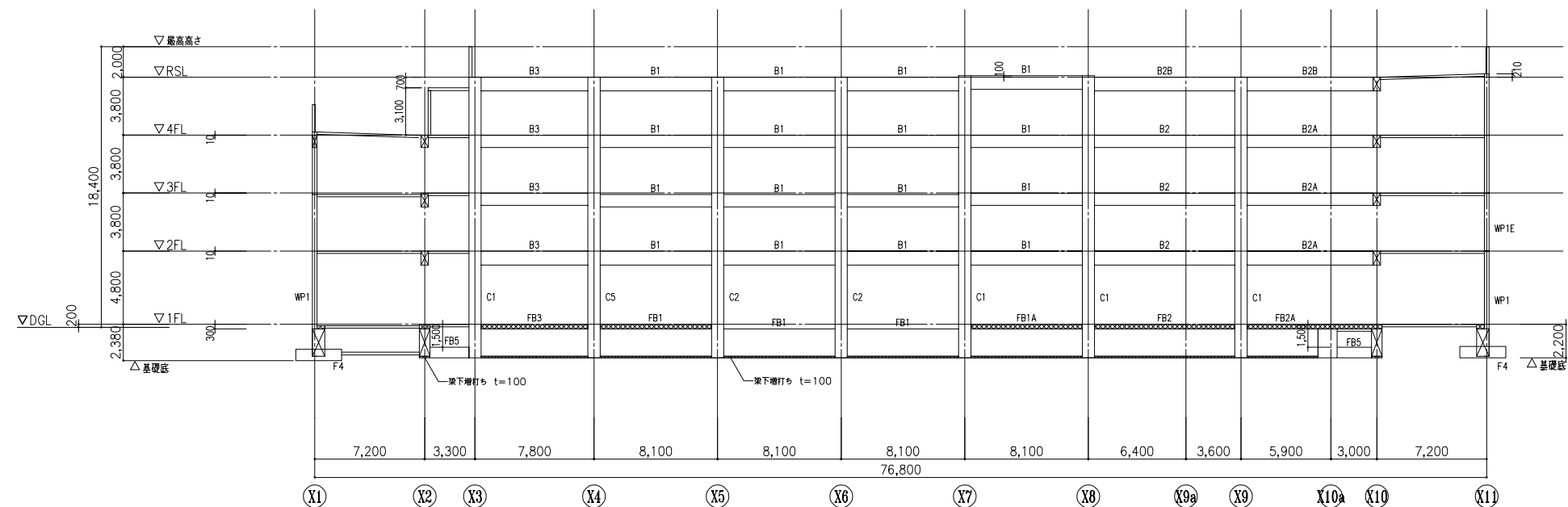
1. ▼印は構造スリットを示す。スリット幅は30mmとする。

2.  は増打ちを示す。

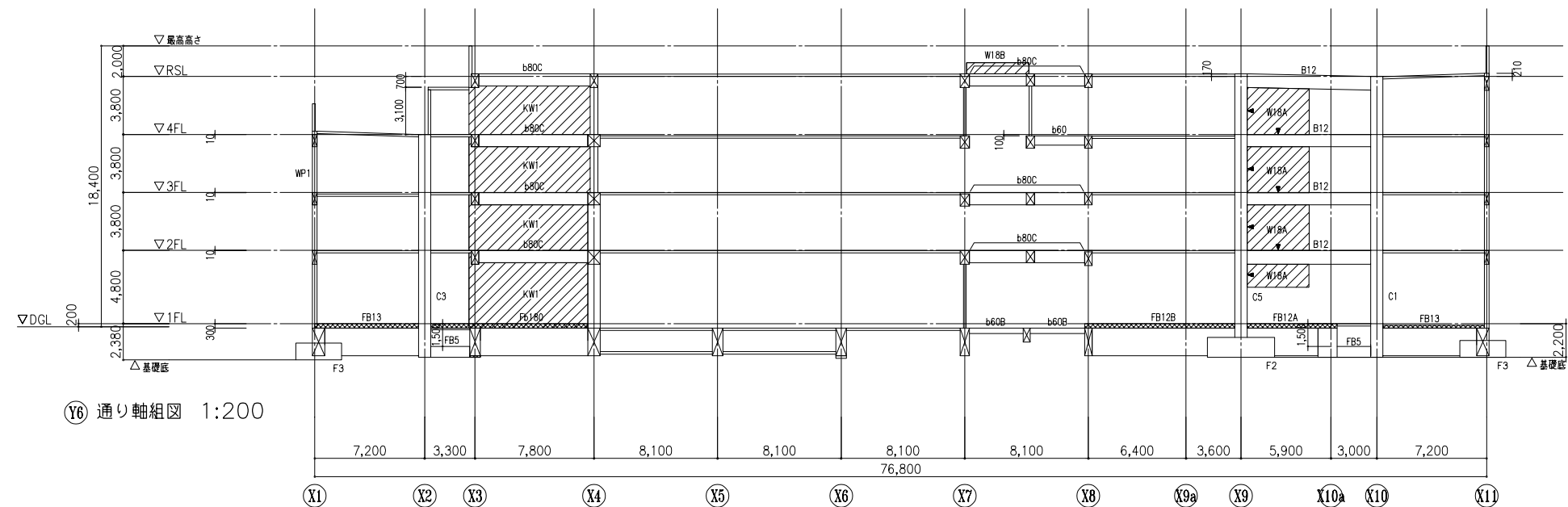
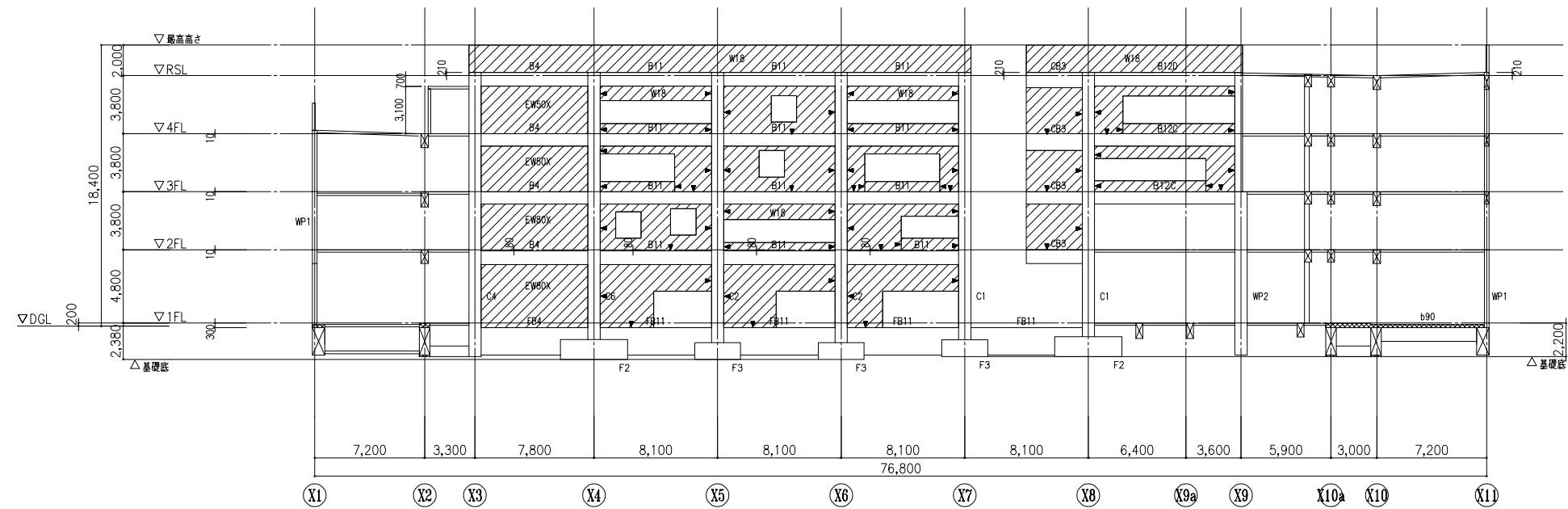
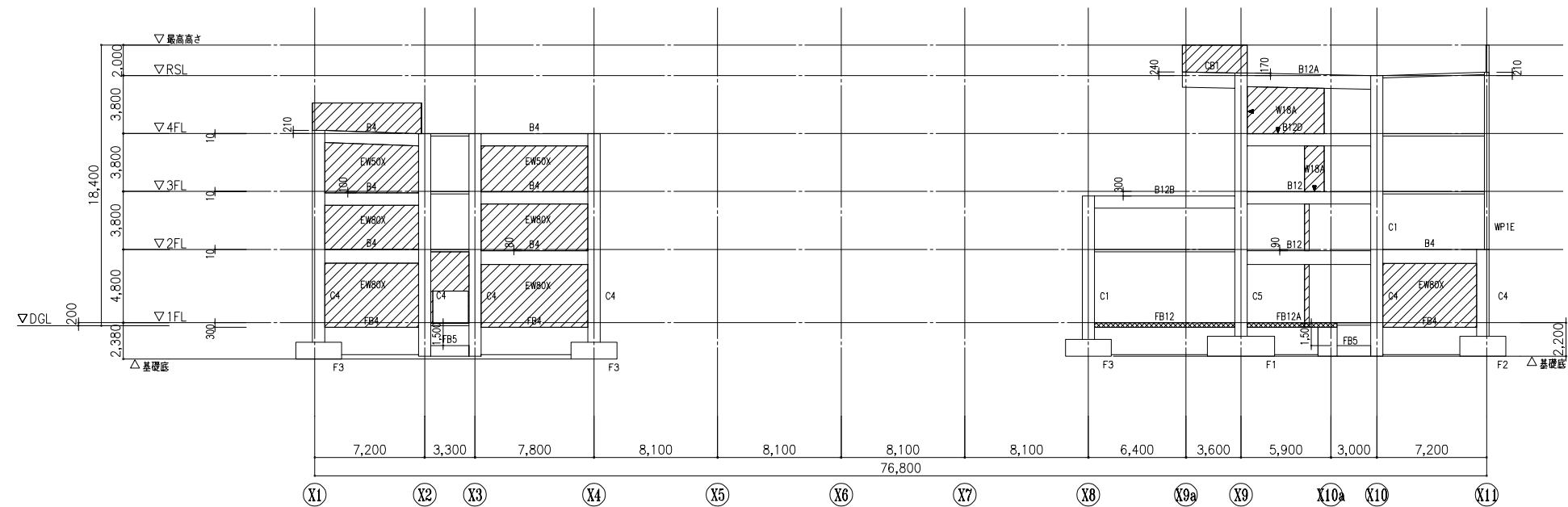
3.  は基礎梁上増打ちを示し、スラブレベルまでとする。

4. 壁符号： W18A

訂正	-				件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	
-	-				図面名称	軸組図 - 1	縮尺 A1版 1:200 A3版 1:400
-	-						図面番号 S-049
-	-						
-	-						



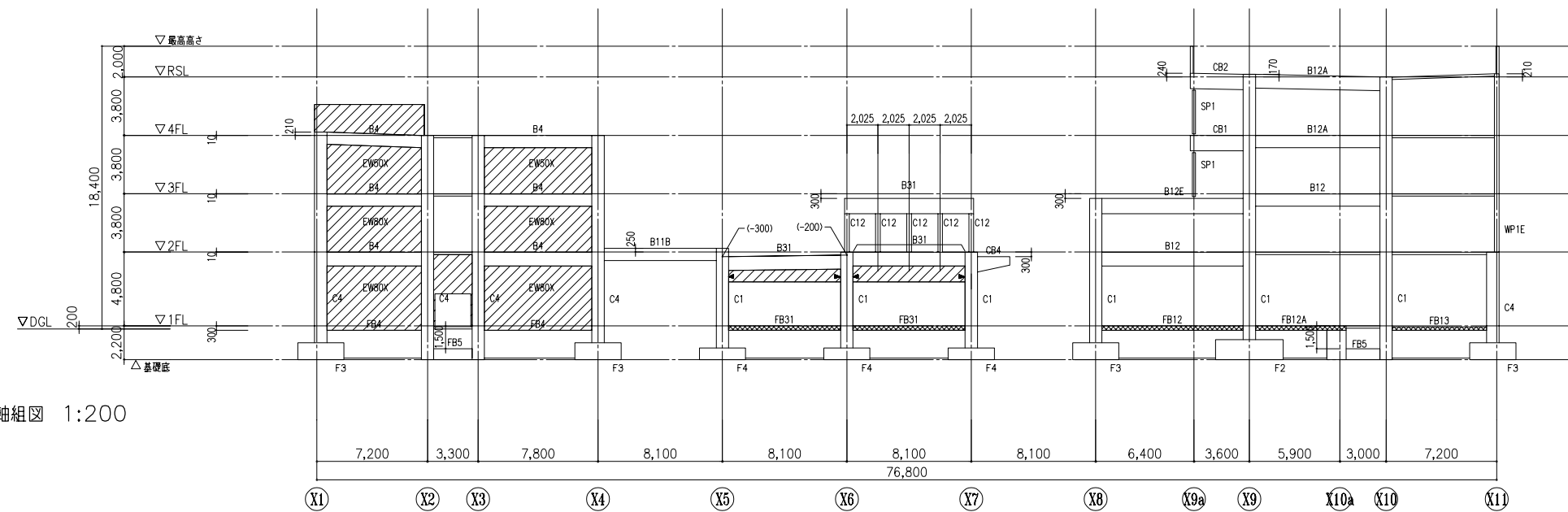
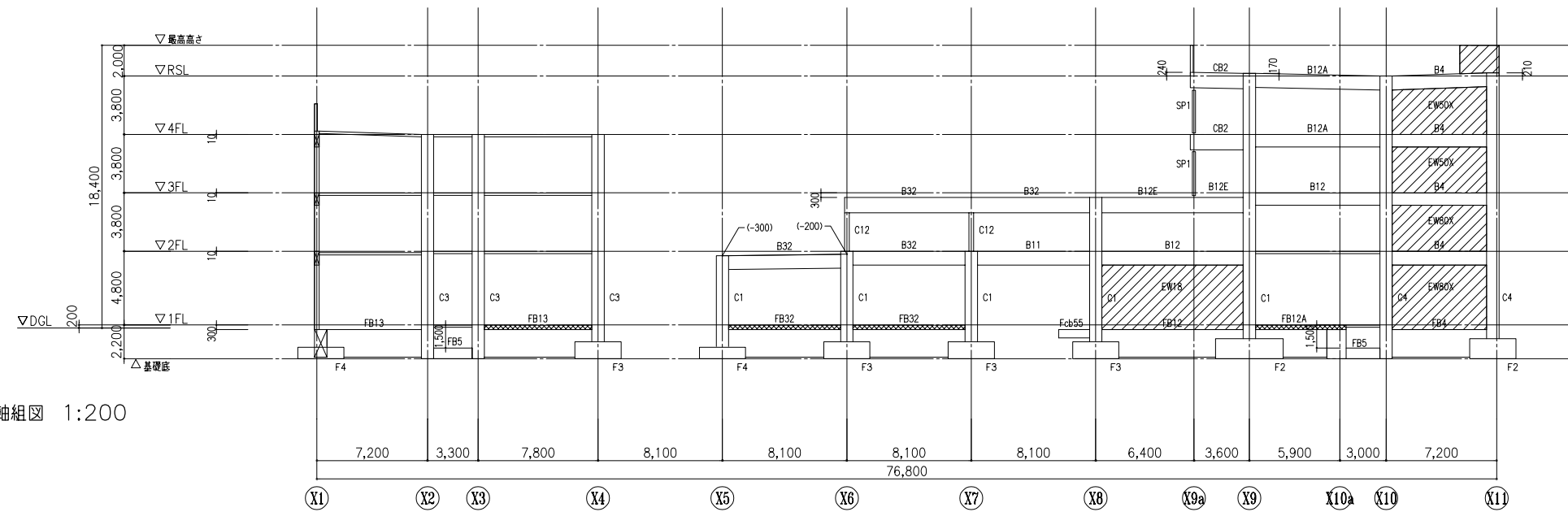
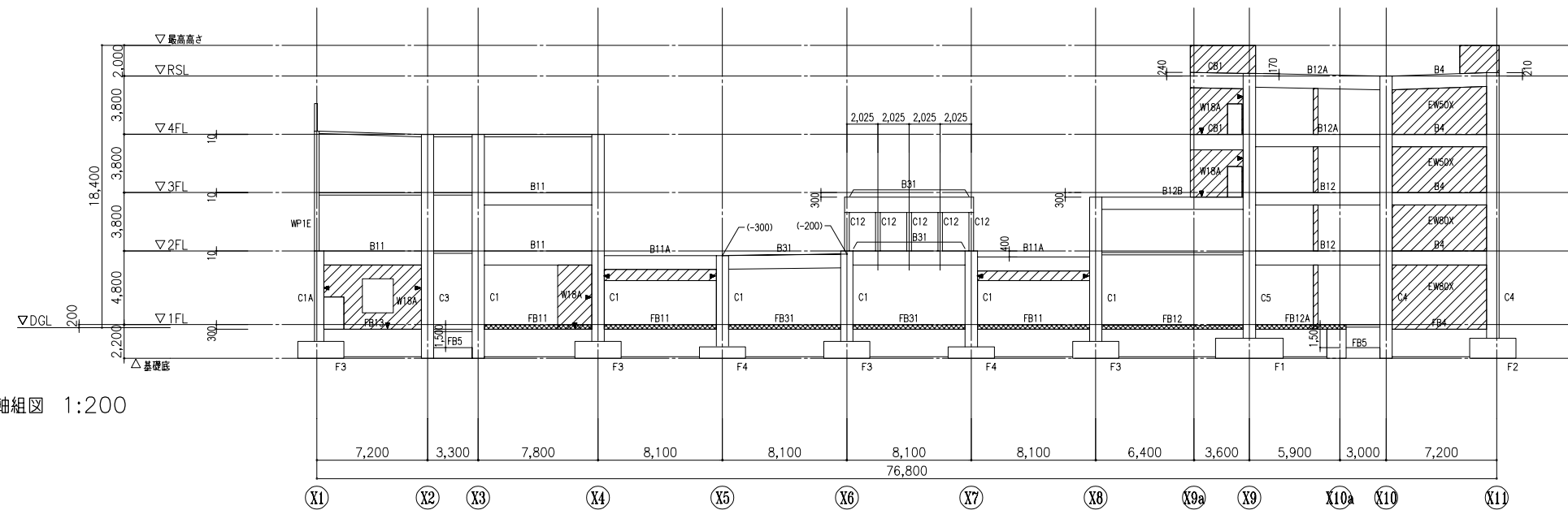
1. 特記無き壁符号: W30
2. 特記無き壁柱符号: WP1



共通事項

特記なき限り下記による。

1. ▼印は構造スリットを示す。スリット幅は30mmとする。
2. は増打ちを示す。
3. は基礎梁上増打ちを示し、スラブレベルまでとする。
4. 壁符号: W18



共通事項

特記なき限り下記による。

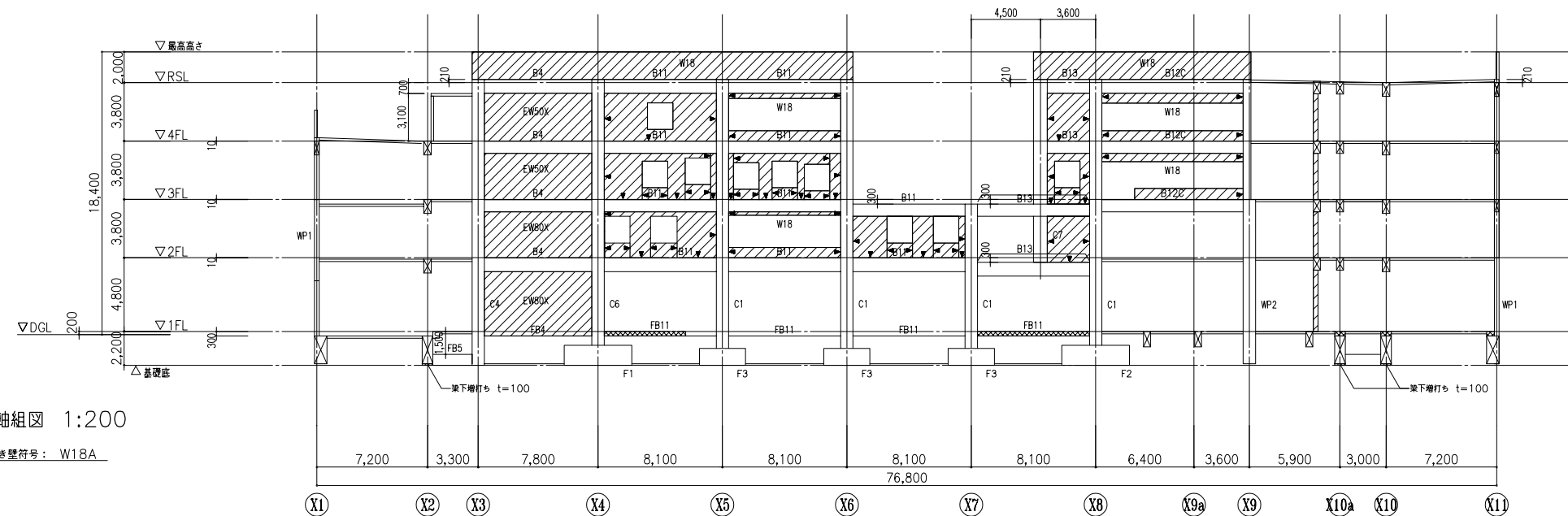
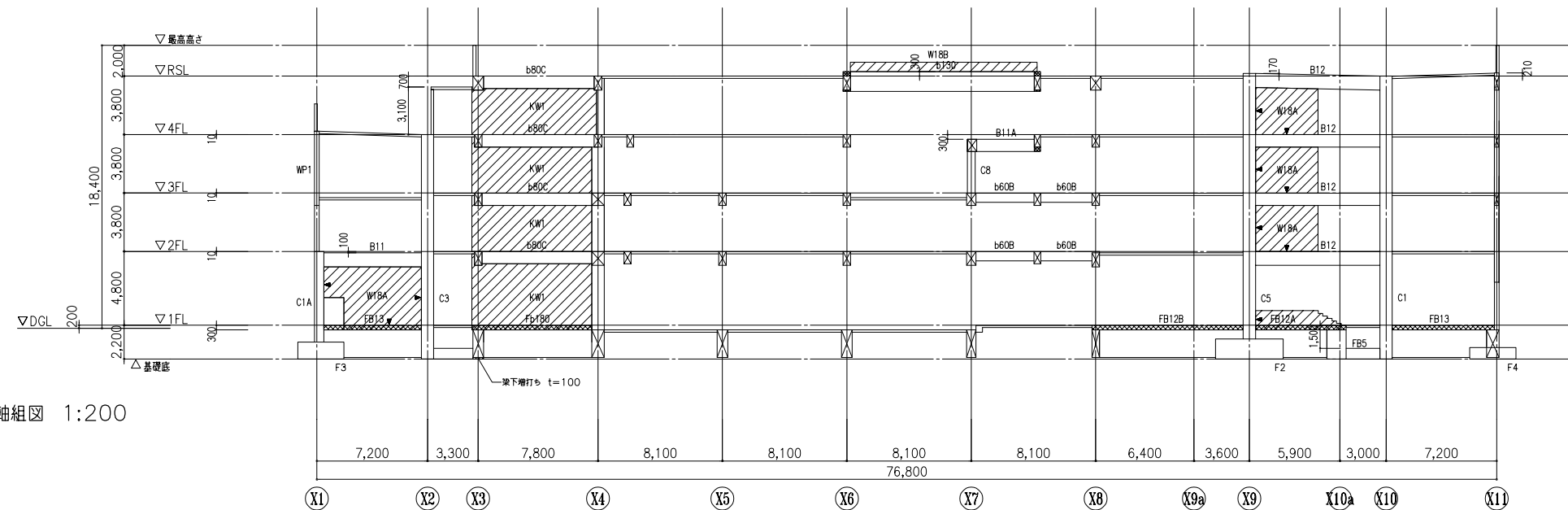
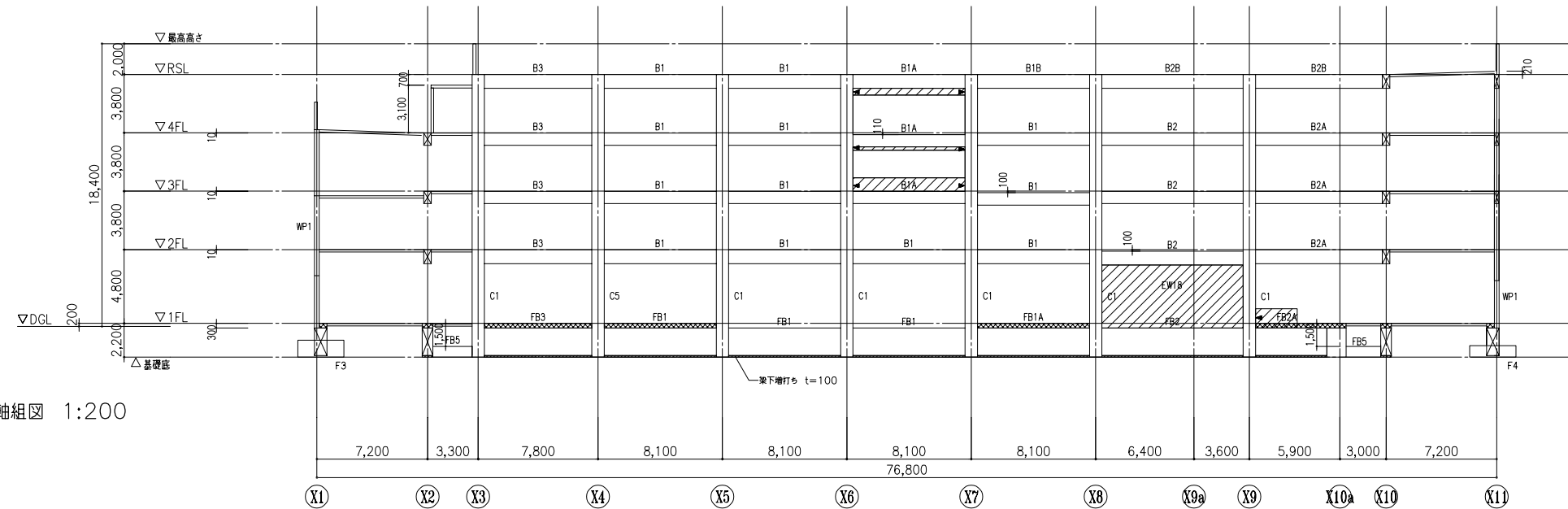
1. ▼印は構造スリットを示す。スリット幅は30mmとする。

2. は増打ちを示す。

3. は基礎梁上増打ちを示し、スラブレベルまでとする。

4. 壁符号: W18

訂正	-				件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
-	-				図面名称	軸組図 - 4	縮尺 A1版 1:200 A3版 1:400	図面番号 S-052
-	-							
-	-							
-	-							



共通事項

特記なき限り下記による。

1. ▼印は構造スリットを示す。スリット幅は30mmとする。

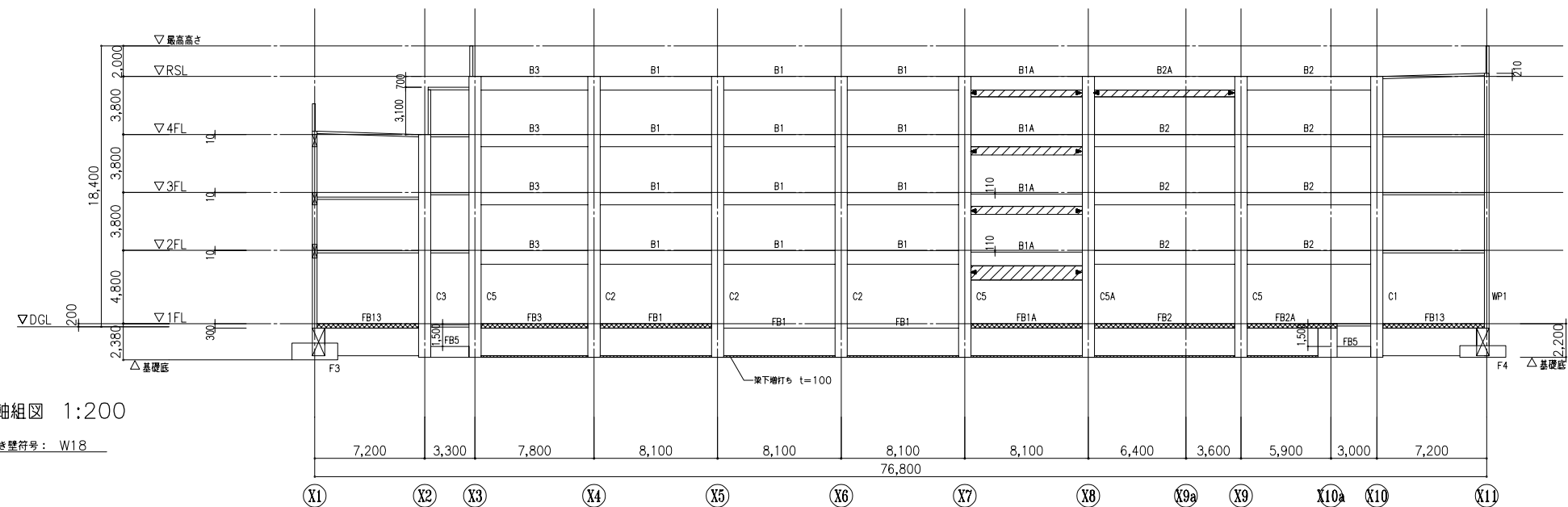
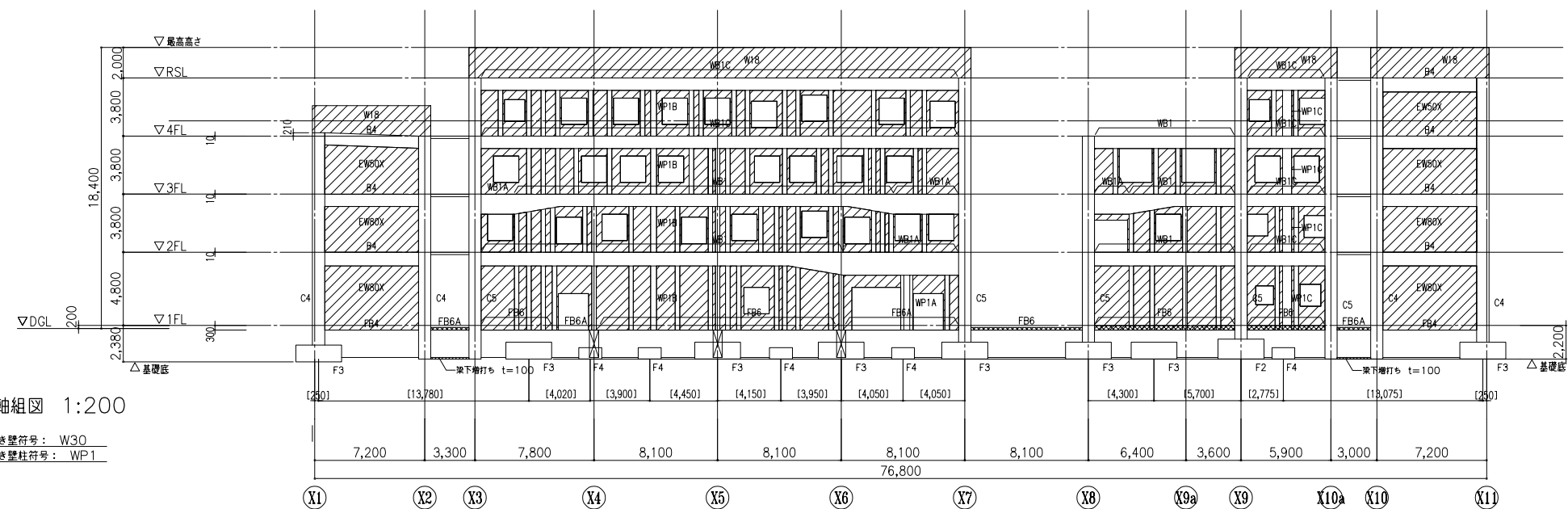
2. は増打ちを示す。

3. は基礎梁上増打ちを示し、スラブレベルまでとする。

4. 壁符号: W18

1. 特記無き壁符号: W18A

訂正	-					件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
	-					図面名称	縦尺	図面番号	
	-					軸組図-5	A1版1:200 A3版1:400	S-053	
	-								
	-								



共通事項

特記なき限り下記による。

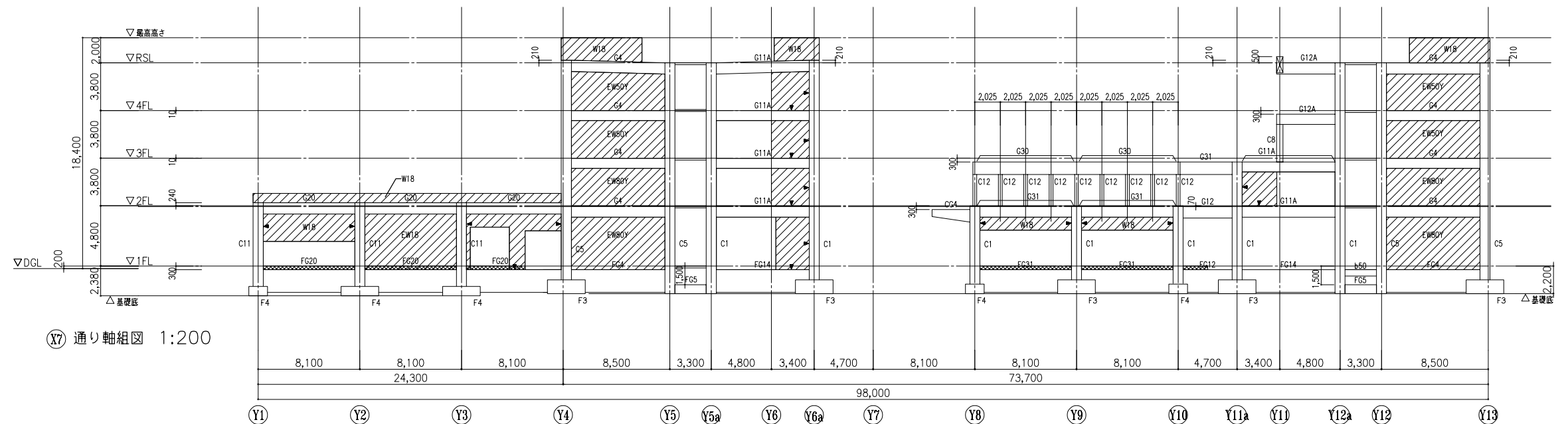
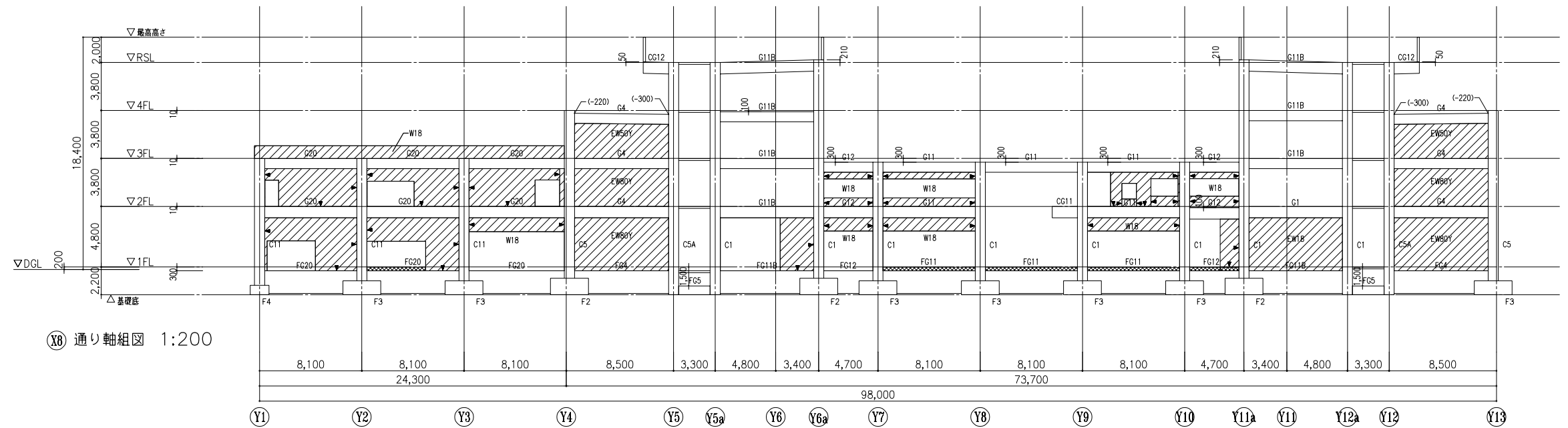
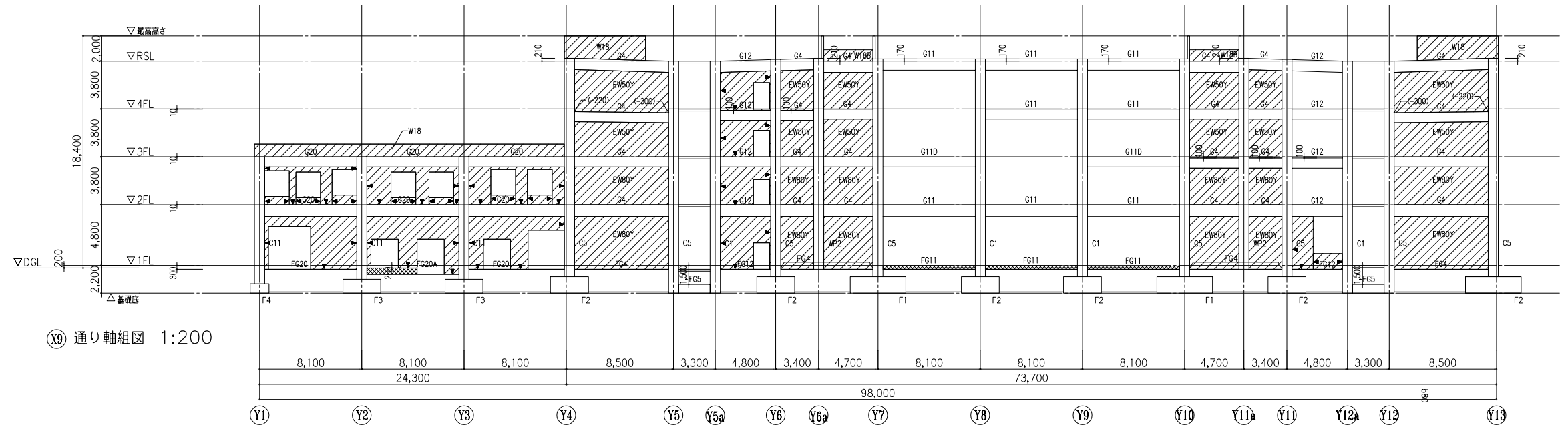
1. ▼印は構造スリットを示す。スリット幅は30mmとする。

2. は増打ちを示す。

3. は基礎梁上増打ちを示し、スラブレベルまでとする。

4. 壁符号: W18

1. 特記無き壁符号: W18



共通事項

特記なき限り下記による。

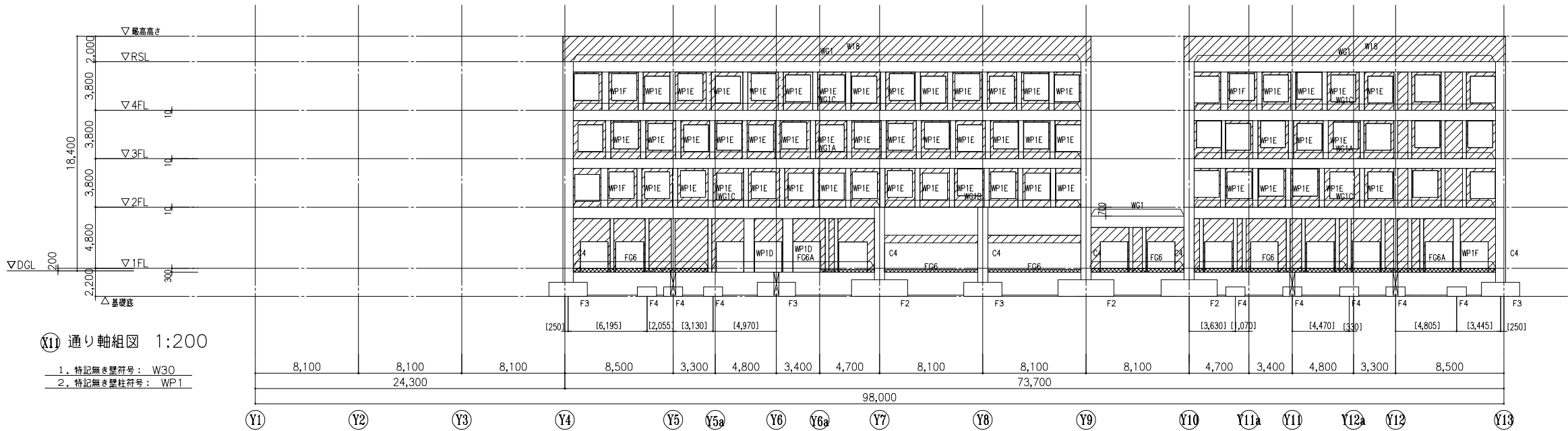
1. ▼印は構造スリットを示す。スリット幅は30mmとする。

2. は増打ちを示す。

3. は基礎梁上増打ちを示し、スラブレベルまでとする。

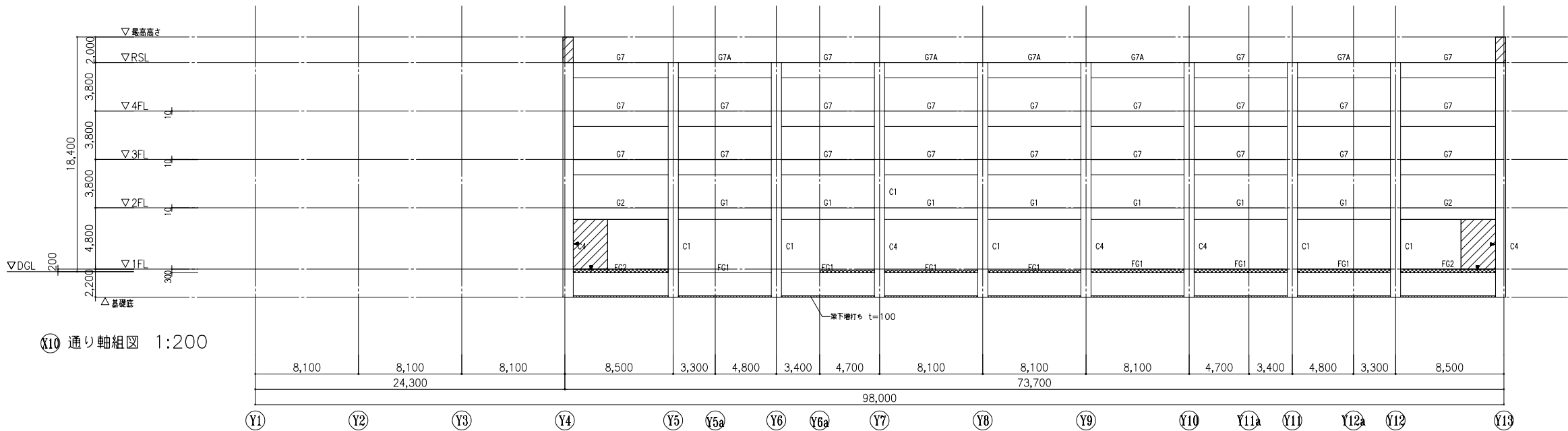
4. 壁符号: W18A

訂正	-					作名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
-	-					図面名称	軸組図-9	図面番号	S-057
-	-						A1版 1:200 A3版 1:400		
-	-								
-	-								



X11 通り軸組図 1:200

- 1. 特記無き壁符号: W30
- 2. 特記無き壁柱符号: WP1



X10 通り軸組図 1:200

- 共通事項
- 特記なき限り下記による。
 - 1. ▼印は構造スリットを示す。スリット幅は30mmとする。
 - 2. 斜線は増打ちを示す。
 - 3. 斜線は基礎梁上増打ちを示し、スラブレベルまでとする。
 - 4. 壁符号: W18A

訂正	.
	.
	.
	.
	.

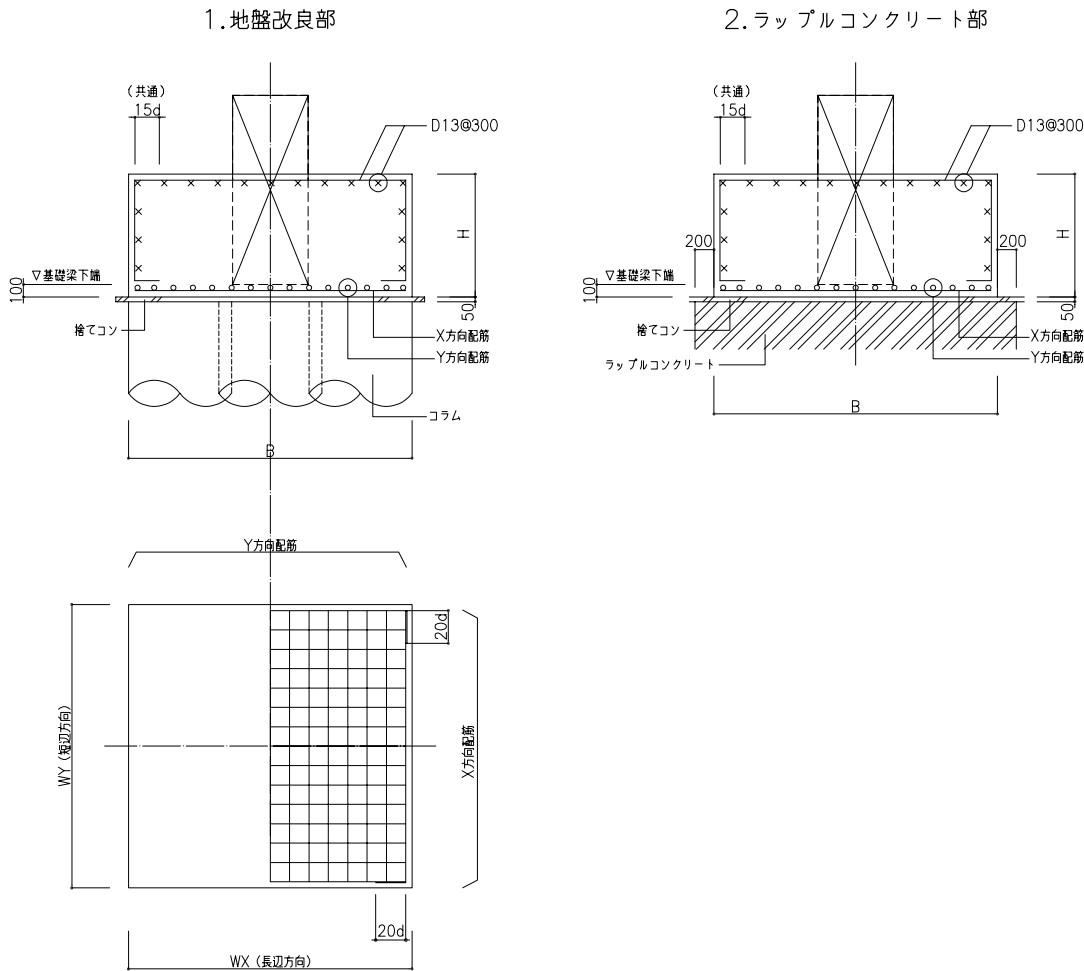
件名
岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校
校舎新築(建築)工事

図面名称
軸組図-10

縮尺
A1版1:200
A3版1:400

図面番号
S-058

基礎リスト

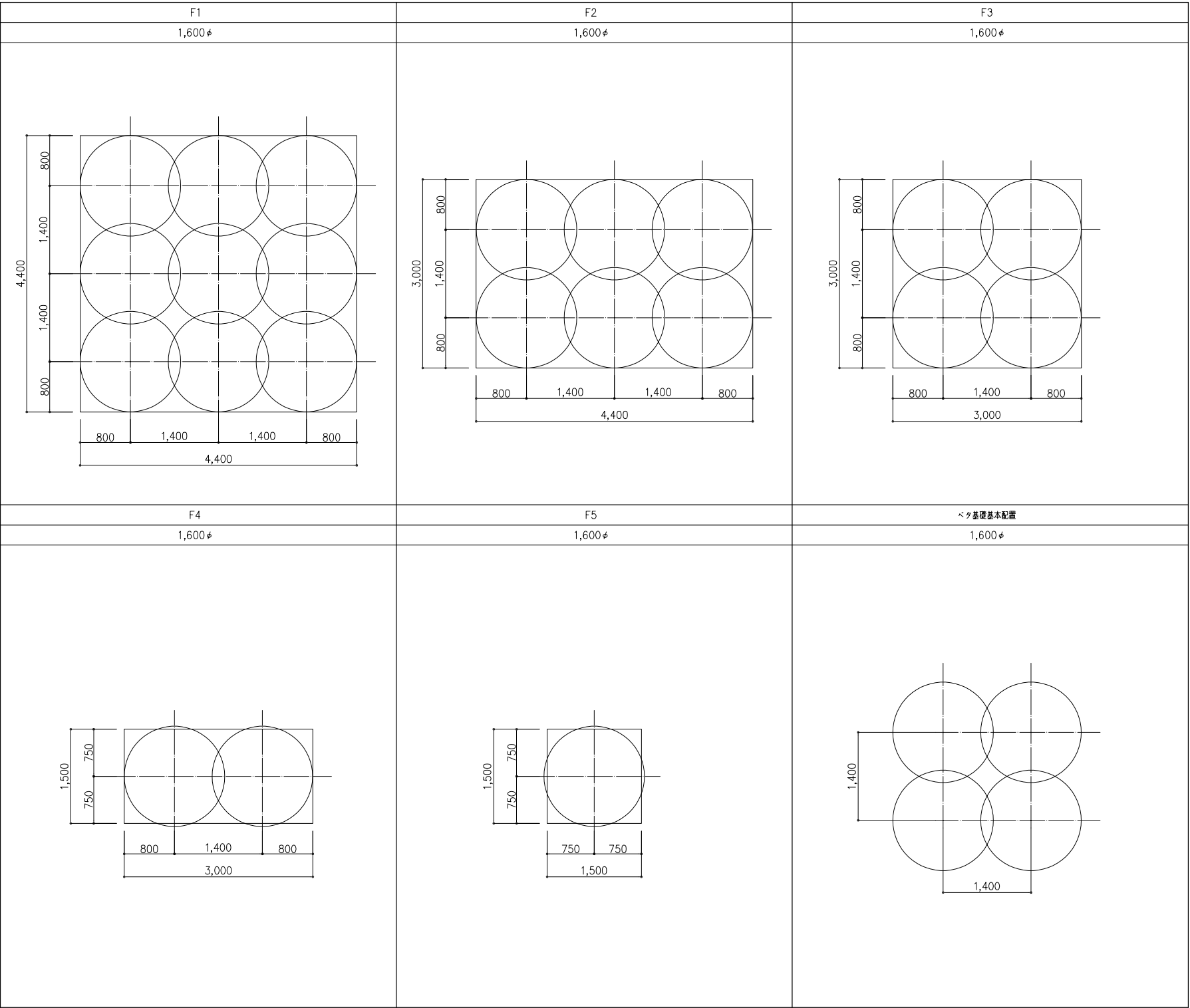


符号	WX	WY	H	X方向配筋	Y方向配筋
F1	4400	4400	1300	44-D22	44-D22
F2	4400	3000	1400	29-D22	36-D22
F3	3000	3000	1100	23-D22	23-D22
F4	3000	1500	1000	23-D22	12-D22
F5	1500	1500	500	12-D19	12-D19

耐圧版リスト

形状	符号	版厚 t	位置	短辺方向	長辺方向	備考
	FS30	300	上端筋	D13@200	D13@200	捨てコン厚50 砕石厚60
			下端筋	D13@200	D13@200	
	FS70	700	上端筋	D19@150	D19@200	ベタ基礎 捨てコン厚50 砕石なし
			下端筋	D19@150	D19@200	
			上端筋			
			下端筋			

地盤改良体配置図



F4
1,600φ

F5
1,600φ

ベタ基礎基本配置
1,600φ

基礎梁断面リスト-1																	共通事項：1. 筋止め筋、腰筋、二段受け筋は鉄筋コンクリート構造基本令照 2. カットオフ長さは標準図S-004に定める値かつ錯考慮の値以上とする。																
符 号		FB1			FB1A			FB2			FB2A			FB3			FB4		FB5														
位 置		両端		中央	X7通端	中央	X8通端	両端		中央	X9通端	中央	X10通端	X3通端	中央	X4通端	全断		全断														
断 面																																	
	上端筋	5-D29		7-D29	6-D29	8-D29	6-D29		12-D29	14-D29		6-D29	6-D29	6-D29	7-D29	9-D29	5-D29	5-D29		11-D29													
	下端筋	10-D29		7-D29	8-D29	6-D29	12-D29		12-D29	8-D29		10-D29	6-D29	6-D29	5-D29	5-D29	9-D29	5-D29		13-D29													
	スタールアップ	3-D13 @200			2-D13 @150				3-D13 @200			3-D13 @200			3-D13 @200			3-D13 @200		4-D13 @100													
備 考		L=2,850			L=3,550				L=3,300			L=2,850			L=3,300																		
符 号		FB6		FB6A		FB6B		FB11			FB12			FB12A			FB12B																
位 置		全断		全断		全断		両端		中央	X8通端	中央	X9通端	X9通端	中央	X10通端	X8通端	中央	X9通端														
断 面																																	
	上端筋	6-D29		10-D29		10-D29		5-D29	3-D29		4-D29	4-D29	6-D29	6-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	6-D29													
	下端筋	6-D29		10-D29		10-D29		4-D29	5-D29		6-D29	6-D29	4-D29	4-D29	4-D29	6-D29	6-D29	6-D29	6-D29	4-D29													
	スタールアップ	3-D13 @200		3-D13 @200		4-D13 @200		2-D13 @200			2-D13 @200			2-D13 @200			2-D13 @200			2-D13 @200													
備 考								L=3,200			L=3,250			L=2,650			L=3,300																
符 号		FB13			FB20		FB21		FB22		FB31		FB32																				
位 置		X1,X4,X11通端	中央	X2,X3,X10通端	全断		両端		全断		全断		全断																				
断 面																																	
	上端筋	3-D29	3-D29	3-D29	3-D29		6-D29	6-D29	3-D29		3-D29		3-D29																				
	下端筋	4-D29	4-D29	3-D29	3-D29		8-D29	10-D29	3-D29		3-D29		3-D29																				
	スタールアップ	2-D13 @200			2-D13 @200		2-D13 @200		2-D13 @200		2-D13 @200		2-D13 @200																				
備 考																																	

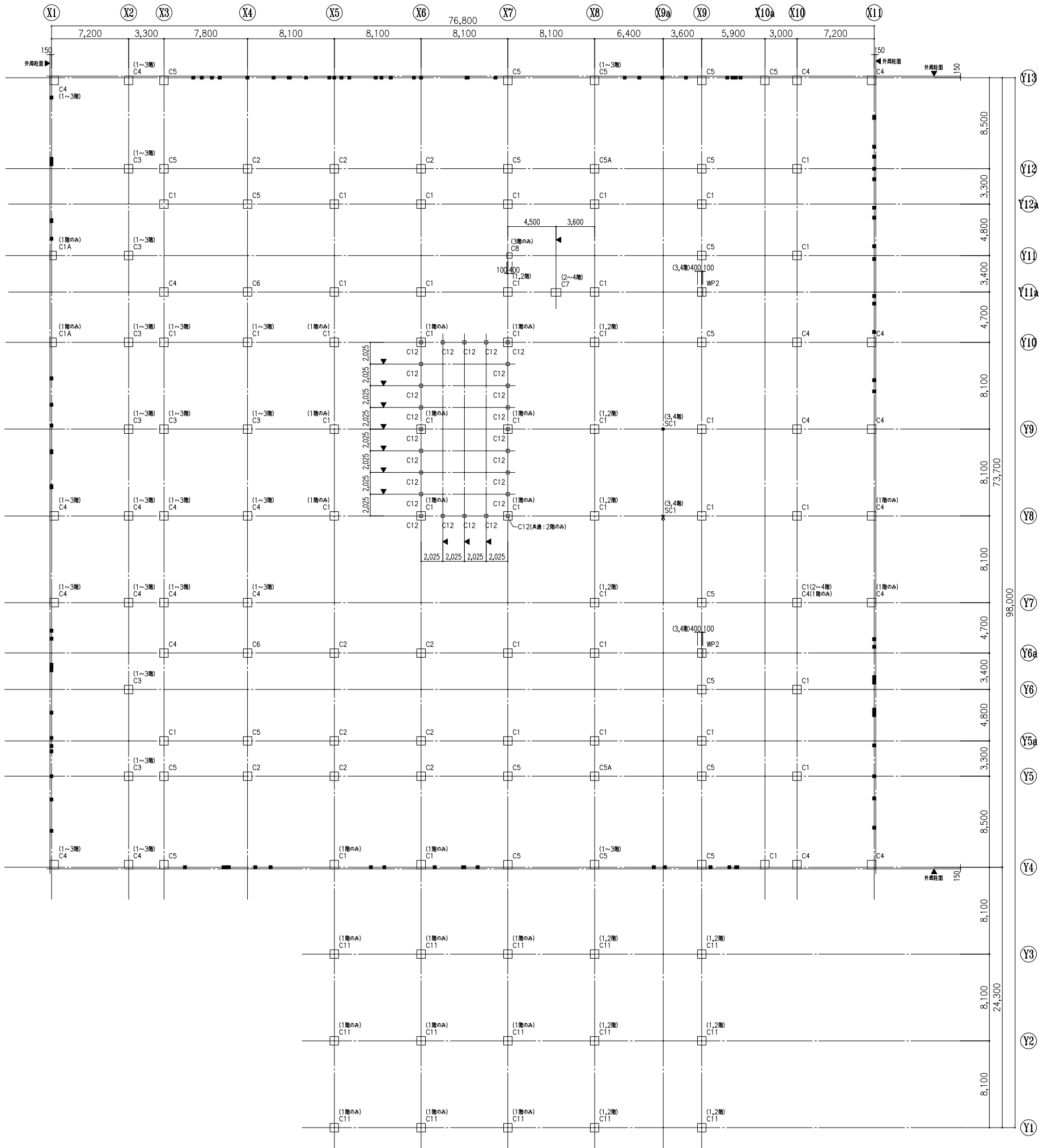
主筋配筋順序

・梁主筋レベルが同じ場合

訂正	・					件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
	・					図面名称	基礎梁断面リスト-1		
	・					縮尺	A1版 1:40 A3版 1:80	図面番号	
	・							S-060	

共通事項：1. 幅止め筋、腰筋、二段受け筋は鉄筋コンクリート構造基準参照
2. カットオフ長さは標準図S-004に定める値かつ備考欄の値以上

	訂正	-					件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
	-	-					図面名称	縮尺 A1版 1:40 A3版 1:80	図面番号 S-061	
	-	-								
	-	-								
	-	-								
							基礎梁断面リスト-2			



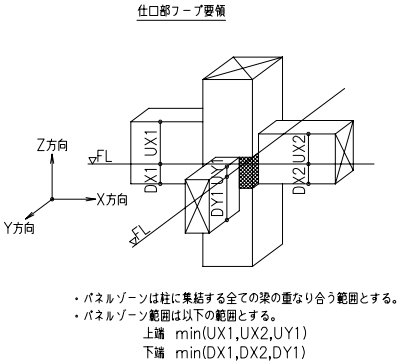
柱芯線図 1:200

- 共通事項
- 特記なき限り下記による。
- 1. 図は1階の柱を示す
 - 2. 柱は1階から4階まで通しとする
 - 3. 柱は通り芯振り分けとする
 - 4. ■ はX1通り・X11通り・Y4通り・Y13通りの
ファサード壁の壁柱(WP**)を示し、位置及び符号は各階伏図に示す



訂正	-					件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	縮尺 A1版1:200 A3版1:400	図面番号 S-062
	-							
	-							
	-							
	-							
	-							
						図面名称 柱芯線図		

柱断面リスト												
共通事項：1.フープはスパイラルフープとし、柱幅300以下のC12、WP1～WP1Fは溶接閉鎖型とする。3. 〃 は寄せ筋を示す。 2.柱梁接合部フープはS-Q05鉄筋コンクリート構造基準図-2による4.主筋の定着には定着版をもちいてもよい。												
符 号	C1	C1A	C2	C3	C4	C5	C5A	C6	C7	C8	C11	C12
4階												
主 筋	20-D29		12-D29		12-D29	12-D29	24-D29	12-D29	22-D29			
フ ー プ	□-D13 @100		□-D13 @100		□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100			
備 考												
3階												
主 筋	20-D29		12-D29	12-D29	12-D29	12-D29	24-D29	12-D29	22-D29	12-D29		
フ ー プ	□-D13 @100		□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100		
備 考												
2階												
主 筋	20-D29		12-D29	12-D29	16-D29	16-D29	24-D29	12-D29	22-D29		12-D29	4-D29
フ ー プ	□-D13 @100		□-D13 @100	□-D13 @100	田-D13 @100	田-D13 @100	田-D13 @100	田-D13 @100	□-D13 @100		□-D13 @100	□-D13 @100
備 考												
1階												
主 筋	20-D29	16-D29	12-D29	12-D29	24-D29	24-D29	24-D29	12-D29			12-D29	
フ ー プ	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	田-D13 @100	田-D13 @100	田-D13 @100	田-D13 @100			□-D13 @100	
備 考												



符 号	WP1	WP1A	WP1B	WP1C	WP1D	WP1E	WP1F	WP2
4階								
主 筋	4-D25		6-D25	8-D25		6-D25	6-D25	10-D29
フ ー プ	□-D16 @100		□-D16 @100	□-D16 @100		□-D16 @100	□-D16 @100	□-D16 @100
備 考								
3階								
主 筋	4-D25	10-D25	6-D25	8-D25	8-D25	6-D25		10-D29
フ ー プ	□-D16 @100	□-D16 @100	□-D16 @100	□-D16 @100	□-D16 @100	□-D16 @100		□-D16 @100
備 考								
2階								
主 筋	4-D25		6-D25	8-D25	8-D25	6-D25	6-D25	12-D29
フ ー プ	□-D16 @100		□-D16 @100	□-D16 @100	□-D16 @100	□-D16 @100	□-D16 @100	□-D16 @100
備 考								
1階								
主 筋	4-D25	10-D25	6-D25	8-D25	10-D25	6-D25	6-D25	12-D29
フ ー プ	□-D16 @100	□-D16 @100	□-D16 @100	□-D16 @100	□-D16 @100	□-D16 @100	□-D16 @100	□-D16 @100
備 考								

基礎柱断面リスト

断 面	
主 筋	28-D25
フ ー プ	□-D13 @100
備 考	1F/X10a通り/Y5～Y12

2. カットオフ長さは標準図S-005に定める値かつ備考欄の値以上とする。

図面番号
S-064

共通事項：1. 幅止め筋、腰筋、二段受け筋は鉄筋コンクリート構造基準参照
2. カットオフ長さは標準図S-005に定める値かつ備考欄の値以上

主筋配筋順序

図面番号
S-065

共通事項：1. 幅止め筋、腰筋、二段受け筋は鉄筋コンクリート構造基準参照
2. カットオフ長さは標準図S-005に定める値かつ備考欄の値以上

図面番号 S-066

大梁断面リスト-4										
共通事項：1. 斜止め筋、腹筋、二段受け筋は鉄筋コンクリート構造基本法規 2. カットオフ長さは標準図S-005に定める値かつ錯考慮の値以上とする。										
符 号	B32		WB1	WB1A	WB1B	WB1C				
位 置			全断			全断				
R 階										
			上横筋	2-D25				4-D25		
			下横筋	2-D25				4-D25		
			スターラップ	2-D13 @100				2-D13 @100		
			備 考	腹筋：6-D16				腹筋：6-D16		
位 置			全断			全断				
4 階										
			上横筋	2-D25				4-D25		
			下横筋	2-D25				4-D25		
			スターラップ	2-D13 @100				2-D13 @100		
			備 考	腹筋：6-D16				腹筋：6-D16		
位 置	全断		全断	全断	全断	全断				
3 階										
	上横筋	3-D25		2-D25	4-D25	4-D25	4-D25			
	下横筋	2-D25		2-D25	4-D25	4-D25	4-D25			
	スターラップ	2-D13 @200		2-D13 @100	2-D13 @100	2-D13 @100	2-D13 @100			
	備 考			腹筋：6-D16	腹筋：12-D16	腹筋：14-D16	腹筋：6-D16			
位 置	両端	中央	全断	全断	全断	全断				
2 階										
	上横筋	7-D25	4-D25	2-D25	4-D25	4-D25	4-D25			
	下横筋	4-D25	6-D25	2-D25	4-D25	4-D25	4-D25			
	スターラップ	3-D13 @200		2-D13 @100	2-D13 @100	2-D13 @100	2-D13 @100			
	備 考	L=2,400		腹筋：6-D16	腹筋：16-D16	腹筋：22-D16	腹筋：6-D16			

主筋配筋順序

・梁主筋レベルが同じ場合

X方向

Y方向

Y方向

X方向

	訂正	・					件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
		・					図面名称	大梁断面リスト-4	縮尺	A1版 1:40 A3版 1:80
		・					図面番号	S-067		
		・								

大梁断面リスト-5																			共通事項：1. 筋止め筋、腰筋、二段受け筋は鉄筋コンクリート構造基本令照 2. カットオフ長さは標準図S-005に定める値かつ筋考量の値以上とする。									
符 号	G1			G1A			G2			G2A			G3	G4	G7		G7A											
位 置				両端	中央		両端	中央		Y4,Y13通端	中央	Y5,Y12通端		全断	両端	中央	両端	中央										
R 階																												
上端筋							6-D25	4-D25					5-D25	3-D25	3-D25		4-D25	4-D25	3-D25	5-D25	3-D25							
下端筋							5-D25	8-D25					5-D25	6-D25	5-D25		4-D25	3-D25	3-D25	3-D25	4-D25							
スターラップ							2-D13 @200						2-D13 @200 L=2,450				2-D13 @200	2-D13 @200		2-D13 @200								
筋 考				両端	中央		両端	中央		Y4,Y13通端	中央	Y5,Y12通端	全断	全断	両端	中央	L=2,600											
4 階																												
上端筋	6-D25	4-D25		6-D25	4-D25		7-D25	4-D25		5-D25	3-D25	3-D25	3-D25	4-D25	5-D25	3-D25												
下端筋	4-D25	5-D25		4-D25	5-D25		4-D25	5-D25		3-D25	5-D25	3-D25	3-D25	4-D25	3-D25	4-D25												
スターラップ	2-D13 @200			2-D13 @200			2-D13 @200 L=2,350			2-D13 @200			2-D13 @200	2-D13 @200	2-D13 @200 L=2,650													
筋 考				両端	中央		両端	中央		Y4,Y13通端	中央	Y5,Y12通端	全断	全断	両端	中央												
3 階																												
上端筋	6-D25	4-D25		6-D25	4-D25		7-D25	4-D25		5-D25	3-D25	3-D25	3-D25	5-D25	5-D25	3-D25												
下端筋	4-D25	5-D25		4-D25	5-D25		4-D25	5-D25		3-D25	5-D25	3-D25	3-D25	5-D25	3-D25	4-D25												
スターラップ	2-D13 @200			2-D13 @200			2-D13 @200 L=2,350			2-D13 @200			2-D13 @200	2-D13 @200	2-D13 @200 L=2,650													
筋 考				両端	中央		両端	中央		Y4,Y13通端	中央	Y5,Y12通端	全断	全断														
2 階																												
上端筋	5-D25	4-D25		5-D25	4-D25		5-D25	4-D25		5-D25	3-D25	3-D25	3-D25	5-D25														
下端筋	4-D25	4-D25		4-D25	4-D25		4-D25	4-D25		3-D25	5-D25	3-D25	3-D25	5-D25														
スターラップ	2-D13 @200			2-D13 @200			2-D13 @200			2-D13 @200 L=2,450			2-D13 @200	2-D13 @200														
筋 考										L=2,450																		

主筋配筋順序

・梁主筋レベルが同じ場合

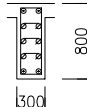
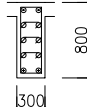
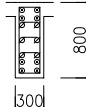
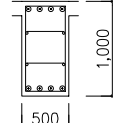
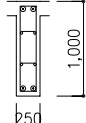
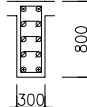
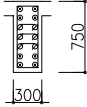
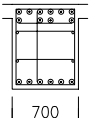
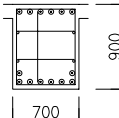
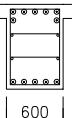
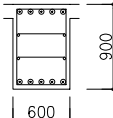
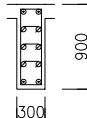
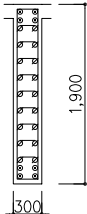
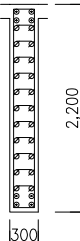
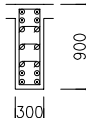
訂正	・					件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		縮尺	A1版 1:40 A3版 1:80	図面番号	S-068
	・					図面名称	大梁断面リスト-5					
	・											
	・											

大梁断面リスト-6															
共通事項：1. 筋止め筋、腰筋、二段受け筋は鉄筋コンクリート構造基本令照 2. カットオフ長さは標準図S-005に定める値かつ筋考欄の値以上とする。															
符 号	G11		G11A	G11B		G11C			G11D	G12	G12A			G20	
位 置	両端	中央	全断	両端	中央	Y11a通端	中央	Y12a通端		全断	Y11通端	中央	Y12a通端		
R階															
上端筋	6-D25	4-D25	4-D25	6-D25	4-D25	8-D25	6-D25	6-D25		4-D25	6-D25	11-D25	11-D25		
下端筋	5-D25	7-D25	4-D25	4-D25	6-D25	8-D25	11-D25	8-D25		4-D25	6-D25	6-D25	6-D25		
スターラップ	2-D13 @200		2-D13 @200	2-D13 @200		3-D13 @200				2-D13 @200	3-D13 @200				
備 考															
位 置	両端	中央	全断	全断		Y11a通端	中央	Y12a通端		全断	Y11通端	中央	Y12a通端		
4階															
上端筋	6-D25	4-D25	4-D25	4-D25		7-D25	4-D25	4-D25		4-D25	5-D25	6-D25	6-D25		
下端筋	4-D25	5-D25	4-D25	4-D25		4-D25	6-D25	4-D25		4-D25	5-D25	5-D25	5-D25		
スターラップ	2-D13 @200		2-D13 @200	2-D13 @200		2-D13 @200				2-D13 @200	2-D13 @200				
備 考															
位 置	両端	中央	全断	両端	中央				両端	中央	全断			両端	中央
3階															
上端筋	6-D25	4-D25	4-D25	6-D25	4-D25				10-D25	6-D25	4-D25			7-D25	4-D25
下端筋	4-D25	5-D25	4-D25	4-D25	6-D25				6-D25	8-D25	4-D25			4-D25	6-D25
スターラップ	2-D13 @200		2-D13 @200	2-D13 @200					3-D13 @200		2-D13 @200			2-D13 @200	
備 考															
位 置	両端	中央	全断	両端	中央						全断			両端	中央
2階															
上端筋	6-D25	4-D25	4-D25	6-D25	4-D25						4-D25			8-D25	4-D25
下端筋	4-D25	5-D25	4-D25	4-D25	6-D25						4-D25			4-D25	6-D25
スターラップ	2-D13 @200		2-D13 @200	2-D13 @200							2-D13 @200			2-D13 @200	
備 考															

主筋配筋順序

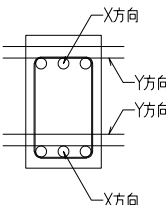
・梁主筋レベルが同じ場合

	訂正						件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
							図面名称	大梁断面リスト-6	縮尺	図面番号
									A1版 1:40 A3版 1:80	S-069

大梁断面リスト-7									
共通事項：1. 筋止め筋、腰筋、二段受け筋は鉄筋コンクリート構造基本準拠 2. カットオフ長さは標準図S-005に定める値かつ備考欄の値以上とする。									
符 号	G20A		G30	G31		WG1	WG1A	WG1B	WG1C
位 置						全断			
R 階									
						2-D25			
						2-D25			
						2-D13 @100			
備 考						腰筋：6-D16			
位 置						全断			全断
4 階									
						2-D25			4-D25
						2-D25			4-D25
						2-D13 @100			2-D13 @100
備 考						腰筋：6-D16			腰筋：6-D16
位 置			全断	全断		全断	全断		
3 階									
			4-D25	2-D25		2-D25	4-D25		
			4-D25	2-D25		2-D25	4-D25		
			2-D13 @200	2-D13 @200		2-D13 @100	2-D13 @100		
備 考						腰筋：6-D16	腰筋：6-D16		
位 置	面端	中央		面端	中央	全断	全断	全断	全断
2 階									
	10-D25	6-D25		7-D25	5-D25	2-D25	4-D25	4-D25	4-D25
	6-D25	8-D25		5-D25	5-D25	2-D25	4-D25	4-D25	4-D25
	3-D13 @200			2-D13 @200		2-D13 @100	2-D13 @100	2-D13 @100	2-D13 @100
備 考	L=2,350					腰筋：6-D16	腰筋：18-D16	腰筋：22-D16	腰筋：6-D16

主筋配筋順序

・梁主筋レベルが同じ場合

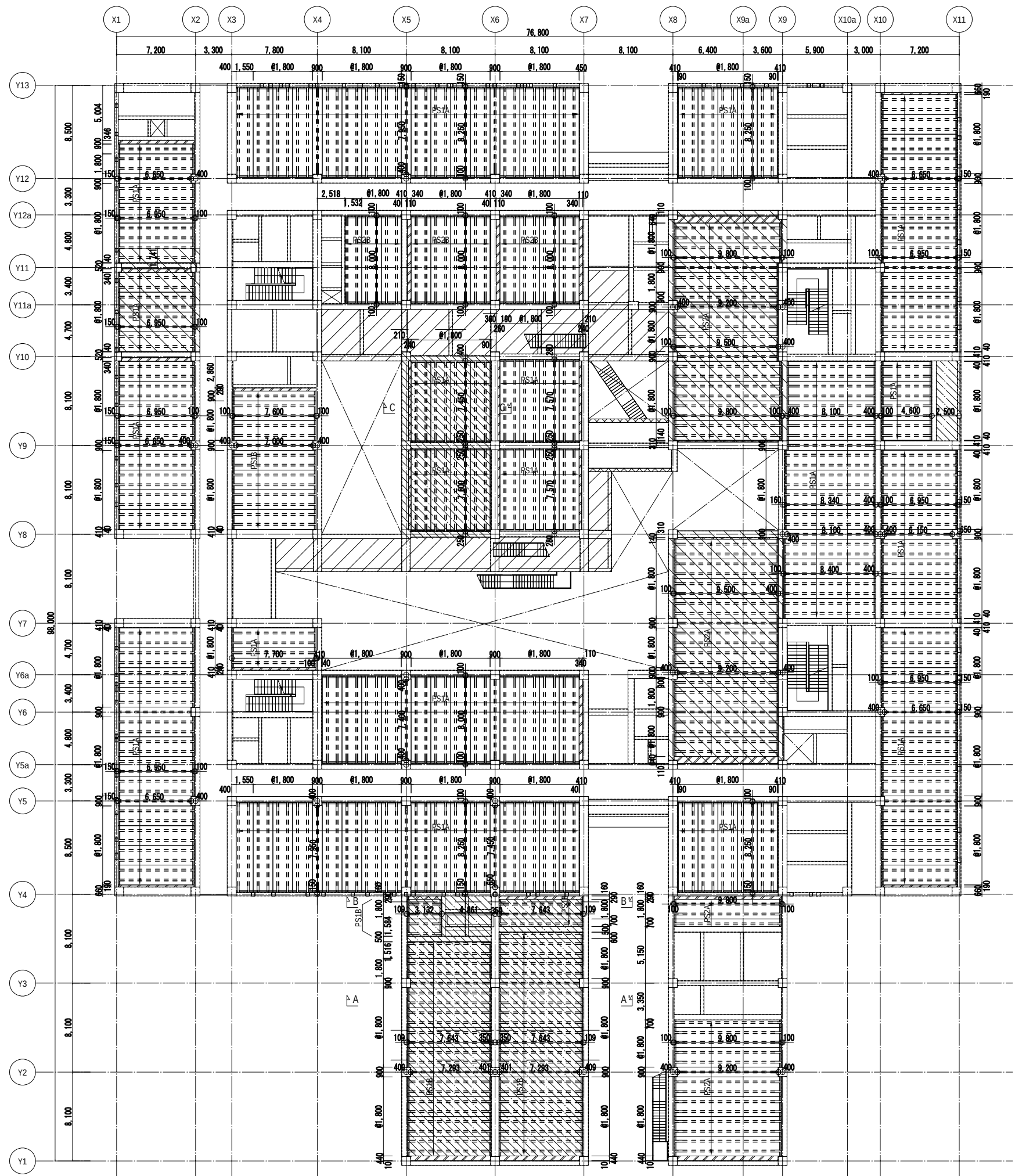


	訂正	-				件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
		-				図面名称	大梁断面リスト-7		
		-				縮尺	A1版 1:40 A3版 1:80		図面番号
		-							S-070

プレストレストコンクリート合成床板製作・工事特記事項																																																				
1 一般事項	1-1 適用範囲	本仕様書は工場で製造された床板・屋根板等のプレストレストコンクリート合成床板部材（以下、部材という）の製作・施工に適用する。なお、トッピングコンクリート工事は含まない。 本工事は下記基準に準拠する。 1) 建築基準法、同法施行令80条の2の規定に基づく昭和58年建設省告示第1320号 2) 『プレストレストコンクリート造技術基準解説及び設計・計算例』2009年 国土交通省国土技術政策総合研究所、建築研究所 3) 『プレストレストコンクリート設計施工規準・同解説』2022年 日本建築学会 4) 『プレストレスト鉄筋コンクリート（Ⅲ種PC）構造設計・施工指針・同解説』2003年 日本建築学会 5) 『建築工事標準仕様書・同解説 JASS10 プレキャスト鉄筋コンクリート工事』（以下、JASS10 という）2013年 日本建築学会 6) 『建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事』（以下、JASS5 という）2022年 日本建築学会	4 部材の製作	4-1 製作要領書 および製作図	1) 部材製作にあたって、製造者は部材製作要領書を作成し、工事監理者に確認する。 2) 部材製作にあたって、施工者または製造者は部材製作図を作成し、工事監理者の承認を得る。 部材製作は、確認された部材製作要領書に基づき正確かつ適正に行う。 1) 型枠は、コンクリート打込み時の振動や組立て時、脱型時の取扱い等により、そり・ねじれ・ゆがみ等が生じないよう、適度な強度と剛性を有するものとする。 2) 脱型前にプレストレスを導入する部材の型枠は、プレストレス導入を妨げない構造とする。 3) 型枠は十分に清掃し、曲がり・ねじれ等がなく、寸法および角度を正しく保つように組立てて設置する。 1) 鉄筋の加工および組立ては、部材製作図による他 JASS10 による。 2) 鉄筋のあきは、JASS5 による。 3) 設計図に指示がない場合、並行する鉄筋とPC鋼材またはアンボンドPC鋼材とのあきは20mm以上、粗骨材最大寸法の1.25倍以上、かつ、鉄筋直径以上とする。ただし、コンクリートを十分締固められ、付着応力に問題がない場合は、工事監理者と協議の上、接触して配置してもよい。	5 製品検査	6) プレストレスの導入にあたっては、事前に緊張計算書を作成し、部材製作要領書に明記する。 7) 緊張計算に用いるPC鋼材の見掛けのヤング係数は、次の表の値を用いるか、各工法のマニュアルに記載された値を用いてよい。 <table><tr><th>緊張材の種類</th><th>見掛けのヤング係数 kN/mm²</th></tr><tr><td>PC鋼より線</td><td>190</td></tr><tr><td>PC鋼棒</td><td>200</td></tr></table> 8) PC鋼材に与える緊張力は、荷重計の示度およびPC鋼材の伸びを測定して確認する。測定した示度と伸び量が、それぞれ緊張計算書で定めた管理範囲に収まるように管理する。 9) アンボンドPC鋼材の切断は、専用の油圧カッターまたはディスクグラインダー等を用いて行い、ガス切断は行ってはならない。 10)外部に面する部分の鋼材端（キャストイング、アンボンドPC鋼材等）には、エポキシ樹脂を塗布し防錆する。 11)緊張端の座掘、スリーブ付き支柱板のスリーブ部分などには、無収縮モルタルを詰めて定着具を被覆する。ただし、部材架設後に定着具が場所打ちコンクリートに埋まる部分は、被覆を省略してもよい。	緊張材の種類	見掛けのヤング係数 kN/mm ²	PC鋼より線	190	PC鋼棒	200	8 部材の架設	8-1 部材の架設	1) 部材の架設作業は施工計画に従い順序よく行う。 2) 部材の架設作業は専任担当者を定め、その指示に従って行う。 3) 部材の仮置きに際しては適切な架台を設け、部材に曲がり・ねじれ・有害なひび割れおよび破損が生じないようにする。 4) 現場における施工精度は、施工計画書による。 5) 運搬および架設時にひび割れや破損が生じた部材は、工事監理者の指示に従い処置する。																																				
	緊張材の種類	見掛けのヤング係数 kN/mm ²																																																		
PC鋼より線	190																																																			
PC鋼棒	200																																																			
2 材料	2-1 セメント	セメントは、普通ポルトランドセメントまたは早強ポルトランドセメント（JIS R 5210 規格品）を用いることを原則とする。	4-2 製作	4-5 PC鋼材配置 (ポストテンション)	1) ポストテンション部材のアンボンドPC鋼材は、コンクリート打込み時に位置ずれを起こさないよう固定する。 2) 設計図に指示がない場合、アンボンドPC鋼材相互のあきは30mm以上、かつ、粗骨材最大寸法の1.25倍以上とする。ただし、コンクリートを十分締固められる場合は、工事監理者と協議の上、接触して配置してもよい。 3) アンボンドPC鋼材配置の許容差は、以下の値を標準とする。 <table><tr><th>部材の最小寸法</th><th>許容差</th></tr><tr><td>200mm未満の部位</td><td>± 7mm</td></tr><tr><td>200mm以上600mm未満の部位</td><td>± 10mm</td></tr><tr><td>600mm以上の部位</td><td>± 15mm</td></tr></table>	部材の最小寸法	許容差	200mm未満の部位	± 7mm	200mm以上600mm未満の部位	± 10mm	600mm以上の部位	± 15mm	5-1 検査項目	部材の検査は、コンクリート強度・形状寸法・ひび割れ・破損・仕上げおよび先付部品の取付け位置について行う。 部材のコンクリート強度の検査は、脱型時（プレストレス導入時）・出荷時・管理材齢時に行う。また、コンクリート強度試験用供試体の採取および養方法は、下記を標準とする。 <table><tr><th>材齢</th><th>脱型（導入）</th><th>出荷時</th><th>28日（管理材齢）</th><th>予備</th><th>計</th></tr><tr><td>養生</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>部材同一</td><td>3</td><td>3</td><td>—</td><td>3</td><td>9</td></tr><tr><td>標準</td><td>—</td><td>—</td><td>3</td><td>—</td><td>3</td></tr></table>	材齢	脱型（導入）	出荷時	28日（管理材齢）	予備	計	養生						部材同一	3	3	—	3	9	標準	—	—	3	—	3	9 特記事項	9-1 コンクリート強度	（単位：N/mm²） <table><tr><th>構造種別</th><th>設計基準強度</th><th>PC導入時強度</th><th>脱型時強度</th><th>備考</th></tr><tr><td>PC合成床板</td><td>60</td><td>30</td><td>30</td><td>プレテンション方式</td></tr></table>	構造種別	設計基準強度	PC導入時強度	脱型時強度	備考	PC合成床板	60	30	30	プレテンション方式
	部材の最小寸法	許容差																																																		
200mm未満の部位	± 7mm																																																			
200mm以上600mm未満の部位	± 10mm																																																			
600mm以上の部位	± 15mm																																																			
材齢	脱型（導入）	出荷時	28日（管理材齢）	予備	計																																															
養生																																																				
部材同一	3	3	—	3	9																																															
標準	—	—	3	—	3																																															
構造種別	設計基準強度	PC導入時強度	脱型時強度	備考																																																
PC合成床板	60	30	30	プレテンション方式																																																
3 製品規格	2-2 骨材	骨材は JASS10 による。	4-3 型枠	4-6 PC鋼材配置 (プレテンション)	1) PC鋼材の配線に先立ち、その種類、径を確認する。 2) PC鋼材は、配線作業の際、型枠の剥離材・ゴミ・土等の有害物が付着しないようにする。	5-2 コンクリート強度	部材のコンクリート強度の検査は、脱型時（プレストレス導入時）・出荷時・管理材齢時に行う。また、コンクリート強度試験用供試体の採取および養方法は、下記を標準とする。	9-2 PC鋼材の仕様	<table><tr><th>No.</th><th>種類</th><th>断面積 (mm²)</th><th>引張荷重 (kN/c)</th><th>降伏荷重 (kN/c)</th><th>許容引張荷重 導入時 (kN/c)</th><th>定着完了時 (kN/c)</th><th>初緊張力 (kN/c)</th></tr><tr><td>(1)</td><td>PC鋼より線 12.7mm (SWPR7BL)</td><td>98.7</td><td>183</td><td>156</td><td>133</td><td>125</td><td>125</td></tr></table> 註：初緊張力に対し、ジャッキ内ロス・温度補正等を別途考慮して、製作時の作業緊張力を求め、緊張計算書に記載する。	No.	種類	断面積 (mm ²)	引張荷重 (kN/c)	降伏荷重 (kN/c)	許容引張荷重 導入時 (kN/c)	定着完了時 (kN/c)	初緊張力 (kN/c)	(1)	PC鋼より線 12.7mm (SWPR7BL)	98.7	183	156	133	125	125																											
	No.	種類	断面積 (mm ²)	引張荷重 (kN/c)	降伏荷重 (kN/c)	許容引張荷重 導入時 (kN/c)	定着完了時 (kN/c)	初緊張力 (kN/c)																																												
(1)	PC鋼より線 12.7mm (SWPR7BL)	98.7	183	156	133	125	125																																													
	2-3 練混ぜ水	練混ぜ水は JASS10 による。	2-4 混和材料	1) 混和材料は JASS10 による。 2) 混和材料は、PC鋼材を腐食させたり、PC鋼材の付着性能を低下させるようなものを用いない。	4-7 緊張 (プレテンション)	1) プレテンション部材のPC鋼材の初緊張力は特記による。 2) プレストレスの導入にあたっては、事前に緊張計算書を作成し、部材製作要領書に明記する。 3) PC鋼材の伸び量は、緊張時の定着具のセット量・接合具のセット量・アパットの移動等による損失を見込んで計算により求める。また、必要に応じ、緊張後におけるPC鋼材の温度変化に対する補正を行う。 4) 緊張力はジャッキの圧力計によって確認し、最終伸び量を測定して、計算伸び量と比較確認の上で記録する。 5) 緊張計算に用いるPC鋼材のヤング係数は、ミルシートの値による。	5-3 形状寸法の検査	1) 形状寸法の検査項目は部材の種類に応じて定め、部材製作要領書に明記する。 2) 検査の方法および測定器具は、部材の種類に応じて定める。 1) 検査は下記事項について行う。 a.コンクリートのひび割れおよび破損 b.先付部品の破損および取付位置のずれ・ゆがみ c.コンクリート表面の仕上げ 2) コンクリートのひび割れ・破損および仕上げの検査は目視による。	9-3 型枠	原則として、型枠は鋼製型枠とする。																																										
	2-5 鉄筋および溶接金網	鉄筋および溶接金網は下記の規定に適合するものを用いる。 JIS G 3112（鉄筋コンクリート用棒鋼） JIS G 3551（溶接金網及び鉄筋格子）	2-6 鉄筋の継手および機械式定着	鉄筋継手に機械式継手を用いる場合、および、鉄筋定着に機械式定着工法を用いる場合は、性能・納まりを検討して選定し、工事監理者に確認する。	4-8 打込み前検査	1) PC鋼材は JIS G 3536（PC鋼線及びPC鋼より線）、JIS G 3109（PC鋼棒）、JIS G 3137（細径異形PC鋼棒）に適合するもの、またはこれらと同等以上の品質を有するものとする。 2) PC鋼材は有害なきずや変形および過度のさびなどがなく、表面に油やその他の有害なものが付着してはならない。 3) アンボンドPC鋼材を用いる場合、防せい材等の品質は、PRC指針の付則『アンボンド工法用PC鋼材と施工時の取扱いについて』による。 4) 定着具および接続具はその外観・形状を検査し、強度に影響するようなきずのあるものは用いない。	5-4 外観・仕上げ等の検査	1) 検査は下記事項について行う。 a.コンクリートのひび割れおよび破損 b.先付部品の破損および取付位置のずれ・ゆがみ c.コンクリート表面の仕上げ 2) コンクリートのひび割れ・破損および仕上げの検査は目視による。 1) 製品検査で合格した部材は、検査済みを示す表示を行う。 2) 検査済みを示す表示の他、部材の識別が可能なように、部材符号等の識別表示を行う。 試作品検査は、製作工程の初期段階に、協議した製作方法および製作精度の確認を目的に実施する。 1) 試作品検査は、指定された部材について、コンクリート打ち込み前の製品1台、コンクリート打設が完了した完成品1台を対象に実施する。 2) 検査対象の製品は、工事監理者に確認して本工事に使用できる。 3) 製作工程に応じた試作品の状態を含め、試作品検査要領書を作成して工事監理者に確認すること。	9-4 仕上げ	1) コンクリート打設面の仕上げは、原則として下記の通りとする。 a.合成部材の合成面は櫛引等による粗面仕上げ 2) 型枠面の仕上げはコンクリート素地とする。 3) プレテンションPC鋼材の切断端部は、防錆材塗布とする。 PC合成床板のプレテンションによる反りで減少する床板中央部トップコン厚さの許容値は原則として以下の値とする。 <table><tr><th>標準トップコン厚さ (mm)</th><th>部材名</th><th>トップコン厚さ許容値 (mm)</th><th>備考</th></tr><tr><td rowspan="2">120</td><td>PS1A</td><td>105</td><td></td></tr><tr><td>PS2A</td><td>95</td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">150</td><td>PS1B</td><td>135</td><td></td></tr><tr><td>PS2B</td><td>125</td><td></td></tr></table>	標準トップコン厚さ (mm)	部材名	トップコン厚さ許容値 (mm)	備考	120	PS1A	105		PS2A	95		150	PS1B	135		PS2B	125																									
標準トップコン厚さ (mm)	部材名	トップコン厚さ許容値 (mm)	備考																																																	
120	PS1A	105																																																		
	PS2A	95																																																		
150	PS1B	135																																																		
	PS2B	125																																																		
	2-7 PC鋼材および定着具	1) PC鋼材は JIS G 3536（PC鋼線及びPC鋼より線）、JIS G 3109（PC鋼棒）、JIS G 3137（細径異形PC鋼棒）に適合するもの、またはこれらと同等以上の品質を有するものとする。 2) PC鋼材は有害なきずや変形および過度のさびなどがなく、表面に油やその他の有害なものが付着してはならない。 3) アンボンドPC鋼材を用いる場合、防せい材等の品質は、PRC指針の付則『アンボンド工法用PC鋼材と施工時の取扱いについて』による。 4) 定着具および接続具はその外観・形状を検査し、強度に影響するようなきずのあるものは用いない。	2-8 吊上金物	部材の吊上げに用いる金物・インサート等は、作用する荷重に対して安全なものとする。	4-9 コンクリートの打込み	1) コンクリートの打込みおよび締固めは、振動機等を用いて、コンクリートが均質かつ密実に充填されるように行う。 2) コンクリートの打込みにあたっては、シースや先付部品等を損傷しないよう注意する。	5-5 表示	1) 製品検査で合格した部材は、検査済みを示す表示を行う。 2) 検査済みを示す表示の他、部材の識別が可能なように、部材符号等の識別表示を行う。 試作品検査は、製作工程の初期段階に、協議した製作方法および製作精度の確認を目的に実施する。 1) 試作品検査は、指定された部材について、コンクリート打ち込み前の製品1台、コンクリート打設が完了した完成品1台を対象に実施する。 2) 検査対象の製品は、工事監理者に確認して本工事に使用できる。 3) 製作工程に応じた試作品の状態を含め、試作品検査要領書を作成して工事監理者に確認すること。	9-5 トップコン厚さ	PC合成床板のプレテンションによる反りで減少する床板中央部トップコン厚さの許容値は原則として以下の値とする。 <table><tr><th>標準トップコン厚さ (mm)</th><th>部材名</th><th>トップコン厚さ許容値 (mm)</th><th>備考</th></tr><tr><td rowspan="2">120</td><td>PS1A</td><td>105</td><td></td></tr><tr><td>PS2A</td><td>95</td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">150</td><td>PS1B</td><td>135</td><td></td></tr><tr><td>PS2B</td><td>125</td><td></td></tr></table>	標準トップコン厚さ (mm)	部材名	トップコン厚さ許容値 (mm)	備考	120	PS1A	105		PS2A	95		150	PS1B	135		PS2B	125																									
標準トップコン厚さ (mm)	部材名	トップコン厚さ許容値 (mm)	備考																																																	
120	PS1A	105																																																		
	PS2A	95																																																		
150	PS1B	135																																																		
	PS2B	125																																																		
	3-1 部材の品質	部材の品質は JASS10 の規定に適合するもの、または同等以上のものでなければならない。 1) 部材のコンクリート強度は、特記の設計基準強度または、耐久設計基準強度より定まる品質基準強度以上とする。 2) 部材に用いるコンクリートの圧縮強度は、所要の脱型時強度・プレストレス導入時強度・出荷時強度を満足するものとし、各々の値は特記による。 3) コンクリートの計画調合は、原則として試し練りによって定め、工事監理者に確認する。ただし、部材製作工場において十分な実績がある調査の場合は、工事監理者に確認して試し練りを省略してよい。	3-2 コンクリート強度	1) PC鋼材に対するコンクリートのかぶり厚さは、特記なき限り、最小かぶり厚さ35mmとする。なお、設計かぶり厚さは最小かぶり厚さに5mm加えた値としてよい。 2) 鉄筋・溶接金網・鉄筋格子に対するコンクリートの最小かぶり厚さは、特記なき限り、屋内で20mm、屋外で30mmとする。なお、設計かぶり厚さは最小かぶり厚さに5mm加えた値としてよい。	4-10 表面仕上げ 4-11 養生	1) コンクリートの表面仕上げは特記による。 2) コンクリートの打込み完了後の、養生方法および温度管理の方法は特記による。特記がない場合は、部材製作要領書に明記した上で、工事監理者に確認する。 3) 養生終了から脱型までの間、急激な温度変化や乾燥により、部材に損傷を与えないよう注意する。	6 貯蔵・出荷・運搬	6-1 貯蔵	1) 部材の貯蔵は、貯蔵期間中に転倒・傾き・ねじれ等が起きないよう、所定の支持位置にて行う。 2) 部材の支持位置は、部材製作要領書に明記する。 3) 部材の貯蔵期間中の養生方法は、特記による。特記がない場合は、部材製作要領書に明記した上で、工事監理者の承諾を得る。 1) 出荷は、部材と同一養生した供試体の圧縮強度が、所要の出荷時強度以上であることを確認して行う。 2) 出荷にあたっては、検査済みを示す表示、ならびに破損等の有無を確認する。 3) 部材の出荷および運搬は、下記事項を考慮して行う。 a.部材に有害なひび割れや破損を生じさせないように運搬する。 b.輸送関係法規の定めるところにより、特に事故防止に留意する。 部材製作者は、試験・検査結果等について、本工事完了後に速やかに報告書としてまとめ、工事監理者に提出する。	9-6 部材支保工の在り期間	施工時荷重を分散させるため、PC合成床板下の支保工は2層受けとする。 上階でPC合成床板を直交させて架設する場合、施工時荷重を分散させるため、PC合成床板下の支保工は3層受けとする。 <例：3階、4階でPC合成床板が直交する場合> <table><tr><th>3階床トップコン打設時</th><th>4階床トップコン打設時</th></tr><tr><td></td><td></td></tr></table>	3階床トップコン打設時	4階床トップコン打設時																																							
3階床トップコン打設時	4階床トップコン打設時																																																			
	3-3 部材の寸法許容差	部材および先付け部品の、寸法の許容差は特記による。特記がない場合はJASS10 等に準じて定め、部材製作要領書に明記した上で工事監理者に確認する。	3-4 かぶり厚さ	1) PC鋼材に対するコンクリートのかぶり厚さは、特記なき限り、最小かぶり厚さ35mmとする。なお、設計かぶり厚さは最小かぶり厚さに5mm加えた値としてよい。 2) 鉄筋・溶接金網・鉄筋格子に対するコンクリートの最小かぶり厚さは、特記なき限り、屋内で20mm、屋外で30mmとする。なお、設計かぶり厚さは最小かぶり厚さに5mm加えた値としてよい。	4-12 プレストレスの導入 (プレテンション)	1) プレストレスの導入は、部材と同一養生した供試体の圧縮強度が、所要のプレストレス導入時強度以上であることを確認して行う。 2) 緊張力の解放は徐々にいい、部材に衝撃を与えないようにする。 3) 特記なき限り、PC鋼材はカッターまたはガスにより緊張端側より順次切断する。 4) PC鋼材の部材端面における処理は、設計図または特記による。	6-2 出荷・運搬	1) 出荷は、部材と同一養生した供試体の圧縮強度が、所要の出荷時強度以上であることを確認して行う。 2) 出荷にあたっては、検査済みを示す表示、ならびに破損等の有無を確認する。 3) 部材の出荷および運搬は、下記事項を考慮して行う。 a.部材に有害なひび割れや破損を生じさせないように運搬する。 b.輸送関係法規の定めるところにより、特に事故防止に留意する。 部材製作者は、試験・検査結果等について、本工事完了後に速やかに報告書としてまとめ、工事監理者に提出する。	9-7 施工業者	<table><tr><th>業者名</th><td>一般社団法人 プレストレスト・コンクリート建設業協会の加盟会社の内、1社とする。</td></tr></table>	業者名	一般社団法人 プレストレスト・コンクリート建設業協会の加盟会社の内、1社とする。																																								
業者名	一般社団法人 プレストレスト・コンクリート建設業協会の加盟会社の内、1社とする。																																																			
	3-5 先付部品の取付け	先付部品の取付けにあたっては、機能上支障となるようなずれ・ゆがみ等があってはならない。	3-6 ひび割れおよび破損	コンクリートには、構造上、防水および外観上支障となるようなひび割れ、破損等があってはならない。	4-13 脱型	1) 脱型は、部材と同一養生した供試体の圧縮強度が、所要の脱型時強度以上であることを確認して行う。 2) 脱型は、有害なひび割れや破損が生じないよう慎重に行う。	7 施工計画	7-1 施工計画	1) 施工者は工事に先立ち、施工計画書を作成し工事監理者に確認する。 2) 施工計画書には、架設工事・目地工事に伴う、計画工程・工事組織や施工体系・安全管理・使用機資材・施工方法・品質管理について明示する。また、架設工事については、輸送・組立て・重機配置計画を含めて記載することとする。 施工者は施工図を作成し、工事監理者の承認を得る。 PC工事完了後、速やかに工事記録を整理し、工事監理者に報告する。																																											
				4-14 緊張 (ポストテンション)	1) プレストレスの導入は、部材と同一養生した供試体の圧縮強度が、所要のプレストレス導入時強度以上であることを確認して行う。 2) プレストレスの導入方式および工法は特記による。特記がない場合、導入方式および工法を定め工事監理者に確認する。 3) 緊張には、PC定着工法ごとに定められた専用の装置を用いる。 4) 荷重計または圧力計は、使用前ならびに長期間使用する場合、随時キャリブレーションを行い正常な状態にあるように管理する。 5) PC鋼材の初緊張力は特記による。	7-2 施工図 7-3 工事報告書																																														

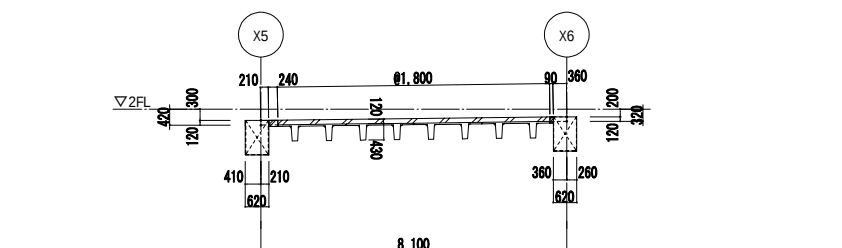
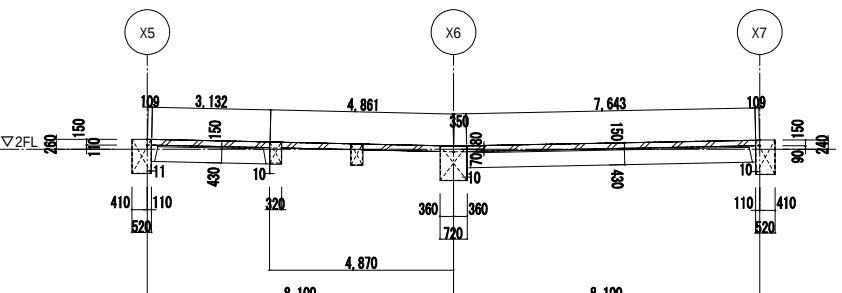
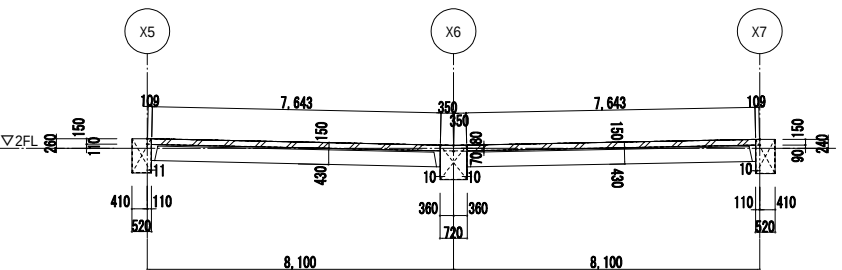
訂正	・
	・
	・
	・
	・

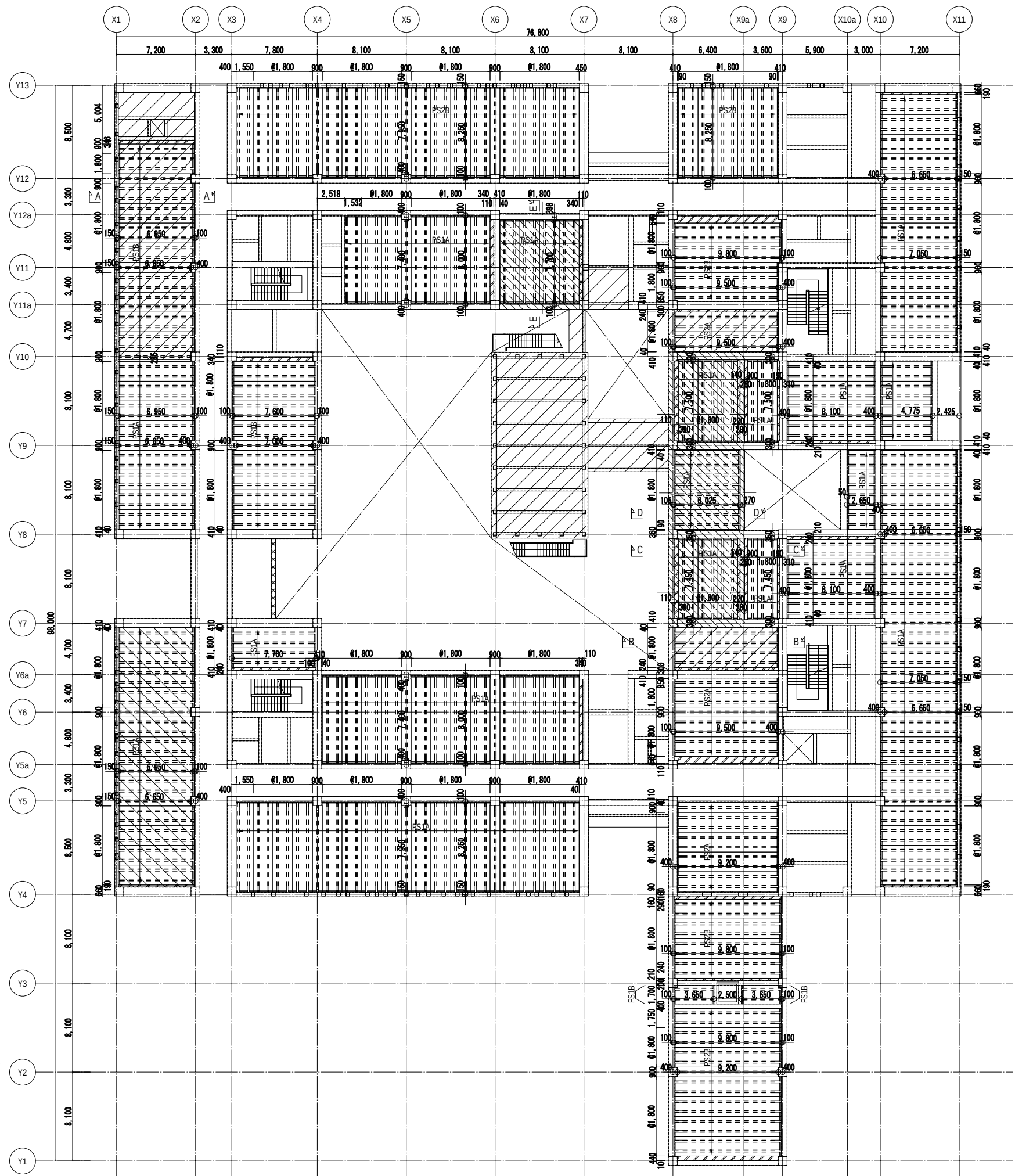
件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		縮尺 A1版1: N S A3版1: N S	図面番号 S-071
図面名称	プレストレストコンクリート 合成床板製作・工事特記事項		



2階 PC合成床板割付図

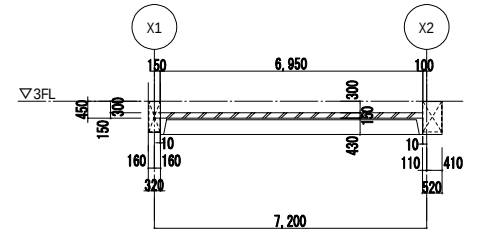
- 特記なき限り下記による
1. トップコン $F_c=30N/mm^2$
 2. 印は現場打ちスラブ範囲を示す
 3. スラブ上端 : FL-100
 : FL-100
 : FL-150
 : FL-300
 : 断面図による



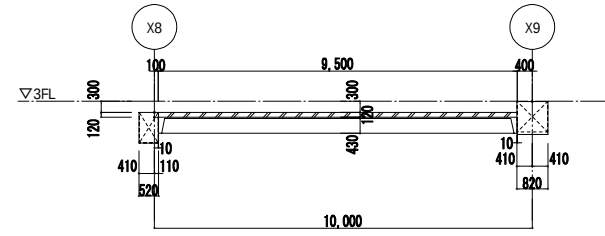


3階 PC合成床板割付図

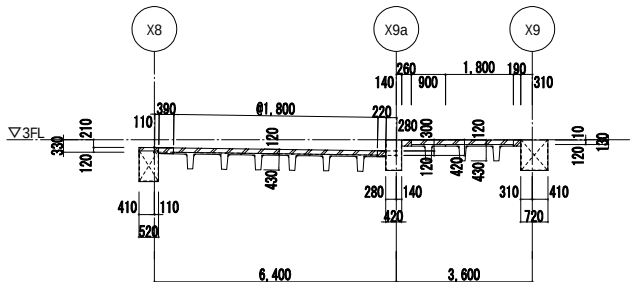
- 特記なき限り下記による
1. トップコン $F_c=30N/mm^2$
 2. 印は現場打ちスラブ範囲を示す
 3. スラブ上端 : FL-10
: FL-100
: FL-150
: FL-300
: 断面図による



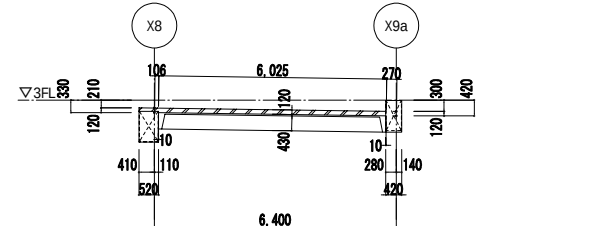
A-A'断面図 1/100



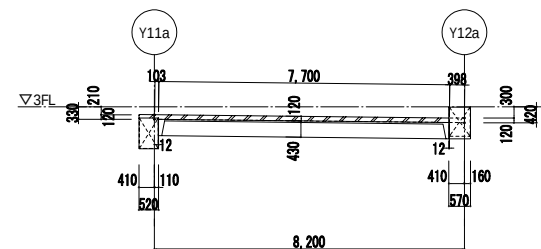
B-B'断面図 1/100



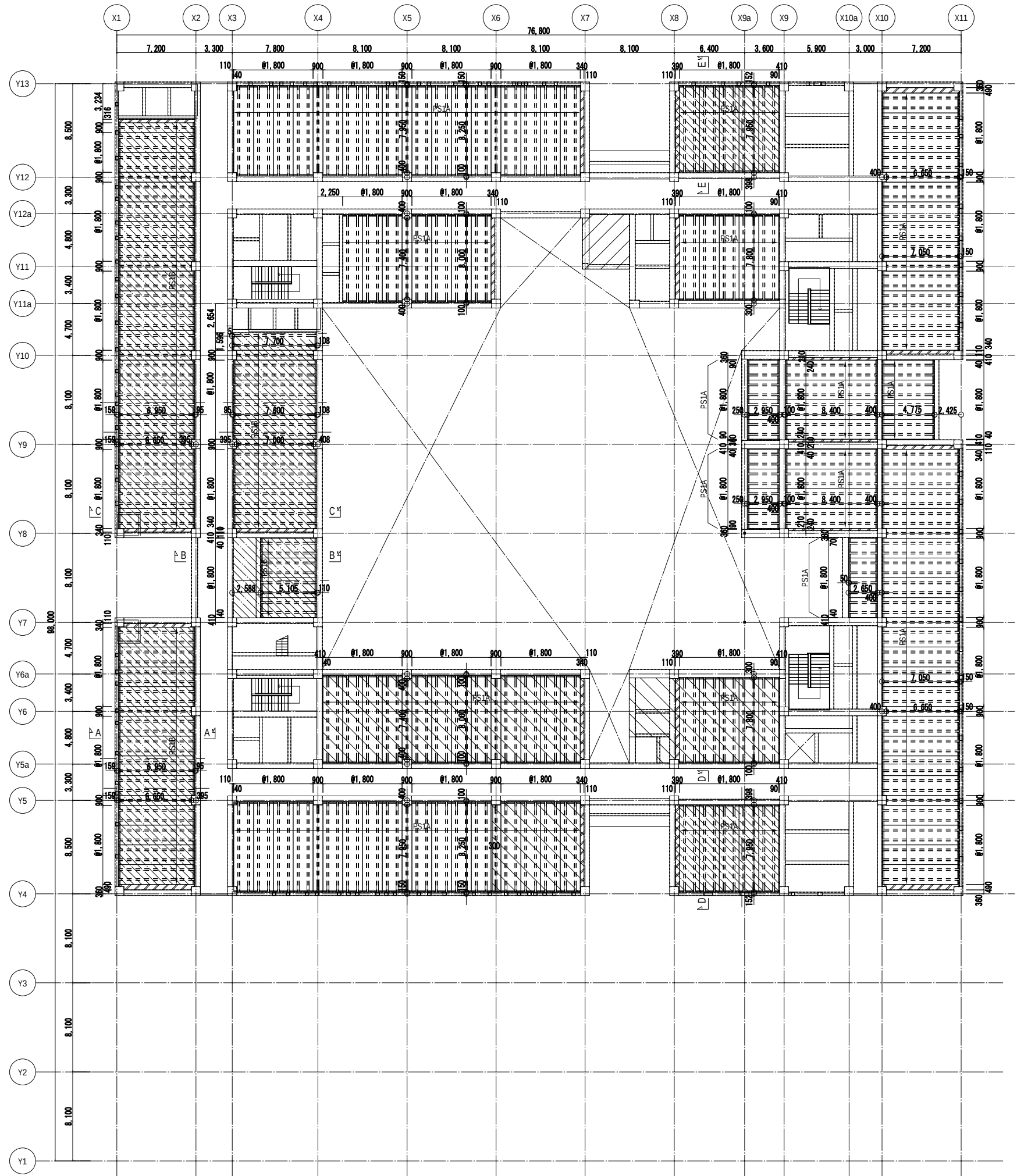
C-C'断面図 1/100



D-D'断面図 1/100

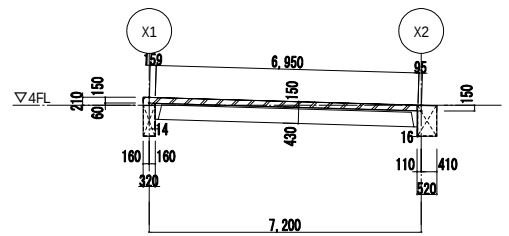


E-E'断面図 1/100

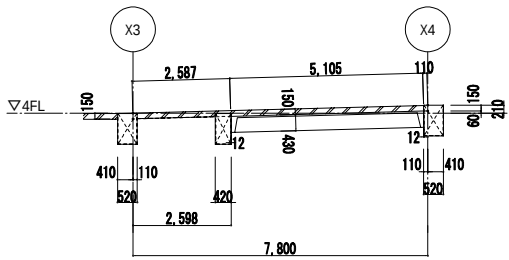


4階 PC合成床板割付図

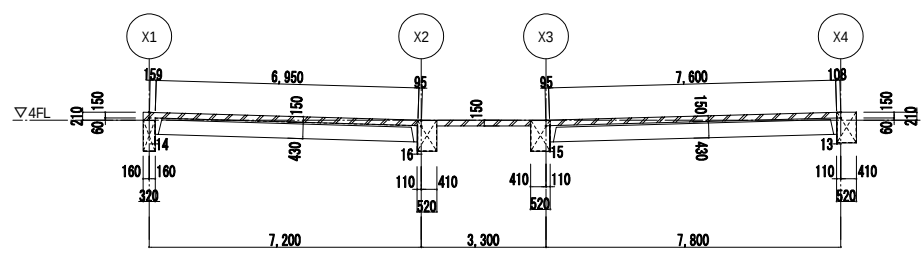
- 特記なき限り下記による
- 1. トップコン $F_c=30N/mm^2$
 - 2. 印は現場打ちスラブ範囲を示す
 - 3. スラブ上端 : FL-10
 - FL-100
 - 断面図による



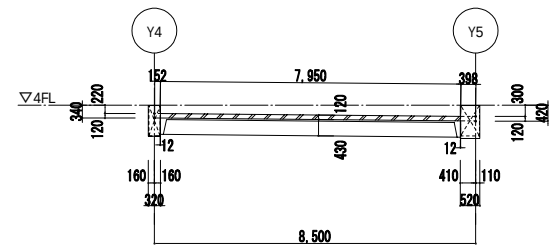
A-A'断面図 1/100



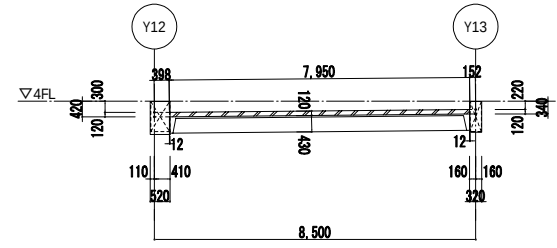
B-B'断面図 1/100



C-C'断面図 1/100



D-D'断面図 1/100



E-E'断面図 1/100

- 特記なき限り下記による
1. トップコン $F_c=30\text{N/mm}^2$
2.  印は現場打ちスラブ範囲を示す
3. スラブ上端 : FL ± 0
-  : FL-700
-  : 断面図による

F-F' 断面图 1/100

訂正	-					件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
	-					図面名称		縮尺	図面番号
	-						R階PC合成床板割付図	A1版 1:100,200 A3版 1:200,400	S-075
	-								
	-								
	-								

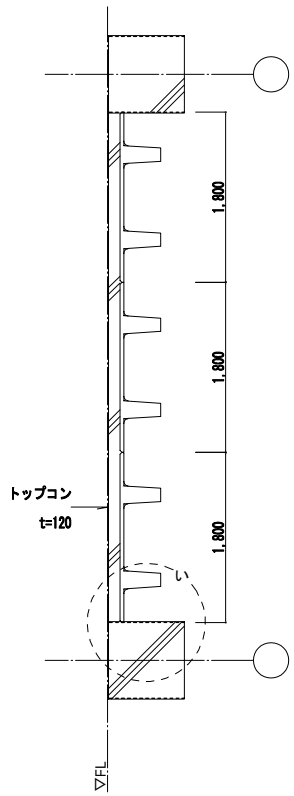
トップコン配筋図 1/40

PS1A • PS2A

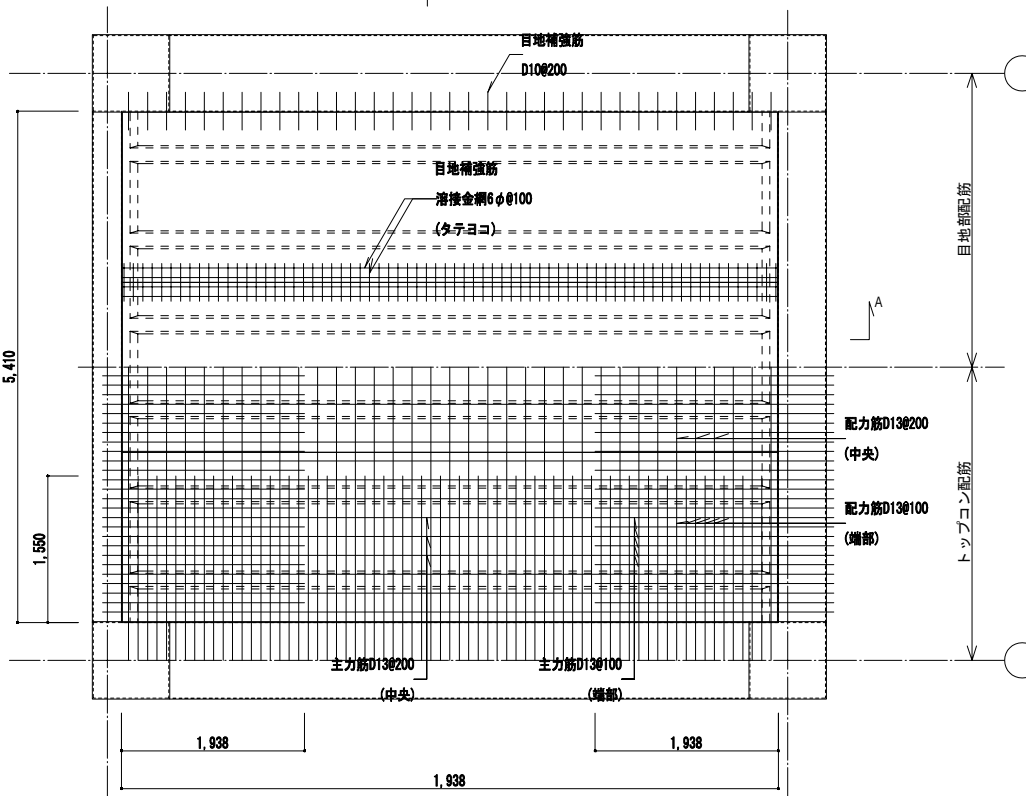
1. 板-板目地寸法は0とする

PS1B • PS2B

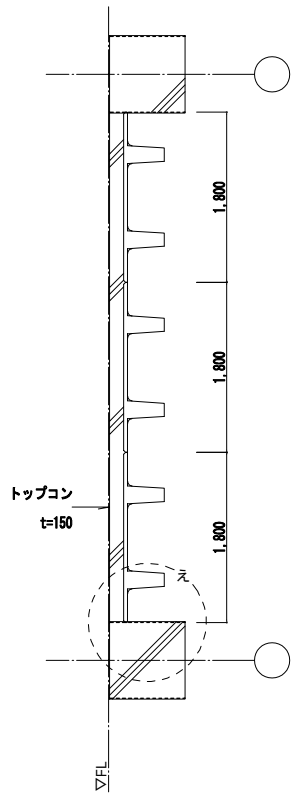
1. 板-板目地寸法は0とする



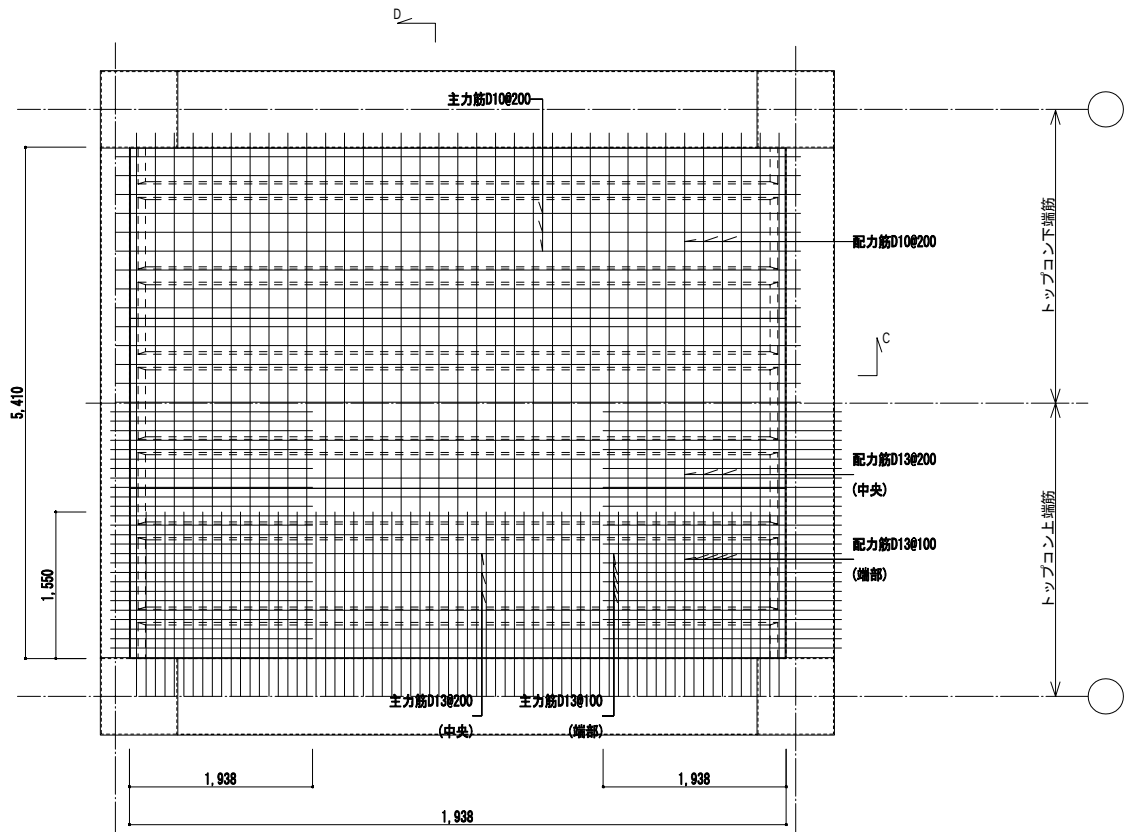
B断面図



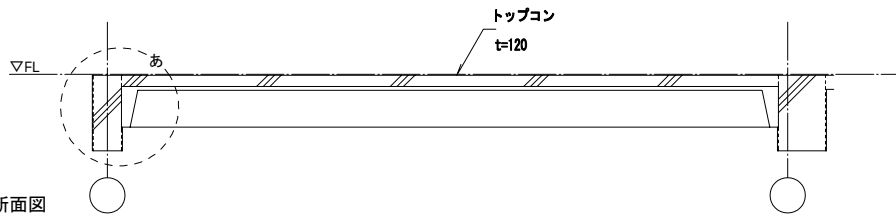
平面図



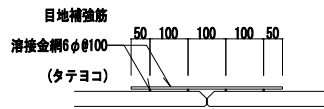
D断面图



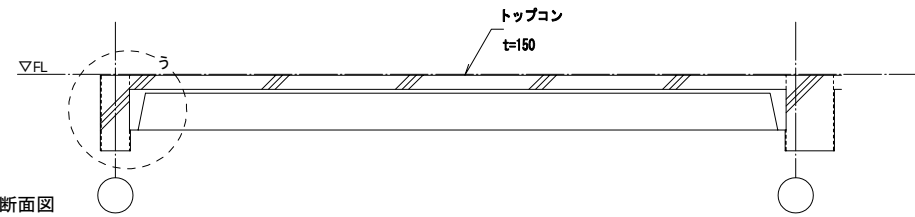
平面图



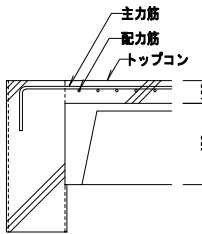
A断面図



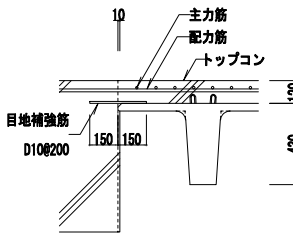
目地補強筋詳細図 1/10



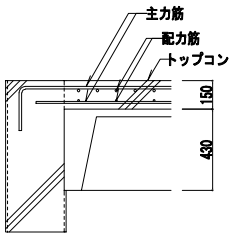
C断面図



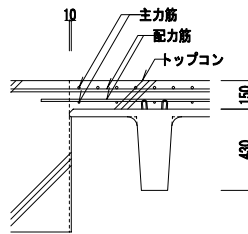
あ部詳細図 1/20



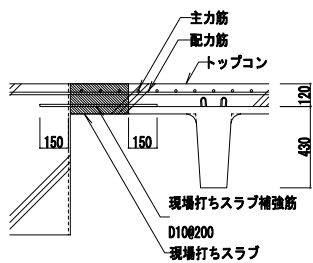
い部詳細図 1/20



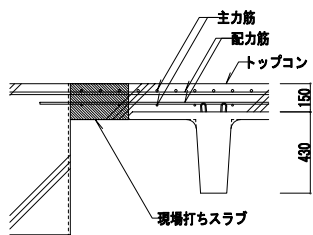
う部詳細図 1/20



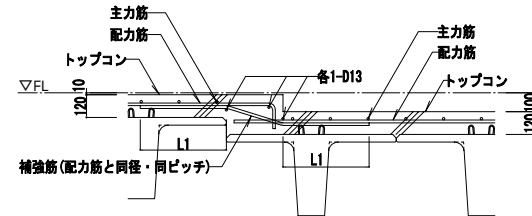
元部詳細図 1/20



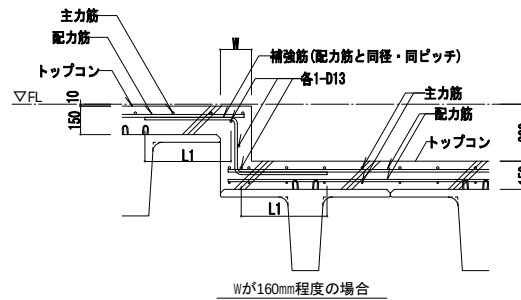
い部詳細図(現場打ちスラブがある場合) 1/20



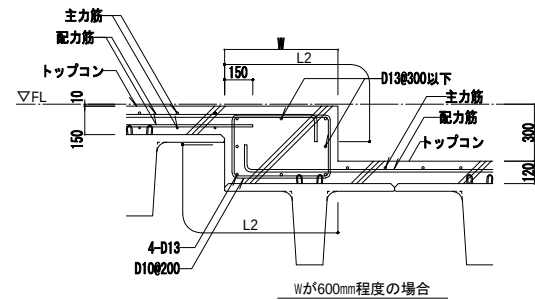
え部詳細図(現場打ちスラブがある場合) 1/20



100mm程度の段差の場合



Wが160mm程度の場合



Wが600mm程度の場合

300mm程度の段差の場合

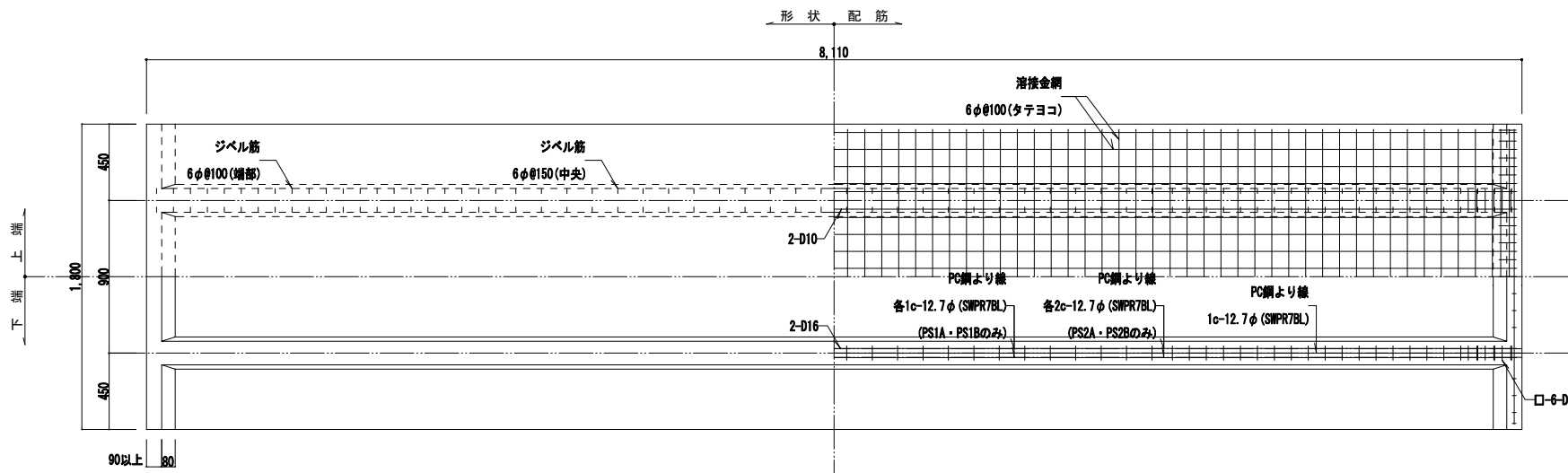
トップコンに段差ができる場合の凡例 1/20

PC合成床板リスト

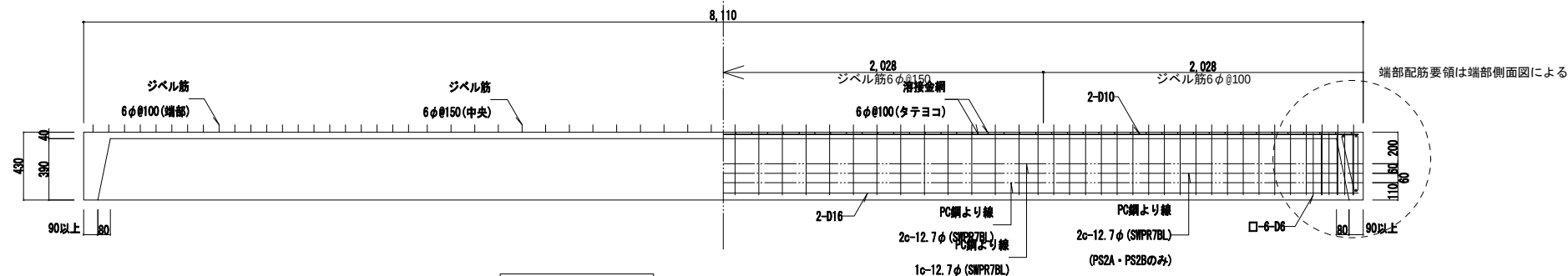
トッコン強度 (Fc)	トッコン厚 (mm)	基本部材長	符 号	PC鋼材本数	位 置	トッコン配筋			
						主力筋		配力筋	
						端 部	中 央	端 部	中 央
30N/mm ²	120	L<8.5m	PS1A	3c-12.7φ (SWPR7BL)	上端筋	D13@100	D13@200	D13@100	D13@200
					下端筋	—	—	—	—
		L≥8.5m	PS2A	5c-12.7φ (SWPR7BL)	上端筋	D13@100	D13@200	D13@100	D13@200
					下端筋	—	—	—	—
	150	L<7.7m	PS1B	3c-12.7φ (SWPR7BL)	上端筋	D13@100	D13@200	D13@100	D13@200
					下端筋	D10@200	D10@200	D10@200	D10@200
		L≥7.7m	PS2B	5c-12.7φ (SWPR7BL)	上端筋	D13@100	D13@200	D13@100	D13@200
					下端筋	D10@200	D10@200	D10@200	D10@200

訂正	-					件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
	-					図面名称			
	-						縮尺		図面番号
	-					PC合 成床板リスト- 1	A1版 1:10,20,40 A3版 1:20,40,80		S-076

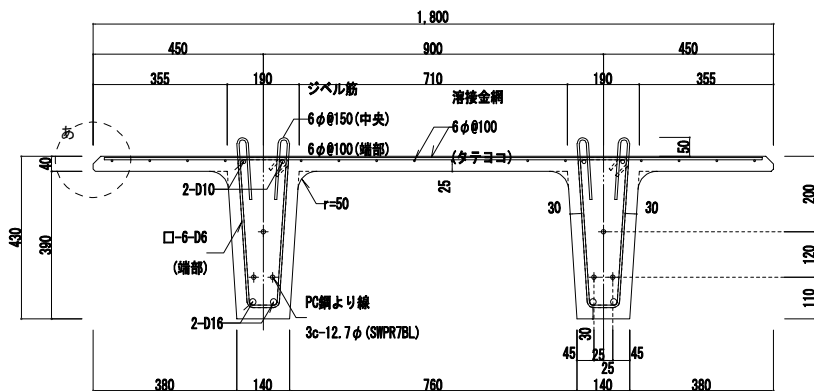
PC合成床板形状配筋図



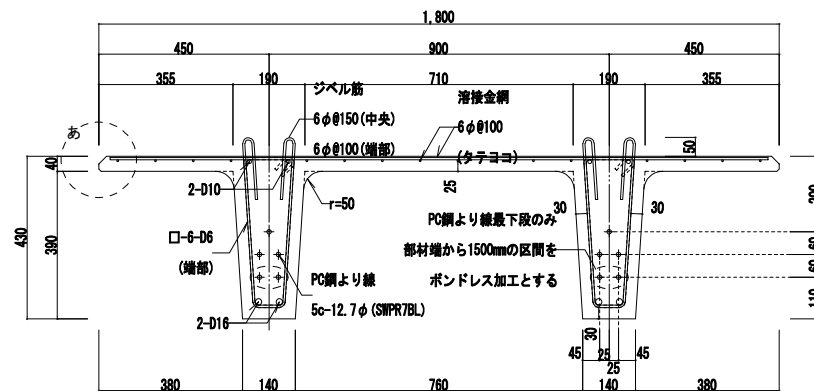
平面図 1/20



側面図 1/20



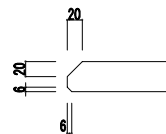
PS1A・PS1Bの場合



PS2A・PS2Bの場合

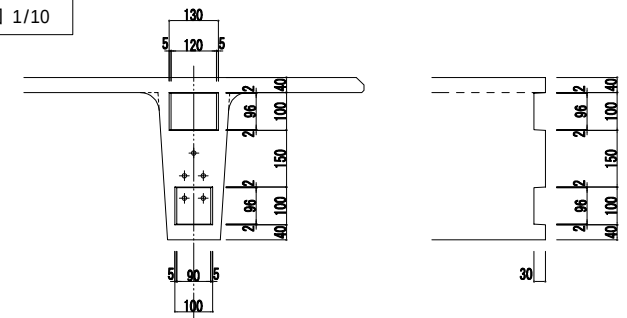
標準断面図 1/10

1.※印はかぶりを示す

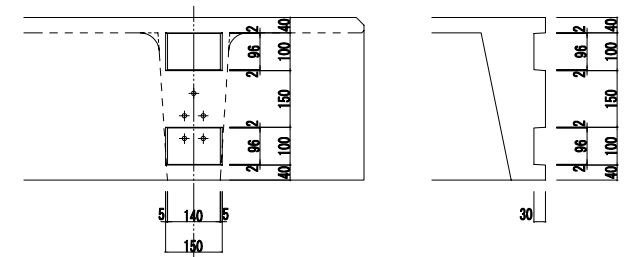


あ部詳細図 1/5

端部コッタ一形状図 1/10



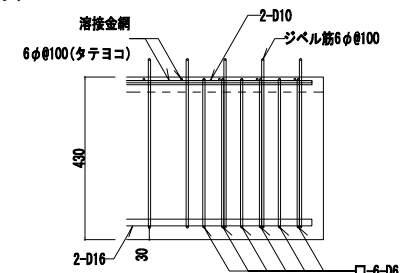
横リブなし



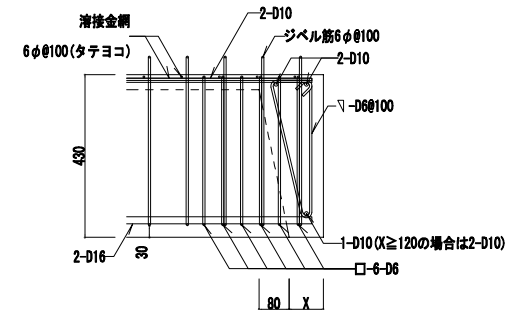
横リブあり

端部側面図 1/10

1.※印はかぶりを示す



横リブなし



横リブあり

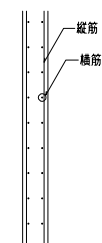
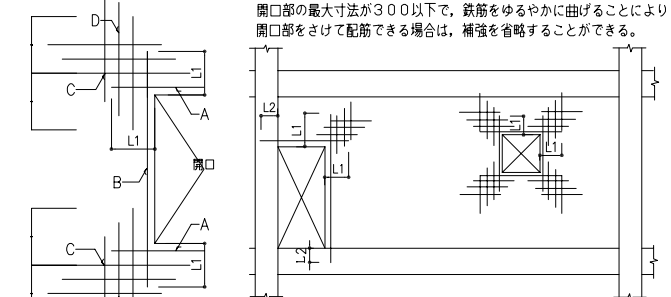
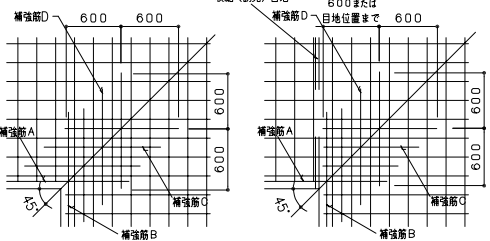
- ・ $X \leq 90$ とする.
- ・ PC合成床板の材長はXで調整しても良い.

訂正	-				件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
	-				図面名称	PC合成床板リスト-2	縮尺 A1版 1:5,10,20 A3版 1:10,20,40	図面番号 S-077
	-							
	-							
	-							

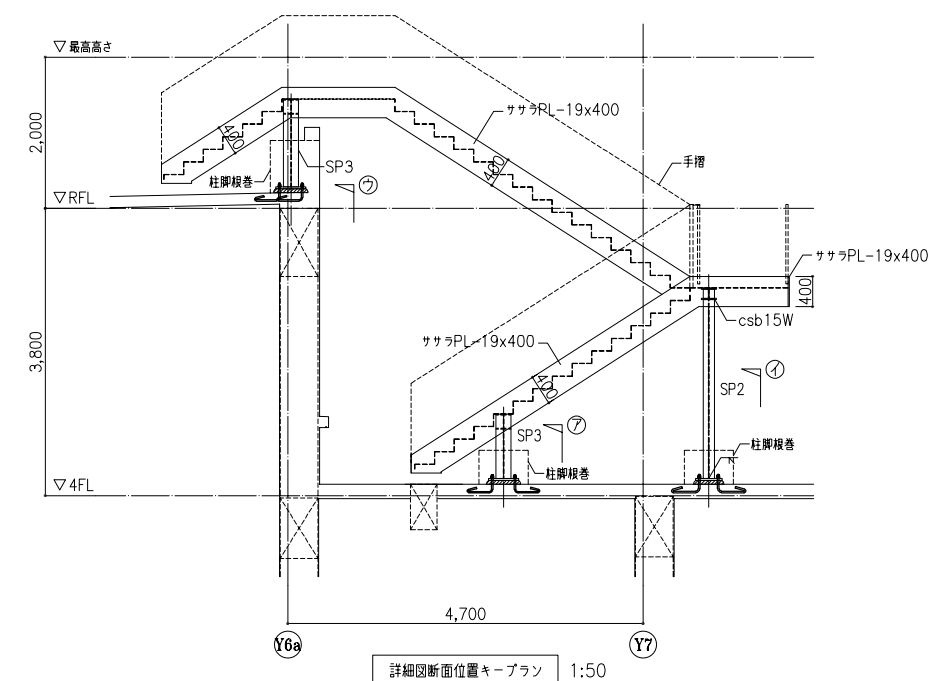
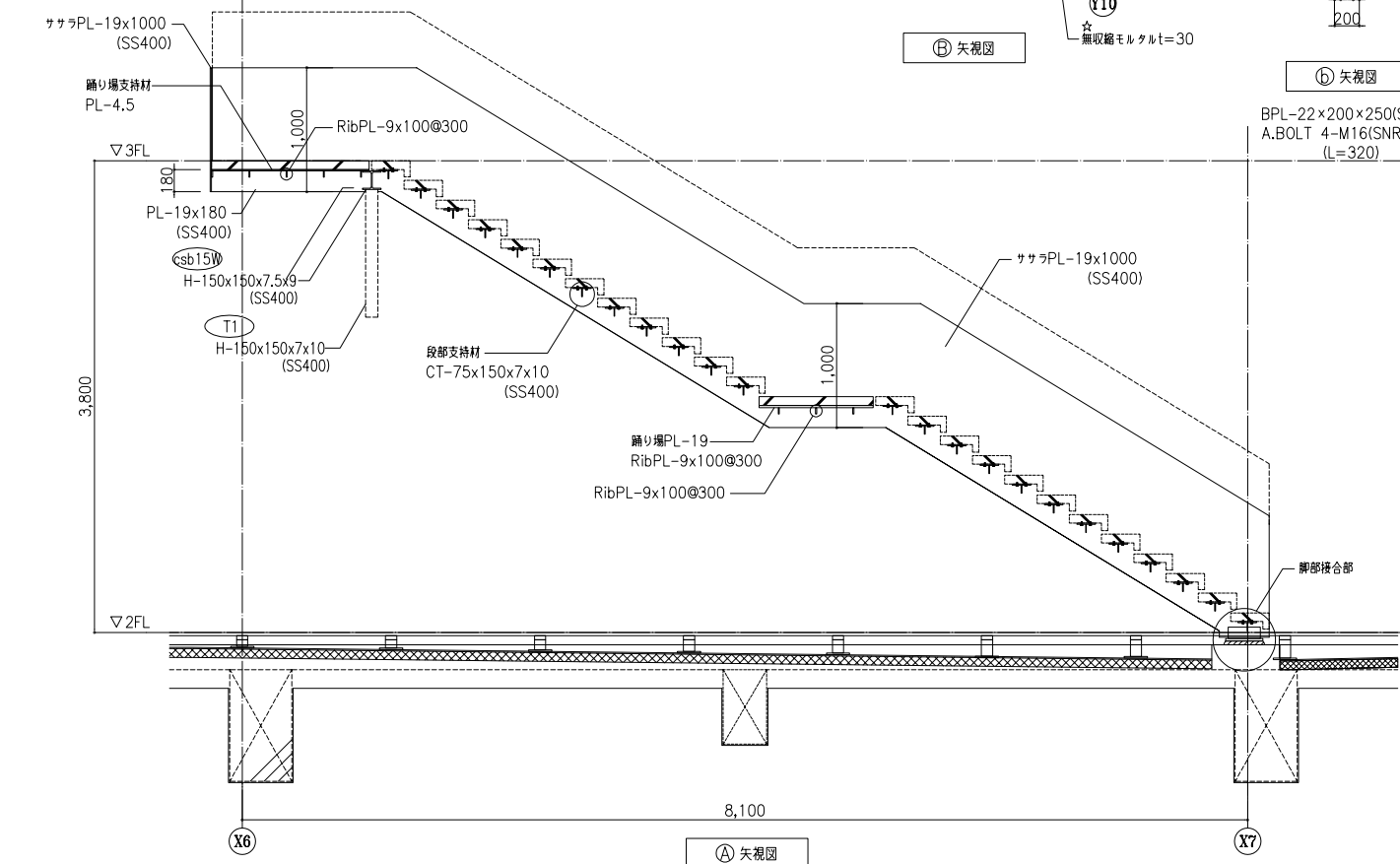
小梁・片持ち梁断面リスト																							
共通事項：幅止め筋、腹筋、二段受け筋は鉄筋コンクリート構造基準参照																							
符 号	b50			b55		b55A			b60		b60A		b60B			b65		b70		b80			
位 置	全断			面端	中央	他端	中央	連続端	面端	中央	面端	中央	他端	中央	連続端	面端	中央	面端	中央	面端	中央		
断 面																							
	上端筋	2-D19			5-D22	3-D22	3-D22	3-D22	5-D22	3-D22	3-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	7-D22	5-D22	5-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	
	下端筋	3-D19			3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	5-D22	4-D22	6-D22	4-D22	4-D22	4-D22	5-D22	6-D22	3-D22	5-D22	3-D22	5-D22	
	スターループ	2-D10 @200			2-D10 @200		2-D10 @200			2-D10 @200		2-D13 @200		2-D13 @200			2-D13 @200		2-D10 @200		2-D10 @200		
備 考																							
符 号	b80A			b80B		b80C		b80D			b80F		b85			b90		b90A			b90B		
位 置	他端	中央	連続端	面端	中央	面端	中央	他端	中央	連続端	面端	中央	全断			面端	中央	他端	中央	連続端	面端	中央	
断 面																							
	上端筋	3-D22	3-D22	5-D22	5-D22	3-D22	3-D22	4-D25	4-D25	4-D22	4-D22	7-D22	7-D22	4-D22	7-D29	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	5-D22	5-D22	3-D22	
	下端筋	3-D22	4-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	7-D25	8-D25	4-D22	5-D22	4-D22	4-D22	5-D22	7-D29	3-D22	5-D22	3-D22	4-D22	3-D22	3-D22	3-D22	
	スターループ	2-D10 @200			2-D10 @200		2-D13 @150		2-D13 @200			2-D13 @200		4-D13 @100			2-D10 @200		2-D10 @200			2-D10 @200	
備 考																							
符 号	b90C			b90D		b90E			b90F			b100		b100A			b100B		b100C		b100D		
位 置	面端		中央	面端	中央	他端	中央	連続端	面端	中央	面端	中央	他端	中央	連続端	面端	中央	面端	中央	他端	中央	連続端	
断 面																							
	4-D25		4-D25	5-D25	5-D25	5-D22	5-D22	9-D22	5-D25	5-D25	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	5-D22	5-D22	3-D22	5-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	
	4-D25		7-D25	5-D25	8-D25	5-D22	6-D22	5-D22	5-D25	10-D25	3-D22	5-D22	3-D22	4-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	4-D22	7-D22	4-D22	4-D22	
	スターループ	2-D13 @200			2-D13 @200		2-D13 @200		3-D13 @200			2-D10 @200		2-D10 @200			2-D10 @200		2-D10 @200		2-D13 @200		2-D13 @200
備 考																							
符 号	b100E			b100F			b100G			b120		b130					Fb55		Fb180		Fcb55		
位 置	面端		中央	他端	中央	連続端	面端	中央	面端	中央	全断					全断		全断		元端	先端		
断 面																							
	7-D22		4-D22	5-D22	5-D22	8-D22	8-D22	5-D22	2-D16	2-D16	5-D25					3-D22		3-D22		5-D22	3-D22		
	4-D22		4-D22	5-D22	6-D22	5-D22	5-D22	5-D22	2-D16	4-D16	8-D25					3-D22		3-D22		3-D22	3-D22		
	スターループ	2-D13 @200			2-D13 @200			2-D13 @200		2-D10 @200		2-D13 @200					2-D10 @200		2-D13 @200		2-D10 @200		
備 考																							
符 号	CB1		CB2		CB3		CB4		CG4		CG11		CG12										
位 置	元端	先端	元端	先端	元端	先端	元端	先端	元端	先端	元端	先端	元端	先端									
断 面																							
	11-D25	6-D25	11-D25	6-D25	13-D25	7-D25	11-D25	7-D25	12-D25	6-D25	5-D25	4-D25	13-D25	7-D25									
	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	7-D25	7-D25	7-D25	7-D25	6-D25	6-D25	4-D25	4-D25	7-D25	7-D25									
	スターループ	3-D13 @200		3-D13 @200		3-D13 @200		3-D13 @200		3-D13 @200		2-D13 @200		4-D13 @200									
備 考																							

	訂正	-					件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
		-					図面名称	小梁・片持梁断面リスト		
		-					縮尺	A1版1:40 A3版1:80		図面番号
		-							S-078	

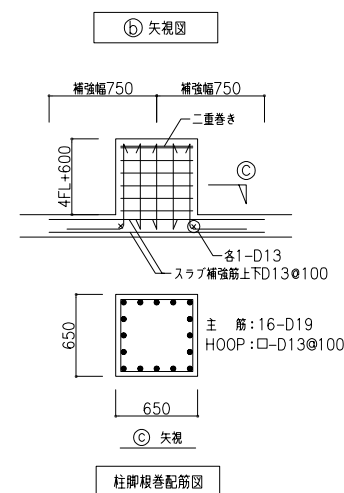
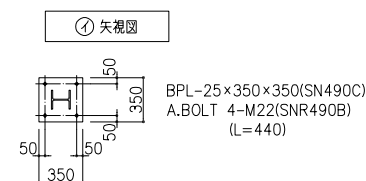
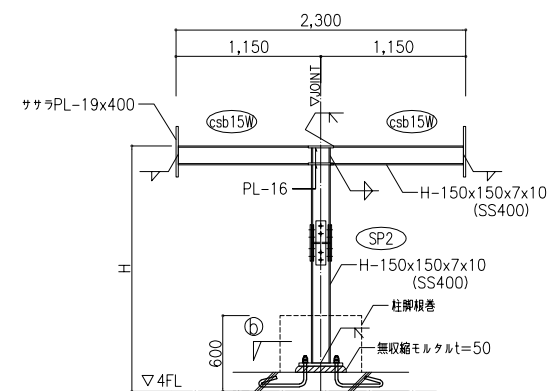
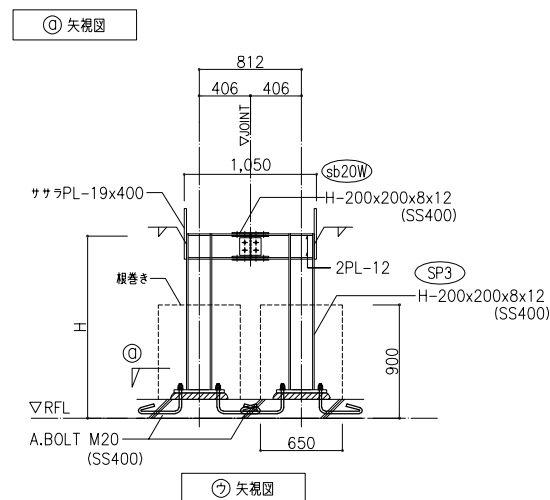
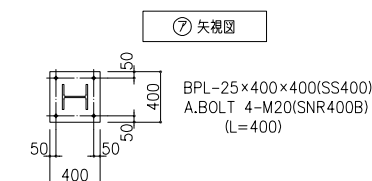
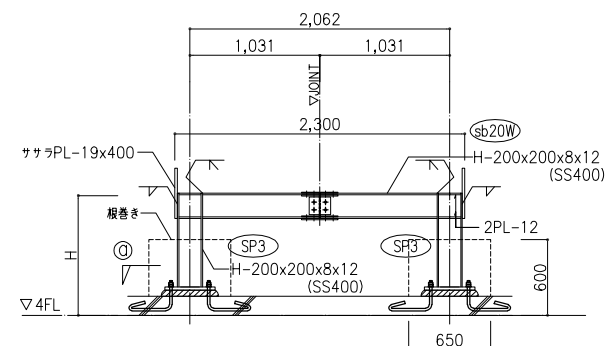
スラブリスト							階段リスト															
形状	符号	厚さ	位置	短辺方向	長辺方向	備考	鉄骨階段リスト										片持ち階段配筋リスト					
一般スラブ 短辺方向 長辺方向	S15	t=150	上	D10,D13@200	D10@200		鋼材材質：無印はSN400Bとする。ただし、間柱および、踊場受梁は小梁リストによる。 アンカーボルトはSS400、H.T.BはS10T（屋外に露出する部材はめっきボルト（認定品））とする。RC取合部の無収縮モルタルはt=30とする。										配筋図					
	S15A	t=150	上	D13@150	D13@200		名 称	階段形状	サ サ ラ		段 板	踊場踏板（踊場リブ）	間 柱	中間踊場受梁	備 考	符号	手すり壁あり	t	持ち出し長さL	主筋		
	S15B	t=150	上	D13@100	D10,D13@200		屋外階段1	直線階段	○	R-19X300	(ピン継合) (RC継合)	GR-19 HTB 3-M16 BP-19x400x140 A.BOLT 2-M16	R-4.5	R-9 (R-12X270)	SP2	csb15W	・間柱、中間踊場受梁の配置は伏図参照。 ・踊場部分中央のササラせいは270以上とする。 ・ササラ、小梁の納まりはタイプ ㉔ とする。					
	S15C	t=150	上	D13@100	D13@100		屋外階段2,3,4,5	直線階段	㉔	R-19X1000	(ピン継合) (RC継合)	GR-19 HTB 3-M16 BP-22x300x200 A.BOLT 4-M20	R-4.5	R-19 (R-19X180)	なし	なし	・詳細図はS-082,083図による。					
	S15D	t=150	上	D13@100	D13@100		屋外階段6		㉔	R-19X400	(ピン継合) (RC継合)	GR-19 HTB 3-M16 BP-19x400x140 A.BOLT 2-M16	R-4.5	R-9 (R-12X270)	SP2,SP3	csb15W,sb20W	・詳細図はS-083図による。					
	S18	t=180	上	D13@200	D10@200																	
	S25	t=250	上	D13@200	D10,D13@200																	
	CS15	t=150	上	D13@150	D10@200																	
	CS25	t=250	上	D13@100	D13@200																	
	KS1	t=150	上	D13@100	D13@200	階段踊り場																
	土間 ジャグット	t=180	上	D13@200	D13@200																	

壁リスト							鉄骨部材リスト												
形状	種別	壁厚	壁の配筋		開口部補強筋		開口補強要領	符 号	部 材		継 手				備 考				
					A、B共	C、D共					ピン接合		剛接合						
	W18,W18B	180	縦筋	D13@200	4-D13	6-D10	開口部補強要領  開口部の最大寸法が300以下で、鉄筋をゆるやかに曲げることにより開口部をさけて配筋できる場合は、補強を省略することができる。 開口部鉄筋補強筋の詳細 - 目地のない場合 - 目地のある場合 補強筋C,Dの範囲にはスリーブ貫通は設けない 												
	W18A	180	縦筋	D13@100	4-D13	6-D10													
				横筋	D13@200														
	KW1	180	縦筋	D13@125	4-D13	6-D10													
				横筋	D13@125														
	W25	250	縦筋	D16@200	4-D16	6-D13													
				横筋				D16@200											
	W30	300	縦筋	D16@150	4-D16	6-D13													
				横筋	D16@150														
	EW18	180	縦筋	D13@125	4-D13	6-D10													
				横筋				D13@125											
	EW50X	500	縦筋	D22@150	4-D25	6-D22													
				横筋				D22@150											
	EW50Y	500	縦筋	D22@150	4-D25	6-D22													
			横筋	D22@150															
EW80X	800	縦筋	D22@150	6-D25	8-D22														
			横筋			D22@150													
EW80Y	800	縦筋	D22@150	6-D25	8-D22														
			横筋	D22@150															

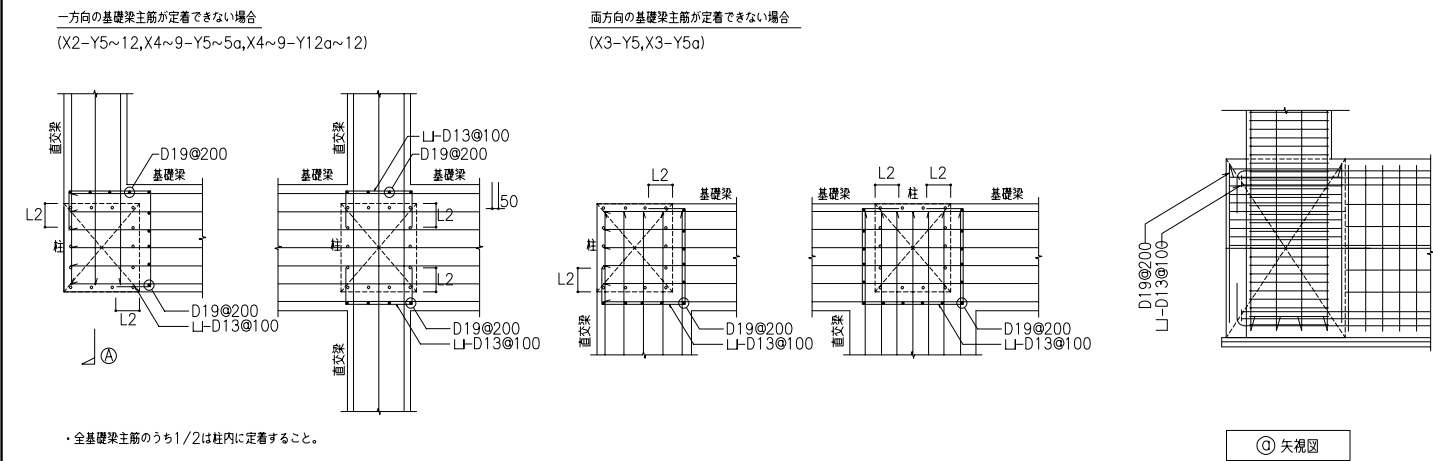
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--



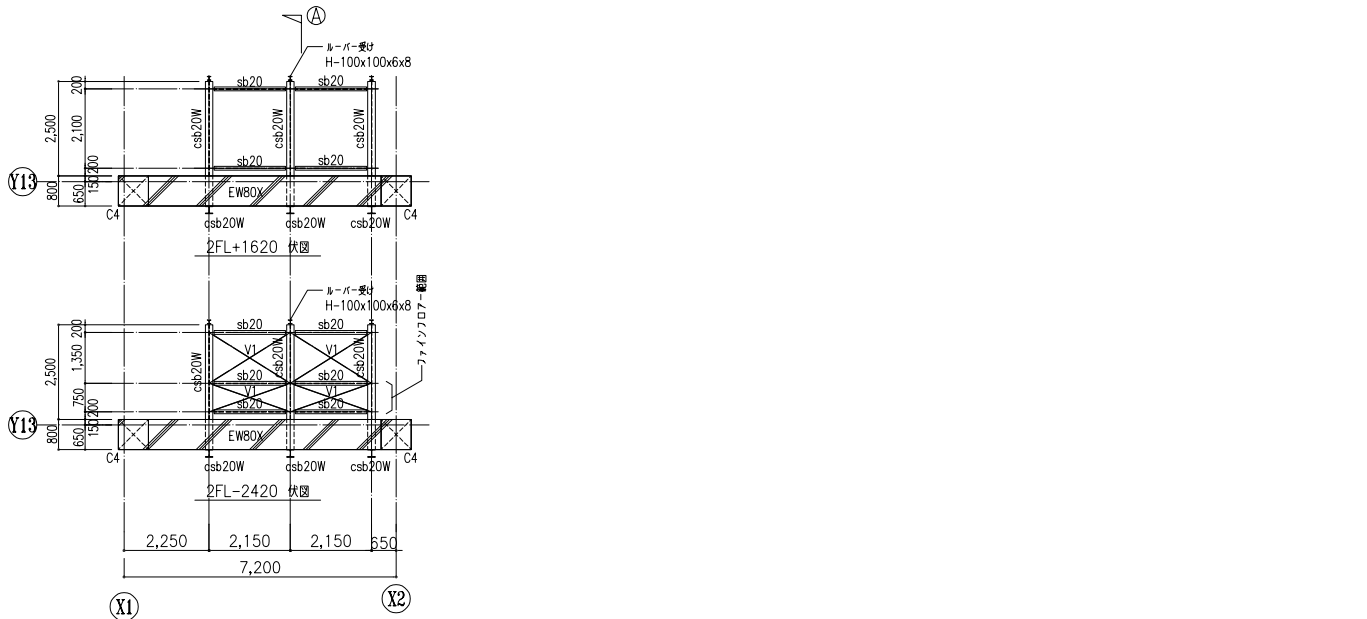
※H=意匠図による



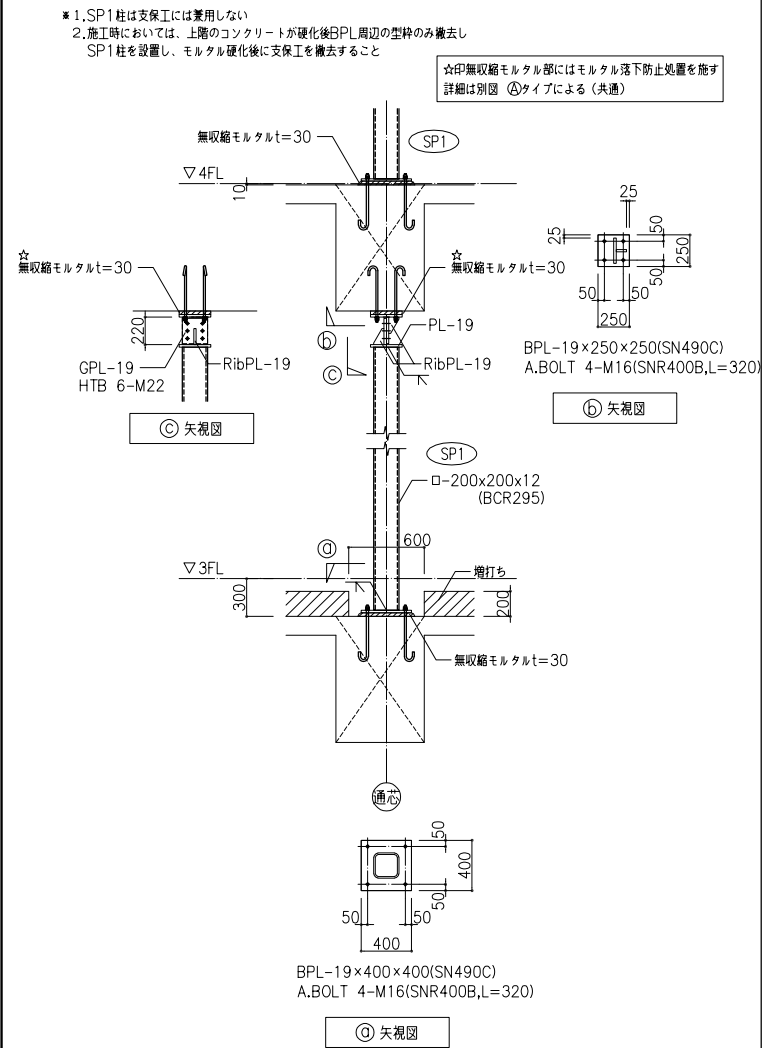
柱内に定着できない基礎梁主筋部配筋要領図



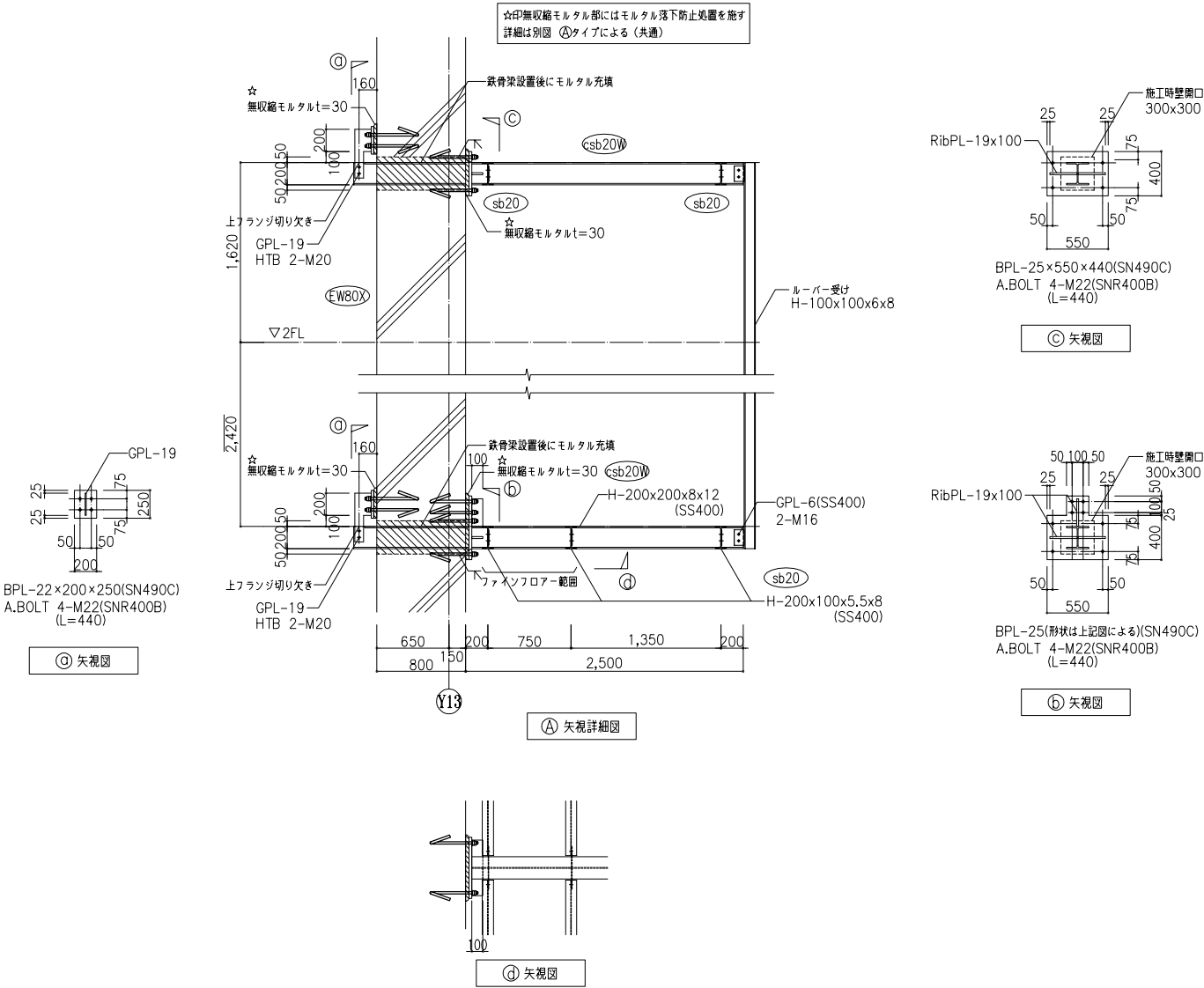
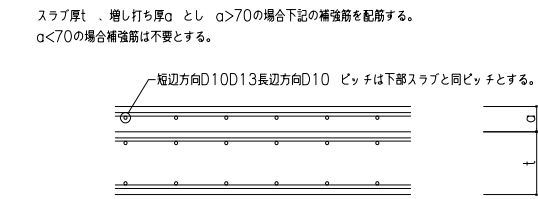
2階 屋外機器置場詳細図(外部露出部は全て垂鉛めっき)



SP1 接合部詳細図



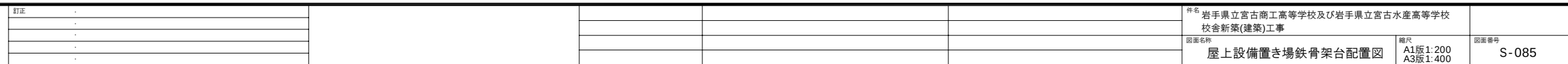
屋上スラブ上増し打ち部配筋要領図





特記なき限り下記による。

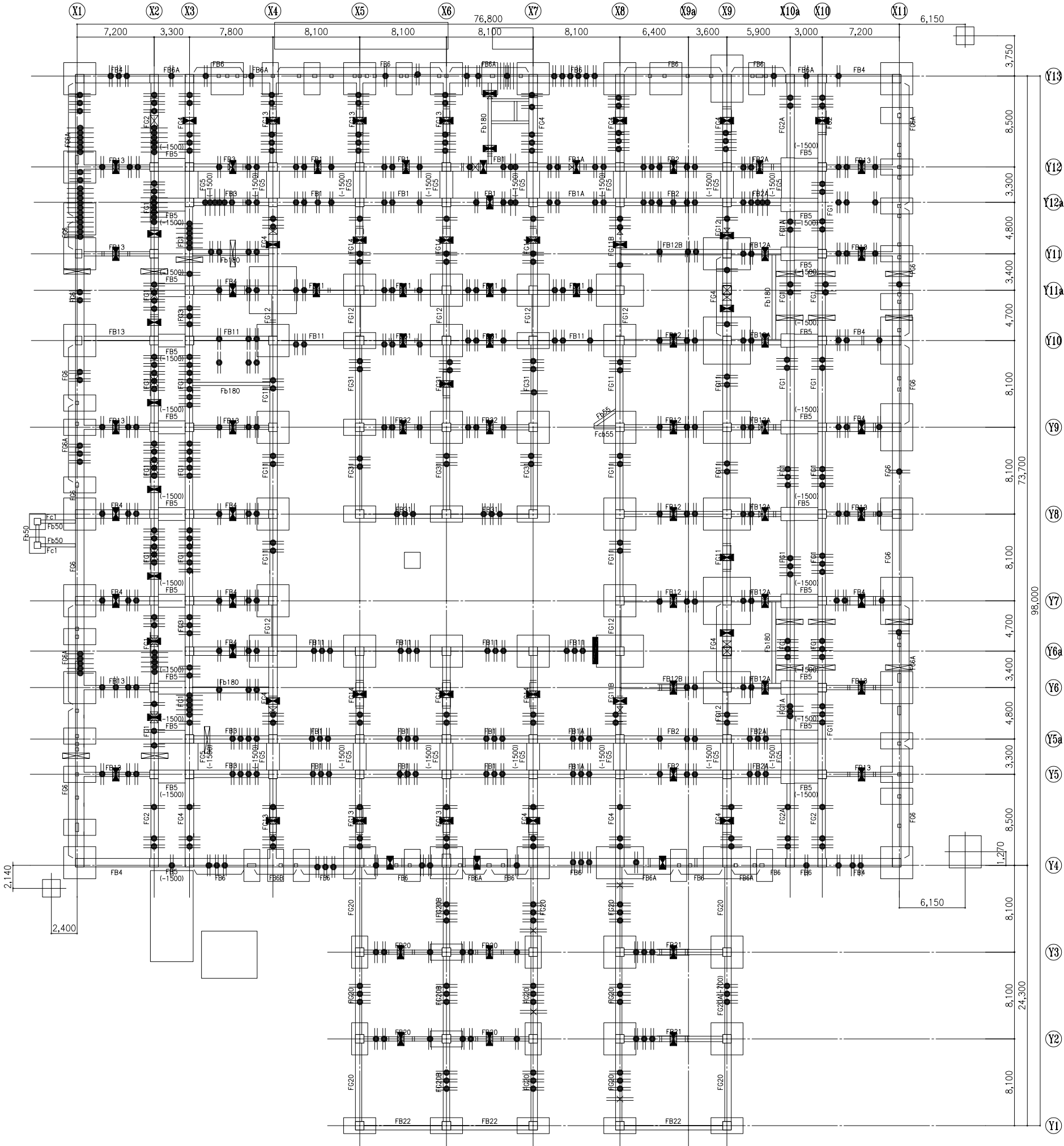
1.  は、架台用鉄骨部材を示す。
2. 鉄骨位置は図面により、納まりは詳細図による。
3. 破線で示す躯体はR階梁伏図を示す。



基礎梁貫通伏図 1:200

梁貫通 径及び本数		貫通箇所			貫通部の耐火処理方法	
径	マーク	記載	記載外	合計	耐火被覆	薄型貫通材
100φ		0	0	0	-	-
150φ		65	0	65		
200φ		4	0	4		
250φ		555	0	555		
300φ		0	0	0		
350φ		0	0	0		
400φ		19	0	19		
450φ		0	0	0		
500φ		0	0	0		
550φ		0	0	0		
600φ		91	0	91		

薄型貫通材とは鉄骨梁貫通部における高性能薄型耐火被覆材を示し、パイロンバリアー、すりーふたすけ相当品とする。



2階梁貫通伏図 1:200

梁貫通 径及び本数						
径	マーク	貫通箇所			貫通部の耐火処理方法	
		記載	記載外	合計	耐火被覆	薄型貫通材
100φ		0	0	0	—	—
150φ		0	0	0		
200φ		6	0	6		
250φ		0	0	0		
300φ		242	0	242		
350φ		0	0	0		
400φ		0	0	0		
450φ		0	0	0		
500φ		0	0	0		
550φ		0	0	0		
600φ		0	0	0		

薄型貫通材とは鉄骨梁貫通部における高性能薄型耐火被覆材を示し、
パイロンバリアー、すりーふたすけ相当品とする。

